大洗町文化財調査報告書 第 27 集

茨城県東茨城郡大洗町

宮田遺跡 (第 1 次)

関根祝町線他 1 路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

(上 巻)

2024

大 洗 町 都 市 建 設 課
大 洗 町 教 育 委 員 会
関東文化財振興会株式会社

大洗町文化財調査報告書 第 27 集

茨城県東茨城郡大洗町

宮田（みやた）遺跡（第１次）

関根祝町線他１路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

（上 巻）

２０２４

大 洗 町 都 市 建 設 課
大 洗 町 教 育 委 員 会
関東文化財振興会株式会社

序

大洗町は、茨城県太平洋岸のほぼ中央に位置し、東は鹿島灘、北は那須茶臼岳を源とする那珂川、西は笠間市国見山を源とする涸沼川や、平成27年にラムサール条約に登録された涸沼を臨む、自然環境に恵まれた地であります。

自然の恵みを享受したこの地では、原始古代より人々の生活が営まれ、彼らが残してきた遺跡が多く発見されております。これらの遺跡の一つ一つは大洗町の歩んできた歴史を伝える大切な文化遺産であり、町の誇り、財産でもあります。我々はこれらの遺跡を大切に保護し、後世へと伝えていかなければなりません。

その一つである宮田遺跡は、町道の敷設に伴って、令和４～５年度に発掘調査が実施されました。調査からは、台地上全体に展開する弥生時代から平安時代にいたる竪穴建物跡が121棟も検出され、断続的ではあるにせよ、1,000年もの期間、大洗の祖先が生活を営んだ痕跡が発掘されました。

特に、第114・201号の両竪穴建物跡は、那珂川中下流域では最も古い古墳時代中期前半に鉄器を生産した鍛冶工房跡と考えられます。中期前半と言えば、大阪府の古市・百舌鳥古墳群に葬られた大王と繋がった、常陸北部で盟主となる水戸愛宕山古墳の地域首長が活躍した時期です。那珂川下流域の地域首長の政治権力を示す、鍛冶工房跡が我が町から発見されたことは、地域史の理解を深めることにつながります。

この度、明らかとなった町の重要な歴史が、この本を基礎として、将来を担う子どもたちや一般町民に広く周知され、学校教育や生涯学習の場で、普及活用されていくことを期待しております。

最後になりますが、発掘調査に際しご協力くださいました町都市建設課の皆様、発掘調査及び整理報告書作成作業を担当されました関東文化財振興会株式会社の調査員や作業に参加された方々、指導助言を受けた茨城県総務企画部文化課の方々に、心から感謝申し上げます。

令和６年３月

大洗町教育委員会
教育長　長谷川　馨

例　　言

1　本書は、大洗町都市建設課による町道整備事業に伴う、茨城県東茨城郡大洗町字宮田 6141 番 3 ～ 6171 番に所在する宮田遺跡 (県遺跡番号 08309004) の発掘調査報告書である。

2　本調査は、大洗町教育委員会による確認調査に基づいて、事業予定地の内 5,915㎡を対象とした。

3　発掘調査及び整理作業は、大洗町教育委員会から委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。

4　調査期間は令和 4 年 9 月 12 日から令和 5 年 5 月 15 日までである。

5　調査にあたり、大洗町、大洗町教育委員会、関東文化財振興会株式会社の三者で協定書を交わした。

6　調査組織は、以下のとおりである。

調査指導　大洗町教育委員会

教　育　長　　長谷川　馨

生涯学習課長　　磯崎　宗久

生涯学習課文化財係長　　蓼沼香未由

調査主体者　関東文化財振興会株式会社

代表取締役　　宮田和男

調査担当者　　岡安光彦・狩谷崇文

整理担当者　　平石尚和・川井正一

7　本報告書の編集は、大洗町教育委員会生涯学習課指導の下、川井正一 (関東文化財振興会株式会社) の協力を得て、平石尚和が行った。執筆は、第 1 章第 1 節を蓼沼香未由、第 2 章・第 3 章第 4 節を川井正一が、その他を平石尚和が行った。

8　報告書作成にあたり、下記の諸氏、諸機関からご教授・ご援助を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。

（敬省略・順不同）

茨城県教育庁総務企画部文化課　大洗町教育委員会　茨城県埋蔵文化財センター　阿久津久　瓦吹堅　佐藤正好　鈴木美治　仙波亨　文化財サービス　テイケイトレード　勾玉工房茨城

9　整理・報告書作成の参加者は以下のとおりである。

荒井夕紀　　植竹涼子　　大越慶子　　岡田利美　　奥津万紀子　　小山百恵　　川又恵美子
郡司ゆき子　後藤栄子　　田尻悦子　　中村やよえ　成木和子　　平井百合子　樋口正子
益子光江　　三浦睦子　　千葉貴久江　岸久子

10　本調査における出土遺物及び実測図・写真等は、大洗町教育委員会が保管している。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に順拠し、X = + 36,555 m、Y = + 66,680 mの交点を基準点(Ａ1)とした。なお、この原点は、世界測地系(測地成果2011)による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北を５m × ５m 調査区を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いて、北から南へA･B･C･･･、西から東へ１・２・３・・・とし、「１グリット」「Ｂ２グリット」のように呼称した。

2　実測図・遺物観察表で使用する記号は、次のとおりである。

TM －古墳　SA －柱穴列　SB －掘立柱建物跡　SD －溝跡　SI －竪穴建物跡　SK －土坑

HS －表採　　K －撹乱　P －ピット

3　土層と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄著　日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説の中で述べた粒状の規模は、「粒子」は１㎜以下、「ブロック」は１～10㎜ものを表し、含有物の量は、微量(1 ～ 2%)、少量(2 ～ 5%)、中量(5 ～ 10%)、多量（10%以上)で表した。

4　遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1)　遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は、原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3)　遺構・遺物実測中の表示は、次のとおりである。

■須恵器・燃焼部　□火床面・炉跡　▒竈部材・粘土・黒色処理

▒柱痕・媒・油煙・火然部　□赤彩

●土器　○土製品　□石製品　△金属製品　—･—･—硬化面

5　遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1)　計測値の単位は、m・cm・gである。なお、現存値は( )で、推定値は[ ]を付けて示した。

(2)　備考の欄は、残存率やその他必要と思われる事項を記した。

6　「主軸」は、竪穴建物跡については、竈あるいは炉を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方位」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例　Ｎ－10°－Ｅ)。

7　今回の報告書分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更　SI-246 → SI-18 SI-239 → SI-109　方形竪穴遺構→ SI-110 SI-243 → SI-40　SD-4 →方墳

P-1-2-3-28-44 → SA-2　SK-17 → SI-13P5　SK-18 → SI-14P5　SK-10 → SI-91P3

欠番　SI-2.3.4.7.12.15.16.22.23.25.26.27.28.29.30.31.34.37.38.46.47.48.49.50.53.54.55.56.57.59.60.

SI-62,63.64.65.66.67.68.69.70.71.77.78.81.86.89.97.98.99,101.105.111.112.113.114.132.154 ～ 199.

SI-202.204.208.209.212 ～ 229.232.234.241.242.244 ～ 246

SK-4.5.6.7.8.9.13.14.1.20.21 ～ 42.47.50 ～ 61　　SD-7

目　次

(上　巻)

序
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経緯 …… 2
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　位置と地形 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　　１　縄文時代の遺物 …… 11
　　２　弥生時代の遺構と遺物 …… 13
　　(1)　竪穴建物跡 …… 13
　　(2)　遺構外出土遺物 …… 33
　　３　古墳時代の遺構と遺物 …… 34
　　(1)　竪穴建物跡 (第201号竪穴建物跡まで) …… 34

(下　巻)

　　(1)　竪穴建物跡 (第205号竪穴建物跡から) ……223
　　(2)　古墳 ……248
　　(3)　遺構外出土遺物 ……250
　　４　奈良・平安時代の遺構と遺物 ……251
　　(1)　竪穴建物跡 ……251
　　(2)　土坑 ……326
　　５　中世以降の遺構と遺物 ……329
　　(1)　掘立柱建物跡 ……329
　　(2)　土坑 ……330
　　(3)　溝跡 …… 332
　　６　時期不明の遺構と遺物 ……337
　　(1)　竪穴建物跡 ……337
　　(2)　柱穴列 ……348
　　(3)　土坑 …… 353
　　(4)　溝跡 …… 355
　　(5)　ピット群 ……364
　　(6)　遺構外出土遺物 ……369
　第４節　まとめ ……370
附　章
　　宮田遺跡出土遺物の化学分析 ……379
写真図版
抄　録
付　図

挿　図　目　次

（上　巻）

第１図　周辺遺跡分布図 …… 6
第２図　調査区位置図 …… 8
第３図　基本土層図 …… 10
第４図　グリット設定図 …… 10
第５図　縄文時代遺物実測図 …… 11
第６図　第21号竪穴建物跡実測図 …… 13
第７図　第21号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 14
第８図　第40号竪穴建物跡実測図 …… 15
第９図　第40号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 16
第10図　第41号竪穴建物跡実測図 …… 18
第11図　第41号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 19
第12図　第58号竪穴建物跡実測図 …… 20
第13図　第58号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 21
第14図　第107号竪穴建物跡実測図…… 22
第15図　第107号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 23
第16図　第130号竪穴建物跡実測図…… 25
第17図　第130号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 26
第18図　第134号竪穴建物跡実測図…… 27
第19図　第134号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 28
第20図　第141号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 30
第21図　第211号竪穴建物跡実測図…… 31
第22図　第211号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 32
第23図　弥生時代遺構外出土遺物実測図 …… 33
第24図　第１号竪穴建物跡実測図 …… 35
第25図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 36
第26図　第５号竪穴建物跡実測図 …… 37
第27図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 38
第28図　第９号竪穴建物跡実測図 …… 39
第29図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 40
第30図　第10・11号竪穴建物跡実測図 …… 41
第31図　第10号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 42
第32図　第11号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 43
第33図　第13号竪穴建物跡実測図 …… 44
第34図　第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 45
第35図　第14号竪穴建物跡実測図(1) …… 47
第36図　第14号竪穴建物跡実測図(2) …… 48
第37図　第14号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 49
第38図　第17号竪穴建物跡実測図 …… 50
第39図　第17号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 51
第40図　第32・36号竪穴建物跡実測図 …… 53
第41図　第32号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 54
第42図　第36号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 56
第43図　第33号竪穴建物跡実測図 …… 57
第44図　第33号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 58
第45図　第43号竪穴建物跡実測図 …… 60
第46図　第43号竪穴建物出土遺物跡実測図 …… 61
第47図　第44号竪穴建物跡実測図(1) …… 63
第48図　第44号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 64
第49図　第45号竪穴建物跡実測図(1) …… 66
第50図　第45号竪穴建物跡実測図(2) …… 67
第51図　第45号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 68
第52図　第72号竪穴建物跡実測図 …… 70
第53図　第72号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 71
第54図　第74号竪穴建物跡実測図 …… 73
第55図　第74号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 74
第56図　第75号竪穴建物跡実測図(1) …… 76
第57図　第75号竪穴建物跡実測図(2) …… 77
第58図　第75号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 78
第59図　第75号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 79
第60図　第75号竪穴建物跡出土遺物実測図(3) …… 80
第61図　第79号竪穴建物跡実測図 …… 83
第62図　第79号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 84
第63図　第79号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 85
第64図　第80号竪穴建物跡実測図 …… 87
第65図　第80号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 88
第66図　第82号竪穴建物跡実測図 …… 89
第67図　第82号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 90
第68図　第83号竪穴建物跡実測図(1) …… 91
第69図　第83号竪穴建物跡実測図(2) …… 92
第70図　第83号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 93
第71図　第84号竪穴建物跡実測図 …… 94
第72図　第84号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 95
第73図　第87号竪穴建物跡実測図 …… 96
第74図　第87号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 97
第75図　第88号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 99
第76図　第90号竪穴建物跡実測図(1) …… 101
第77図　第90号竪穴建物跡・出土遺物実測図…… 102
第78図　第90号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 103
第79図　第91号竪穴建物跡実測図 …… 105
第80図　第91号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 106
第81図　第93号竪穴建物跡実測図 …… 107
第82図　第93号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 108
第83図　第93号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 109
第84図　第94号竪穴建物跡実測図 …… 111

第85図　第94号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 112
第86図　第95号竪穴建物跡実測図(1) …… 113
第87図　第95号竪穴建物跡実測図(2) …… 114
第88図　第95号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) …… 115
第89図　第95号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) …… 116
第90図　第100号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 119
第91図　第102号竪穴建物跡実測図…… 121
第92図　第102号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 122
第93図　第103号竪穴建物跡実測図…… 123
第94図　第103号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 124
第95図　第104号竪穴建物跡実測図…… 125
第96図　第104号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 126
第97図　第106号竪穴建物跡実測図…… 127
第98図　第106号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 128
第99図　第114号竪穴建物跡実測図(1) …… 131
第100図　第114号竪穴建物跡実測図(2) …… 132
第101図　第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 133
第102図　第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 134
第103図　第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(3) … 135
第104図　第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(4) … 136
第105図　第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(5) … 137
第106図　第117号竪穴建物跡実測図(1) …… 140
第107図　第117号竪穴建物跡実測図(2) …… 141
第108図　第117号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 142
第109図　第117号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 143
第110図　第118号竪穴建物跡実測図…… 145
第111図　第118号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 146
第112図　第118号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 147
第113図　第119号竪穴建物跡実測図(1) …… 149
第114図　第119号竪穴建物跡実測図(2) …… 150
第115図　第119号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 151
第116図　第120・123号竪穴建物跡実測図…… 152
第117図　第120号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 153
第118図　第124号竪穴建物跡実測図…… 155
第119図　第124号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 156
第120図　第126号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 157
第121図　第128号竪穴建物跡実測図(1) …… 159
第122図　第128号竪穴建物跡実測図(2)・出土遺物実測図
…… 160
第123図　第129号竪穴建物跡実測図(1) …… 162
第124図　第129号竪穴建物跡実測図(2) …… 163
第125図　第129号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 165
第126図　第129号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 166
第127図　第129号竪穴建物跡出土遺物実測図(3) … 167
第128図　第131号竪穴建物跡実測図…… 170
第129図　第131号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 171
第130図　第133号竪穴建物跡実測図(1) …… 172
第131図　第133号竪穴建物跡実測図(2) …… 173
第132図　第133号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 174
第133図　第137号竪穴建物跡実測図(1) …… 176
第134図　第137号竪穴建物跡実測図(2) …… 177
第135図　第137号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 179
第136図　第137号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 180
第137図　第138号竪穴建物跡実測図…… 182
第138図　第138号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 183
第139図　第139号竪穴建物跡実測図(1) …… 184
第140図　第139号竪穴建物跡実測図(2) …… 185
第141図　第139号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 186
第142図　第140号竪穴建物跡実測図…… 187
第143図　第140号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 188
第144図　第142号竪穴建物跡実測図(1) …… 190
第145図　第142号竪穴建物跡実測図(2)・出土遺物実測図(1)
…… 191
第146図　第142号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 192
第147図　第143号竪穴建物跡実測図…… 194
第148図　第143号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 195
第149図　第144号竪穴建物跡実測図(1) …… 197
第150図　第144号竪穴建物跡実測図(2) …… 198
第151図　第144号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 199
第152図　第146号竪穴建物跡実測図…… 201
第153図　第146号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 203
第154図　第148号竪穴建物跡実測図…… 204
第155図　第148号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 205
第156図　第149号竪穴建物跡実測図…… 207
第157図　第149号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 208
第158図　第150号竪穴建物跡実測図…… 209
第159図　第150号竪穴建物跡出土遺物実測図(1) … 210
第160図　第150号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 211
第161図　第152号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 213
第162図　第200号竪穴建物跡実測図(1) …… 215
第163図　第200号竪穴建物跡実測図(2)・出土遺物実測図(1)
…… 216
第164図　第200号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) … 217
第165図　第201号竪穴建物跡実測図…… 219
第166図　第201号竪穴建物跡出土遺物実測図…… 220

挿　表　目　次

（上　巻）

第１表　宮田遺跡と周辺遺跡一覧…… 7
第２表　縄文時代遺構外出土遺物観察表…… 12
第３表　第21号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 14
第４表　第40号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 17
第５表　第41号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 19
第６表　第58号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 21
第７表　第107号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 24
第８表　第130号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 26
第９表　第134号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 28
第10表　第141号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 30
第11表　第211号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 32
第12表　弥生時代遺構外出土遺物観察表…… 33
第13表　弥生時代の竪穴建物跡一覧…… 33
第14表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 36
第15表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 38
第16表　第９号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 40
第17表　第10号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 42
第18表　第11号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 43
第19表　第13号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 45
第20表　第14号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 49
第21表　第17号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 52
第22表　第32号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 54
第23表　第36号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 56
第24表　第33号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 59
第25表　第43号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 61
第26表　第44号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 64
第27表　第45号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 68
第28表　第72号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 71
第29表　第74号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 74
第30表　第75号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 80
第31表　第79号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 85
第32表　第80号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 88
第33表　第82号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 90
第34表　第83号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 93
第35表　第84号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 95
第36表　第87号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 98
第37表　第88号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 100
第38表　第90号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 103
第39表　第91号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 106
第40表　第93号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 109
第41表　第94号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 112
第42表　第95号竪穴建物跡出土遺物観察表…… 117
第43表　第100号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 120
第44表　第102号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 122
第45表　第103号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 124
第46表　第104号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 126
第47表　第106号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 129
第48表　第114号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 138
第49表　第117号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 144
第50表　第118号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 147
第51表　第119号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 150
第52表　第120号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 154
第53表　第124号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 156
第54表　第126号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 158
第55表　第128号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 161
第56表　第129号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 168
第57表　第131号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 171
第58表　第133号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 173
第59表　第137号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 180
第60表　第138号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 183
第61表　第139号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 186
第62表　第140号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 188
第63表　第142号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 192
第64表　第143号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 195
第65表　第144号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 200
第66表　第146号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 202
第67表　第148号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 205
第68表　第149号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 208
第69表　第150号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 211
第70表　第152号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 213
第71表　第200号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 218
第72表　第201号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 220

第１章　調 査 経 緯

第１節　調査に至る経緯

今後敷設が予定されていた都市計画道路関根祝町線と都市計画道路吉沼磯浜線とが交差する付近には、08309004 の宮田遺跡が重なることは、平成 29 年２月 15 日付「埋蔵文化財の所在の有無と取扱いについて（照会）」→同年３月１日付「同（回答）」のやり取りを通して、町都市建設課・町生涯学習課間で共有されてきた。実際に開発が本格化したのは、５年を経過した令和３年度以降であり、令和３年９月８日付大都発第 518 号にて、國井　豊大洗町長（町都市建設課道路係扱い）より、茨城県教育委員会教育長宛に、宮田遺跡に関する「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出された。それを受け、同年 12 月 28 日、町生涯学習課で現地踏査を行った結果、計画予定地が宮田遺跡の範囲内であることを確認すると共に、遺物の散布状況から、地下に多数の遺構が埋没していることが予想された。

遺構の埋没状況を確認する目的で、年が明けた令和４年１月６日から同年２月８日にかけて、断続的ではあったが 13 日間、試掘確認調査を実施した。長さ約 260 ｍ、幅約 24.5 ｍの路線内に、並行する調査区２本（第１・２号トレンチ）を設定し、重機を使用して関東ローム層上面まで掘り下げた。その結果、時期不明であったり近世・近代に下がったりする一部の遺構も含むが、弥生時代後期・古墳時代前期・中期・後期、奈良・平安時代に帰属する、総数 32 棟の竪穴建物跡・溝跡４條・土坑１基を検出することができた。その中でも古墳時代の棟数が多く、古墳時代を中心とする大規模な集落が埋没しているものと考えられた。

この成果については、平成 12 年３月 16 日付、茨城県教育委員会施行『埋蔵文化財として扱う範囲及び開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する基準』の２の（１）に規定される「中世までの時代」に該当するため、埋蔵文化財として扱う対象となる。そこで、開発側の町都市建設課と保存策を協議したところ、ルート・切土のよる工法等の変更は困難な情勢となったため、『茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準』に照らして、「原則Ｉ工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合」に該当することが確実となり、令和４年２月 17 日、「埋蔵文化財取扱いに関する意見書」に「発掘調査を要する場合」として取りまとめ、茨城県教育庁文化課長宛に提出した。

同月 25 日付、文第 3619 号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて、大洗町長宛に発掘調査実施の回答があり、発掘調査が決定された。管内の発掘調査は、町教育委員会が実施するのが前提であるが、他業務との重複に伴う繁忙の中、想定される半年を越える発掘調査期間を捻出することはかなわなかった。そこで、町教育委員会が指導・助言する中、民間の発掘調査会社が発掘作業・整理作業の実務を担うこととなった。この発掘調査は、町都市建設課による業者選定後、入札により、関東文化財振興会株式会社が受注することとなった。大洗町長・関東文化財振興会株式会社代表取締役間で業務委託契約書が交わされたのは、年度をまたいだ令和４年８月４日のことである。同時に、大洗町教育委員会教育長をも含めた三者による協定書を締結し、発

掘調査に伴う協定が交わされた。

同月 10 日、関東文化財振興会株式会社代表取締役より、茨城県教育委員会教育長宛に、「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が提出され、一ヶ月余りを経た翌９月 12 日より発掘調査が開始された。

第２節　調査経過

宮田遺跡の調査は、令和４年９月 12 日から令和５年５月 15 日までの９か月にわたって実施した。

９月 26 日 (月) 表土除去用の重機が搬入し、西側から重機による表土除去を開始する。10 月 21 日 (金) までで中央部までの表土除去を終了する。10 月 21 日 (水) から表土の搬出を行う。11 月 21 日から 28 日まで中央部から東側の重機による表土除去を行う。

10 月 13 日 (木) から 18 日作業員を投入して遺構確認作業を合わせて行う。18 日 (火) から遺構の掘り込み作業を始める。

令和５年２月 18 日 (土) に現地説明会を行い、出土した遺物や調査遺構について調査の成果を地元の人に公開した。３月４日 (土) に借地としていた畑の表土を埋め戻した。

令和５年３月 22 日に掘り込み及び図面・写真撮影作業を終了する。以降５月 15 日まで補足調査を行い、接収作業を完了する。

第２章　位置と環境

第１節　位置と地形

宮田遺跡は、茨城県東茨城郡大洗町磯浜町地内に所在している。

大洗町は茨城県の東部に位置し、町域は南北に長く、東は太平洋の鹿島灘に沿い、北は那須茶臼竹を源とする那珂川、西は笠間市の国見山を源とする涸沼川に限られている。町の西側を限る涸沼川は、涸沼から北東に流れ、那珂川へ合流している。地形的には鹿島台地と呼ばれる標高 30 ～ 40 ｍで平坦な台地と、涸沼川などによって形成された河岸段丘の微耕地、涸沼、涸沼川沿岸に存在する沖積低地と太平洋沿岸の海岸砂丘に大別される。

地質的には、鹿島台地は第四紀完新世に堆積し、成田層と呼ばれる砂層が基盤となり、その上部に粘土・砂・砂礫からなる見和層、火山灰質粘土層である常総粘土層、さらに関東ローム層が堆積している。ローム層は武蔵野層、立川層に相当し、ローム層中に鹿沼軽石の層が堆積している[1)]。

遺跡は、東茨城郡城里町を源流として、南東流したのち北東流して那珂川に注ぐ涸沼川の中途に位置する涸沼に北面する鹿島台地の北端部に立地している。遺跡が立地する場所は、涸沼川によって形成された河岸段丘の中位段丘で、標高 20 ｍである。低地との比高は 17 ｍである。遺跡の調査前の現況は、山林及び畑である。

第２節　歴史的環境

宮田遺跡は大洗町の北部に位置している。大洗町域においては 107 か所にのぼる遺跡が確認されており[2)]、1 ㎞四方における遺跡数が 3.5 か所程で、県域において遺跡の分布密度が高い地域である。

ここでは、当遺跡の周辺における遺跡の分布状況について述べる。

旧石器時代の遺跡としては、磐船山遺跡〈６〉、ドンドン山遺跡〈７〉、から石器が採集されているにすぎないが、台地上に該期の遺跡が存在する可能性がある。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。

草創期・早期の遺跡は、那珂川河口付近に立地している二葉町遺跡〈４〉、などがみられる程度で遺跡数は少ない。前期の遺跡としては、北部の磯浜地区で磐船山遺跡、ドンドン山遺跡、吹上貝塚〈16〉、勘十堀貝塚〈28〉、南部の大貫地区で栗林遺跡〈48〉などが確認されており、遺跡数が増加している。該期は海進が最も進んだ時期で、現在の河川や低地部の奥まで海水が流入し、淡水が供給される流域では汽水域も存在していたことが推測され、食料としての魚介類の獲得に最良の地域であったとみられる。

次の中期の遺跡はさらに増加しており、吹上遺跡[3)]、釜堀遺跡〈17〉、団子内遺跡〈19〉、一本松

遺跡〈20〉、中畑遺跡〈41〉、登城遺跡[4]〈47〉、古内遺跡〈49〉などが確認されている。後期の遺跡も増加しており、一本松遺跡[5]、常福寺遺跡[6]〈42〉大貫落神北貝塚[7]〈44〉、大貫落神南貝塚[8]〈45〉などがあり、貝塚も数地点確認されており、貝類や海洋性の魚骨、漁労具などが出土しており、漁労を主体とする生活を営んでいたことを物語っている。

次の弥生時代の遺跡としては、磐船山遺跡、団子内遺跡[9]、一本松遺跡[10]、米蔵地遺跡[11]〈21〉、髭釜遺跡[12]〈27〉、官女平遺跡[13]〈36〉、ヘロ内遺跡[14]〈37〉、長峯遺跡[15]〈38〉などが確認されている。このうち髭釜遺跡では、200棟にのぼる竪穴建物跡が確認され、後期の大集落であることが判明しており、この地域に稲作を基盤とした生活が定着したことを物語っている。

次の古墳時代では、まず集落遺跡について概観する。前期の集落跡は髭釜遺跡、一本松遺跡、長峯遺跡[16]、常福寺遺跡[17]、落神遺跡[18]で、中期の集落跡は、落神遺跡[19]、登城遺跡[20]、後期の集落跡は長峯遺跡[21]常福寺遺跡[22]で確認されている。

また、この時代は古墳が築造されるようになり、太平洋を望む台地上には磐船山古墳、山ノ上古墳〈13〉、磯浜古墳群〈22〉、行人塚古墳〈29〉などが確認されている。このうちの磯浜古墳群は、前期前葉の前方後方墳である姫塚古墳、次いで前期中葉の五本松古墳・五本松下古墳、前期後～末葉の前方後円墳である坊主山古墳、前期末葉の全長101ｍの前方後円墳である日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳[23]〈25〉に続き、中期初頭の円墳である車塚古墳が築造され、数世代にわたり連綿と古墳が築造された首長層の奥津城とみられている。

次の奈良時代に入ると、大洗町は鹿島郡に属し、当遺跡が存在する町北部の磯浜町・大貫町は宮田郷に、南部は鉾田市の北部を含めた大屋郷に比定されている[24]。この地域における律令期の奈良・平安時代の遺跡は多数確認されており、そのうち吹上遺跡、団子内遺跡、一本松遺跡、髭釜遺跡、長峯遺跡、常福寺遺跡、落神遺跡、飛城遺跡、登城遺跡などで集落跡が確認されている。時代毎では奈良時代より平安時代の遺跡数が多く、確認された竪穴建物跡の数も平安時代になると増加しており、常福寺遺跡では42棟[25]、落神遺跡では21棟[26]、登城遺跡では36棟[27]確認されている。このことは、墾田永代私財法などにより耕地の開墾が進行し人口が増加したことに起因するものとみられる。

鎌倉時代以降の中世に入ってからの当地域に関する資料は少ないが、中世には佐竹氏一族の統治下にあった時期がある。江戸時代には水戸藩領となっているほか、守山藩の陣屋であった松川陣屋跡がある。この時代の遺跡には城館跡があり、大掾氏・江戸氏に属したとされる大貫氏の居城と想定されている登城館跡[28]、江戸氏の支城とみられている大館館跡、小館館跡[29]のほか、堀・墓壙が確認された常福寺遺跡などが確認されている。

近世では、主に水戸藩・守山藩の海防目的の軍事施設である。祝町向洲台場跡〈10〉、望洋館跡・磯浜海防陣屋跡〈23〉などがある。望洋館跡・磯浜海防陣屋跡は、水戸藩の沿岸を異船から防御するために、９代藩主徳川斉昭により設けられた海防陣屋である。祝町向洲台場跡は、幅約200ｍにもなる西洋式構造の砲台場で、イギリスとの国際関係が悪化する中で文久３(1863)～元治元(1864)年、水戸藩が那珂川河口を守るために築造したものである。その他、中・近世の遺物が採集できる集落跡とみられる遺跡も存在するが、詳細は不明である。

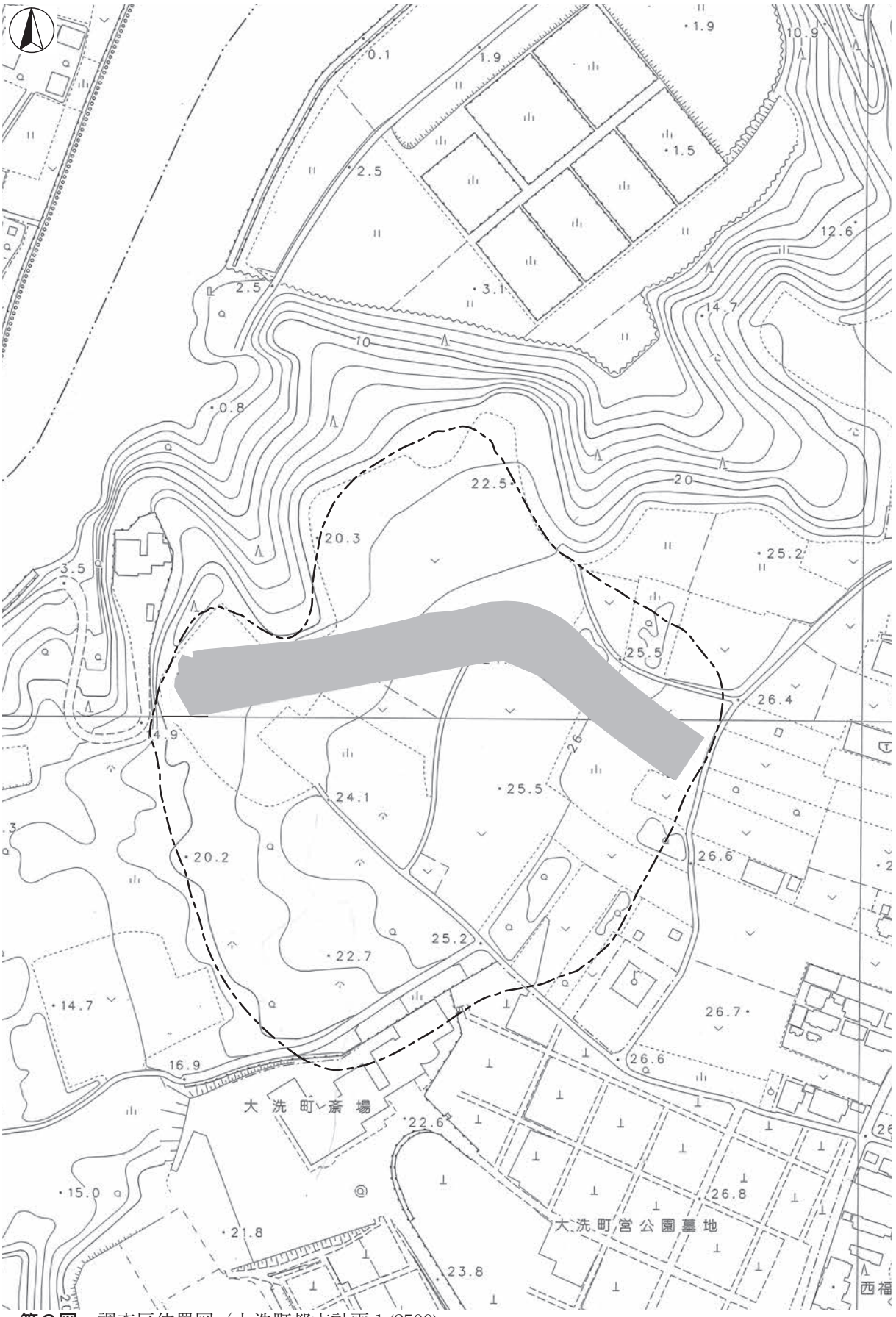
註

1) 大洗町史編さん委員会『大洗町史』大洗町　1986.3
2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　1986. 3
3) 宮田毅「吹上遺跡」『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』茨城県　1979. 3
4) 井上義安ほか「登城遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第５冊　2001. 6
5) 井上義安『一本松遺跡』一本松埋蔵文化財発掘調査会　2001. 3
6) 井上義安ほか「飛城・常福寺遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第３冊　2000. 3
7) 井上義安ほか「大貫落神北貝塚」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第１冊　2000. 3
8) 井上義安ほか「大貫落神南貝塚」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第２冊　2000. 3
9) 井上義安ほか『団子内遺跡―五反田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査概要―』大洗町　団子内遺跡発掘査会　1987. 9
10) 註５に同じ
11) 蓼沼香未由「茨城環東茨城郡大洗町米蔵地遺跡 (第２次) －グループホーム温泉大洗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」『大洗町文化財調査報告書』第 15 集　大洗町教育委員会　2013.12
12) 井上義安編『髭釜　鹿島線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報』大洗地区遺跡発掘調査会　1980.3
天野早苗「髭釜遺跡･行人塚古墳―都市計画道路駅前海岸線整備事業地内埋蔵文化財調査報告書―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 421 集』公益財団法人茨城県教育財団　2017.3
13) 小林健太郎「官女平遺跡―一般県道長岡大洗線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書―」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 221 集』財団法人茨城県教育財団　2004.3
14) 早川麗司「ヘロ内遺跡－東京ガス茨城幹線大貫立坑建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」『大洗町文化財調査報告書』第 23 集大洗町教育委員会　2018. 3
15) 井上義安ほか「茨城県大洗町長峯遺跡」『大洗町文化財調査報告其』第４集　大洗町教育委員会　1973.12
16) 註 15 に同じ
17) 井上義安ほか「飛城・常福寺遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書　第３冊』大洗町大貫台地埋蔵文化財発掘調査会　2000. 3
18) 井上義安ほか「落神遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書』第４冊　大洗町大貫台地埋蔵文化財発掘調査会　2001. 6
19) 註 18 に同じ
20) 井上義安ほか「登城遺跡」『大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書　第５冊』大洗町大貫台地埋蔵文化財発掘調査会　2001. 3
21) 註 15 に同じ
22) 註 17 に同じ
23) 大洗町教育委員会「日下ケ塚 (常陸鏡塚) 古墳」『大洗町文化財調査報告書』第 18 集　2015.3
24) 久信田喜一「『和名抄』にみえる常陸国鹿島郡の郷について (一)―宮田郷を中心に、付信太郡の補遺―」『常総の歴史』第 15 号　崙書房　1995. 1
25) 註 17 に同じ
26) 註 18 に同じ
27) 註 20 に同じ
28) 関口慶久「0472 登城館跡」『茨城県の中世城館跡』―茨城県教育委員会　2023.3
29) 中村敬治「ヨナ川遺跡・大館遺跡・小館遺跡－要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 71 集　1991. 3
30) 大洗町教育委員会『史跡　磯浜古墳群　保存活用計画』　2023.12

第１図　宮田遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院２万５千分の１「ひたちなか・磯浜」）

第１表　宮田遺跡と周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	地名表番号	種　別	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	宮田遺跡	309004	集落跡			○	○	○		
2	二葉町下養鰻處遺跡	309068	包蔵地		○	○				
3	前圷遺跡	309003	集落跡			○	○	○		
4	二葉町遺跡	309016	集落跡		○	○	○	○		
5	磐船山古墳	309002	古　墳				○			
6	磐船山遺跡	309015	集落跡	○	○	○		○		
7	ドンドン山遺跡	309001	集落跡	○	○	○				
8	祝町Ⅰ遺跡	309066	包蔵地		○					
9	祝町Ⅱ遺跡	309067	集落跡		○					
10	祝町向洲台場跡	309096	台場跡							○
11	大洗海岸遺跡	309018	包蔵地			○				
12	上ノ山遺跡	309019	集落跡			○		○		
13	上ノ山古墳	309009	古　墳				○			
14	宮田下遺跡	309103	集落跡			○	○	○		
15	吹上遺跡	309020	集落跡		○	○	○	○		
16	吹上貝塚	309005	貝　塚		○					
17	釜堀遺跡	309006	集落跡		○	○				
18	白畑貝塚	309070	貝　塚		○					
19	団子内遺跡	309021	集落跡			○	○	○		
20	一本松遺跡	309009	集落跡		○	○	○	○		○
21	米蔵地遺跡	309017	集落跡			○		○		
22	磯浜古墳群	309007	古墳群				○			
23	要望館跡・磯浜海防陣屋跡	309098	城館跡							○
24	涸沼川河床遺跡	309108	包蔵地		○	○	○	○		○
25	髭釜遺跡	309022	集落跡			○	○	○		
26	勘十堀貝塚	309010	貝　塚		○					
27	行人塚古墳	309071	古　墳				○			
28	富士山古墳	309025	古　墳				○			
29	ウツギ崎砦跡	309024	城館跡						○	
30	権現坂横穴墓	309029	横穴墓				○			
31	富士ノ越遺跡	309026	集落跡			○	○	○		
32	寺ノ上遺跡	309030	集落跡			○	○	○		
33	船渡遺跡	309023	集落跡			○	○			
34	官女平遺跡	309028	集落跡			○	○	○		
35	ヘロ内遺跡	309027	集落跡			○	○	○		
36	長峯遺跡	309033	集落跡			○	○	○		
37	鬼窪遺跡	309032	集落跡			○	○			
38	中丸平遺跡	309031	集落跡		○	○	○	○		
39	中畑遺跡	309035	集落跡		○			○		
40	常福寺遺跡	309042	集落跡		○	○	○	○	○	○
41	落神遺跡	309034	集落跡		○	○	○	○	○	○
42	大貫落神北貝塚	309012	貝　塚		○					
43	大貫落神南貝塚	309011	貝　塚		○					
44	登城館跡	309073	城館跡						○	
45	登城遺跡	309040	集落跡				○	○		
46	栗林遺跡	309038	集落跡		○		○	○		
47	古内遺跡	309039	集落跡		○					
48	大道端遺跡	201266	集落跡			○	○			
49	平戸館跡	201199	城館跡						○	
50	観音堂土塁跡	201265	城館跡						○	
51	川又館跡	201200	城館跡						○	



第２図　調査区位置図（大洗町都市計画 1/2500)

第３章　調査の成果

第１節　遺跡の概要

宮田遺跡は、大洗町の北部に位置し、大洗町斎場の西側に広がる範囲である。今回調査対象となった地域は、涸沼川東側の台地上に位置し対象面積５ ,915㎡であり、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世以降の遺跡である。

今回の調査で確認した遺構の総数は、古墳１基、竪穴建物跡 117 棟、掘立柱建物跡１棟、柱穴列４条、溝跡 11 条、土坑 15 基、ピット群４か所である。時代別では弥生時代の竪穴建物跡９棟、古墳時代の竪穴建物跡 70 棟、方墳１基、奈良・平安時代の竪穴建物跡 27 棟、土坑２基、中世以降の掘立柱建物跡１棟、土坑１基、溝跡３条、時期不明の竪穴建物跡 11 棟、柱穴列４条、溝跡８条、土坑 12 基である。

遺物は、遺物収納コンテナ (60 × 40 × 20cm) に 179 箱出土しており、遺物の大半は弥生時代、古墳時代、奈良･平安時代のものである。主な遺物は、竪穴建物跡から出土した弥生土器 (広口壺)、土師器 (坏・高坏・器台・鉢・甕・甑)、須恵器 (坏・高台付坏・甕・甑)、土製品 (土玉・管状土錘・勾玉)、鉄製品 (刀子・鎌・槍鉋・鏃)、銅製品 (銅鋺・耳環・匙・銭貨)、石製品 (砥石・石製模造品) などである。

第２節　基本層序

調査区西側 (Ｇ２グリット) と東側 (Ｎ 43 グリット) にテストピットを設定し、深さ 1.5m まで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層は６層に分層できた。土層の観察は以下の通りである。

第１層は褐色のソフトローム層で、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。粘性・締まりとも弱く、層厚は 25 ～ 30㎝である。

第２層は褐色のハードローム層で、ロームブロックを多量に含んでいる。粘性･締まりとも強く、層厚は 24 ～ 40㎝である。

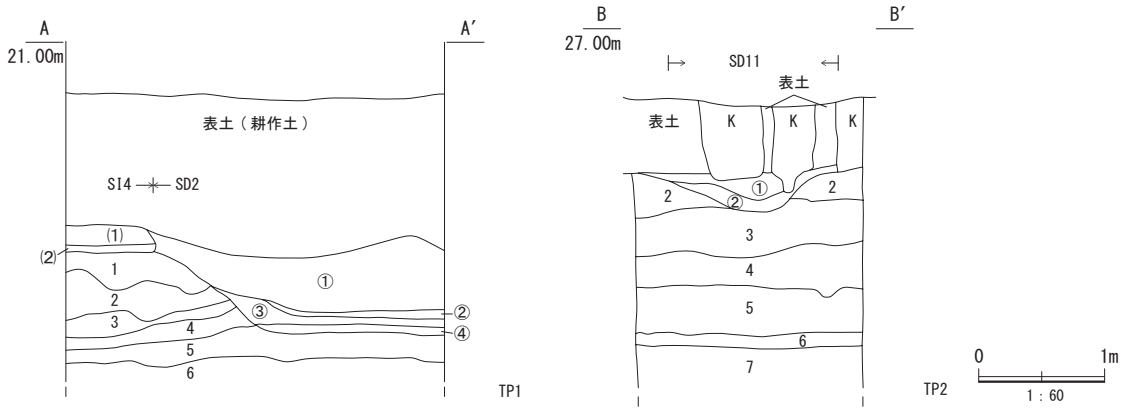
第３層は暗褐色の黒色帯層で、ロームブロックを微量含んでいる。粘性・締まりとも強く、層厚は 18 ～ 30㎝である。

第４層はにぶい黄褐色のハードローム層から鹿沼パミス層への漸移層で、鹿沼パミスを少量含んでいる。粘性・締まりとも強く、層厚は 10 ～ 36㎝である。

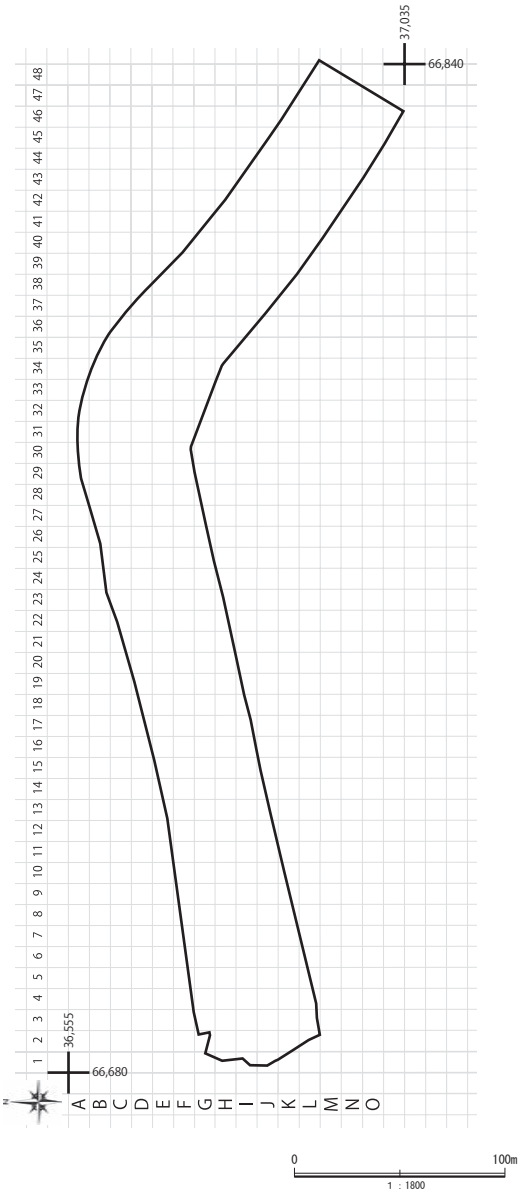
第５層は明黄褐色の鹿沼パミス層である。粘性は弱いが締まりは強く、層厚は 10 ～ 15㎝である。

第６層は灰黄褐色の暗褐色土層である。暗褐色粒子を多量に含み、灰白色粘土粒子を少量含んでいる。粘性・締まりともに強く、層厚は 10 ～ 24cm である。

第７層は灰黄褐色の暗褐色土層から礫層への漸移層で、暗褐色土に礫が含まれてくる。



第３図　基本土層図(写真図版１)

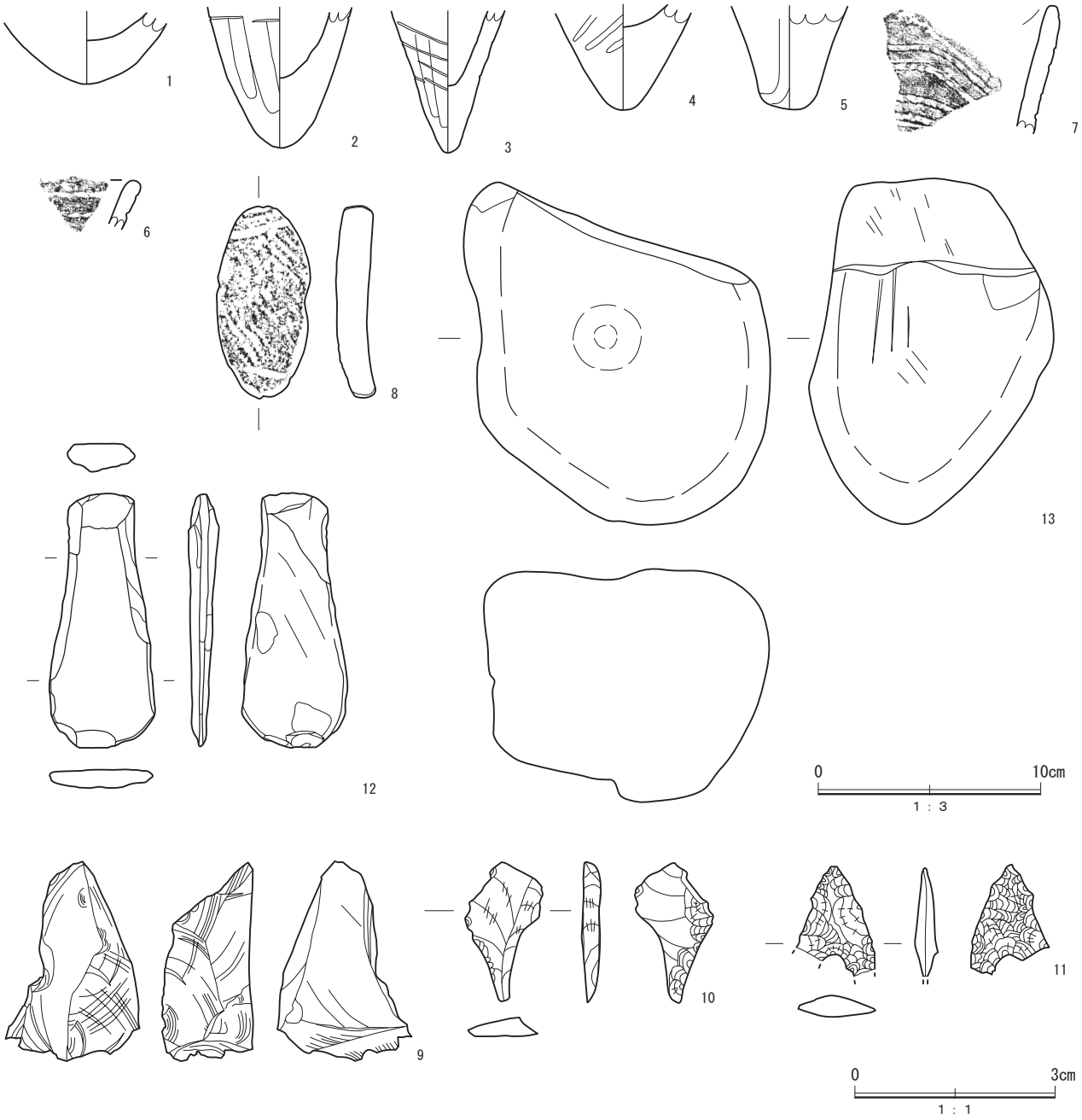


第４図　グリット設定図

第３節　遺構と遺物

１　縄文時代の遺物

縄文時代の遺構はなかったが、竪穴建物跡から出土した縄文土器片７点、土製品１点、石器５点について掲載する。



第５図　縄文時代遺構外出土遺物実測図

第２表　縄文時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	尖底部　無文土器	SI-44	５％ 天矢場式 写真図版42
2	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石･石英･雲母	明赤褐	普通	尖底部	SI-124	5% 三戸式 写真図版42
3	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石･石英･雲母	赤褐	普通	尖底部	SI-23	5% 三戸式 写真図版42
4	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	尖底部	SI-96	5% 三戸式
5	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	尖底部	遺構外	5% 田戸下層
6	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石･石英･雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	無文に棒状工具による押捺し沈線を廻らす	SI-44	5% 浮島式
7	縄文土器	深鉢	—	(2.2)	—	長石	にぶい褐	普通	棒状工具により平行沈線	SI-44	5% 浮島式 写真図版42

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	土器片錘	8.61	4.2	1.6	59.1	長石･石英･スコリア	にぶい黄橙	単節 LR 縄文を横位に施文後沈線文を施す	SI-90	5% 加曾利 E3 写真図版42

番号	種別	幅	長さ	厚さ	重量	材質	特　　徴	出土位置	備考
9	剥片	1.1	2.1	0.3	0.5	黒曜石		SI-14	写真図版42
10	剥片	2.0	3.0	1.4	5.3	黒曜石		Si-208	
11	石鏃	1.2	1.6	0.3	0.3	黒曜石	細かに打製	SI-14	写真図版42
12	石斧	4.6	(11.4)	1.4	78.0	砂岩	側面を叩いて整形	SI-14	写真図版42
13	凹石	14.0	15.5	11.1		砂岩	凹部一か所	SI-5	

２　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、竪穴建物跡９棟を検出した。以下検出した遺構と遺物について記載する。

(1)　竪穴建物跡

第 21 号竪穴建物跡 (SI-21)(第６・７図　写真図版５)

位置　調査区中央部 F25・26、G25・26 グリット　標高 24 mほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 20 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.00 m、短軸 2.90 mである。平面形は、隅丸長方形であり、主軸方位はＮ－ 40°－ Ｅである。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。

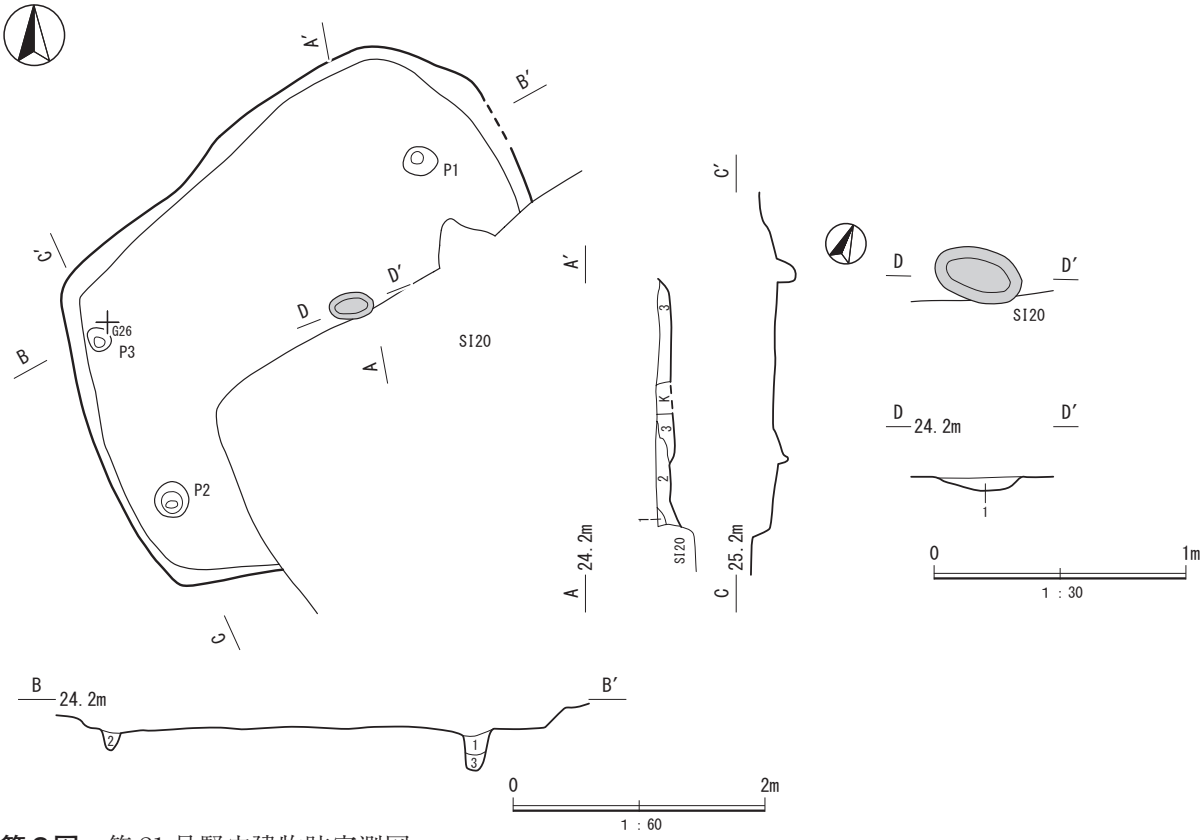
床　炉周辺が固く締まっている。

炉　炉は中央から東寄りに付設されており、長軸 38cm、短軸 (20)cmの楕円形と推測される。床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　３層に分層する。ロームブロックや焼土が含まれていることから、人為堆積と考えられる。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１：30 × 22cm、深さ 30cm、Ｐ２：34 × 30cm、深さ 12cm、Ｐ３：22 × 20cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　弥生土器壺片 37 点（418g)、土師器片 158 点 [坏 10 点 (99g)、甕 148 点 (2,500g)]、

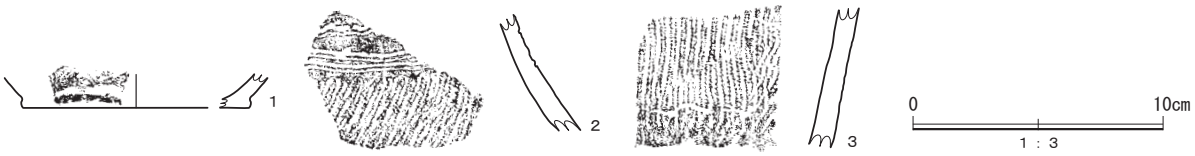


第６図　第 21 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　5YR　3/3　黒赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第７図　第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第３表　第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	壺	—	(1.4)	[9.0]	長石･石英･雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文施文	覆土中	25%
2	弥生土器	壺	—	(4.7)	—	長石･石英	にぶい黄褐	普通	頸部半截竹管による波状文　半截竹管による２段の波状文	覆土中	5%
3	弥生土器	壺	—	(5.5)	—	長石･石英	にぶい橙	普通	外面単節 RL 縄文を施文　内面横位のナデ	覆土中	5%

須恵器片 36 点 [坏 21 点 (201g)、高台付坏３点 (55g)、高坏１点 (30g)、蓋４点 (51g)、甕７点 (389g)]。１～３の広口壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と若干の出土土器から弥生時代後期と考えられる。調査区中央部に集落として構成が考えられる。

第 40 号竪穴建物跡 (SI-40)(第８・９図　写真図版８)

位置　調査区中央部 E28・29、F29 グリット　標高 24 mほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 41 号竪穴建物跡を掘り込み、第 24 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　一辺 4.10m の方形で､主軸方位はN － 10° －Wである。壁は確認面から最大高 24cmで、外傾して立ち上がっている。

床　炉周辺から中央部が固く締まっている。

炉　炉は中央から北東寄りに付設されており、長軸 40cm、短軸 20cmの不整楕円形で、床面を 10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

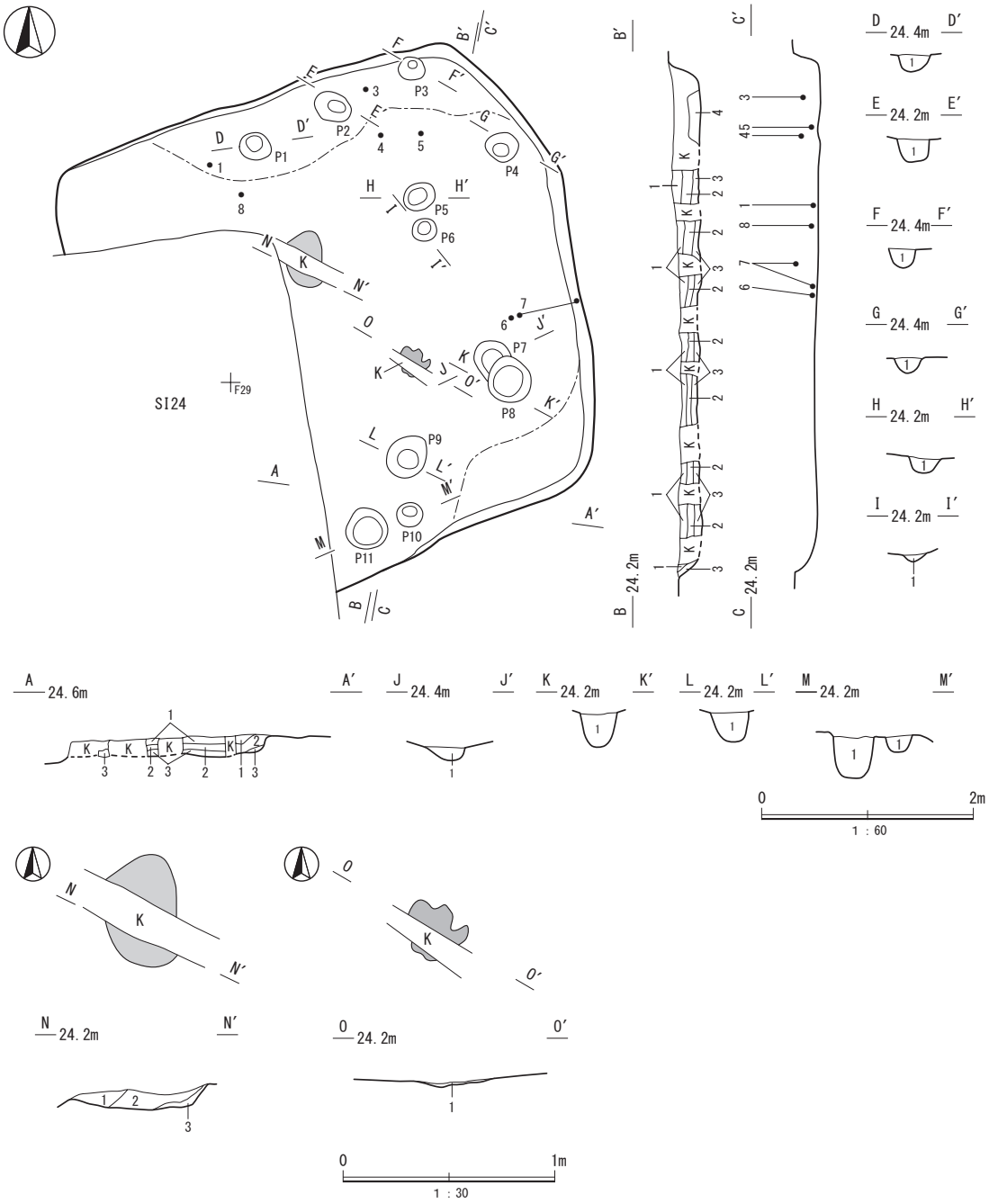
土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれることから､人為堆積と考えられる。

ピット　ピット 11 か所が検出された。Ｐ１：30 × 24cm、深さ 10cm、Ｐ２：30 × 24cm、深さ 14cm、Ｐ３：30 × 24cm、深さ 10cm、Ｐ４：40 × 40cm、深さ 12cm、Ｐ５：22 × 20cm、深さ 36cm、Ｐ６：

32 × 30cm、深さ 20cm、P 7：24 × 20cm、深さ 16cm、P 8：32 × 30cm、深さ 16cm、P 9：46 × 40cm、深さ 32cm、P 10：36 × 24cm、深さ 28cm、P 11：36 × 22cm、深さ 14cmである。

遺物出土状況　弥生土器片 123 点[壺 123 点 (1,134g)]、土師器片 1 点 [ミニチュア土器 1 点 (8g)]。1・8の広口壺は北西部の床面、3～5の広口壺は北東部の覆土下層から出土している。2・9の広口壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。

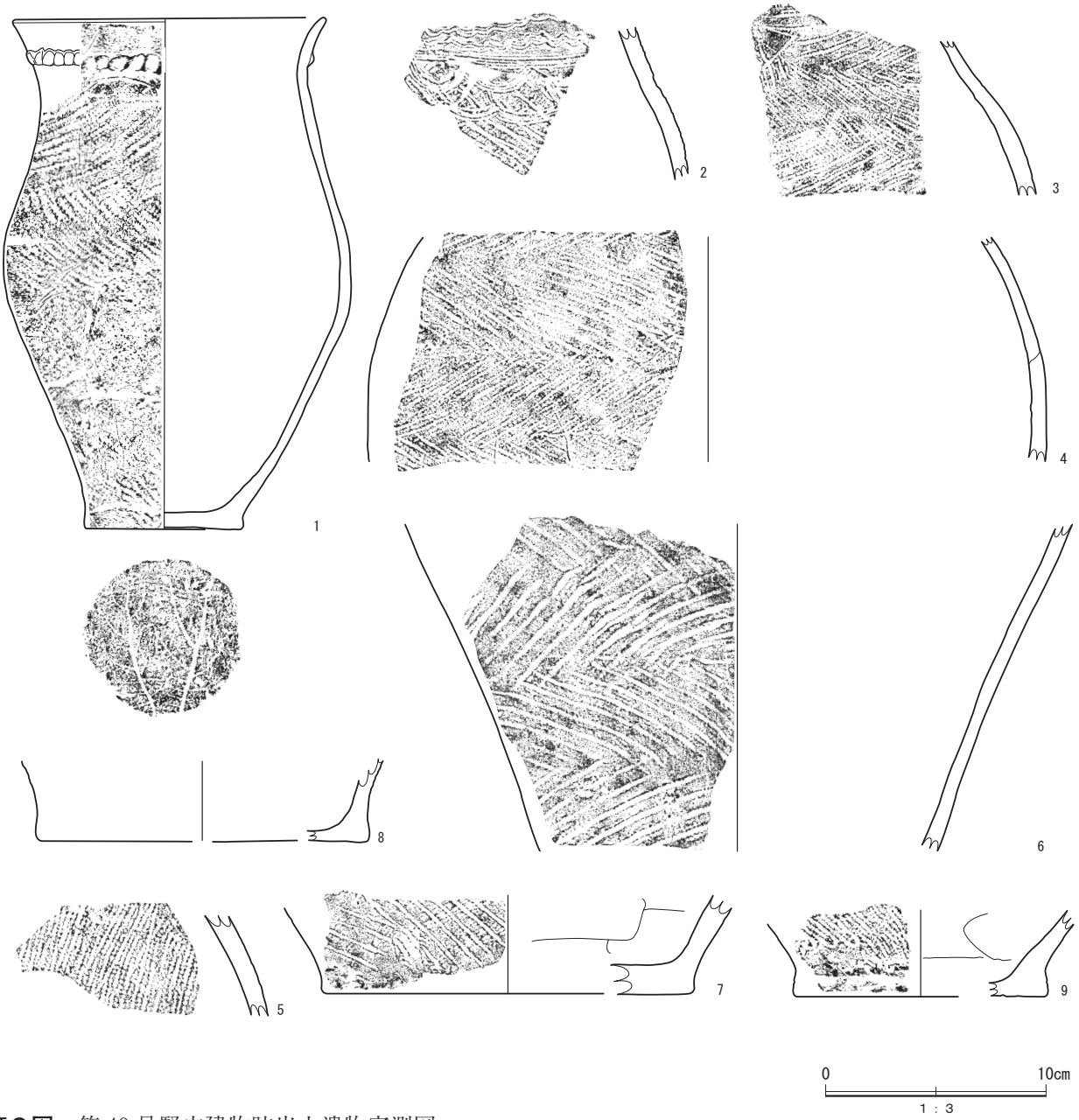


第８図　第 40 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

炉土層解説
1　5YR　5/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　4/4　にぶい赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子中量／粘性なし　締まりなし
3　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし



第９図　第 40 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第４表　第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	広口壺	13.9	23.2	8.0	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯　附加条二種 (附加１条) 縄文を羽状に施文　底部木葉痕	北西部床面	65% 写真図版 42
2	弥生土器	広口壺	—	(6.8)	—	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	櫛歯状工具 (３本歯) による平行線にして頸部と胴部の文様帯を区画し頸部下位に縄文　胴部には地文に附加条一種 (附加２条) 縄文を施文し　下向きの連孤文を２段に施文	覆土中	5% 写真図版 42
3	弥生土器	広口壺	—	(7.0)	—	長石・石英	褐	普通	附加条二種 (附加２条) 縄文を羽状に施文	北東部覆土下層	10%
4	弥生土器	広口壺	—	(10.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	附加条二種 (附加１条) 縄文を羽状に施文	北東部床面	10% 写真図版 42
5	弥生土器	広口壺	—	(4.5)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	LR 単節縄文	北東部床面	5%
6	弥生土器	広口壺	—	(14.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	やや不良	附加条二種 (附加１条) 縄文を羽状に施文	東部覆土下層	5% 写真図版 42
7	弥生土器	広口壺	—	(4.5)	[16.4]	長石・石英	橙	普通	胴部外面に附加条二種 (附加１条) の施文　内面横位のナデ	東部覆土下層	10% 写真図版 42
8	弥生土器	広口壺	—	(3.8)	[14.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種縄文　下端横位のヘラナデ	北西部覆土下層	5%
9	弥生土器	広口壺	—	(3.9)	[11.2]	長石・石英	橙	普通	胴部外面に附加条二種 (附加１条) の施文　内面横位のナデ	覆土中	10%

第 41 号竪穴建物跡 (SI-41)(第 10・11 図　写真図版８・９)

位置　調査区中央部 E29・30、F29・30 グリット　標高 24 ｍほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 40・45 号竪穴建物、第 14 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区外に延びており、北西部を第 40 号竪穴建物に、東部を第 45 号竪穴建物に掘り込まれ、長軸 5.20 ｍ、短軸 4.50 ｍと推測される。平面形は隅丸長方形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高６㎝である。

床　炉周辺が固く締まっている。

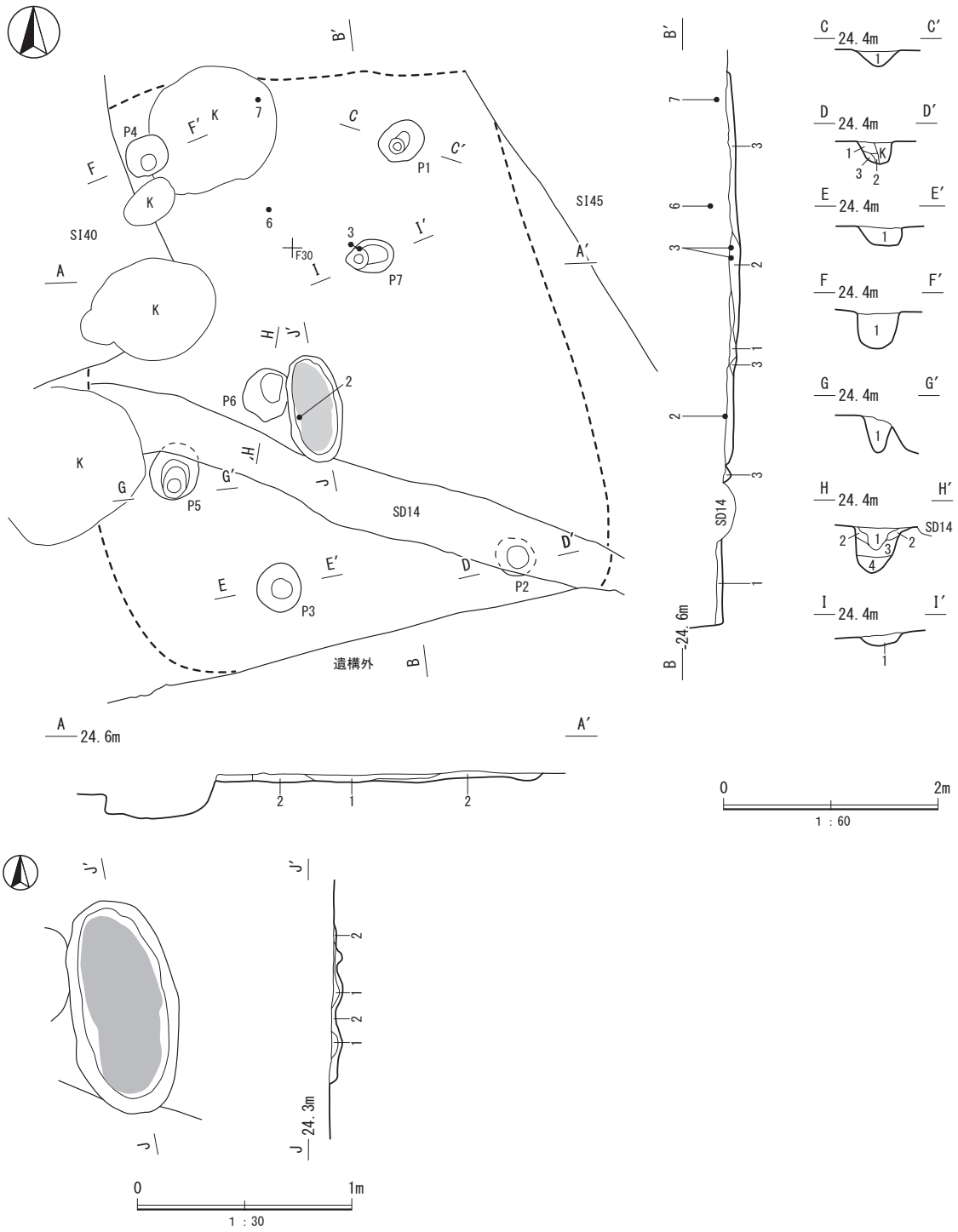
炉　炉は中央と考えられる位置に付設されており、長軸 90cm、短軸 40cmの長楕円形で、床面を６cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや焼土が含まれていることから、人為堆積と考えられる。

ピット　ピット７か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１：42 × 32cm、深さ 16cm、Ｐ２：40 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ３：48 × 42cm、深さ 18cm、Ｐ４：40 × 36cm、深さ 30cmである。Ｐ５：56 × 44cm、深さ 30cm、Ｐ６：52 × 42cm、深さ 30cm、Ｐ７：20 × 18cm、深さ 12cmである。

遺物出土状況　弥生土器片 95 点[広口壺 95 点 (974g)]、土師器甕片２点 (55g)、須恵器坏片２点 (６g)、礫２点 (828g)。２の広口壺は炉内、３の広口壺は東部の床面、６・７の広口壺は北部の覆土下層から出土している。１・４・５・８の広口壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と出土土器から弥生時代後期と考えられる。

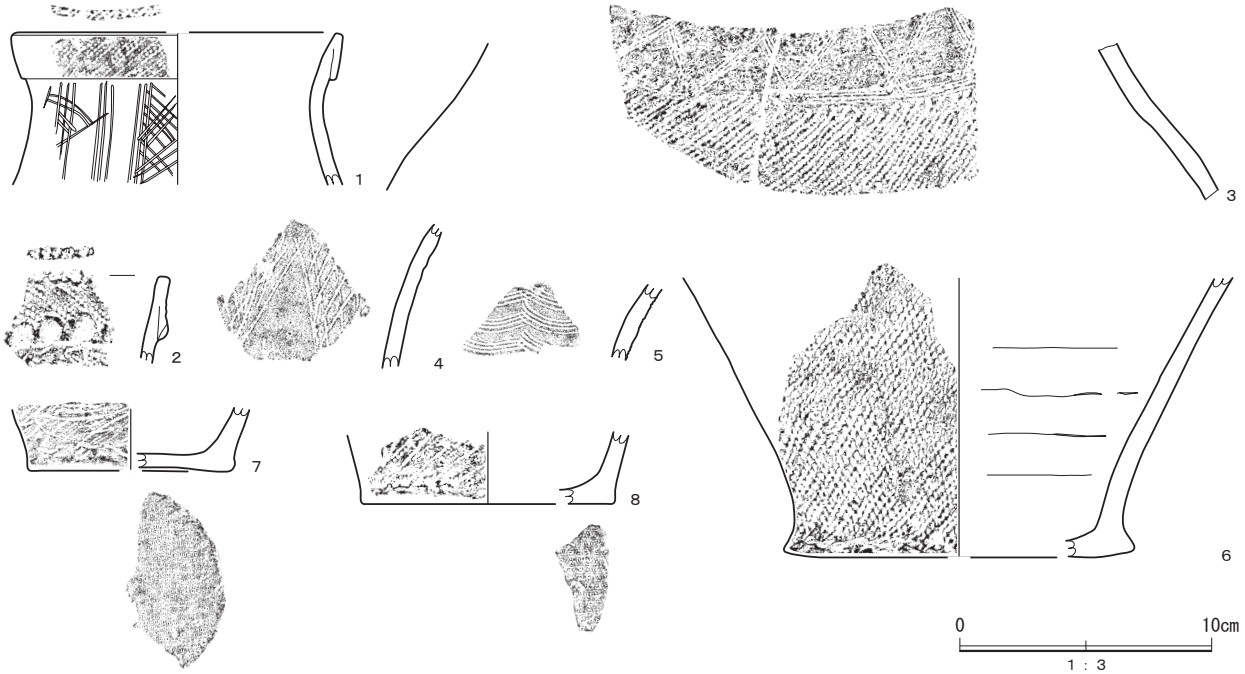


第 10 図　第 41 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　2/3　極暗褐色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 11 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 5 表　第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	広口壺	[12.0]	(6.0)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部附加条二種縄文施文　下端櫛歯状工具 (３本歯) による縦スリットと斜格子文	覆土中	5% 写真図版 42
2	弥生土器	広口壺	—	(3.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面上位附加条二種 (附加１条) 縄文施文　内面横位のヘラナデ	炉内	5%
3	弥生土器	広口壺	—	(6.2)	—	長石･石英･スコリア	にぶい橙	普通	外面櫛歯状工具 (３本歯) により頸部と体部の境に平行線文　頸部には鋸歯文　胴部には単節 RL 縄文	東部床面	5% 写真図版 42
4	弥生土器	壺	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ状工具による斜格子目文 内面横位のナデ	覆土中	5%
5	弥生土器	壺	—	(3.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	櫛歯状工具 (４本歯) による下向きの連孤文	覆土中	5%
6	弥生土器	壺	—	(11.0)	[13.6]	長石･石英･スコリア･チャート	にぶい橙	普通	胴部外面に単節 RL 縄文の施文 内面横位のナデ	北部覆土中層	5% 写真図版 42
7	弥生土器	壺	—	(2.6)	[8.0]	長石･石英･雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文施文 内面横位のナデ　底部布目痕	北部覆土下層	5%
8	弥生土器	壺	—	(2.8)	［10.0］	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文 内面ナデ　底部布目痕	覆土中	5%

第 58 号竪穴建物跡 (SI-58)(第 12・13 図　写真図版 11・12)

位置　調査区中央部 D35・36、G35・36 グリット　標高 25 ｍほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 84 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.20 ｍ、短軸 4.60 ｍである。平面形は、隅丸長方形で、主軸方位はＮ－ 50°－Ｗと推定できる。壁は確認面から最大高 12㎝で、外傾して立ち上がっている。

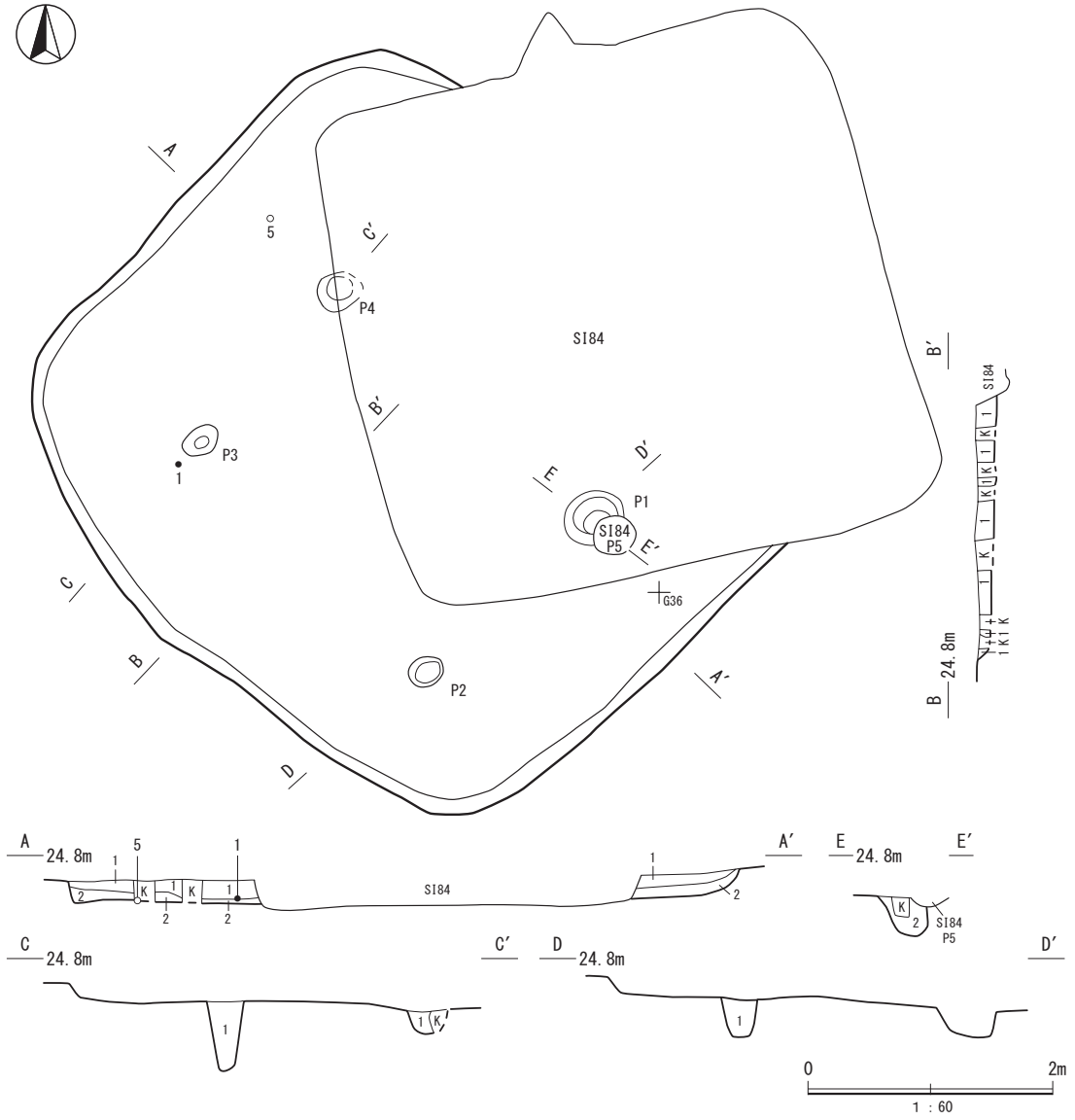
床　全体が固く締まっている。

炉　確認できなかった。

土層　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 40cm、深さ 22cm、Ｐ２：30 × 28cm、深さ 30cm、Ｐ３：30 × 28cm、深さ 32cm、Ｐ４：30 × 30cm、深さ 50cmである。

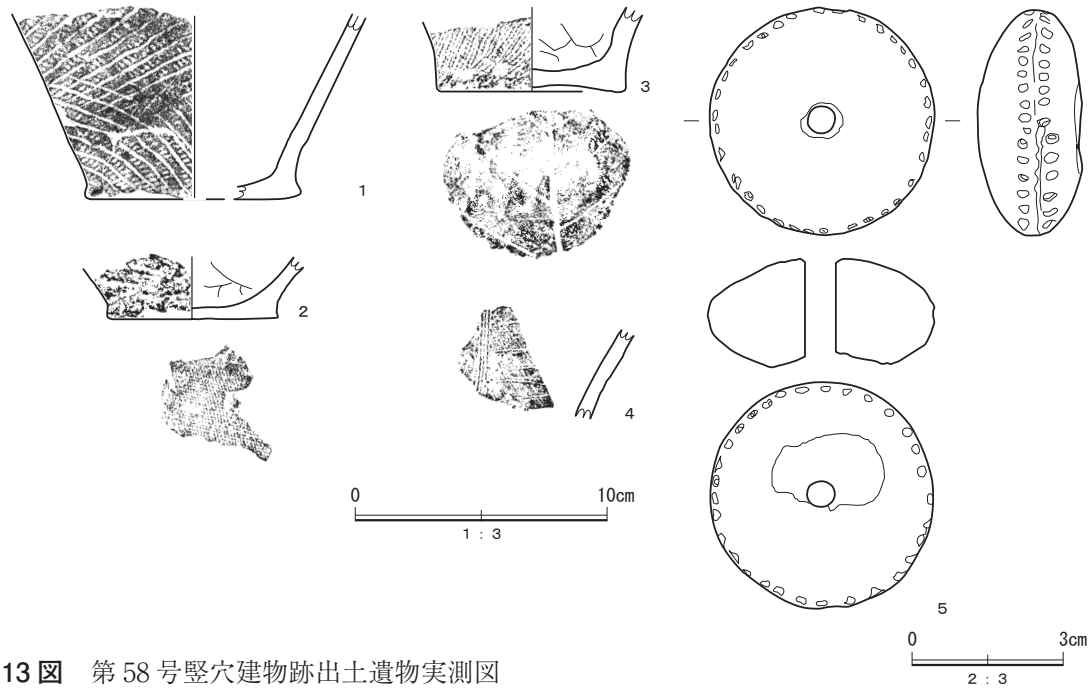
遺物出土状況　弥生土器片 70 点[広口壺 70 点 (670g)]、土師器片 33 点 [坏 1 点 (44g)、高坏 1 点 (24g)、



第 12 図　第 58 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 13 図　第 58 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第６表　第 58 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	壺	—	(7.3)	[8.2]	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	胴部に附加条二種 (附加１条) 縄文を羽状に施文　内面横位のナデ　底部網代痕	北西部床面	10%
2	弥生土器	壺	—	(2.5)	[6.6]	長石・石英	灰褐	普通	胴部に附加条二種 (附加１条) 縄文を施文　底部布目痕	覆土中	5%
3	弥生土器	広口壺	—	(3.4)	7.4	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部に附加条二種 (附加１条) 縄文を施文　底部木葉痕	覆土中	5%
4	弥生土器	広口壺	—	(3.6)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具 (４本歯) 縦スリットと文	覆土中	

番号	径	厚さ	孔径	重量	底径	胎　土	色調	特徴	出土位置	備　考
5	紡錘車	4.5	2.5	0.7	40	長石･石英･雲母	にぶい黄橙	側面に竹管状工具による刺突を２列　表・裏面ナデ	北西部床面	95% 写真図版 44

甕 31 点 (335g)]、須恵器坏片 1 点 (16g)、礫 1 点 (53g)。１の広口壺・５の紡錘車は北西部の床面、２～４の広口壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。集落の最東部に位置する建物跡と考えられる。

第 107 号竪穴建物跡 (SI-107)(第 14・15 図　写真図版 22)

位置　調査区西部Ｊ５・Ｋ４グリット　標高 20 ｍほどの傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 94・95 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西側が傾斜地にあるが、長軸 4.30 ｍ、短軸 3.60 ｍと推定できる。平面形は、確認さ

れた壁の状況から長方形と推測され、主軸方位はＮ－ 15°－Ｗと推定できる。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。

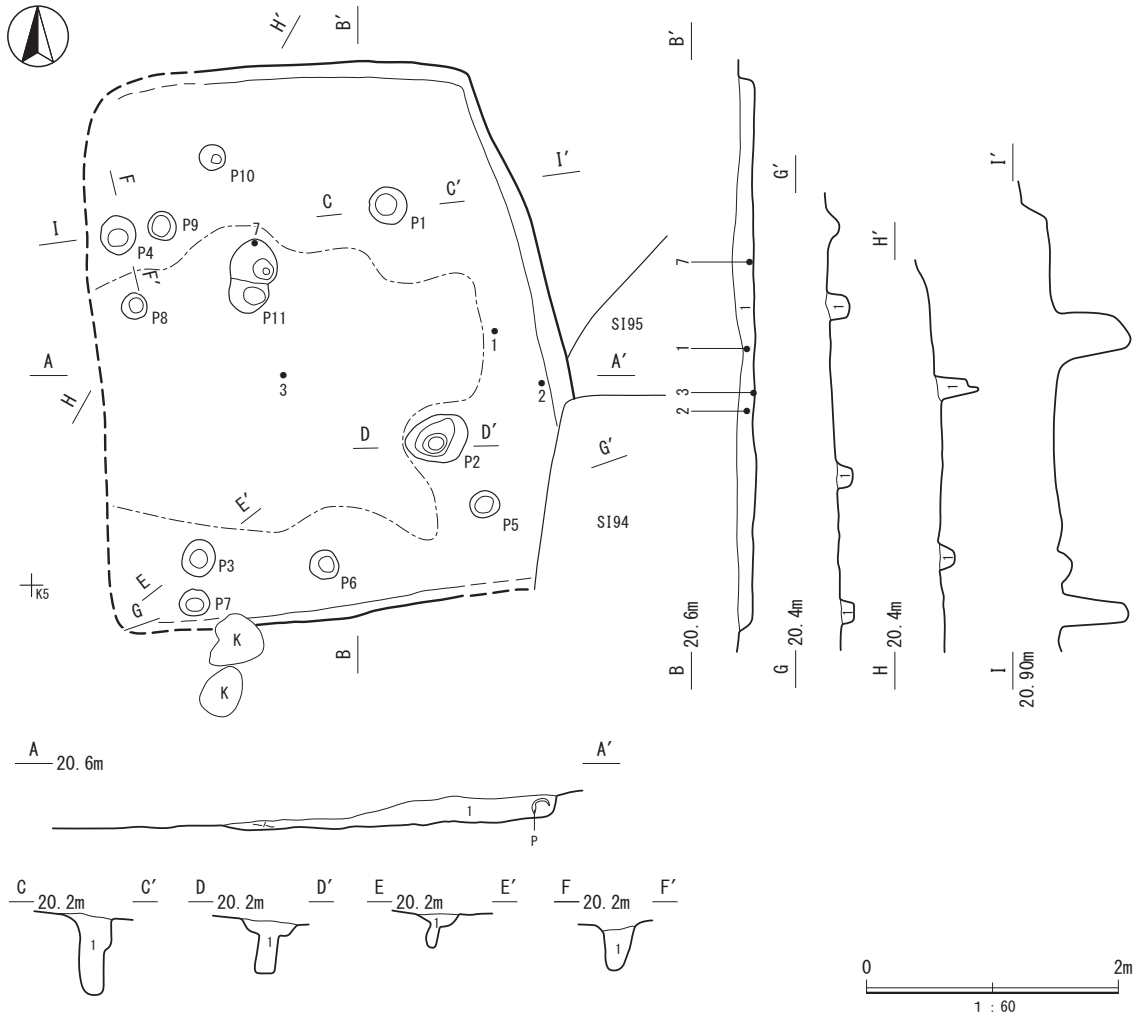
床　ほぼ平坦で、中央部が固く締まっている。

炉　確認できなかった。

土層　単一層である。

ピット　ピット 11 か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１：32 × 30cm、深さ 56cm、Ｐ２:48 × 32cm、深さ 60cm、Ｐ３:34 × 32cm、深さ 56cm、Ｐ４:32 × 32cm、深さ 50cmである。Ｐ５：28 × 24cm、深さ 20cm、Ｐ６：20 × 20cm、深さ 16cm、Ｐ７：24 × 20cm、深さ 12cm、Ｐ８：20 × 20cm、深さ 12cm、Ｐ９：22 × 20cm、深さ 12cm、Ｐ 10：18 × 18cm、深さ 22cm、Ｐ 11：38 × 34cm、深さ 20cmである。

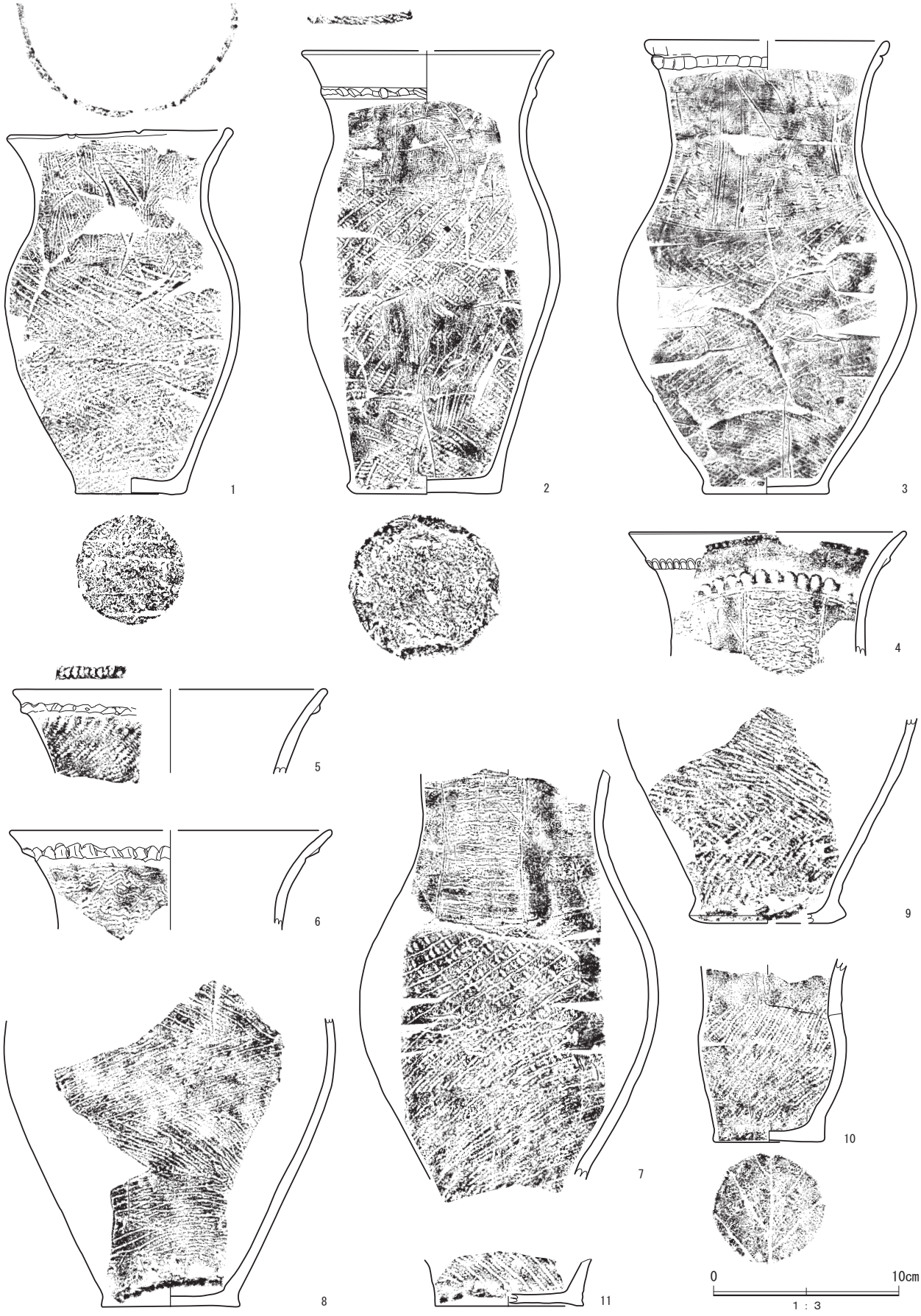
遺物出土状況　弥生土器壺片 22 点 (334g)、土師器甕片９点 (75g)。１・２の広口壺は東部の床面、３・



第 14 図　第 107 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　4/1　褐 灰 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　褐色土粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 15 図　第 107 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第７表　第 107 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	広口壺	11.7	19.7	5.9	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部から頸部に櫛歯状工具（３本）で縦区画充填波状文と格子目文を施文　胴部に附加条二種（附加１条）縄文を羽状に施文　底部木葉痕	東部床面	80% 写真図版43
2	弥生土器	広口壺	[13.3]	23.0	8.0	長石･石英･雲母	にぶい褐	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　頸部に櫛歯状工具（４本）で縦区画充填波状文と無文を交互に施文　胴部は附加条二種（附加１条）縄文を羽状に施文	東部床面	80% 写真図版43
3	弥生土器	広口壺	[13.2]	24.4	[6.9]	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　頸部に櫛歯状工具（４本）で縦区画充填波状文と無文を交互に施文　胴部は附加条二種（附加１条）縄文を羽状に施文	中央部床面	90% 写真図版43
4	弥生土器	広口壺	[14.8]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　頸部に櫛歯状工具（４本）で縦区画充填波状文と無文を交互に施文	覆土中	5% 写真図版43
5	弥生土器	広口壺	[17.0]	(4.8)		長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　頸部に附加条二種（附加１条）縄文を施文	覆土中	5%
6	弥生土器	広口壺	[17.4]	(5.4)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部上縄文原体の押圧　口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　頸部に附加条二種（附加１条）縄文を施文	覆土中	5% 写真図版43
7	弥生土器	壺	—	(22.0)	—	長石･石英･雲母	にぶい黄褐	普通	頸部に櫛歯状工具（３本）で縦区画充填波状文と無文を交互に施文	中央部床面	60% 写真図版43
8	弥生土器	壺	—	(15.4)	[7.5]	長石・石英	明赤褐	普通	胴部外面に附加条二種（附加１条）縄文を施文　底部網代痕	覆土中	30%
9	弥生土器	壺	—	(11.0)	[7.2]	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部外面に附加条二種（附加１条）縄文を施文　底部網代痕	覆土中	5% 写真図版43
10	弥生土器	広口壺	—	(9.8)	6.0	長石･石英･細礫	にぶい黄褐	普通	頸部無文で胴部は附加条二種(附加１条)縄文　底部木葉痕	覆土中	50% 写真図版43
11	弥生土器	壺	—	(2.5)	[8.0]	長石･石英･雲母	にぶい黄橙	普通	胴部外面に附加条二種（附加１条）縄文を施文　底部網代痕	覆土中	5%

７の広口壺は中央部の床面から出土している。４～ 11 の壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から弥生時代後期後葉と考えられる。調査区の最西部に位置する竪穴建物跡である。

第 130 号竪穴建物跡 (SI-130)(第 16・17 図　写真図版 26・28)

位置　調査区中央部 B28・C28 グリット　標高 25 ｍほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 129・131 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 129・131 号竪穴建物に掘り込まれ、南北軸は 3.50m で、東西軸は 3.20 ｍしか確認できなかった。平面形は、長方形と推測され、主軸方位はＮ－ 25°－ Ｗと推測できる。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　炉周辺が固く締まっている。

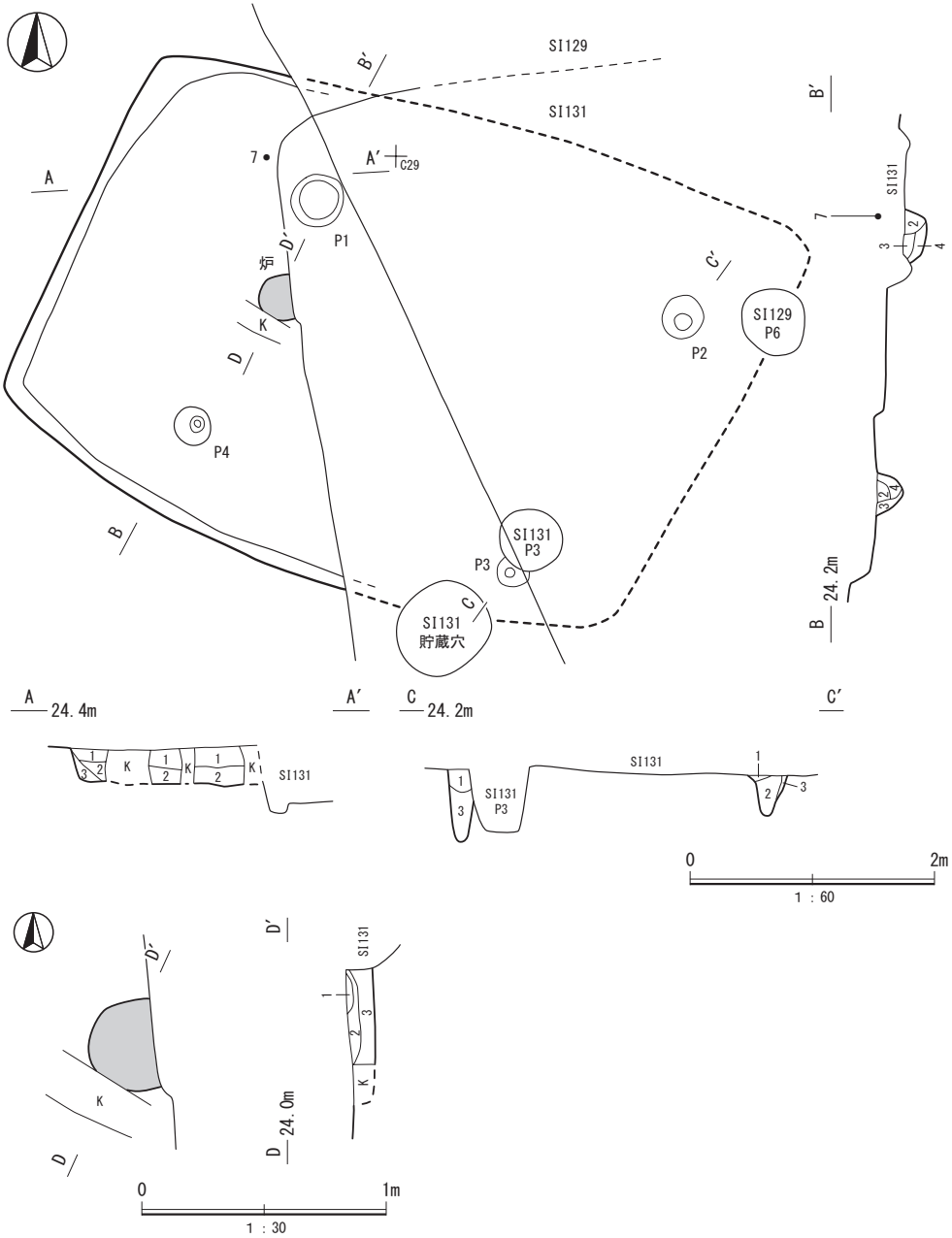
炉　炉は中央から北寄りに付設されており、長径 40㎝、短径 30㎝の不整楕円形で、床面を５㎝ほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから人為堆積と考えられる。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１：30 × 30cm、深さ 36cm、Ｐ２：36 × 34cm、深さ 60cm、Ｐ３：30 × 26cm、深さ 20cm、Ｐ４：25 × 25cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　弥生土器片 108 点［広口壺 107 点 (1,255g)、坏型土器 1 点 (15g)］、土師器片 491 点［坏 22 点 (215g)、高台付坏 1 点 (7g)、高坏 15 点 (220g)、坩 1 点 (12g)、甕 452 点 (4,900g)］。５の坏型土器・８・９の壺は覆土中、７の壺は北部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。

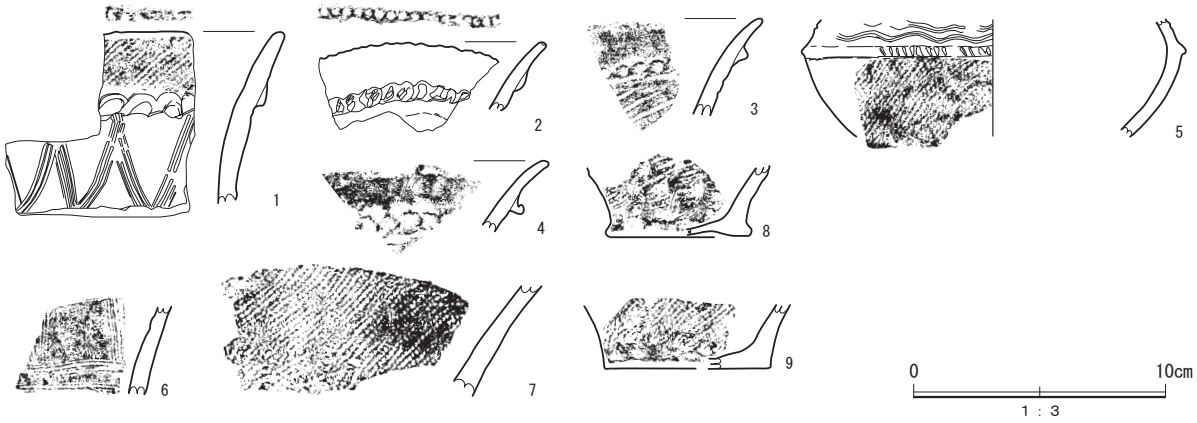


第 16 図　第 130 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　2/1　黒　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子多量　焼土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/3　にぶい赤褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 17 図　第 130 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第８表　第 130 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	—	(6.8)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位に外面単節 LR の縄文を施文し、１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け、下方を櫛歯状工具 (3 本) による「V」の字に区画文	覆土中	写真図版 43
2	弥生土器	壺	—	(2.7)	—	長石・雲母	橙	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位を無文とし、１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け	覆土中	写真図版 43
3	弥生土器	壺	—	(3.8)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位を無文とし、１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け　下方に附加条二種 (附加１条) を施文	覆土中	
4	弥生土器	壺	—	(3.0)	—	長石・石英	橙	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位を無文とし、１条の押捺を加えた隆帯を貼り付け	覆土中	
5	弥生土器	坏形土器	—	(4.6)	—	長石・石英	明赤褐	普通	中央部に隆帯を貼り付け篦状工具で刻みを入れ上位に櫛歯状工具 (３本) で波形を施文し下位は附加条二種 (附加１条) 縄文を施文	覆土中	写真図版 43
6	弥生土器	壺	—	(3.5)	—	長石・石英	橙	普通	櫛歯状工具 (４本) デ縦横に区画文	覆土中	
7	弥生土器	壺	—	(4.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文を施文	北部床面	写真図版 43
8	弥生土器	壺	—	(2.8)	[5.8]	長石･石英･雲母	にぶい黄褐	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文を施文	覆土中	
9	弥生土器	壺	—	(2.5)	[6.6]	長石･石英･雲母	灰褐	普通	胴部外面附加条二種 (附加１条) 縄文を施文	覆土中	

第 134 号竪穴建物跡 (SI-134)(第 18・19 図　写真図版 28)

位置　調査区中央部 A32・33、B32・33 グリット　標高 25 mほどの平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 133 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延び、南部を第 133 号竪穴建物に掘り込まれ、北西・南東軸は 4.25 mで、北東・南西軸 2.20 mしか確認できなかった。平面形は確認できた壁の状況から楕円形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 60㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　全体が固く締まっている。

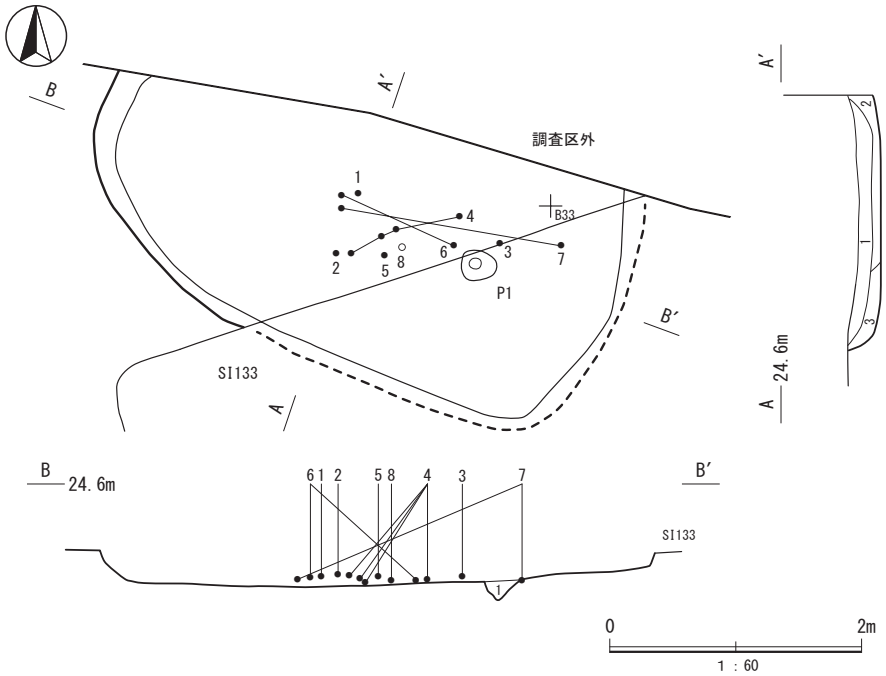
炉　確認できなかった。

土層　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：30 × 26㎝、深さ 18㎝である。

遺物出土状況　弥生土器片 118 点［広口壺 118 点 (1,322g)］、土師器甕片 38 点 (491g)、須恵器甕片 1 点 (26g)、縄文土器深鉢片５点 (113g)、礫 16 点 (3,000g)。１～７の広口壺・８の紡錘車は中央部の覆土下層から床面にかけて出土している。

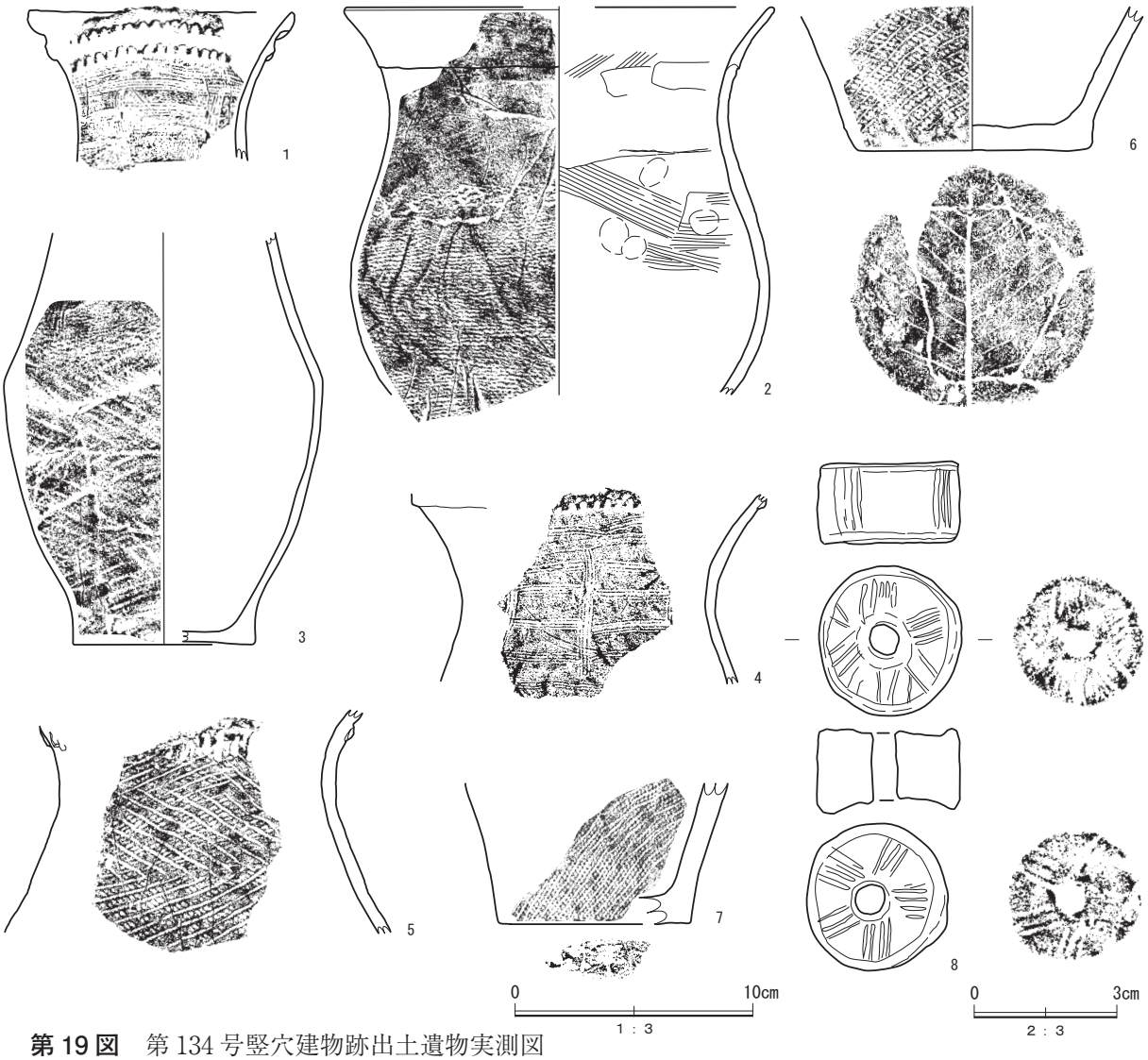
所見　時期は、出土土器から弥生時代後期と考えられる。



第 18 図　134 号竪穴建物跡実測図測図

土層解説
1　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　4/2　灰 黄 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり



第 19 図　第 134 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 9 表　第 134 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	広口壺	[11.0]	(6.5)	—	長石・石英	暗赤褐	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位に２条の押捺を加えた隆帯を櫛歯状工具（４本）による縦・横に区画文	中央部覆土下層	20%
2	弥生土器	広口壺	[18.0]	(16.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文帯　胴部単節 LR 縄文を施文	中央部覆土下層	50% 写真図版 43
3	弥生土器	広口壺	—	(17.2)	7.6	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部欠損　頸部櫛歯状工具（３本）で縦区画充填波状文を広い部分に狭い部分には単線による格子目文　胴部は附加条二種（附加１条）縄文を羽状に施文	中央部覆土下層	40% 写真図版 43
4	弥生土器	壺	—	(8.0)	—	長石・石英	暗褐	普通	口縁部上位に１条の隆帯に刺突文を櫛歯状工具（４本）による縦・横に区画文	中央部覆土下層	10%
5	弥生土器	壺	—	(9.0)	—	長石・石英	暗褐	普通	口縁部上位に１条の押捺を加えた隆帯を附加条二種（附加１条）縄文を羽状に施文	中央部覆土下層	10% 写真図版 43
6	弥生土器	壺	—	(6.0)	10.0	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）縄文　内面ナデ　底部木葉痕	中央部覆土下層	15% 写真図版 43
7	弥生土器	壺	—	(6.5)	[8.0]	長石・石英	明赤褐	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）縄文　内面ナデ　底部木葉痕	中央部床面	5%

番号	種別	径	幅	孔径	重量	材質	特　　徴	出土位置	備考
8	紡錘車	3.2	1.6	0.7	18	土製	上・下・側面に線刻文	中央部覆土下層	

第 141 号竪穴建物跡 (SI-141)(第 20 図)

位置　調査区中央部 E33・34、F33・34 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 145・146 号竪穴建物、第３号柱穴跡に掘り込まれている。

規模と形状　北東・南西軸は 5.80 ｍで、北西・南東軸は 4.00 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 10㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　確認部はやや踏み固められている。

土層　単一層である。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

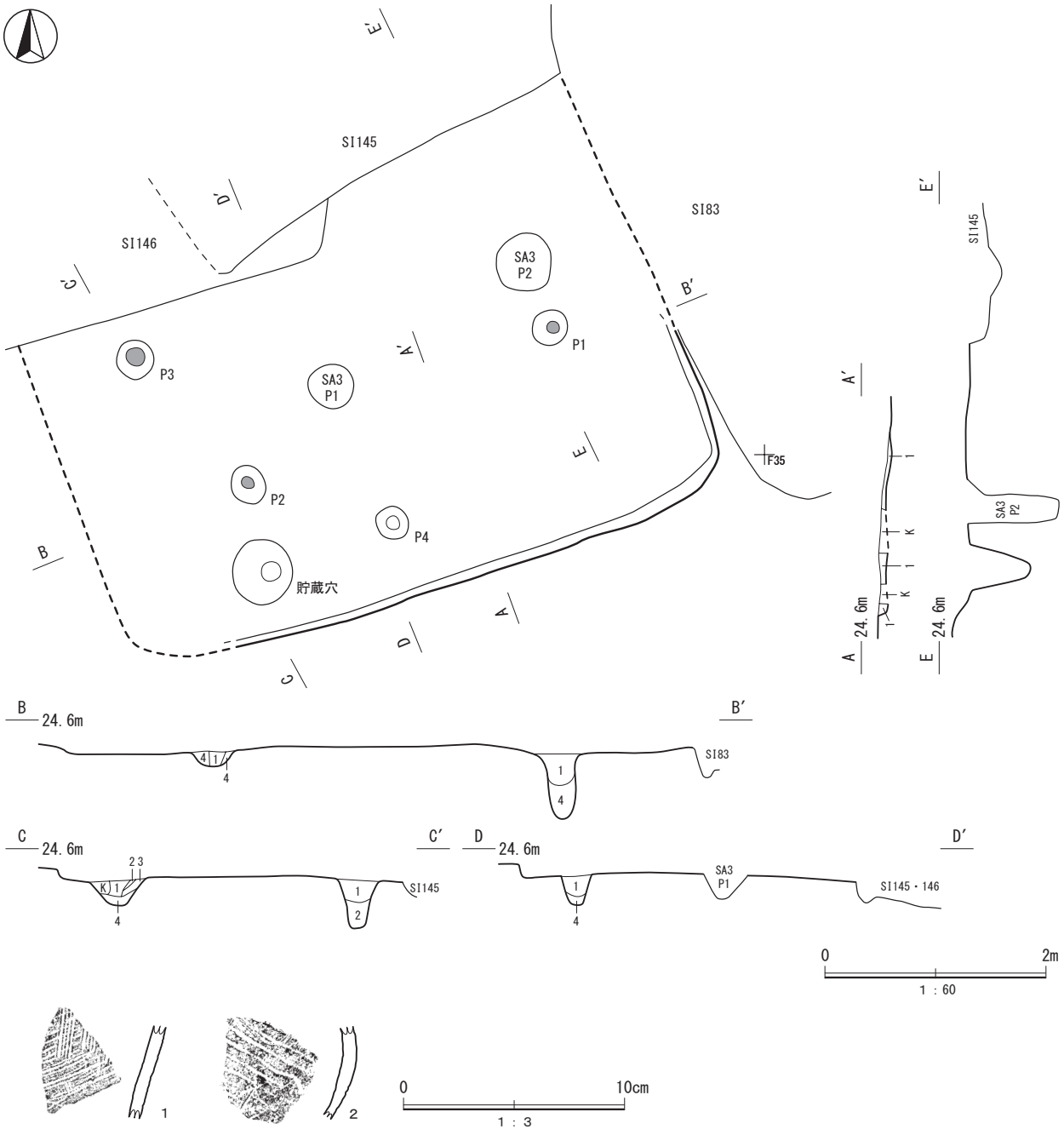
ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:30 × 30㎝､深さ 42㎝、Ｐ２：34 × 28㎝、深さ 30㎝、Ｐ３：30 × 36㎝、深さ 16㎝、Ｐ４：30 × 30㎝、深さ 32㎝である。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置し、径 60㎝の円形で、深さ 40㎝である。

遺物出土状況　弥生土器壺片６点 (62g)、土師器甕片 13 点 (119g)、礫２点 (14g)。１・２の壺は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器が少なく判断することは難しいが弥生時代後期と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 20 図　141 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 10 表　第 141 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	壺	—	(4.0)	—	石英・スコリア	にぶい橙	普通	附加条二種 (附加１条) 縄文施文後櫛歯状工具 (４本歯) で縦位の平行線	覆土中	5%
2	弥生土器	壺	—	(4.1)	—	長石・石英・スコリア・雲母	暗灰黄	普通	上位に櫛歯状工具 (４本) で波状文　地文に附加条二種 (附加１条) 縄文を施文	覆土中	5%

第 211 号竪穴建物跡 (SI-211)(第 21・22 図　写真図版 26)

位置　調査区中央部 A29・30、B29 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。北部は調査区外に延びている。

重複関係　第 129 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部を第 129 号竪穴建物に掘り込まれ、北東・南西軸は 5.00 ｍ、北西・南東軸は 2.0 ｍしか確認できなかった。平面形は隅丸長方形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。

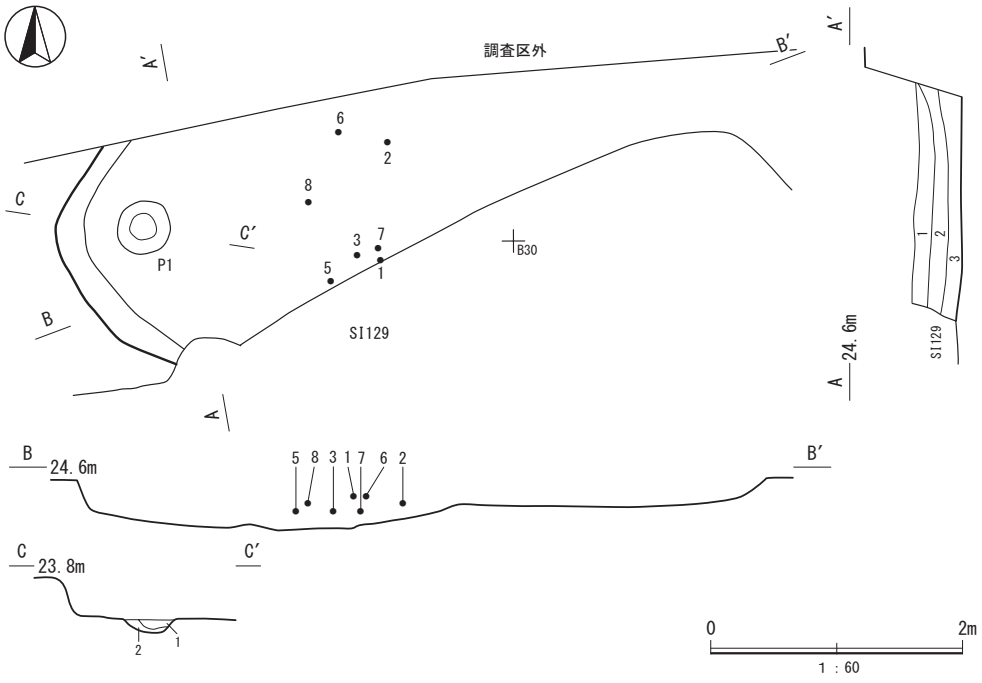
床　確認部の床でやや踏み固められている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　１か所が検出された。Ｐ１：50 × 40㎝、深さ 12㎝である。

遺物出土状況　弥生土器片 455 点 (5,265g)、土師器片 64 点 [坏 4 点 (59g)、高坏 11 点 (227g)、器台２点 (36g)、甕 47 点 (1,116g)]、礫 25 点 (5,400g)。１の広口壺・２の広口壺は中央部の覆土下層、３の広口壺・５の壺は西部の床面から出土している。６の壺は西部の覆土下層、７の手捏土器は中央部の床面から出土している。８の手捏土器は中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



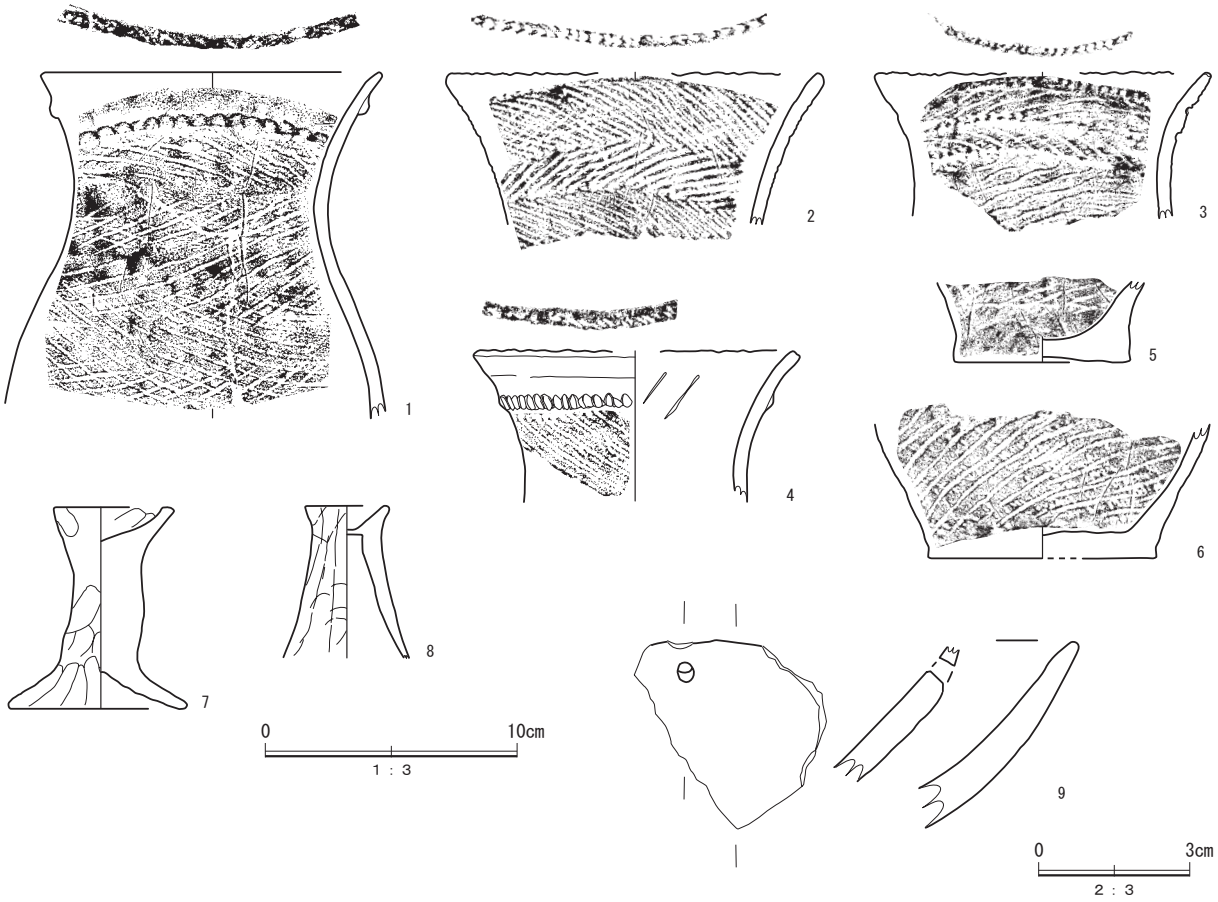
第 21 図　第 211 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　2/3　極暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/6　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



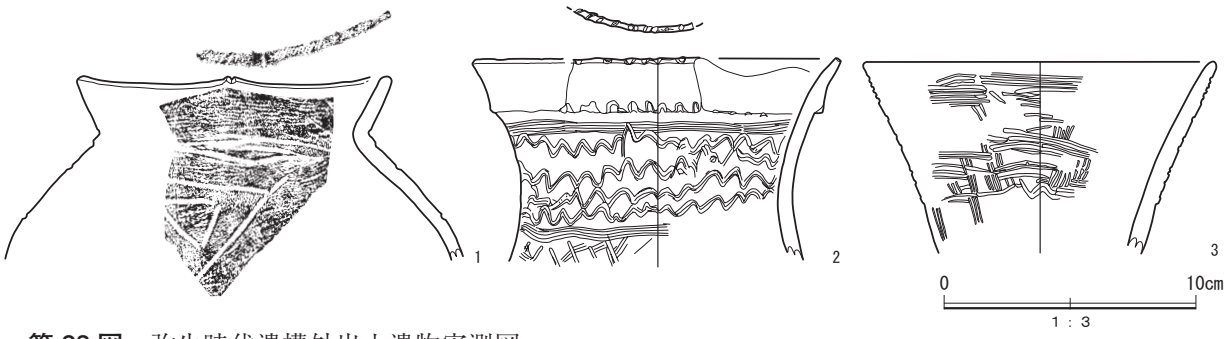
第 22 図　第 211 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 11 表　第 211 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	広口壺	[13.5]	(13.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位に 1 条の押捺を加えた隆帯を附加条二種 (附加 1 条) 縄文を羽状に施文	中央部覆土下層	50% 写真図版 43
2	弥生土器	広口壺	[14.5]	(6.0)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部縄文原体の押圧　附加条二種 (附加 1 条) 縄文を羽状に施文	中央部覆土下層	5% 写真図版 43
3	弥生土器	広口壺	[13.2]	(5.7)	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部に附加条二種 (附加 1 条) 縄文を羽状に施文	西部床面	5% 写真図版 43
4	弥生土器	広口壺	[12.4]	(6.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部縄文原体の押圧　口縁部上位に 1 条の押捺を加えた隆帯を附加条二種 (附加 1 条) 縄文を施文	覆土中	50% 写真図版 43
5	弥生土器	壺	—	(3.2)	7.0	長石・石英・雲母	赤橙	普通	胴部に附加条二種 (附加 1 条) 縄文を施文胴部下端横ナデ	西部床面	10%
6	弥生土器	壺	—	(5.3)	9.0	長石・石英・スコリア	浅黄橙	普通	胴部に附加条二種 (附加 1 条) 縄文を施文内面ナデ	西部覆土下層	10%
7	土師器	手捏土器	[4.8]	(8.0)	[7.1]	長石・石英	橙	普通	外面全面ナデ	中央部床面	90%
8	土師器	手捏土器	[3.3]	(6.0)	—	長石・石英・スコリア	橙	普通	外面縦位のナデ	中央部覆土下層	30%
9	土師器	坏	—	(3.7)	—	長石・石英	黒褐	普通	外面横ナデ　径 0.3㎝の補修孔	覆土中	30%

(2)　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物として３点を掲載する。



第 23 図　弥生時代遺構外出土遺物実測図

第 12 表　弥生時代遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1	弥生土器	壺	[12.1]	(7.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に縄文原体押圧　口唇部・胴部に単節 LR 縄文施文　胴部は縄文を地文とし棒状工具にて三角形の区画文	SI-117	10%
2	弥生土器	壺	13.7	(7.5)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に刻み　頸に櫛歯状工具（４本歯）にて横位の平行線文を２段に施文　その間に半截竹管により波状文を４段　下位に格子目文	SI-80	5%
3	弥生土器	壺	[14.2]	(8.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	櫛歯状工具（４本歯）にて縦位の平行線文を施文後、横位の平行線文を施文	覆土中	5%

第 13 表　弥生時代の竪穴建物跡一覧

番号	位　置	主軸方向	平面形	規模 (m)（長軸×短軸）	壁高	床面	壁溝	内部施設					出土遺物	時代	備考 新旧関係（旧→新）
								主柱穴	出入口ピット	他のピット	炉・竈	貯蔵穴			
21	F25・26 G25・26	N-40° -E	隅丸長方形	4.00 × (2.90)	18	平坦	—	—	—	3	炉	—	広口壺	後期	本跡→ SI-20
40	E28・29 F29	N-10° -W	方形	4.10 × (4.10)	24	平坦	—	—	—	11	炉	—	広口壺	後期	SI-41 →本跡→ SI-24
41	E29・30 F29・30	不明	隅丸長方形	[5.20] × [4.50]	6	平坦	—	4	—	3	炉	—	広口壺	後期	本跡→ SI-40・45、SD14
58	F35・36 G35・36	N-50° -W	隅丸長方形	5.20 × 4.60	12	平坦	—	4	—	—	—	—	広口壺	後期	本跡→ SI-84
107	J5・K5	N-15° -W	長方形	4.30 × (3.60)	18	平坦	—	4	—	7	—	—	広口壺	後期	本跡→ SI94・95
130	B28・C28	N-25° -W	長方形	(3.50) × (3.20)	30	平坦	—	—	—	4	炉	—	広口壺	後期	本跡→ SI-129・131
134	A32・33 B32・33	不明	楕円形	(4.25) × (2.20)	60	凸凹	—	—	—	1	—	—	広口壺	後期	本跡→ SI-133
141	E33・34 F33・34	不明	方形	5.80 × (4.00)	10	平坦	—	2	1	–	—	1	広口壺	後期	本跡→ SI-145・146、SA-3
211	A29・30 B29	不明	隅丸長方形	5.00 × (2.00)	40	皿状	—	—	—	1	—	—	広口壺	後期	本跡→ SI-129

３　古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡 70 棟、古墳１基を検出した。以下検出した遺構と遺物について記載する。

(1)　竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡 (SI-01)(第 24・25 図　写真図版１)

位置　調査区西部Ｉ３・４、Ｊ３・4 グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 11 号竪穴建物跡を掘り込み、西部を第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.10 ｍ、短軸 4.08 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 15° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 60㎝で、外傾して立ち上がる。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

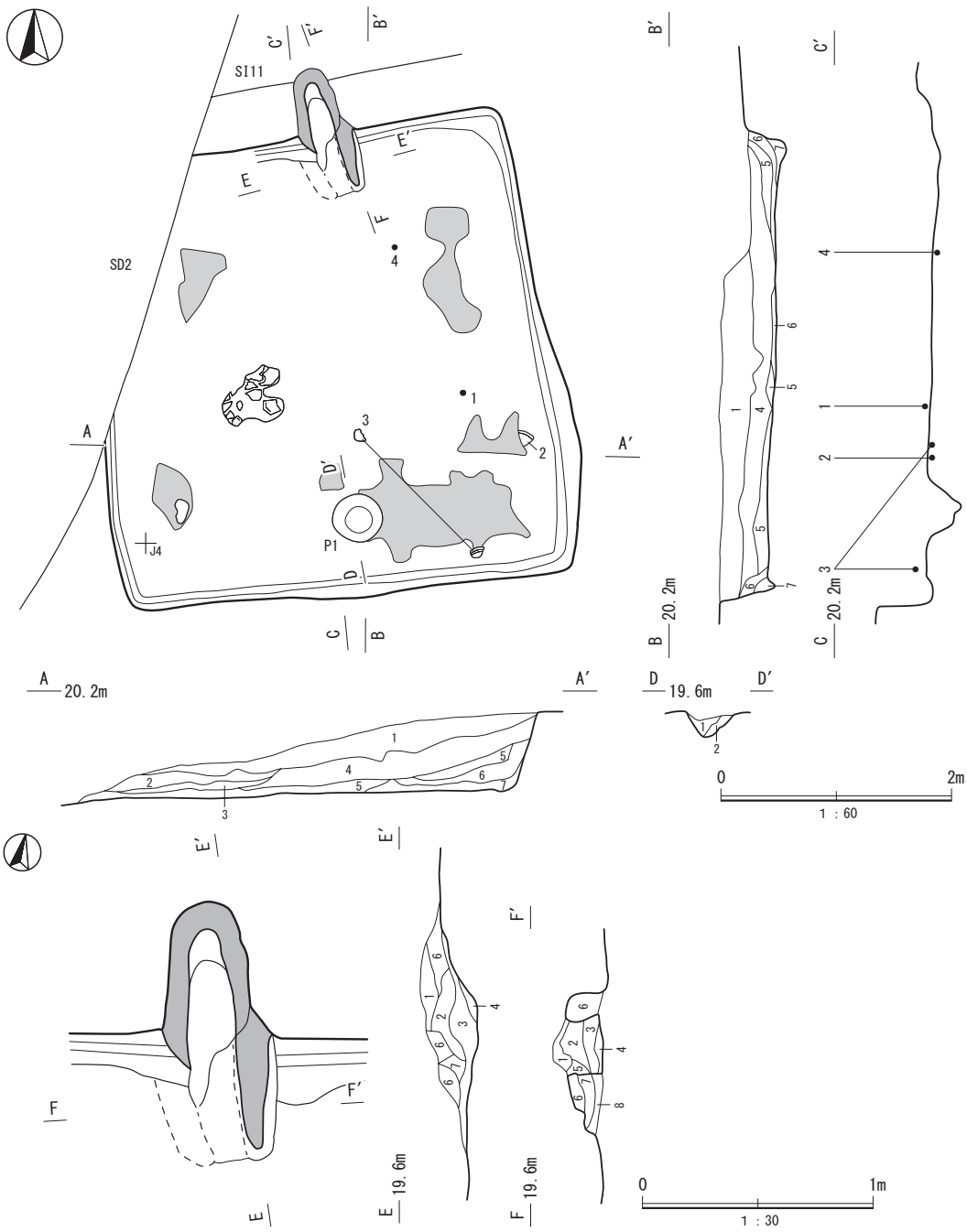
竈　北壁北寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110㎝である。袖部の基部の最大幅は 50㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は、床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１は出入口施設と考えられる。Ｐ１：40 × 40㎝、深さ 30 ㎝である。

遺物出土状況　土師器片 481 点 [坏 36 点 (524g)、高坏２点 (119g)、器台２点 (69g)、坩６点 (96g)、甕 435 点 (6,093g)]、須恵器片２点 [瑞１点 (5.4g)、壺１点 (5.6g)]、縄文土器２点 (15.6g)、弥生土器 16 点 (111g)、土製品５点 (94g)、石 15 点 (1,035g)。１の土師器坏は東部の覆土下層、２の土師器坏は東部の床面、３の土師器坏は南部の覆土下層から出土している。４の土師器坏は北部の覆土下層から出土している。５の土玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。床面に焼土の範が確認できたことから焼失家屋と考えられる。



第 24 図　第 1 号竪穴建物跡実測図

土層解説

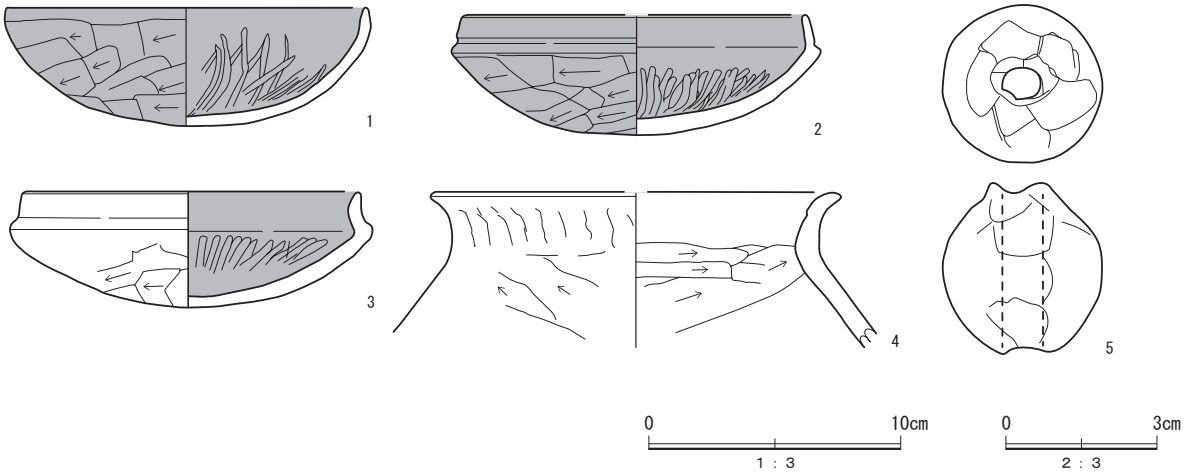
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量　鹿沼パミス少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　5YR　5/4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　7/3　にぶい橙色　焼土粒子微量　粘土粒子微量　黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　黄白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　5YR　4/8　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子多量　黄白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
6　5YR　4/3　にぶい橙色　焼土粒子少量　炭化粒子微量　黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
7　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　黄白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
8　5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり



第 25 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 14 表　第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.2	4.7	—	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部ナデ　体部内面横ナデ後放射状の粗いヘラミガキ　外面横位のヘラ削り　内外面黒色処理	東部覆土下層	80% 写真図版44
2	土師器	坏	13.5	4.7	−	長石･石英･スコリア	褐	普通	口縁部ナデ　内面放射状のヘラ磨き　外面横位のヘラ削り　内外面黒色処理	東部床面	75% 写真図版44
3	土師器	坏	13.2	4.6	−	長石･石英･細礫・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　内面放射状のヘラ磨き　体部外面横位のヘラ削り　内面黒色処理	南部覆土下層	65% 写真図版44
4	土師器	甕	[15.8]	(6.2)	−	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部から体部片　口縁部横ナデ　口縁部外面横ナデ後斜位のヘラナデ　体部内面横位のヘラ削り　外面縦位のヘラ削り	北部覆土下層	5%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	3.34	3.13	0.7	29	石英	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	

第５号竪穴建物跡 (SI-05)(第 26・27 図　写真図版２)

位置　調査区中央部Ｇ２・３グリット　標高 19 ｍほど傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認した。

重複関係　第 1 号溝に掘り込まれている。

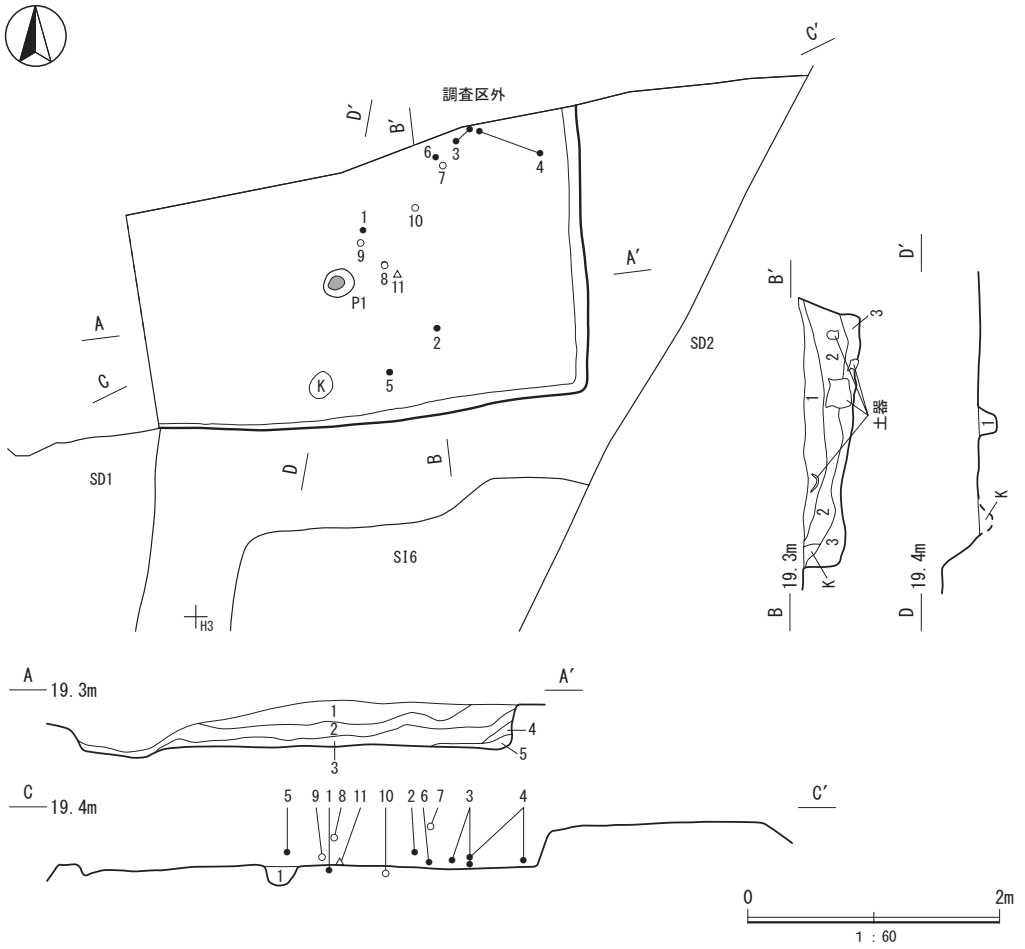
規模と形状　北部が調査区外に延び、西部を第 1 号溝に掘り込まれ、東西軸は 3.40 ｍ、南北軸は 2.30 ｍしか確認できなかった。平面形は、確認された壁の状況から方形または長方形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　確認できた部分は固く締まっている。

竈　確認できなかった。

土層　５層に分層でき、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：28 × 20cm、深さ 20cmである。



第 26 図　第５号竪穴建物跡実測図

土層解説

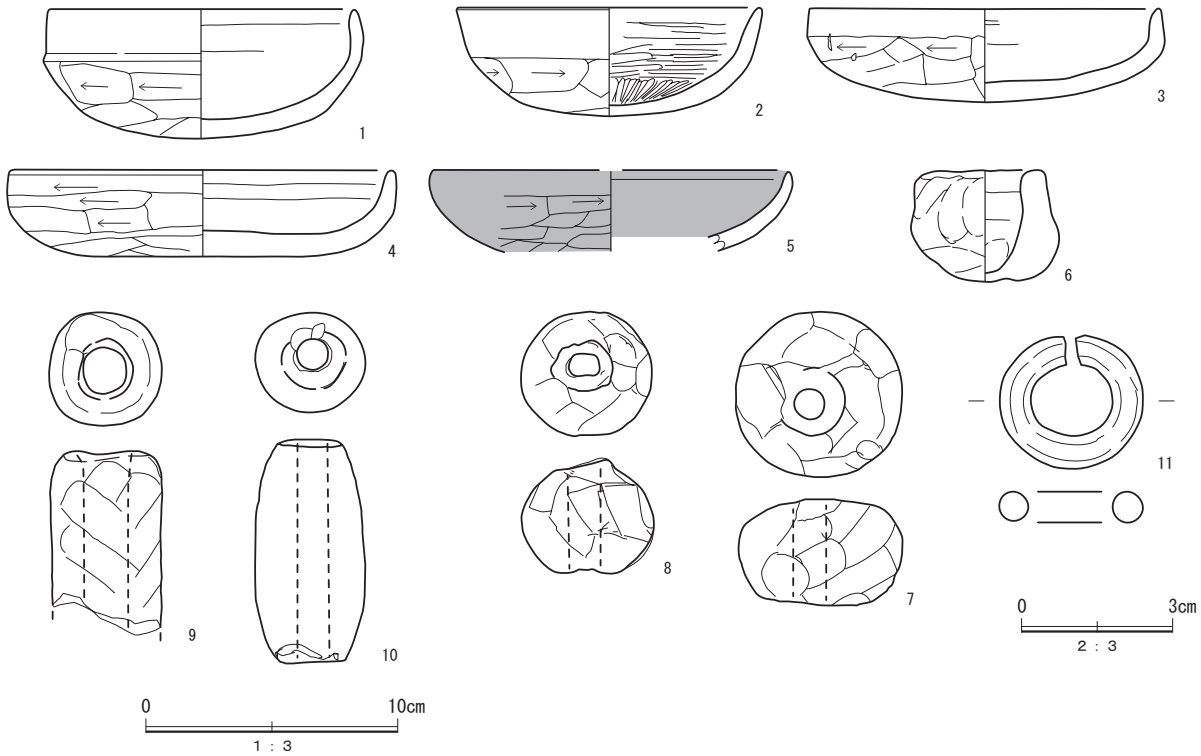
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

遺物出土状況　土師器片 297 点 [坏 26 点 (311g)、高坏１点 (29g)、甑１点 (147g)、甕 269 点 (4,231g)]、須恵器甕片３点 (37g)、縄文土器片７点 (106g)、弥生土器片 18 点 (164g)、礫 22 点 (6,600g)。１の土師器坏・11 の耳環は南東部の床面、８の土玉は南東部の覆土中層・９の管状土錘は南東部の覆土上層、２の土師器坏は南東部の覆土下層、３・４の土師器坏と６の手捏土器は東部の覆土下層、７の土玉は東部の覆土上層から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。



第 27 図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 表　第５号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.0	5.1	—	長石･石英･スコリア・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横位のナデ	南東部床面	100% 写真図版44
2	土師器	坏	11.9	4.3	—	長石･石英･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面放射状のヘラ磨き	南東部覆土下層	85% 写真図版44
3	土師器	坏	13.8	3.7	—	石英・長石	灰オリーブ	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	東部覆土下層	80% 写真図版44
4	土師器	坏	[15.0]	3.4	[9.0]	石英・長石	灰白	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面摩滅により調整不明	東部覆土下層	50%
5	土師器	坏	[14.0]	(3.7)	—	石英	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り 内面横位のナデ　内外面黒色処理	南部覆土下層	5%
6	土師器	手捏土器	4.3	4.4	—	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外面縦位のナデ	東部覆土下層	90%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	2.17	3.26	0.6	22	長石･石英･スコリア	にぶい橙	外面斜位のケズリ	東部覆土上層	写真図版44
8	土玉	2.21	2.61	0.4 ～ 0.6	14	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	南東部覆土上層	写真図版44
9	管状土錘	(7.23)	4.43	1.70	(144.0)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	南東部覆土下層	写真図版44
10	菅状土錘	8.85	4.27	1.29	(148.0)	長石･石英･スコリア	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	東部床面	写真図版44

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	耳環	2.67	2.9	0.60 ～ 0.62	17.5	青銅	鉄地銅張り	南東部床面	写真図版44

第９号竪穴建物跡 (SI-09)(第 28・29 図　写真図版２・３)

位置　調査区西部Ｈ４・5、Ｉ４グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

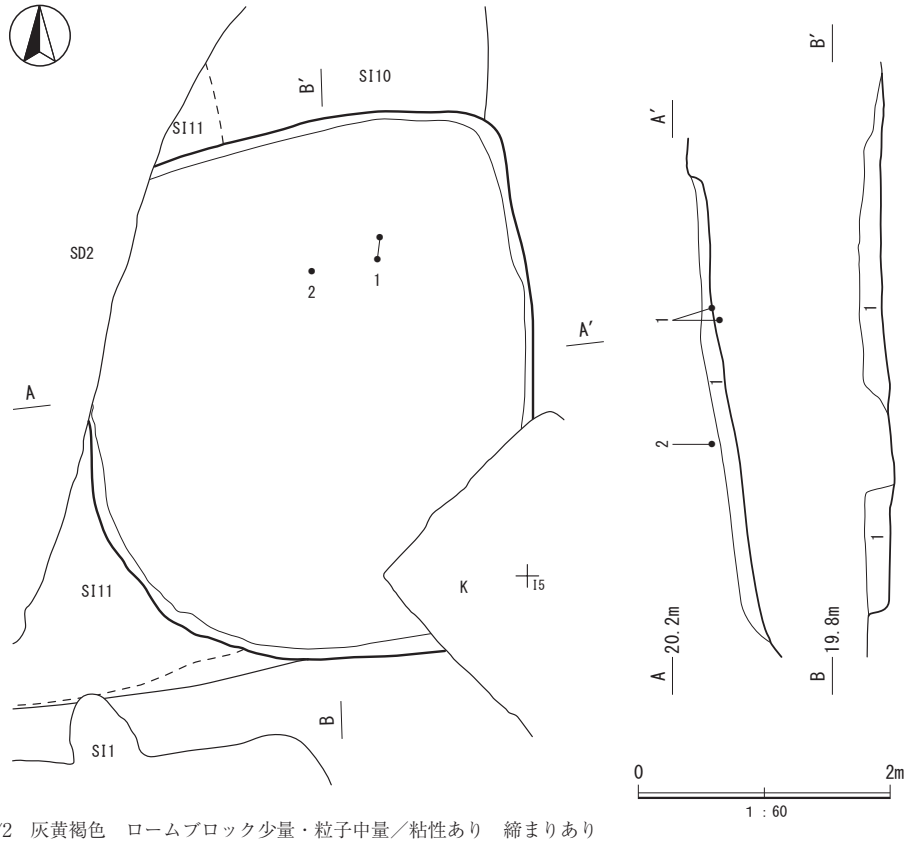
重複関係　第 10・11 号竪穴建物跡を掘り込み、西部を第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西側を第２号溝に掘り込まれているが、長軸 4.30 ｍ、短軸 3.60 ｍである。平面形は隅丸長方形である。主軸方位はＮ－ 10° － Ｗである。壁は確認面から最大高 20㎝で、外傾して立ち上がる。

床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　単一層である。

ピット　検出できなかった。

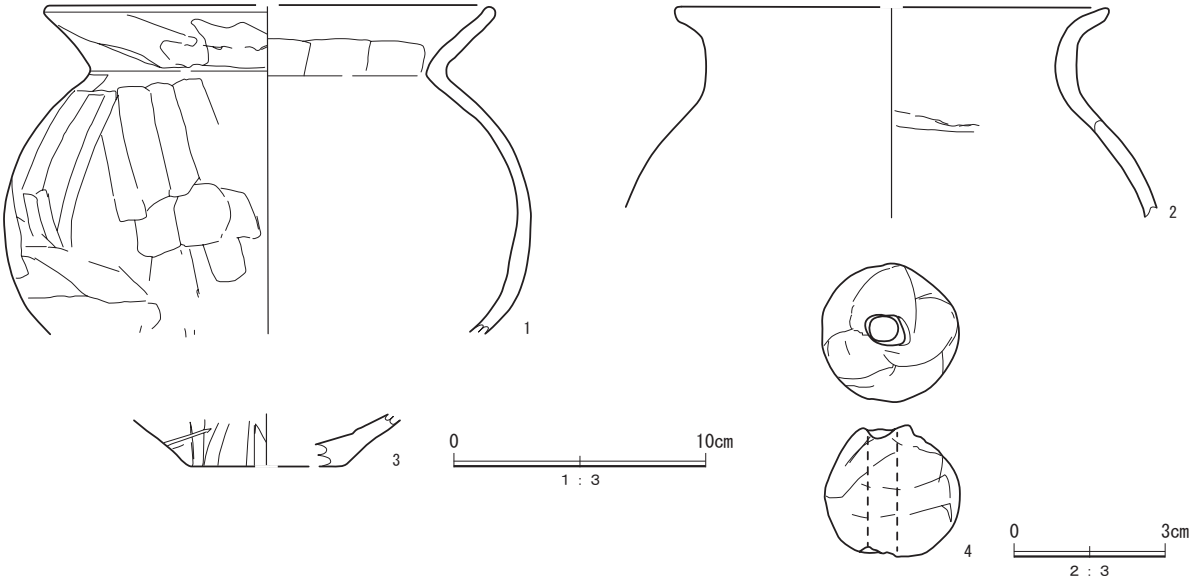


土層解説
1　10YR　4/2　灰黄褐色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 28 図　第９号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 89 点 [坏４点 (30g)、坩１点 (９g)、甕 84 点 (1,158g)]、縄文土器片２点 (34g)、弥生土器片 16 点 (225g)、土製品１点 (16g)、礫３点 (2,508g)。１・２の土師器甕は中央部の覆土下層、３の土師器甕、４の土玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀代と考えられる。



第 29 図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 16 表　第９号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	17.5	(13.0)	—	長石･石英･雲母･スコリア･チャート	黒褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位のヘラナデ　外面斜位のヘラナデ　体部内面横位のヘラナデ　外面縦位のヘラナデ	中央部覆土下層	10%
2	土師器	甕	[16.9]	(8.3)	－	長石･石英･角閃石	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ　体部内外面ナデ	中央部覆土下層	5%
3	土師器	甕	—	(2.1)	[6.0]	長石･石英･角閃石	にぶい黄褐	普通	体部内外面斜位のナデ	覆土中	5%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	2.64	2.6	0.5	15.8	石英	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	

第 10 号竪穴建物跡 (SI-10)(第 30・31 図　写真図版２・３)

位置　調査区西部Ｇ４・Ｈ４グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　西部を第２号溝・第９・11 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西側を第２号溝と第 11 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は 6.50 ｍ、東西軸は 2.00 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測される。主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 20㎝で、外傾して立ち上がる。壁溝は、東壁･南壁の一部で確認され、上幅 18 ～ 20㎝、下幅６～ 10㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

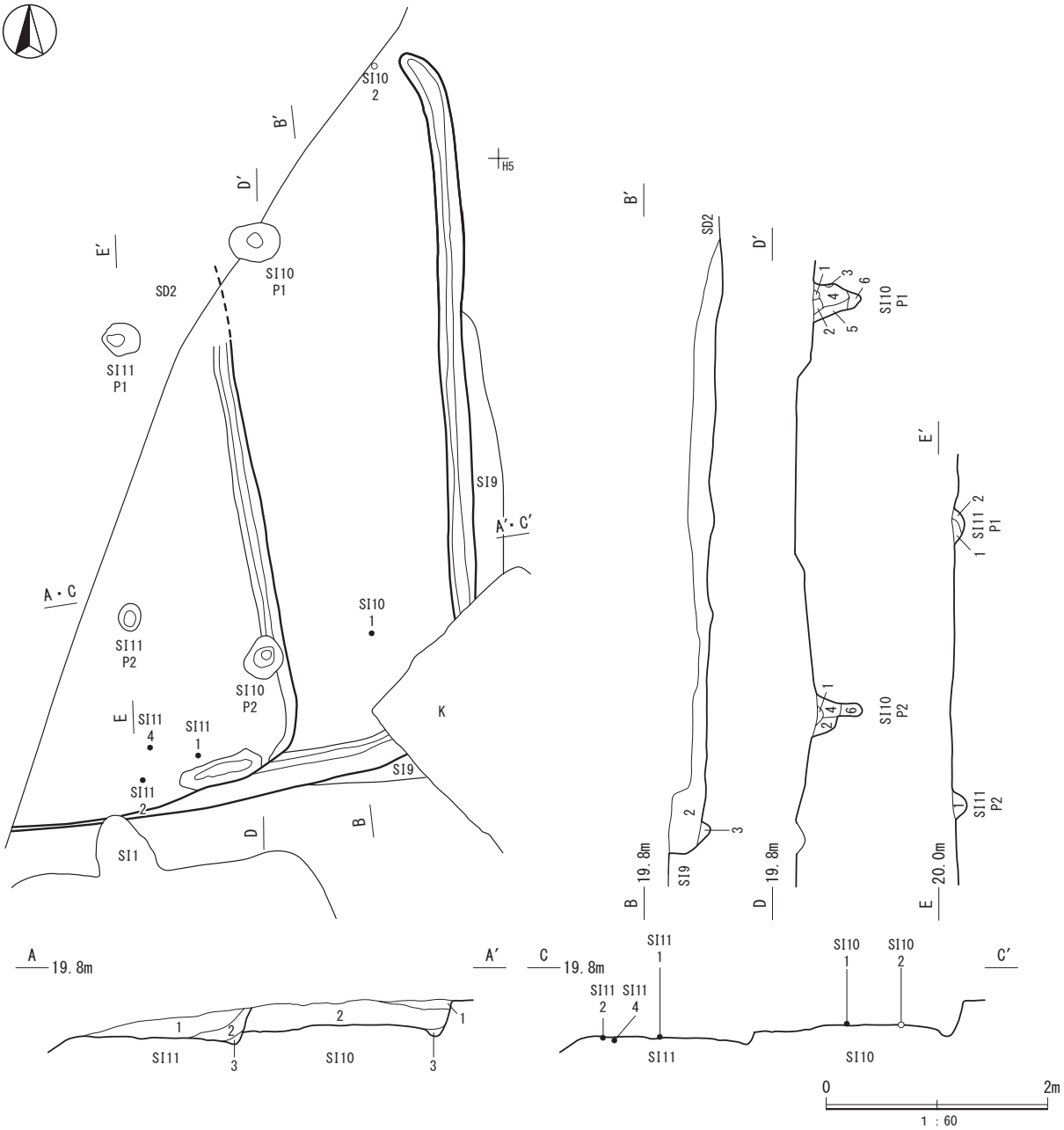
床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット２か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１:42 × 36cm､深さ 42cm、Ｐ２：40 × 32cm、深さ 50cmである。

遺物出土状況　土師器甕片 19 点 (203g)、土製品１点 (14g)、弥生土器片６点 (48g)。１の土師器甕は南東部の床面、２の土玉は北部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



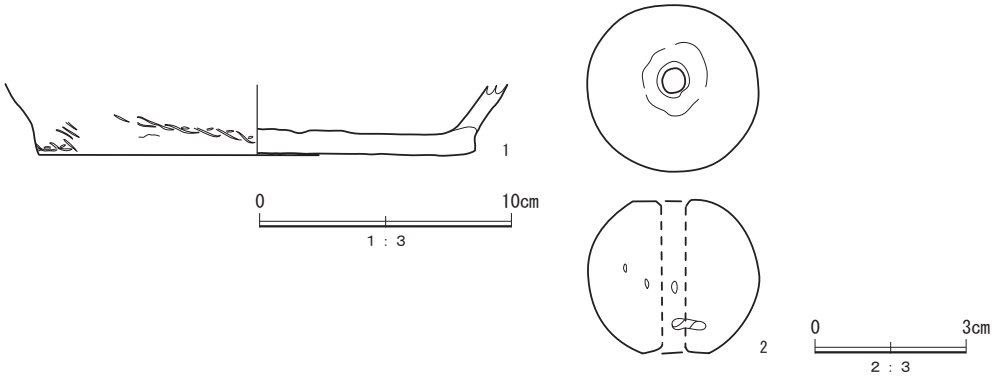
第 30 図　第 10・11 号竪穴建物跡実測図

SI-10　土層解説
1　10YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　5/2　灰黄褐色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　5/6　黄 褐 色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり

SI-10　ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

SI-11　土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性あり　締まりあり

SI-11　ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 31 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 表　第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	—	(2.8)	17.3	長石･石英･スコリア･チャート	橙	普通		南東部床面	5%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	3.36	3.3	0.41 ～ 0.47	31.6	長石・石英	にぶい黄褐	外面ナデ	北部床面	

第 11 号竪穴建物跡 (SI-11)(第 30・32 図　写真図版２・３)

位置　調査区西部Ｈ４・Ｉ４グリットに位置し、20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 10 号竪穴建物跡を掘り込み、西部を第２号溝、南部を第１・９号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西側を第２号溝に掘り込まれているため、南北軸は 4.10 ｍ、東西軸は 2.20 ｍしか確認できなかった。平面形と主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 26㎝で、外傾して立ち上がる。壁溝は、東壁・南壁の一部で確認され、上幅 18 ～ 20㎝、下幅６～ 10㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

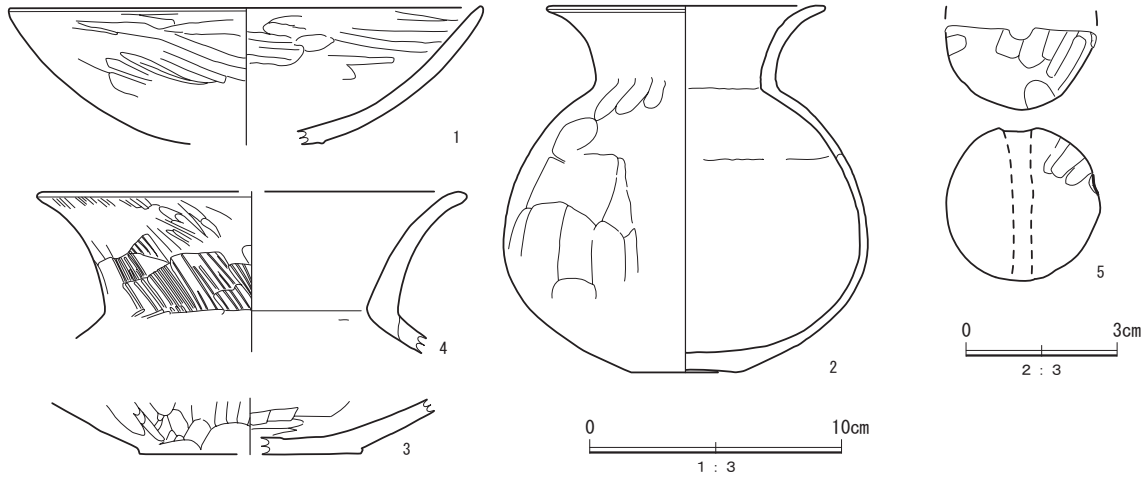
床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット２か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１:40 × 40cm､深さ 30cm、Ｐ２：40 × 40cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 51 点 [高坏１点 (11g)、甕 50 点 (491g)]、弥生土器片２点 (14g)、土製品１点 (21g)、礫３点 (1,606g)。１の土師器高坏、２・４の土師器甕は南東部の床面から出土している。３の土師器甕、５の土玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第 32 図　第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 表　第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	18.8	(5.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横位のヘラミガキ　外面下端横位のヘラ削り　上位不完全な黒色処理	南東部床面	50%
2	土師器	壺	11.0	14.5	4.4	長石･石英･スコリア	にぶい橙	普通	口縁部内面横位のヘラナデ　外面縦位のヘラナデ　体部外面縦位のヘラナデ　体部下端縦位・斜位のヘラナデ　底部一方向のヘラナデ	南東部床面	90% 写真図版 44
3	土師器	壺	—	(2.1)	[8.8]	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面横位のハケ目調整後縦位のヘラナデ　内面放射状・横位のヘラナデ　底部不定方向のヘラナデ	覆土中	5%
4	土師器	壺	16.4	(6.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　外面ハケ目調整後横ナデ　下端斜位のハケ目調整　内面横位のナデ	南東部床面	10%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	3.0	3.0	0.6	(14.0)	細砂	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	

第 13 号竪穴建物跡 (SI-13)(第 33・34 図　写真図版４・５)

位置　調査区中央部Ｆ 22･23、Ｇ 22･23 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

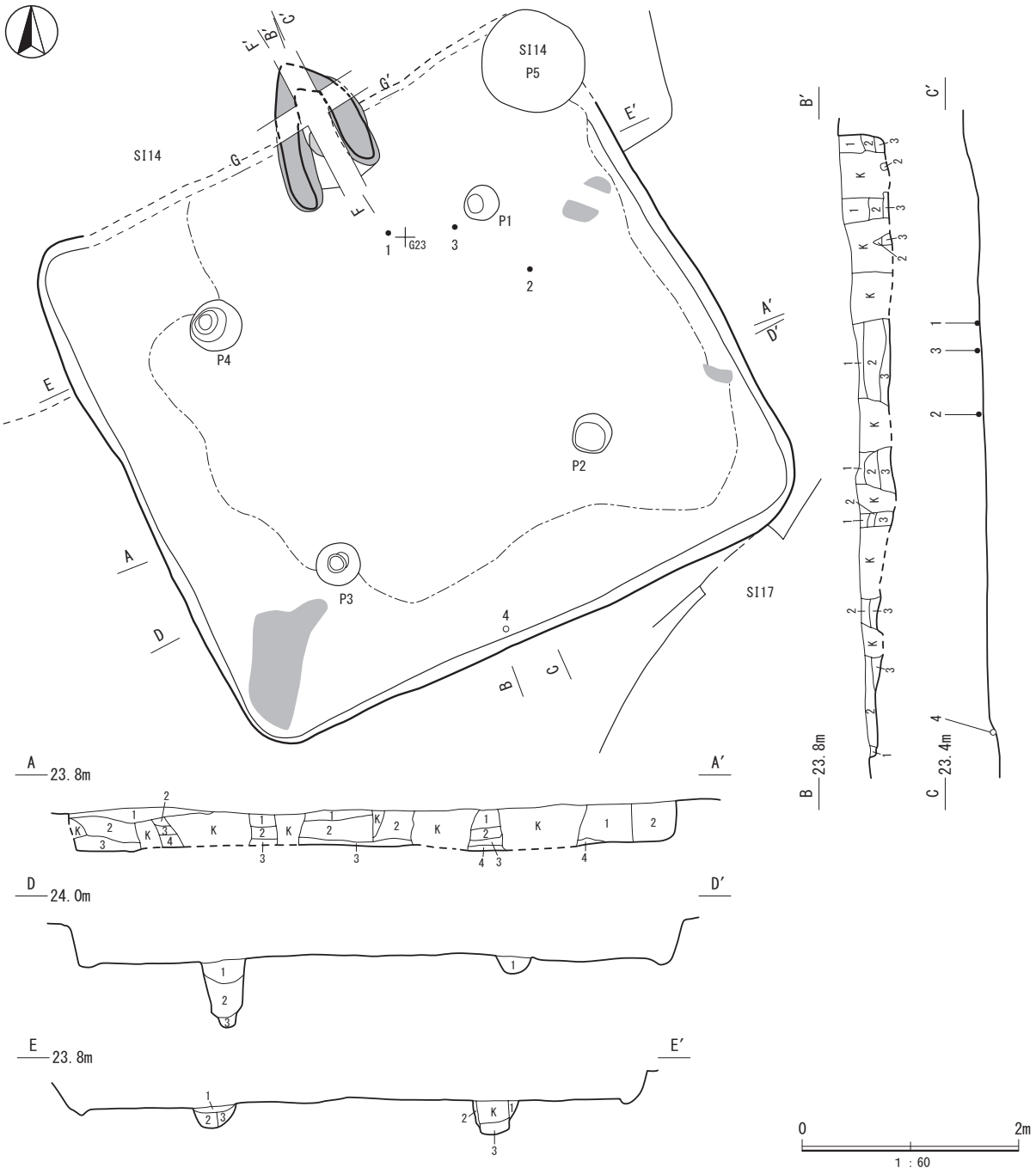
重複関係　第 14・17 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 5.60 m、短軸 5.10 mで、平面形は方形である。主軸方位はN − 35° − W である。壁は確認面から最大高 40cmで、ほぼ直立している。

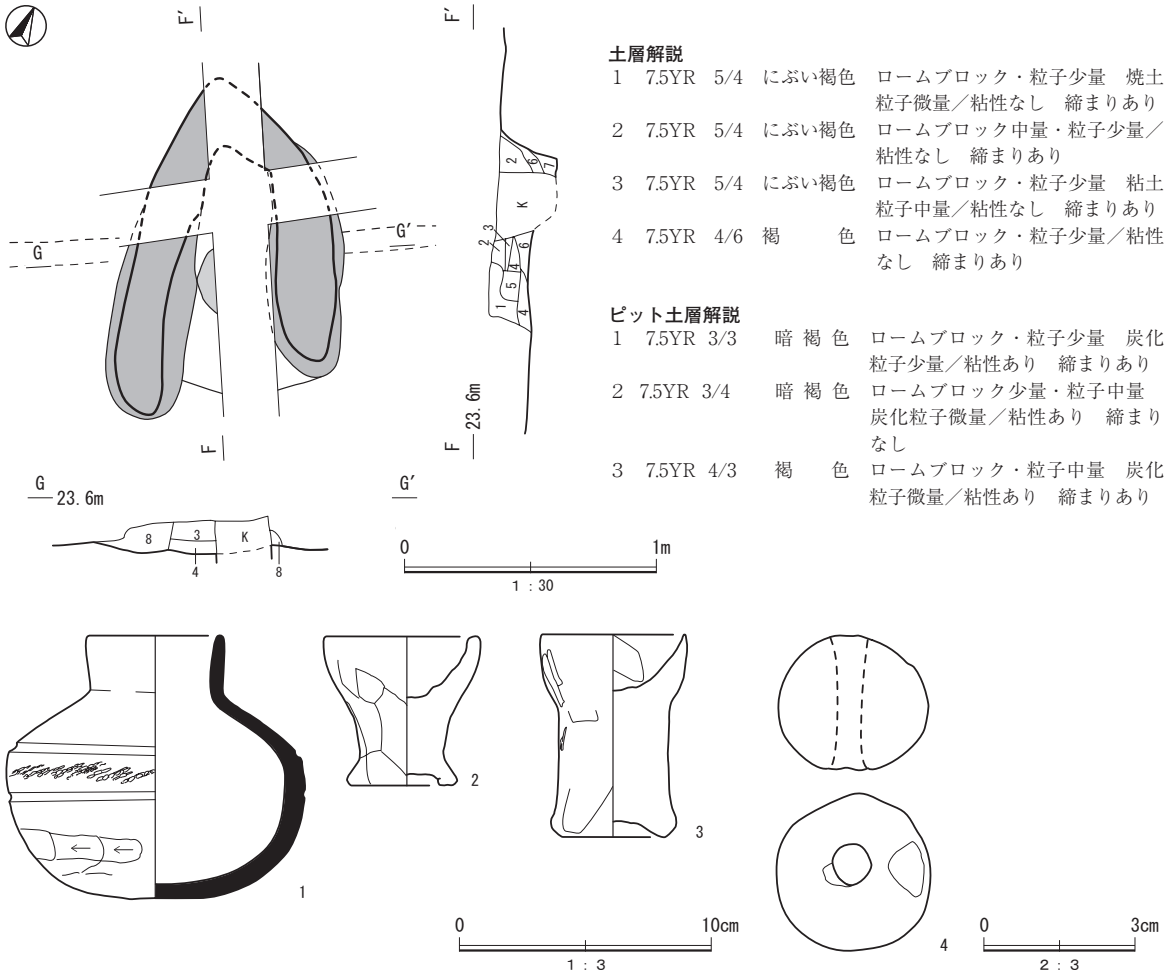
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 120cmである。袖部の基部の最大幅は 92cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は、床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　4 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれており、人為堆積である。



第 33 図　第 13 号竪穴建物跡実測図



第 34 図　第 13 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1	5YR	7/4	にぶい橙色	焼土粒子微量	炭化粒子微量	黄白色粘土粒子多量／粘性あり 締まりあり
2	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子中量	黄白色粘土粒子少量／粘性なし 締まりあり
3	2.5YR	4/4	にぶい赤褐色	焼土粒子中量	炭化粒子少量	黄白色粘土粒子少量／粘性なし 締まりなし
4	2.5YR	4/3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量	炭化粒子中量	黄白色粘土粒子少量／粘性なし 締まりなし
5	2.5YR	3/6	暗赤褐色	焼土粒子多量	炭化粒子少量	黄白色粘土粒子微量／粘性なし 締まりなし
6	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子多量	黄白色粘土粒子微量／粘性なし 締まりなし
7	2.5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子少量	黄白色粘土粒子少量／粘性なし 締まりなし

第 19 表　第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	直口壺	［5.1］	10.4	体部径 11.7	長石・石英・チャート	灰	やや不良	ロクロナデ　体部外面２条の凹線　８本歯の櫛歯状工具による連続刺突文　体部下端横位のヘラ削り	竈前床面	99% 産地不明 写真図版 44
2	土師器	手捏土器	［6.0］	(5.9)	4.2	長石・石英・スコリア	明褐	普通	口縁部つまみ上げ　内面指頭痕	東部床面	80%
3	土師器	手捏土器	［5.7］	(8.0)	4.0	長石・石英・スコリア	明褐	普通	口縁部つまみ上げ　内面指頭痕	東部床面	80%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	3.0	2.8	0.7	30	長石・石英	橙	全面ナデ	南部床面	

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:30 × 30cm、深さ20cm、Ｐ２：38 × 36cm、深さ18cm、Ｐ３：40 × 38cm、深さ60cm、Ｐ４：48 × 46cm、深さ20cmである。

遺物出土状況　土師器片352点[坏20点(285g)、高台付坏12点(393g)、高坏15点(260g)、器台１点(17g)、甕304点(4,400g)]、須恵器10点［壺１点(405g)、甕９点(129g)］、弥生土器片４点(45g)、陶器片１点(7g)、土製品１点(30g)。１の須恵器直口壺は竈前の床面、２・３の手捏土器は東部の床面、４の土玉は南部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。床面に焼土の範囲が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

第14号竪穴建物跡(SI-14)(第35・36・37図　写真図版４・５)

位置　調査区中央部Ｅ21～23、Ｆ21～23、Ｇ21・22グリットに位置し、標高23ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第13号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北西部の覆土がなく、第13号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸8.60ｍ、短軸8.20ｍと推定できる。平面形は方形で、主軸方位はＮ－20°－Ｗである。壁は確認面から最大高10cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、北東壁･南東壁の一部で確認され、上幅18～20cm、下幅６～10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　炉周辺にかけて踏み固められている。

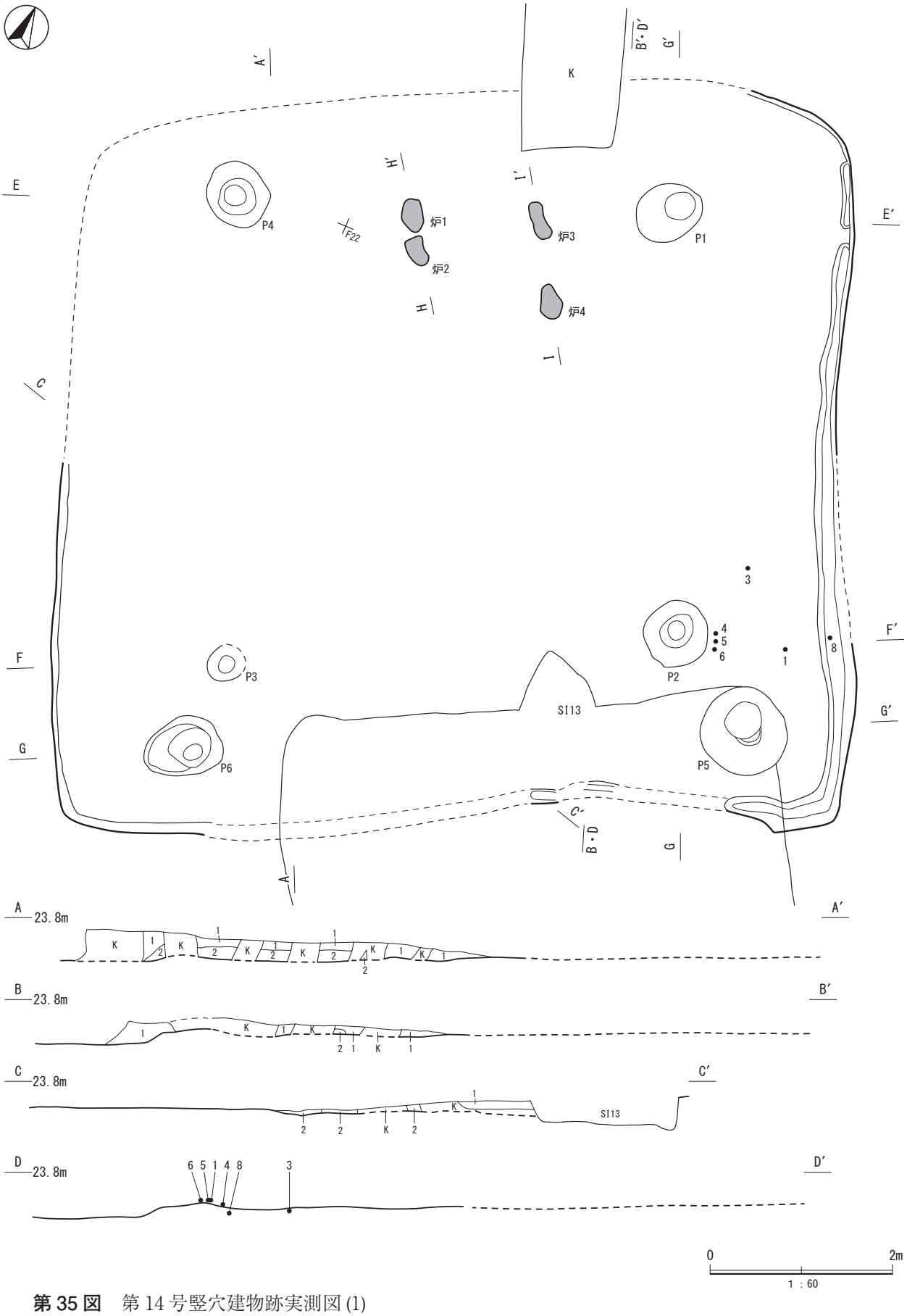
炉　炉１は中央から北寄りに付設されており、長軸30cm、短軸20cmの不整楕円形で、床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。炉２は炉１の北側にあり、長軸40cm、短軸20cmの不整楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。炉３は炉１の東側にあり、長軸35cm、短軸24cmの不整楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。炉４は炉３の北側にあり、長軸45cm、短軸20cmの不整楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　２層に分層できる。

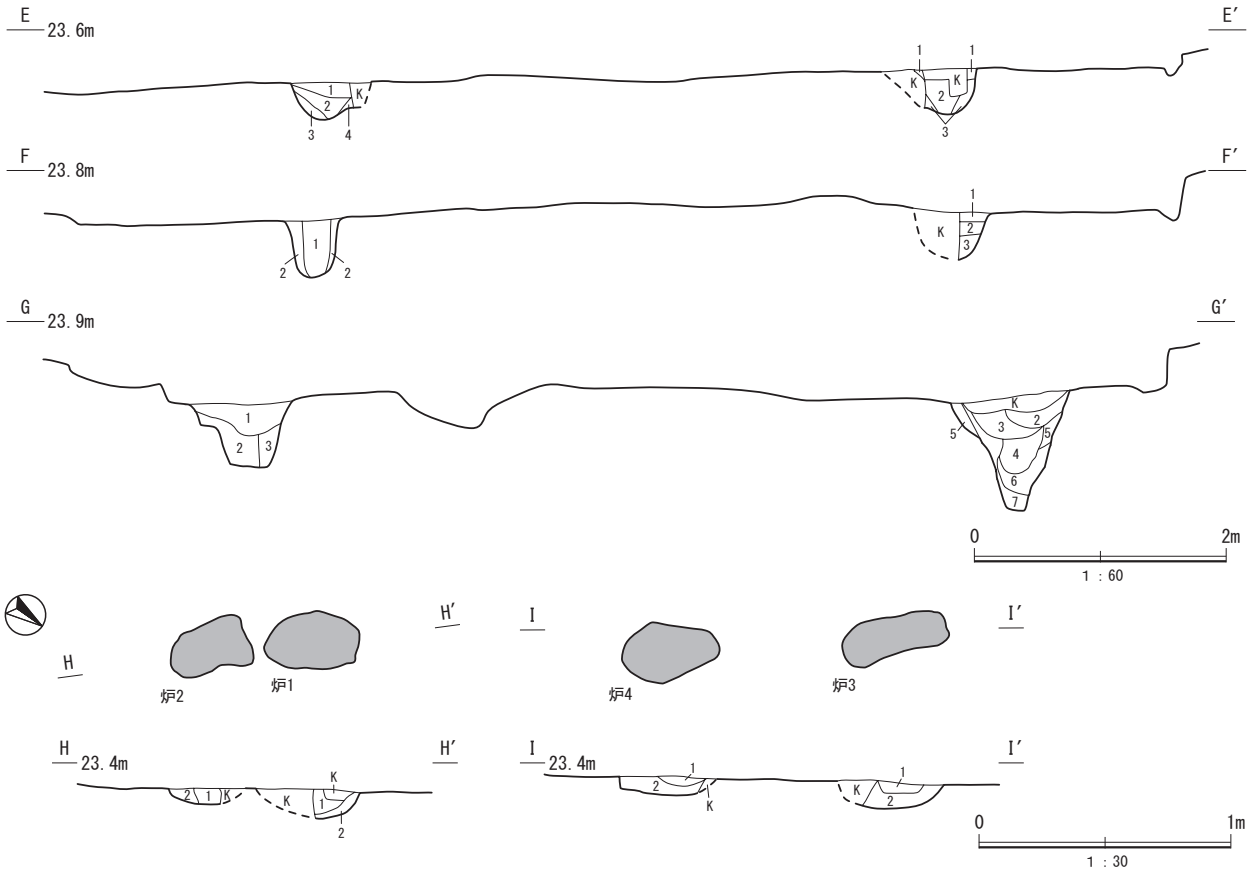
ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:90 × 70cm、深さ50cm、Ｐ２:74 × 70cm、深さ40cm、Ｐ３:50 × 48cm、深さ48cm、Ｐ４:72 × 70cm、深さ30cmである。Ｐ５:100 × 92cm、深さ72cm、Ｐ６：88 × 70cm、深さ80cmである。Ｐ５・Ｐ６は立て替えが考えられる。

遺物出土状況　土師器片302点[坏２点(21g)、高坏12点(504g)、坩５点(294g)、器台１点(14g)、甕282点(2,900g)]、須恵器９点[坏２点(11g)、高台付坏１点(37g)、甕６点(64g)]、縄文土器片５点(75g)、弥生土器片４点(60g)、陶器片４点(９g)、石製品１点(495g)、礫５点(2,200g)。１の土師器坩は南東部の床面、４の土師器高坏、５・６の土師器甕はＰ２東側の床面、３の土師器高坏は東部の床面から出土している。８の砥石は東壁溝内から出土している。２の土師器高坏・７の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀前葉と考えられる。



第 35 図　第 14 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 36 図　第 14 号竪穴建物跡実測図 (2)

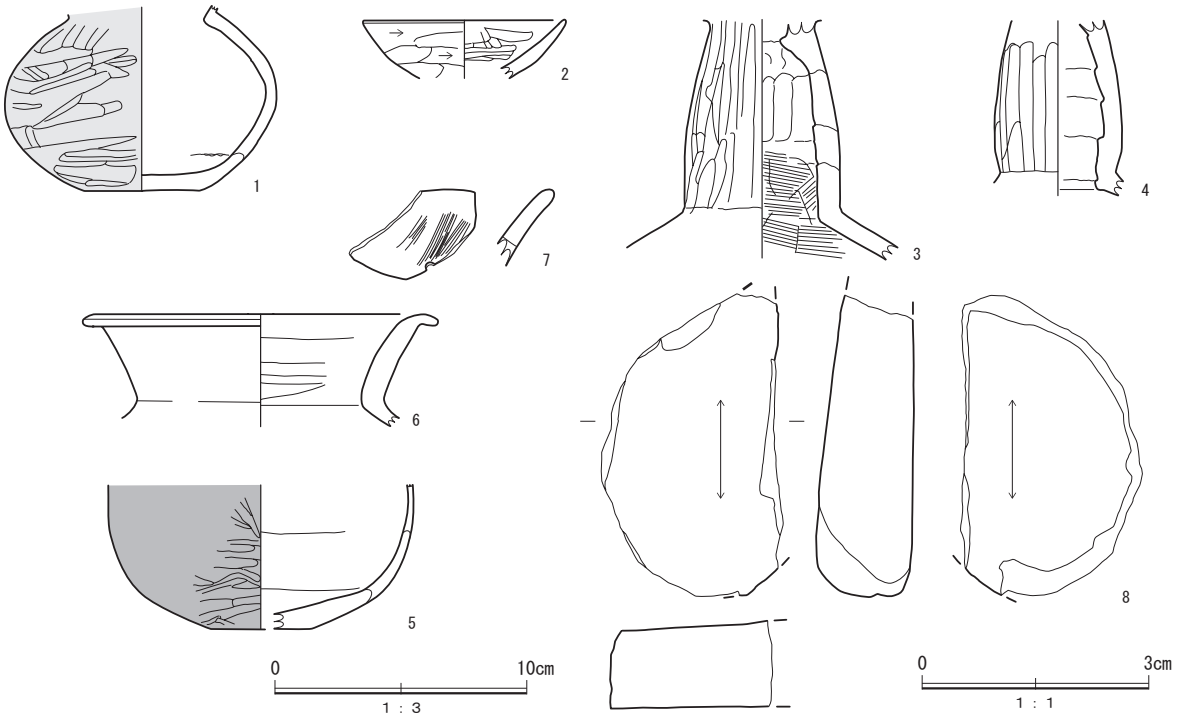
土層解説
1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　4/1　褐　灰　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/6　褐　　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/6　褐　　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉 1 土層解説
1　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　2/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし

炉 2 土層解説
1　5YR　6/2　にぶい橙色　焼土粒子中量　ロームブロック中量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりなし

炉 3・4 土層解説
1　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　2/4　極暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし



第 37 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 20 表　第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	7.3	4.5	長石･石英･チャート･雲母	黄橙	普通	体部上位縦位のヘラナデ　中位から下位横位のヘラナデ　底部一方向のヘラナデ	南東部床面	80%
2	土師器	器台	[7.9]	(2.4)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラ磨き	覆土中	10%
3	土師器	高坏	—	(9.4)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面横位のハケ目調整	東部床面	50%
4	土師器	高坏	—	(6.9)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面粘土紐巻き上げ痕	Ｐ２東側床面	50%
5	土師器	壺	—	(5.7)	［4.0］	長石・石英	赤褐	普通	体部外面横位のヘラ磨き　内面横位のナデ　底部ナデ　外面赤彩	Ｐ２東側床面	10%
6	土師器	甕	14.0	(4.4)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　頸部内面横位のヘラナデ　外面横位のナデ	Ｐ２東側床面	5%
7	土師器	甕	—	(3.5)	—	石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　外面横ナデ後横位のハケ目調整	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	砥石	(11.8)	(7.1)	(3.4)	(495.0)	斑糲岩	砥面上下２面	東壁壁溝内	

第 17 号竪穴建物跡 (SI-17)(第 38・39 図　写真図版５)

位置　調査区中央部Ｇ 23・24、Ｈ 23 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

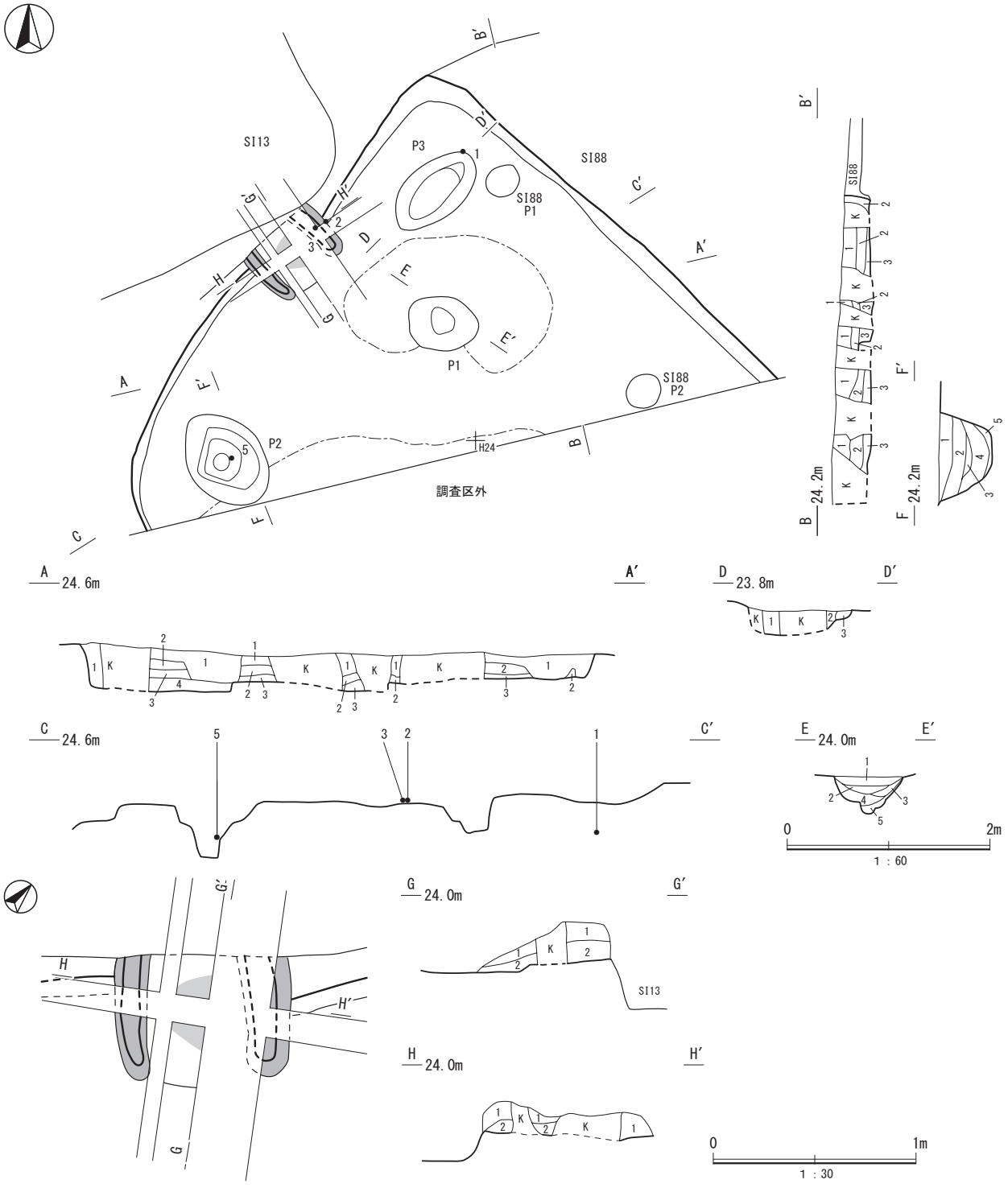
重複関係　第 88 号竪穴建物跡を掘り込み、第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区外に延びて、南西・北東軸は 5.20 ｍ、北西・南東軸は 4.20 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測される。主軸方位はＮ － 40° － Ｗである。壁は

確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央右寄りにあり、灰白色粘土で構築されている。煙道部は第 13 号竪穴建物に掘り込まれている。袖部の基部の最大幅は 89cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。



第 38 図　第 17 号竪穴建物跡実測図

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ２・Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:70 × 52cm、深さ 34cm、Ｐ２：110 × 70cm、深さ 56cm、Ｐ３：100 × 60cm、深さ 22cmである。

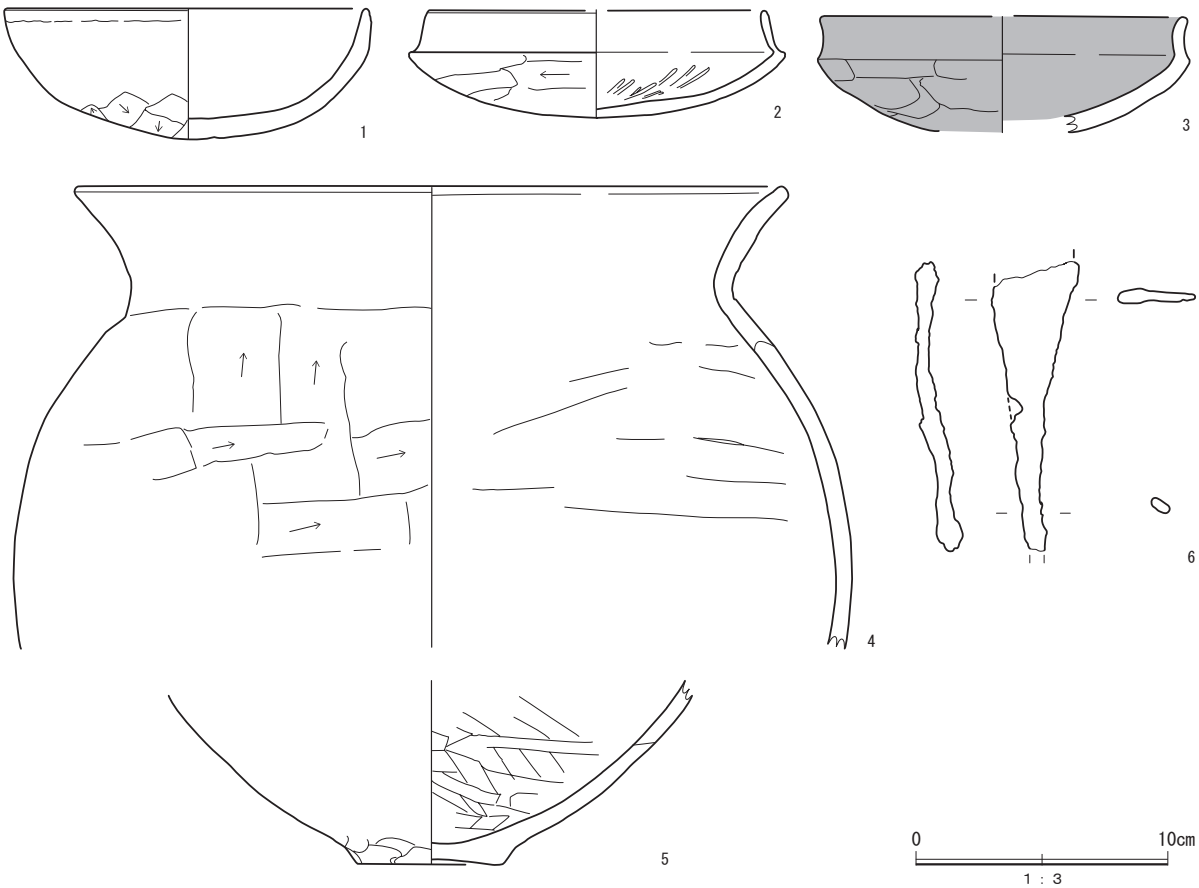
遺物出土状況　土師器片 417 点 [坏 20 点 (471g)、高坏 1 点 (８g)、甕 395 点 (4,351g)、壺 1 点 (139g)]、須恵器片 12 点［坏 9 点 (81g)、高坏２点 (34g)、蓋 1 点 (22g)］、弥生土器片 11 点 (108g)、陶磁器片

土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量粒子　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説
1　５YR　5/1　褐 灰 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　粘土ブロック・粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　５YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　粘土ブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 39 図　第 17 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 21 表　第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.3	5.2	—	長石･石英･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面上位ナデ　下位不定方向のヘラ削り	P3 内	85%
2	土師器	坏	［14.6］	(4.7)	—	長石･石英･スコリア	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き	竈右袖内	25%
3	土師器	坏	[14.2]	(4.6)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ　　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ　内外面黒色処理	竈右袖内	20%
4	土師器	壺	—	(7.3)	[5.8]	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ　内面横位のヘラナテ	覆土中	5%
5	土師器	甕	27.9	(18.3)	—	長石･石英･スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部上位縦位のヘラ削り　中位横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	P2 内	20%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	鏃	(11.50)	0.8 ～ 3.5	0.4 ～ 0.65	(21.30)	鉄	鏃部先端が広がる	覆土中	

２点 (11g)、鉄製品 (鉄鏃) １点 (22g)、礫８点 (4,400g)。１の土師器坏はＰ３内、２・３土師器坏は竈右袖内、５の土師器甕はＰ２内から出土している。４の土師器壺・６の鉄鏃は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

第 32 号竪穴建物跡 (SI-32)(第 40・41 図　写真図版５)

位置　調査区中央部Ｅ 26･27、Ｆ 26･27 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 36 号竪穴建物跡を掘り込み、第 24 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.32 ｍ、短軸 5.18 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 40° － Ｗである。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、北西壁・北東壁・南西壁の一部で確認され、上幅 18 ～ 20cm、下幅６～ 10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　炉周辺にかけて踏み固められている。

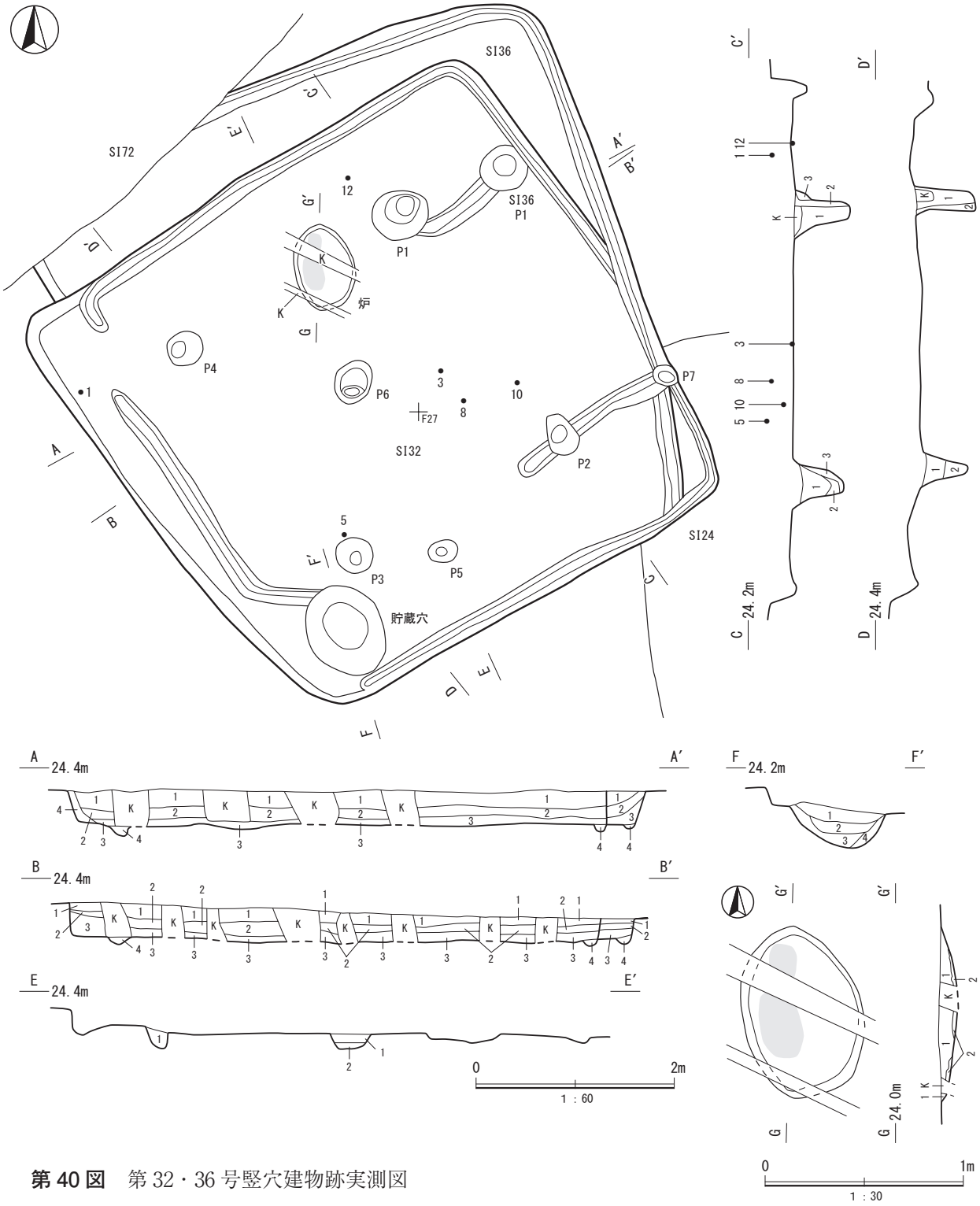
炉　中央から北寄りに付設されており、長軸 80cm、短軸 62cmの不整楕円形で、床面を 15cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面は第２層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 50cm､深さ 60cm、Ｐ２：40 × 30cm、深さ 50cm、Ｐ３：46 × 40cm、深さ 52cm、Ｐ４：40 × 38cm、深さ 60cm、Ｐ５：32 × 28cm、深さ 20cmである。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 98cm、短径 76cm、深さ 40cmで楕円形である。

遺物出土状況　土師器片 481 点 [坏 34 点 (325g)、高台付坏７点 (198g)、高坏 39 点 (1,400g)、壺２点 (392g)、甕 399 点 (5,019g)]、須恵器片 12 点［坏３点 (32g)、鬶１点 (21g)、甕８点 (124g)］、縄文土器片３点 (68g)、弥生土器片 49 点 (469g)、磁器片２点 (18g)、礫 12 点 (1,954g)。１の土師器高坏は西部の覆土中層、３の土師器高坏は中央部の床面、８の土師器甕は中央部覆土上層、５の土師器壺はＰ



第 40 図　第 32・36 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説

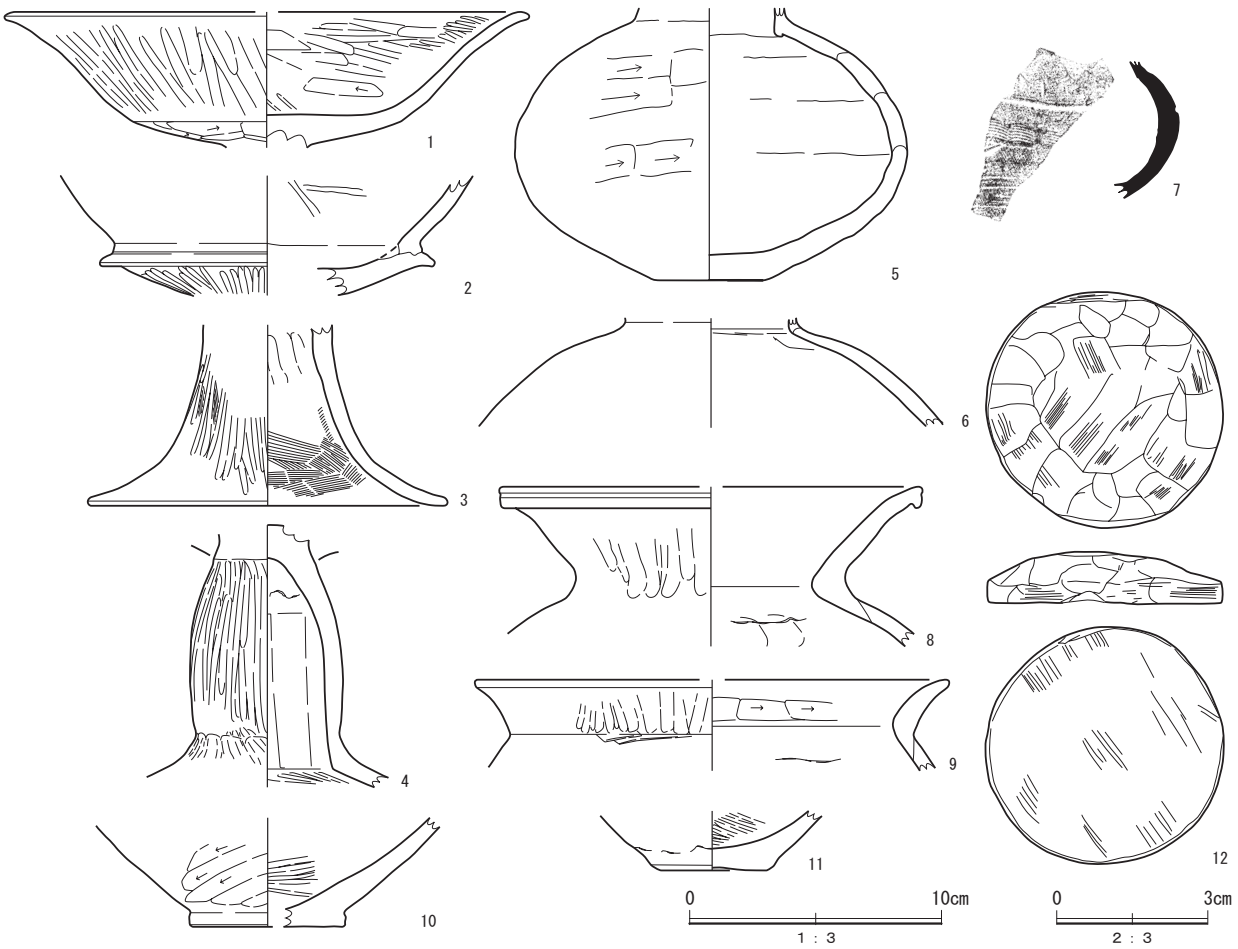
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/3　褐色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　3/6　暗赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子多量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　10YR　2/2　黒　　褐　　色　ローム粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　10YR　3/2　黒　　褐　　色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
3　10YR　3/3　暗　　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり 締まりなし
4　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

３の北部の床面、10 の土師器甕は中央部覆土下層から出土している。２・４の土師器高坏、６の土師器壺、７の須恵器𤭯、９・11 の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期５世紀前葉と考えられる。



第 41 図　第 32 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 22 表　第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	[20.0]	(5.4)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	坏部口縁横部ナデ　体部外面縦位のヘラミガキ 下端横位のヘラ削り　内面横位のヘラ削り後横位のヘラミガキ	西部覆土中層	25%
2	土師器	高坏	—	(4.7)	—	長石・石英	橙	良好	坏部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラミガキ	覆土中	5%
3	土師器	高坏	—	(7.2)	[14.0]	長石･石英･チャート	橙	普通	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のハケナデ　裾部横ナデ	中央部床面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土師器	高坏	—	(10.4)	—	長石・石英・チャート	にぶい赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ 内面縦位のヘラナデ	覆土中	30%
5	土師器	壺	—	(10.7)	4.2	長石・石英	明赤褐	普通	外面横位のヘラナデ　内面横位のナデ	P５北部床面	45% 写真図版44
6	土師器	壺	—	(4.3)	—	長石・石英	橙	良好	体部外面赤彩　輪積痕	覆土中	5%
7	須恵器	甕	—	〈5.4〉	—	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ後７本櫛歯による刺突文　凹線　７本櫛歯による波状文　体部下位回転ヘラ削り	覆土中	5%
8	土師器	甕	[16.6]	(6.3)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　頸部外面縦位のヘラミガキ　輪積痕	中央部覆土上層	15%
9	土師器	甕	[18.6]	(3.6)	—	長石・石英・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　頸部縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラ削り　輪積痕	覆土中	15%
10	土師器	甕	—	(4.3)	[6.0]	長石・石英・チャート	にぶい褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面ナデ後横位のヘラミガキ	中央部覆土上層	10%
11	土師器	甕	—	(2.4)	4.3	長石・石英・チャート	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ　内面横位のヘラミガキ　底部ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	不明	4.69	4.7	1.0	15	滑石	片面削り　無孔のため製作途中ヵ	覆土中	写真図版44

第 36 号竪穴建物跡 (SI-36)(第 40・42 図　写真図版６)

位置　調査区中央部Ｅ 26・27 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 21 号竪穴建物跡を掘り込み、第 24・32・72 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第 72 号竪穴建物に、第 32 号竪穴建物に中央部を掘り込まれているため、南北軸は 5.60 ｍ、東西軸は 5.10 ｍしか確認できなかった。平面形は長方形で主軸方位はＮ－ 20°－Ｗと推定される。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がる。壁溝は、北西壁・北東壁の一部で確認され、上幅 16 ～ 18㎝、下幅４～８㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　確認できた部分がやや踏み固められている。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

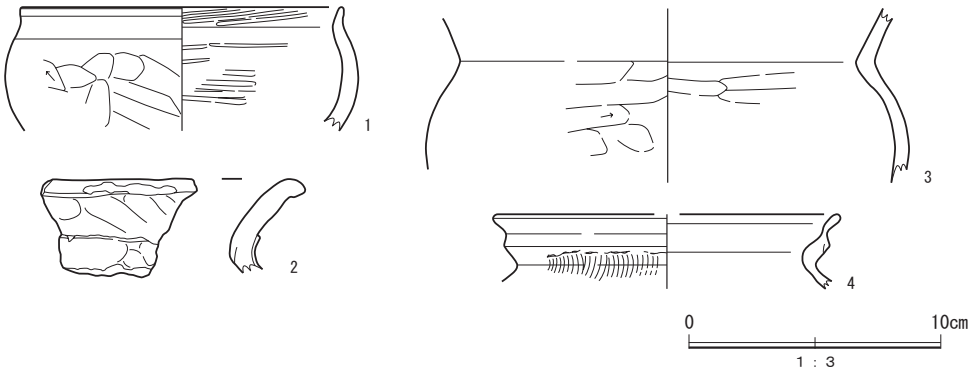
ピット　第32号竪穴建物の床面から、ピット１か所が検出された。Ｐ１：42 × 30㎝、深さ 20㎝である。

遺物出土状況　土師器片 119 点 [坏８点 (86g)、高坏９点 (144g)、甕 102 点 (904g)]、須恵器甕片４点 (51g)、弥生土器片 21 点 (167g)、陶磁器片２点 (88g)、礫７点 173g)。１の土師器坏、２～４の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　出土土器が少なく時期を決定するのは難しいが、重複関係から古墳時代前期と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 42 図　第 36 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 23 表　第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.6]	(4.9)	—	長石・石英・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ後横位のヘラミガキ	覆土中	25%
2	土師器	甕	—	(3.7)	—	長石・石英・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　頸部突帯貼り付け	覆土中	5%
3	土師器	甕	[13.6]	(2.9)	—	長石・石英・チャート	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部縦位のハケナデ　輪積痕	覆土中	15%
4	土師器	甕	—	(6.9)	—	長石・石英・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　頸部縦位のハケ目調整　内面横位のナデ	覆土中	25%

第 33 号竪穴建物跡 (SI-33)(第 43・44 図　写真図版 7)

位置　調査区中央部Ｄ 23 ～ 25、Ｅ 23 ～ 25 グリットの標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 85 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 7.00 ｍ、短軸 6.60 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 40°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 18㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

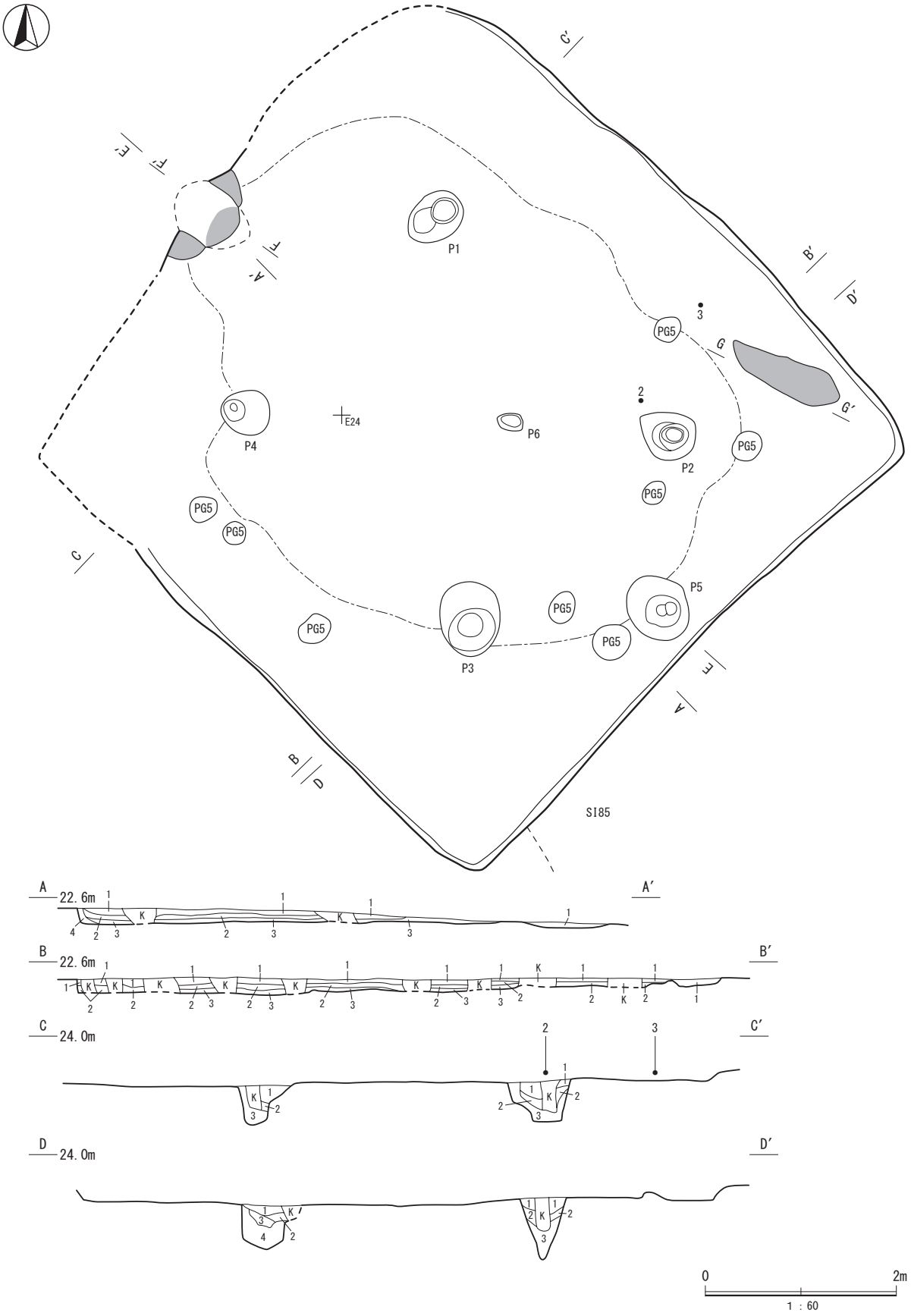
竈　北西壁中央にあるが、覆土が浅く痕跡を確認できたのみである。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれているが、自然堆積である。

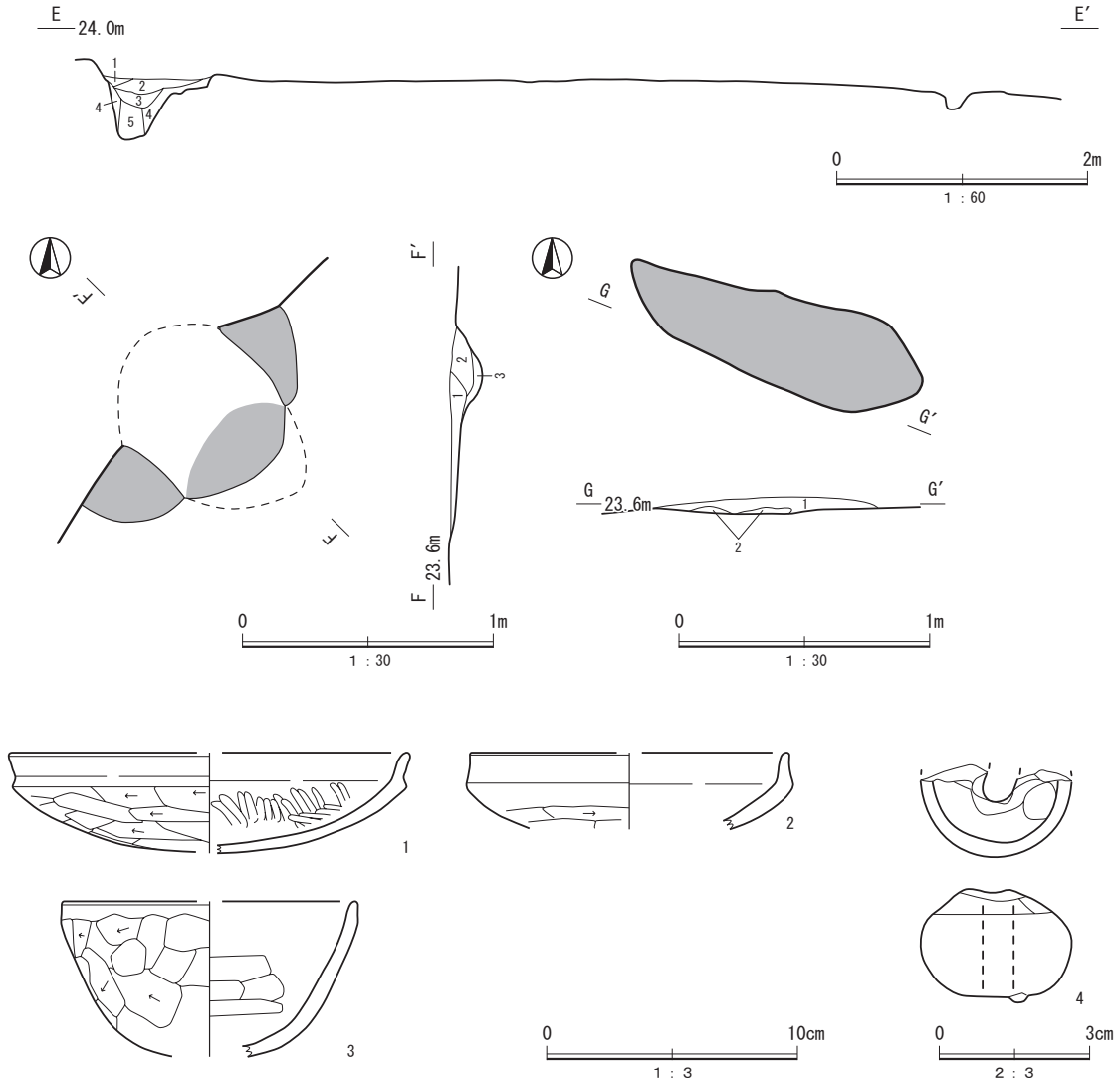
ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 40㎝、深さ 46㎝、Ｐ２:60 × 50㎝、深さ 60㎝、Ｐ３:70 × 62㎝、深さ 48㎝、Ｐ４:52 × 50㎝、深さ 42㎝、Ｐ５：70 × 62㎝、深さ 50㎝、Ｐ６：30 × 20㎝である。Ｐ１～Ｐ５は建て替えが行われたと考えられる。

遺物出土状況　土師器片 264 点 [坏 28 点 (383g)、椀 1 点 (25g)、坩 1 点 (10g)、高坏 11 点 (300g)、甕 223 点 (2,900g)]、須恵器片 4 点 [坏 1 点 (3 g)、甕 3 点 (28g)]、弥生土器片 14 点 (134g)、陶器片 1 点 (3 g)、金属製品 1 点 (7g)、土製品 1 点 (9g)、礫 4 点 (107g)。２・３の土師器坏は東部の覆土下層から出土している。１の土師器坏・４の土玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀代と考えられる。南東部床面から焼土範囲が確認できたことから焼失家屋と考えられる。



第 43 図　第 33 号竪穴建物跡実測図



第 44 図　第 33 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブック少量・粒子多量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

竈土層解説
1　5YR　5/6　明 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　3/4　黒　褐　色　炭化粒子中量　ローム粒子少量・粒子多量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　5/3　にぶい褐色　焼土粒子少量　ローム粒子少量／粘性あり　締まりなし

焼土土層解説
1　5YR　5/6　明赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　5YR　3/4　黒 褐 色　炭化粒子中量　ローム粒子少量・粒子多量／粘性なし　締まりなし

第 24 表　第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.8]	(4.0)	—	長石･石英･チャート	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ	覆土中	30%
2	土師器	坏	[12.6]	(3.1)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	東部覆土下層	15%
3	土師器	坏	[11.6]	(6.2)	—	長石･石英･雲母･チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	東部覆土下層	25%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	3	2.25	0.7	9.1	長石・石英	にぶい黄橙	全面ナデ	覆土中	

第 43 号竪穴建物跡 (SI-43)(第 45・46 図　写真図版 9)

位置　調査区中央部Ｄ 31・32、Ｅ 31・32、Ｆ 31・32 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 45・147 号竪穴建物に掘り込まれ、第 87 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　第 45・147 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸 6.50 ｍ、短軸 6.46 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 50° －Ｅである。壁は確認面から最大高 20㎝で、外傾して立ち上がる。壁溝は、北西壁・北東壁・南西壁の一部で確認され、上幅 18 ～ 20㎝、下幅６～ 10㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　炉周辺にかけて踏み固められている。

炉　中央から北東寄りに付設されており、長軸 44㎝、短軸 38㎝の不整円形で、床面を５㎝ほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

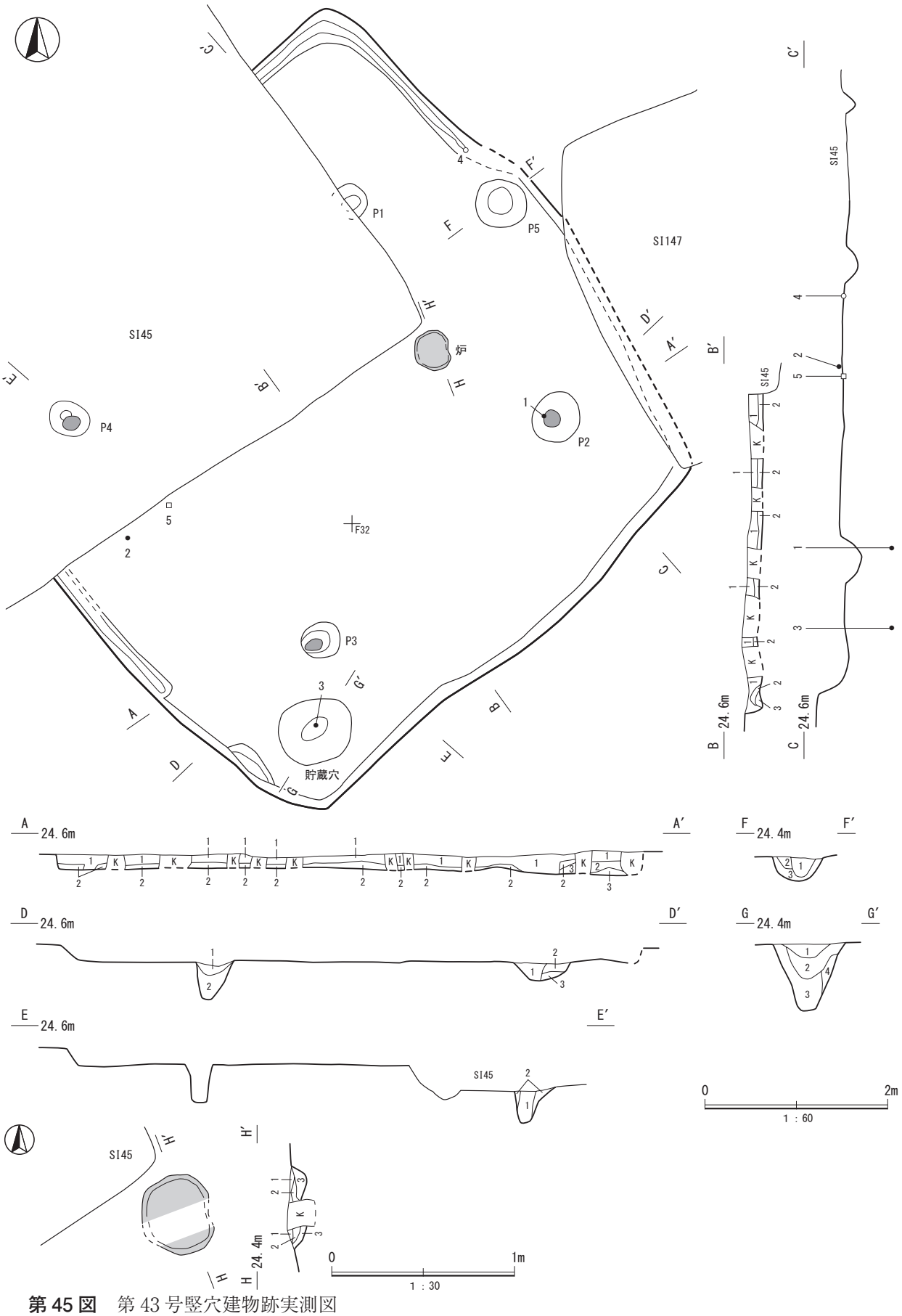
土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:42 × 30㎝､深さ 20㎝、Ｐ２：60 × 50㎝、深さ 24㎝、Ｐ３：46 × 40㎝、深さ 50㎝、Ｐ４：42 × 30㎝、深さ 60㎝、Ｐ５：54 × 52㎝、深さ 22㎝である。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 90㎝、短径 76㎝の円形で、深さ 76㎝である。

遺物出土状況　土師器片 163 点 [坏 4 点 (37g)、高坏 17 点 (351g)、坩 2 点 (16g)、器台 1 点 (23g)、甕 139 点 (1,334g)]､須恵器片 5 点[坏 1 点 (5 g)､甕 4 点 (57g)]､弥生土器片 45 点 (431g)､土製品 1 点 (82g)、石製品 1 点 (1,277g)、礫 13 点 (2,500g)。１の土師器甕はＰ２内、２の土師器甕は南西部の覆土下層、３の土師器甕は貯蔵穴内から出土している。４の不明土製品は北東部の床面、５の凹石は南西部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。



第 45 図　第 43 号竪穴建物跡実測図

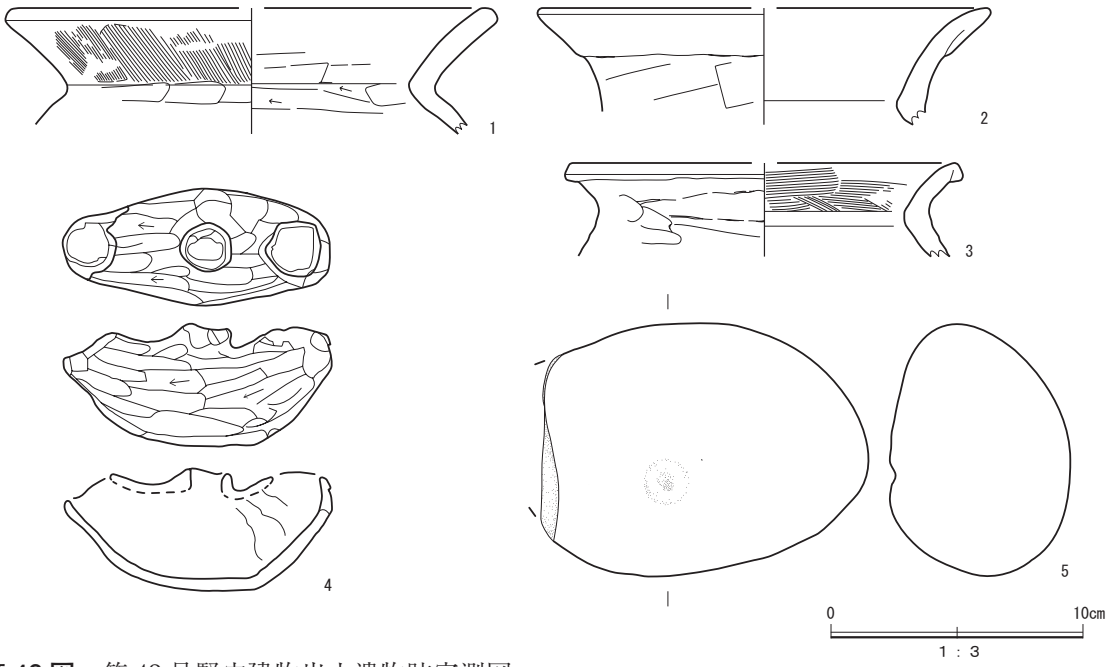
土層解説
1　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子中量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ロームブロック少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり

P2・4・5 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり 締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

P3 土層解説
1　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

炉土層解説
1　2.5YR　4/1　赤　灰　色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰少量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　5/3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 46 図　第 43 号竪穴建物出土遺物跡実測図

第 25 表　第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[19.0]	(5.0)	—	長石･石英･チャート	黄橙	普通	口縁部内面横位のヘラ削り　外面縦位のケズリ後ハケ目調整	P2 内	15%
2	土師器	甕	[17.6]	(4.6)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　頸部外面横位のヘラナデ	南西部覆土下層	20%
3	土師器	甕	[15.0]	(3.7)	—	長石･石英･チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　内面横位のハケ目調整	貯蔵穴内	20%

番号	種別	長さ	幅	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土製品	10.56	4.6	4.9	82.2	長石・石英	橙	上位に径 1.4 ～ 1.78㎝の孔が三か所　外面はヘラナデ	北東部床面	100% 写真図版 45

番号	種別	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	凹石	12.9	10.1	7.2	1277	砂岩	径 1.6cmの凹跡	南西部床面	

第 44 号竪穴建物跡 (SI-44)(第 47・48 図　写真図版 9)

位置　調査区中央部Ｆ 32 ～ 34、Ｇ 32 ～ 34、Ｈ 34 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　南西部が調査区外に延び、長軸 8.62 ｍ、短軸 8.22 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ － 20° － Ｗである。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。確認した壁で全周し、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 16cm、深さ 10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　中央部が踏み固められている。北西壁際から中央に向かって伸びる間仕切溝５条を確認した。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:72 × 70cm、深さ 82cm、Ｐ２：100 × 60cm、深さ 86cm、Ｐ３：88 × 74cm、深さ 86cm、Ｐ４：40 × 40cm、深さ 10cmである。

貯蔵穴　北西部中央寄りに位置し、長軸 118cm、短軸 88cmの隅丸長方形で、深さ 40cm である。

遺物出土状況　土師器片 607 点 [坏 31 点 (403g)、高坏 19 点 (927g)、甕 557 点 (6,446g)]、須恵器片７点［坏１点 (66g)、甕６点 (73g)］、弥生土器片 92 点 (1,021g)、土製品３点 (28g)、礫 23 点 (5,400g)。２の土師器高坏は北西部の覆土下層、３の土師器高坏・８の管状土錘・９の土玉は東部の覆土中層、４の土師器高坏は東部の覆土下層から出土している。５の土師器高坏は東部間仕切り溝内、６の土師器甕はＰ１西側の覆土下層、７の土師器甕は北部の覆土中層から出土している。１の土師器高坏・10 の土玉は覆土中から出土している。

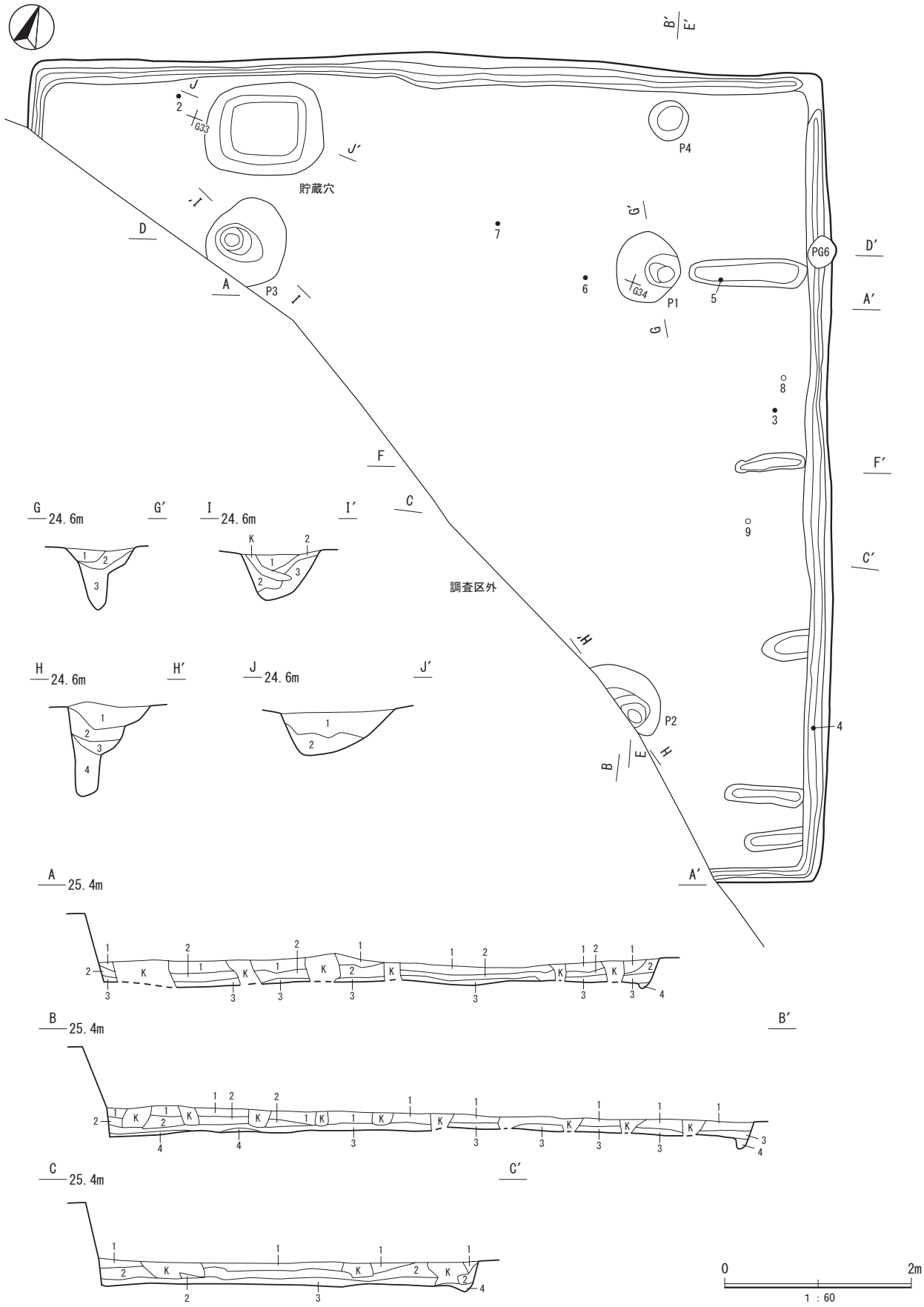
所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

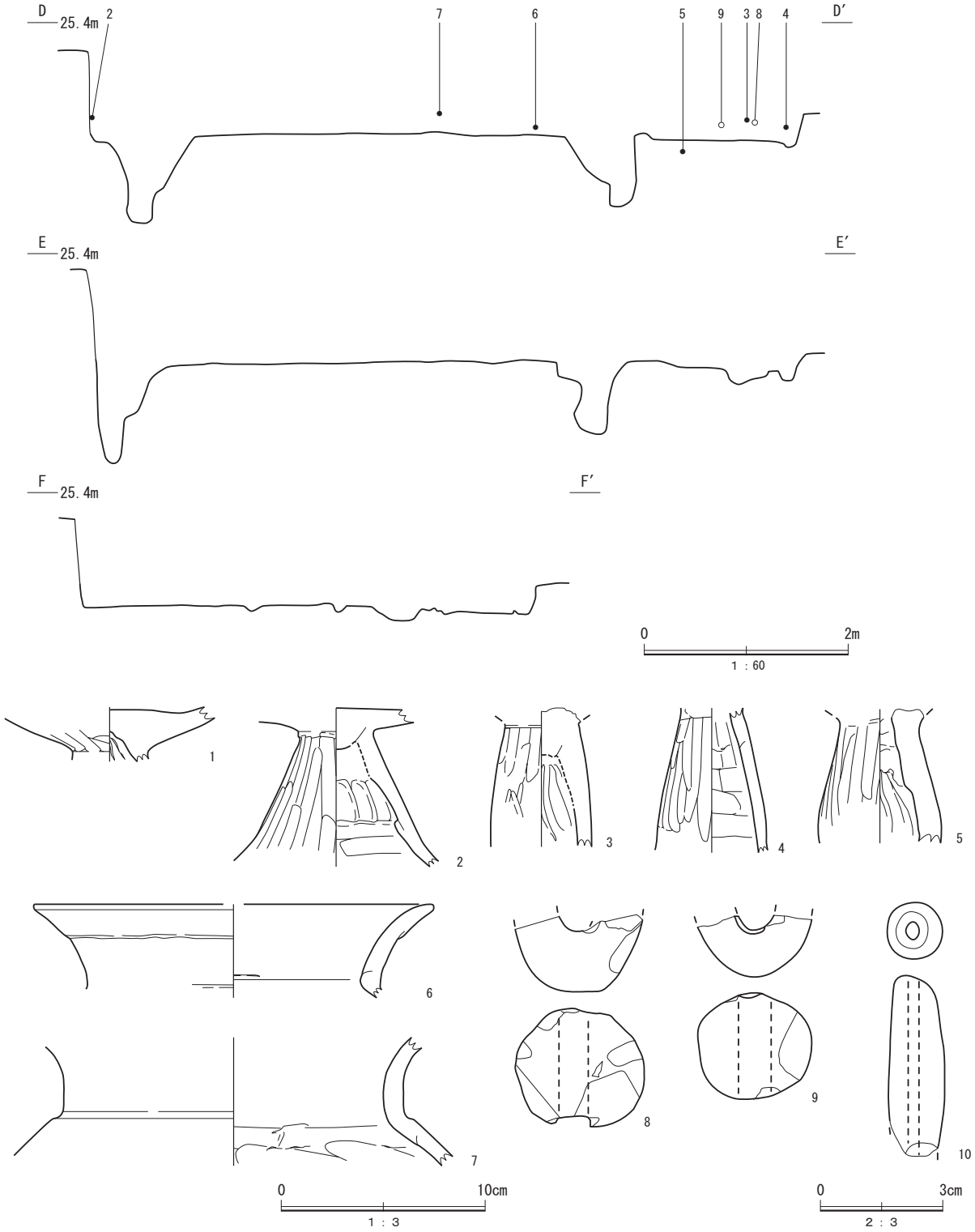
P1 土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子中量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりなし

P2 ～４土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子中量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量　黒色土粒子少量／粘性あり　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 47 図　第 44 号竪穴建物跡実測図



第 48 図　第 44 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 26 表　第 44 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	—	(2.6)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	内外面ナデ　脚部内面絞り痕	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2	土師器	高坏	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい褐	普通	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面上位指頭痕下位横位のナデ	北西部覆土下層	30%
3	土師器	高坏	—	(6.8)	—	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面絞り痕	東部覆土中層	25%
4	土師器	高坏	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	脚部外面縦位のナデ　内面横位のナデ	東部覆土下層	25%
5	土師器	高坏	—	(6.6)	—	長石・石英・チャート	褐	普通	脚部外面縦位のナデ　内面絞り痕	北部間仕切り内	15%
6	土師器	甕	[19.5]	(4.6)	—	長石・石英・チャート	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　輪積痕	P１西側覆土下層	10%
7	土師器	甕	—	(6.3)	—	長石・石英・チャート	橙	普通	頸部横ナデ　内外面横ナデ	北部覆土中層	15%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	土玉	3.15	2.9	0.7	(13.6)	細砂・スコリア	黒褐	全面ナデ	東部覆土中層	50%
9	土玉	(2.8)	2.6	0.8	(8.4)	細砂・スコリア	にぶい橙	全面ナデ	東部覆土中層	40%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	管状土錘	(4.4)	1.4	0.5	(6.3)	細砂	橙	全面ナデ	覆土中	

第 45 号竪穴建物跡 (SI-45)(第 49・50・51 図　写真図版９・10)

位置　調査区中央部Ｄ 30・31、Ｅ 30 ～ 32、Ｆ 30・31 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 43・87・239 号竪穴建物跡を掘り込み、第１号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 7.96 ｍ、短軸 7.62 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 35°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、南西壁と南東壁の一部で確認でき、上幅 20 ～ 30㎝、下幅６～ 16㎝、深さ 10㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

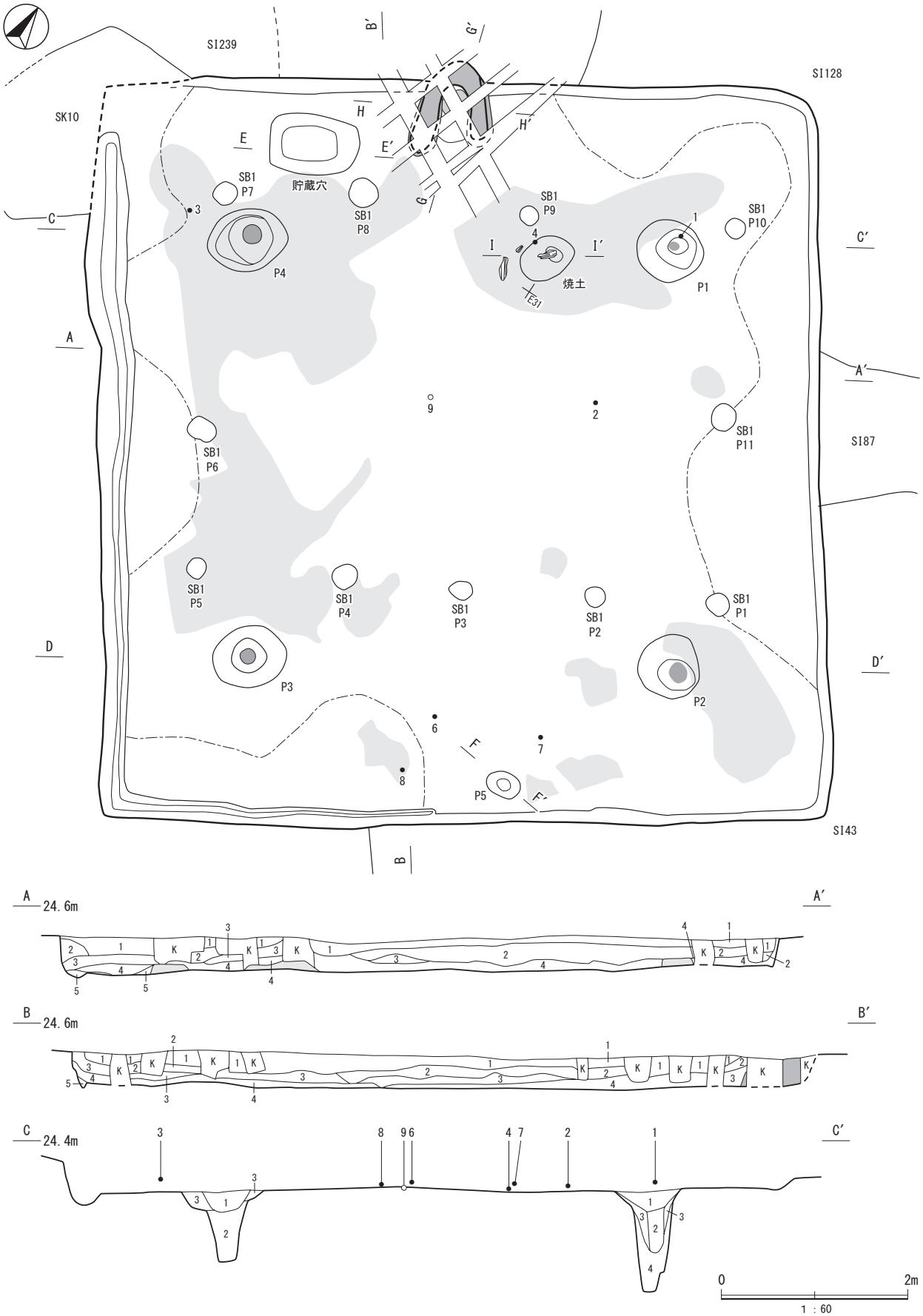
竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。トレンチャーで削平され焚口部から煙道部までは 90㎝と推測される。袖部の基部の最大幅は 86㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

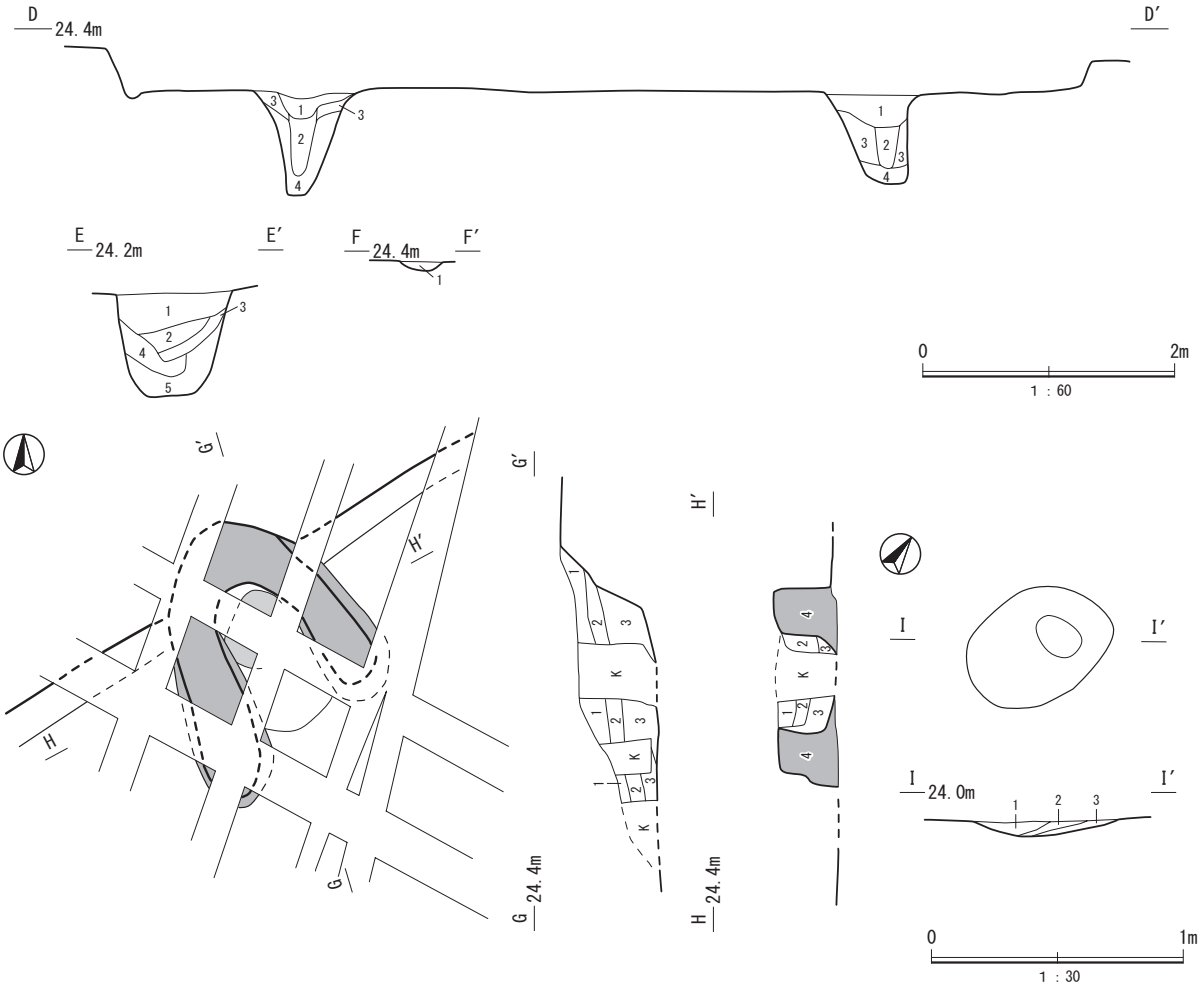
ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 62㎝、深さ 104㎝、Ｐ２：70 × 64㎝、深さ 70㎝、Ｐ３：78 × 64㎝、深さ 86㎝、Ｐ４：80 × 64㎝、深さ 82㎝、Ｐ５：40 × 32㎝、深さ 15㎝である。

貯蔵穴　竈左側に位置し、長軸 102㎝、短軸 60㎝の隅丸長方形で、深さ 84㎝である。

遺物出土状況　土師器片 1,273 点 [坏 148 点 (2,311g)、高台付坏３点 (109g)、高坏 41 点 (779)、器台



第 49 図　第 45 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 50 図　第 45 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

P1・2・4・5 土層解説

1　7.5YR　3/1　黒　　褐　　色　ローム粒子少量　焼土粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗　　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　5YR　4/3　にぶい赤褐色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり

P3 土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり 締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化物微量・粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりあり

焼土土層解説

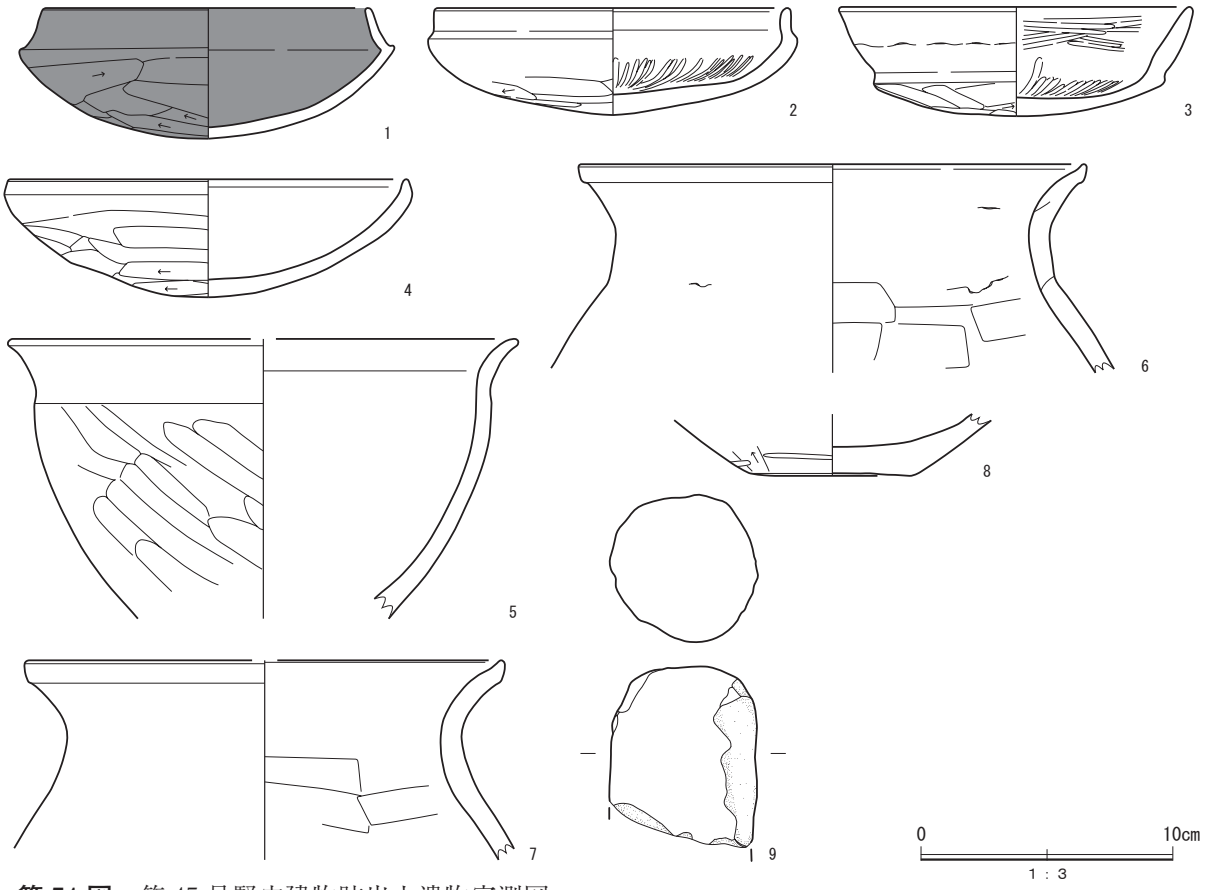
1　2.5YR　5/1　赤　　灰　　色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　2/3　極暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

1　5YR　5/4　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　灰白色粘土ブロック・粒子多量／粘性なし 締まりあり
2　5YR　6/3　にぶい橙色　炭化粒子少量　灰白色粘土ブロック多量・粒子中量／粘性なし　締まりあり
3　2.5YR　4/8　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　5YR　7/2　明褐灰色　灰白色粘土ブロック多量／粘性あり　締まりあり (袖部材)

貯蔵穴土層解説

1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　5/4　にぶい褐色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　5/4　にぶい褐色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　5/4　にぶい褐色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり



第 51 図　第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 27 表　第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.8	5.2	—	石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　内外面黒色処理	Ｐ１内	100％ 写真図版 45
2	土師器	坏	[13.8]	4.2	—	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ後放射状のヘラミガキ	中央部床面	60％ 写真図版 45
3	土師器	坏	13.8	4.4	—	長石・石英・チャート	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位と放射状のヘラミガキ	北西部覆土下層	65％ 写真図版 45
4	土師器	坏	15.8	4.7	—	長石・石英・チャート	明褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	中央部床面	80％
5	土師器	甕	[20.0]	(11.1)	—	長石・石英・チャート	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラミガキ　内面ナデ	覆土中	25％
6	土師器	甕	[20.0]	(8.3)	—	長石・石英・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内面横位のヘラナデ	南部覆土下層	20％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
7	土師器	甕	[19.8]	(7.9)	—	長石･石英･チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内面ナデ	南部覆土下層	25%
8	土師器	甕	—	(2.5)	[6.4]	長石･石英･チャート	灰黄褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラミガキ	南部床面	10%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	土製支脚	5.9	(7.2)	—	(265.0)	長石･石英･スコリア	にぶい橙	摩滅により調整痕不明　二次焼成あり	中央部床面	

３点 (78g)、甕 1,078 点 (13,910g)]、須恵器片 57 点［坏 11 点 (152g)、瓶 1 点 (14g)、甕 45 点 1,174g)］、縄文土器片 15 点 (409g)、弥生土器片 171 点 (1,408g)、陶磁器片５点 (19g)、土製品 1 点 (265g)。１の土師器坏はＰ１内、２・４の土師器坏、９の土製支脚は中央部の床面、３の土師器坏は北西部の覆土下層から出土している。５の土師器甕は覆土中から出土している。６・７の土師器甕は南部の覆土下層、８の土師器甕は南部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。床全面で炭化材や焼土を確認したことから焼失家屋と考えられる。

第 72 号竪穴建物跡 (SI-72)(第 52・53 図　写真図版 12)

位置　調査区中央部D 25･26、E 25･26 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 36 号竪穴建物跡を掘り込み、第 73・127 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 73 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸は 6.24 ｍ、短軸は 5.62 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 35° － Ｗである。壁は確認面から最大高 12㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた壁で全周し、上幅 12 ～ 22㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から確認部が踏み固められている。

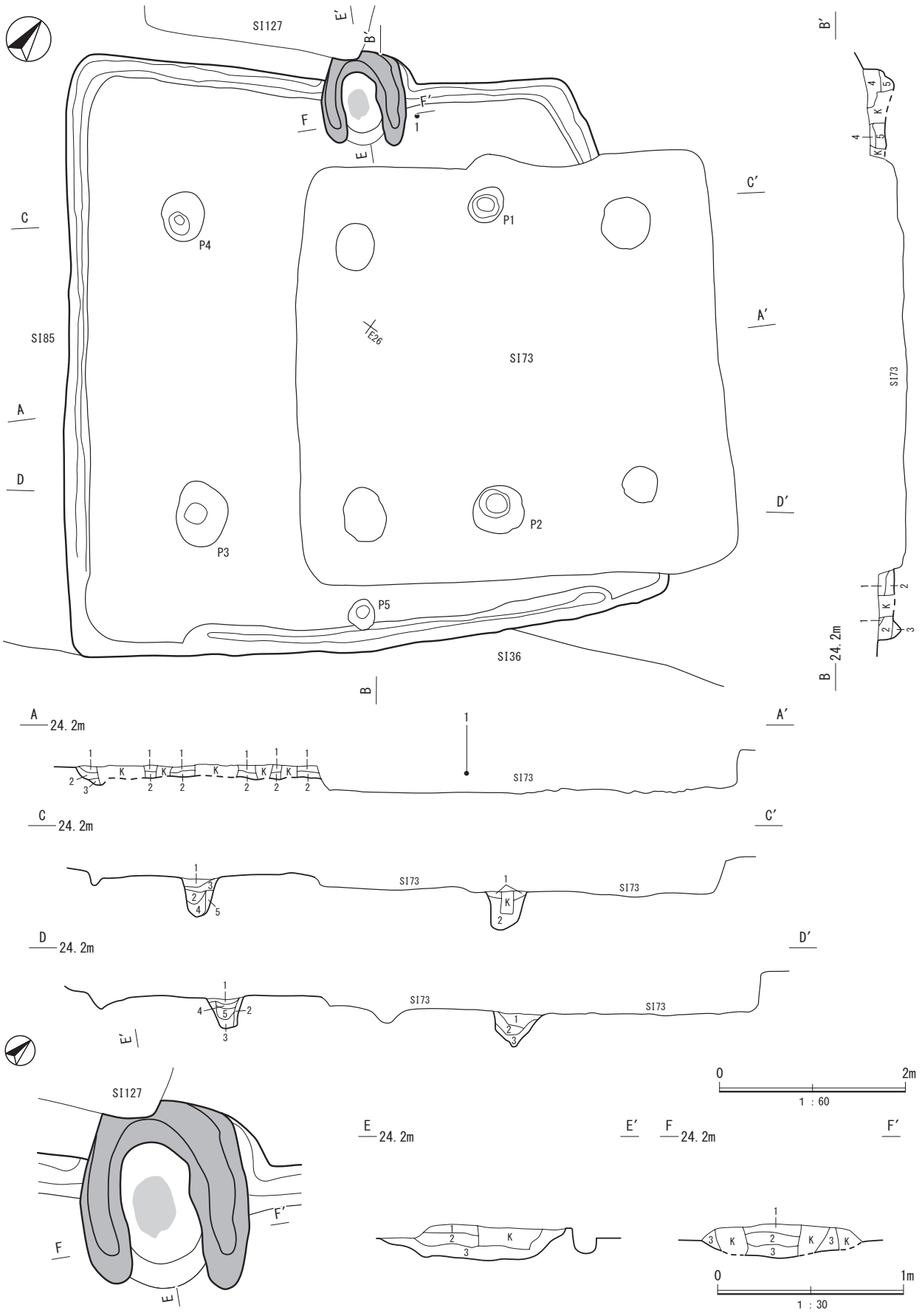
竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部は第 127 号竪穴建物に掘り込まれている。袖部の基部の最大幅は 89㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：56 × 42㎝、深さ 42㎝、Ｐ２:70 × 52㎝、深さ 72㎝、Ｐ３:40 × 38㎝、深さ 34㎝、Ｐ４:54 × 48㎝、深さ 36㎝、Ｐ５：32 × 30㎝、深さ 12㎝である。

遺物出土状況　土師器片 185 点 [坏 19 点 (298g)、高坏２点 (132g)、甕 164 点 (2,417g)]、須恵器片 14 点［坏１点 (12g)、高台付坏１点 (15g)、甕 12 点 (125g)］、弥生土器片 23 点 (250g)、土製品２点 (208g)、礫 17 点 (2,172g)。１の土師器坏は竈東側の床面、２の土師器甕と３・４の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀後葉と考えられる。



第 52 図　第 72 号竪穴建物跡実測図

土層解説

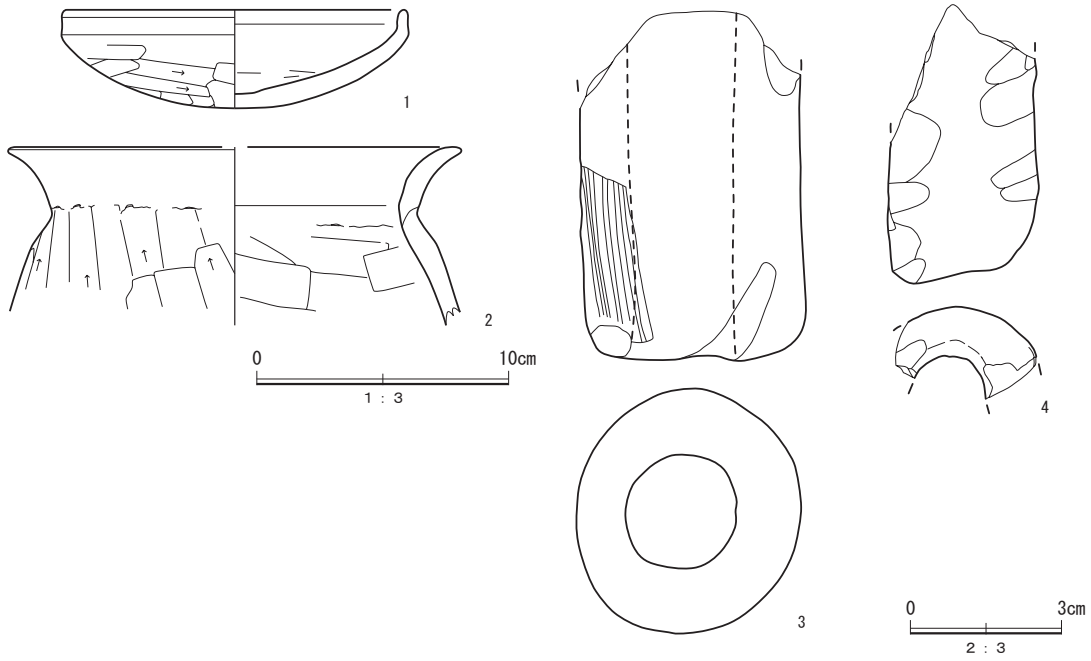
1　10YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　10YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　2.5YR　5/2　灰　赤　色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　2.5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　2/2　黒　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック少量・粒子多量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　5YR　2/2　黒　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　灰白色粘土ブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　2/2　黒　褐　色　炭化粒子微量　灰白色粘土ブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　5YR　2/2　黒　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 53 図　第 72 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 28 表　第 72 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.4]	3.9	—	長石・石英・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	竈東側床面	30%
2	土師器	甕	[17.5]	(7.1)	—	長石・石英・チャート	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	覆土中	20%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	管状土錘	4.4	(7.0)	2.1	(128.0)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ	覆土中	60%
4	管状土錘	(1.4)	(5.5)	(1.4)	(85.0)	長石・雲母	橙	外面ナデ	覆土中	20%

第 74 号竪穴建物跡 (SI-74)(第 54・55 図　写真図版 12・13)

位置　調査区中央部Ｃ 24・25、Ｄ 25 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 210 号竪穴建物跡を掘り込み、第 75・127 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 75 号竪穴建物に掘り込まれ、北西・南東軸は 5.04 ｍで、北東・南西軸は 4.60 ｍしか確認できなかった。平面形は長方形で、主軸方位はＮ－ 25°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 12㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた壁で全周し、上幅 12 ～ 26㎝、下幅６～ 14㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部は調査区外になる。袖部の基部の最大幅は 105㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：42 × (30)㎝、深さ 38㎝、Ｐ２:50 × 38㎝、深さ 46㎝、Ｐ３:50 × 46㎝、深さ 52㎝、Ｐ４:54 × 48㎝、深さ 36㎝、Ｐ５：40 × 36㎝、深さ 22㎝である。

遺物出土状況　土師器片 648 点 [坏 14 点 (426g)、高坏 18 点 (277g)、坩３点 (61g)、甕 613 点 (10,107g)]、須恵器片 11 点［坏３点 (24g)、高台付坏１点 (31g) 甕７点 (48g)］、弥生土器片 29 点 (310g)、土製品１点 (130g)、陶器片２点 (29g)、礫 11 点 (2,800g)。１の土師器坏は南東部の床面、２の土師器坏は南西部の床面、３の土師器甕は南部の覆土下層から出土している。４・６の土師器甕は中央部の床面から出土している。５の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

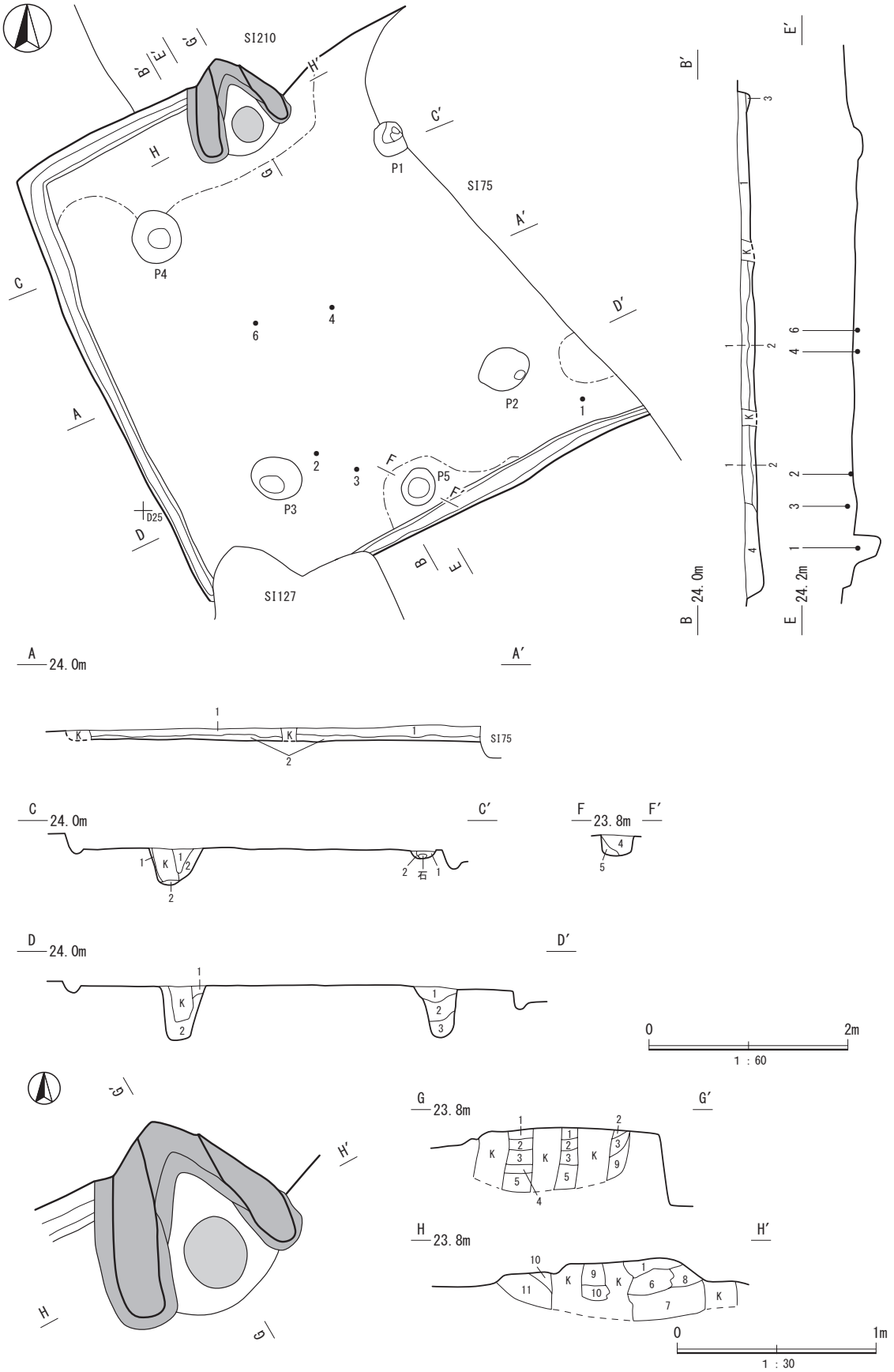
1	7.5YR	3/2	黒 褐 色	ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4	5YR	5/1	褐 灰 色	白色粘土粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

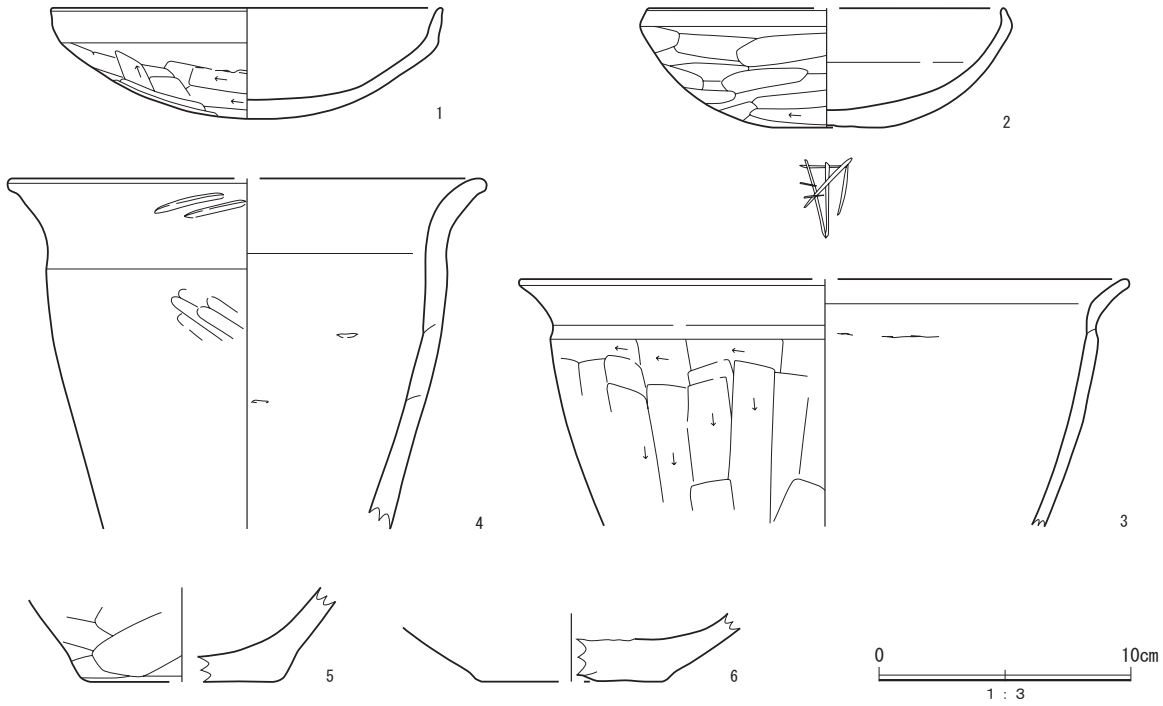
1	7.5YR	4/4	褐　　色	ロームブロック微量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	4/6	褐　　色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	3/4	暗 褐 色	ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	5YR	7/1	名褐灰色	焼土粒子少量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2	2.5YR	5/1	赤 灰 色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
3	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4	2.5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
5	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量　ローム粒子中量／粘性あり　締まりなあり
6	5YR	5/1	褐 灰 色	焼土粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
7	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子少量　ローム粒子中量／粘性あり　締まりなし
8	5YR	6/2	灰 褐 色	焼土粒子少量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
9	5YR	6/2	灰 褐 色	焼土ブロック微量・粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
10	7.5YR	4/2	灰 褐 色	焼土粒子少量　灰白色粘土粒子少量　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
11	7.5YR	3/3	暗 褐 色	焼土粒子少量　灰白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
12	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 54 図　第 74 号竪穴建物跡実測図



第 55 図　第 74 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 29 表　第 74 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.4	4.4	—	長石･石英･チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	南東部床面	50% 写真図版 45
2	土師器	坏	[14.0]	4.9	4.4	長石･石英･チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ　底部「□」ヘラ記号	南西部床面	30%
3	土師器	甕	[24.1]	(9.8)	—	長石･石英･チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ　粘土接合痕	南部覆土下層	25%
4	土師器	甕	[18.6]	(13.9)	—	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のミガキ　内面ナデ	中央部床面	20%
5	土師器	甕	—	(3.8)	[7.3]	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	体部内外面ナデ　底部ナデ	覆土中	5% 煤付着
6	土師器	甕	—	(2.7)	[7.2]	長石･石英･チャート	灰褐	普通	体部内外面ナデ　底部ヘラ切り後ナデ	中央部床面	5%

第 75 号竪穴建物跡 (SI-75)(第 56・57・58・59・60 図　写真図版 12・13・14)

位置　調査区中央部Ｂ 25・26、Ｃ 25 ～ 27、Ｄ 26 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。北部が調査区外に延びている。

重複関係　第 74・210 号竪穴建物跡を掘り込み、第 76 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 6.50 ｍ、短軸 6.42 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ － 40° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、南西壁と北東壁・南東壁の

一部で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 14cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部は調査区外になる。袖部の基部の最大幅は 114cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　３層に分層できる。ローム粒子や炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット７か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：38 × (30)cm、深さ 38cm、Ｐ２：28 × 26cm、深さ 54cm、Ｐ３：50 × 40cm、深さ 52cm、Ｐ４：60 × 50cm、深さ 66cm、Ｐ５：44 × 42cm、深さ 10cm、Ｐ６：36 × 32cm、深さ 10cm、Ｐ７：30 × 30cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器片 400 点 [坏 42 点 (977g)、高坏２点 (204g)、小形甕４点 (1,667g)、甕 352 点 (8,878g)]、須恵器片８点 [坏１点 (175g)、鉢１点 (78g)、甕６点 (274g)]、鉄製品２点 (38g)、土製品 48 点 (939g)、石製品１点 (44g)、礫 22 点 (5,900g)。１・２の土師器坏・３の須恵器坏・４の須恵器鉢・８の土師器甕は南部の覆土下層、５・10 の土師器甕は東部の床面、11 ～ 57 の土玉・58 の土製紡錘車は北西壁寄りの覆土下層から床面にかけてまとまって出土している。59 の刀子は中央部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

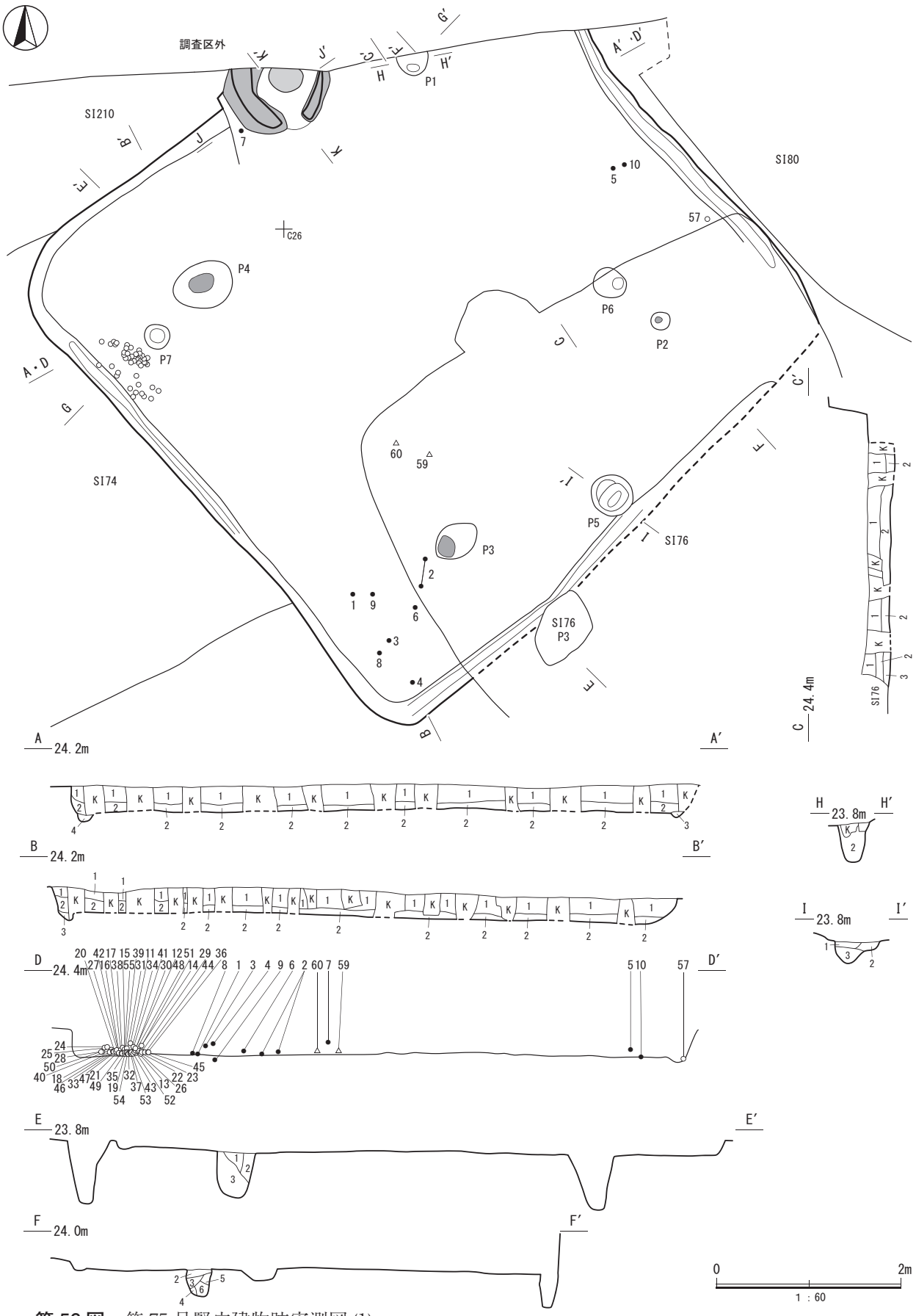
1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

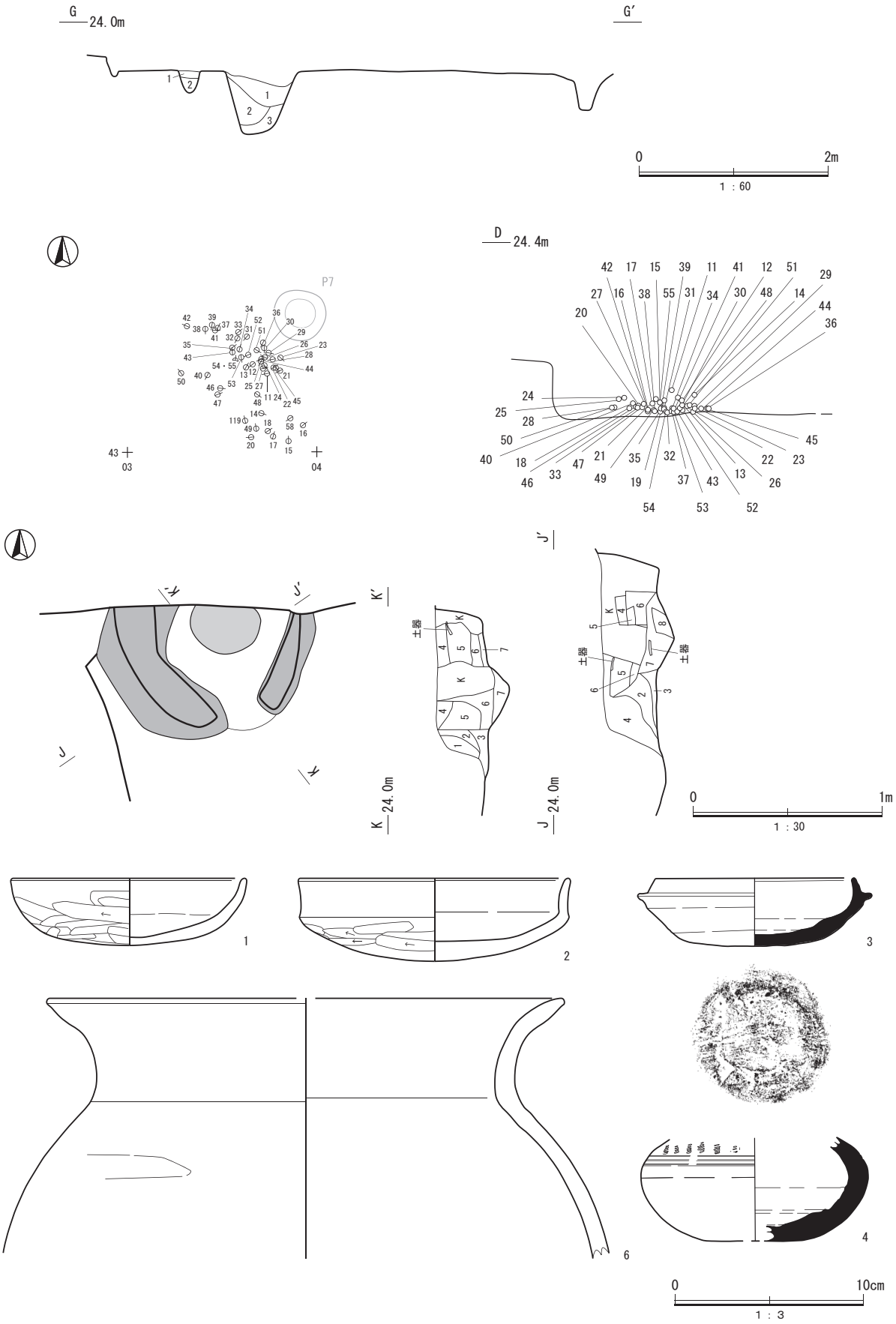
1	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説

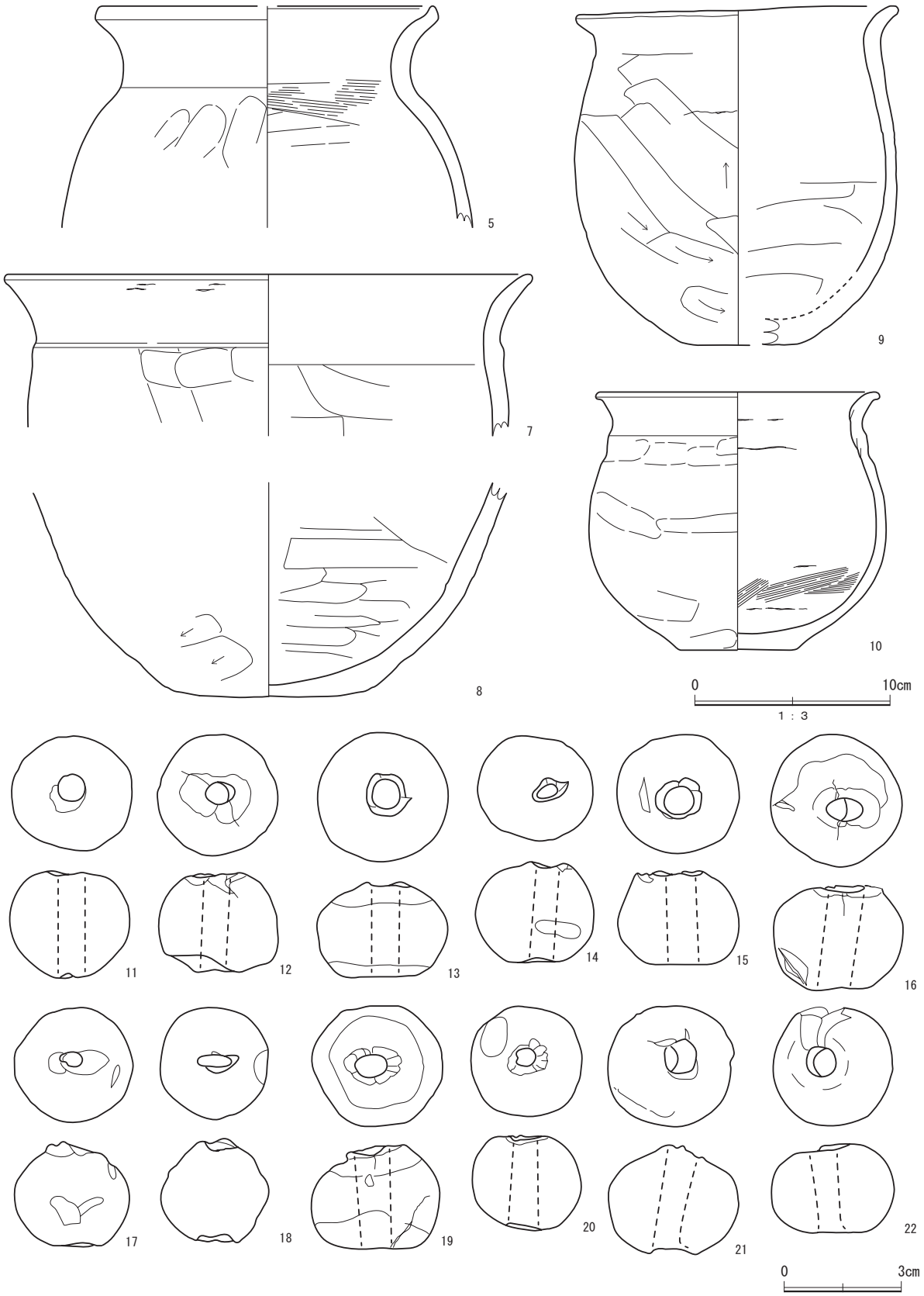
1	5YR	5/2	灰	褐	色	ローム粒子少量　灰白色粘土粒子多量　砂少量／粘性なし　締まりあり
2	5YR	6/2	灰	褐	色	炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	2/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし 締まりあり
4	7.5YR	6/3	にぶい褐色			灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5	7.5YR	7/4	にぶい橙色			灰白色粘土ブロック少量／粘性あり　締まりあり
6	5YR	5/4	にぶい赤褐色			ローム粒子少量　焼土粒子多量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
7	7.5YR	4/2	灰	褐	色	ローム粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり 締まりあり
8	7.5YR	4/3	褐		色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり



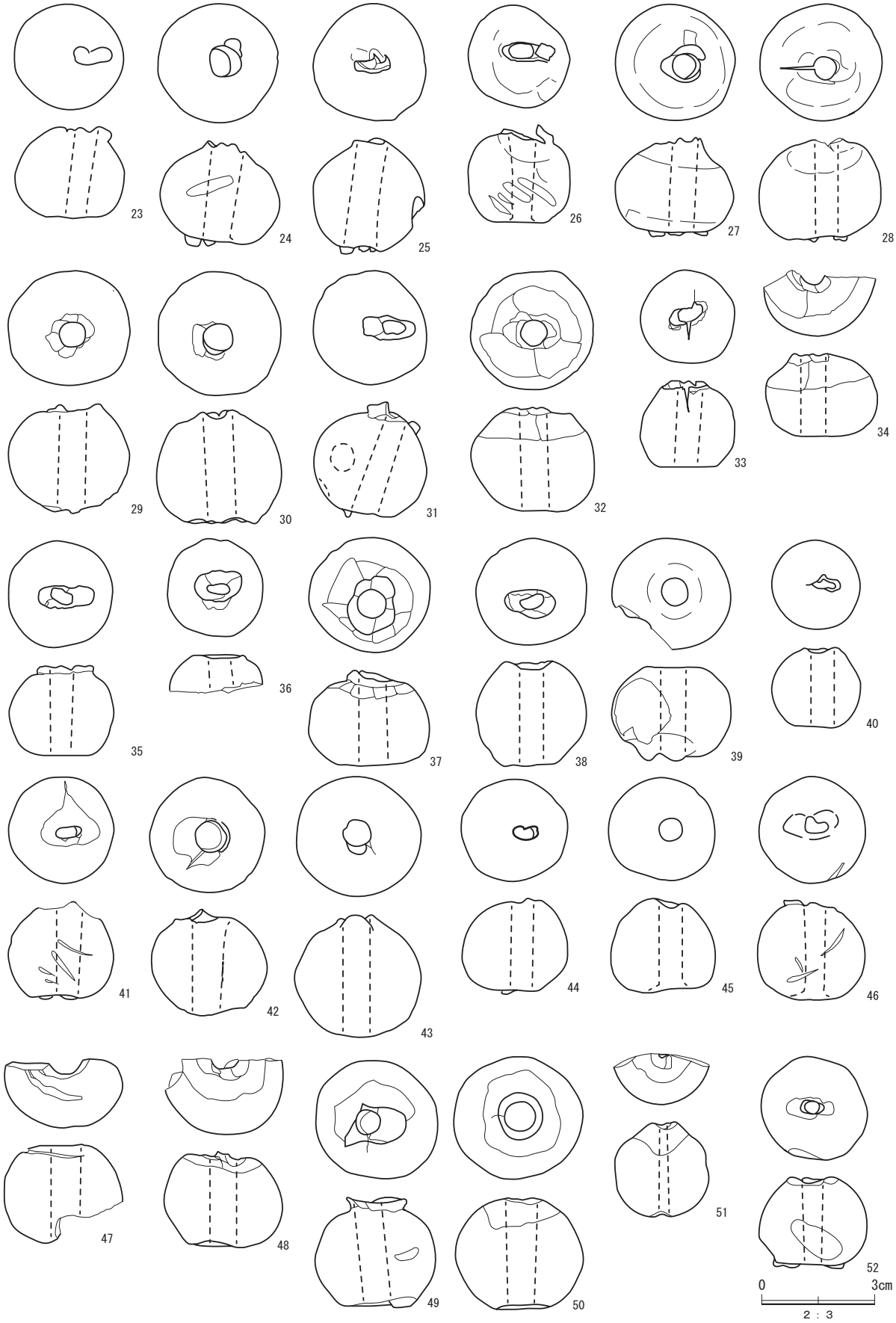
第 56 図　第 75 号竪穴建物跡実測図 (1)



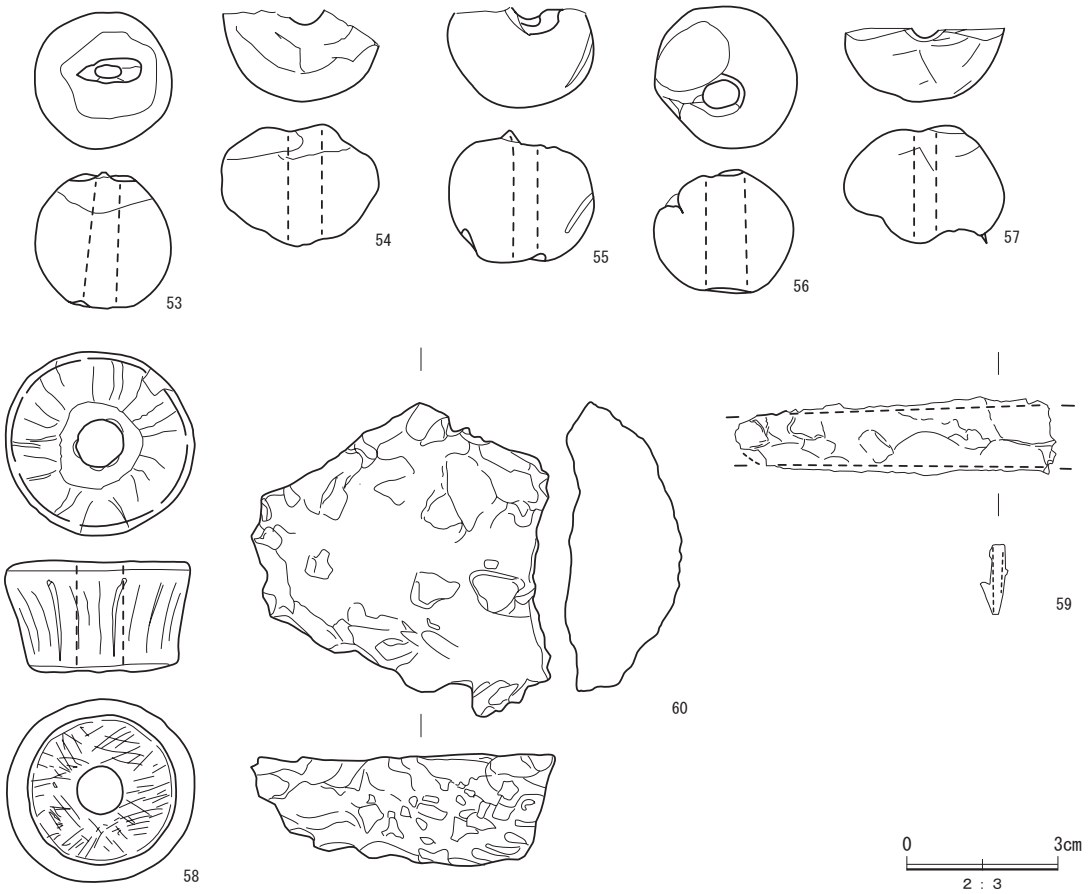
第 57 図　第 75 号竪穴建物跡実測図 (2)・出土遺物実測図 (1)



第 58 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 59 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 60 図　第 75 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 30 表　第 75 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.2]	3.6	—	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	南部覆土下層	75% 煤付着 写真図版 45
2	土師器	坏	[14.2]	4.4	—	長石･石英･チャート・赤色粒子	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	南部覆土下層	50% 写真図版 45
3	須恵器	坏	10.5	3.6	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　底部回転ヘラ切り後不定方向のナデ	南部覆土下層	98% 在地産
4	須恵器	甕	—	(5.4)	—	細砂	灰白	良好	ロクロナデ　外面７本歯の櫛状工具による連続刺突文　３条の櫛引平行施文　中位回転ヘラ削り　下端ヘラ削り　下端オリーブ黄色の自然釉	南部覆土下層	30% 東海産
5	土師器	甕	[17.0]	(11.4)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面ナデ・内面横位のハケナデ	東部床面	25% 煤付着
6	土師器	甕	[27.0]	(13.8)	—	長石･石英･チャート	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面ナデ	北東部床面	20% 煤付着
7	土師器	甕	[23.8]	(8.3)	—	長石･石英･チャート	黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面ナデ　内面横位のナデ	覆土中	10%
8	土師器	甕	—	(11.0)	9.5	長石･石英･雲母	褐	普通	体部外面横位・斜位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部摩滅により調整痕不明	南部覆土下層	20%
9	土師器	小形甕	16.2	17.3	6.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後斜位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	90% 写真図版 45
10	土師器	小形甕	[14.0]	13.7	[6.0]	長石･石英･チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部上位横位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り　内面下端ハケナデ　底部ナデ　輪積痕	東部床面	60% 写真図版 45

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土玉	2.7	3.1	0.7	23.0	長石・石英	褐灰	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
12	土玉	2.5	3.1	0.8	22.0	長石	灰褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部覆土下層	写真図版45
13	土玉	2.4	3.3	0.7	23.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
14	土玉	2.6	2.7～3.0	0.6	18.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
15	土玉	2.4	3.1	0.8	20.0	長石	褐灰	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部覆土下層	写真図版45
16	土玉	2.6	2.8～3.3	0.6～0.9	24.0	長石･石英･スコリア	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
17	土玉	2.7	3.0	0.4～0.6	20.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
18	土玉	2.6	2.9	0.5～0.8	18.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
19	土玉	2.7	3.1～3.4	0.8	23.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
20	土玉	2.4	2.8	0.6～0.8	19.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
21	土玉	2.8	3.2	0.6～0.8	24.0	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
22	土玉	2.3	3.1～3.4	0.6～0.7	(19.0)	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
23	土玉	2.4	2.8～2.9	0.3～0.6	18.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部覆土下層	写真図版45
24	土玉	2.8	3.2	0.7～0.8	23.0	長石・石英	褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
25	土玉	3.1	3.0～3.1	0.4～0.9	24.0	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
26	土玉	2.6	2.7～3.0	0.4～0.6	18.0	長石・石英	にぶい赤褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
27	土玉	2.6	3.1～3.2	0.6～0.7	22.0	長石・石英	褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
28	土玉	2.7	3.1～3.3	0.6	24.0	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
29	土玉	2.9	3.0～3.2	0.6～0.7	25.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部床面	写真図版45
30	土玉	3.0	3.3	0.8	26.0	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
31	土玉	3.1	3.0	0.4～0.7	23.0	長石	にぶい橙	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
32	土玉	2.8	3.1～3.3	0.7	25.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部床面	写真図版45
33	土玉	2.3	2.5	0.4～0.7	15.0	石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
34	土玉	(2.2)	3.0	(0.7)	(12.0)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
35	土玉	2.4	2.8～2.9	0.4～0.6	20.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部床面	写真図版45
36	土玉	(1.5)	2.5	0.6	(7.0)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
37	土玉	2.5	3.1～3.2	0.75	21.0	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
38	土玉	2.8	2.9	0.4～0.7	28.0	長石・石英	褐灰	外面ナデ	北西部床面	写真図版45

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
39	土玉	2.5	3.1	0.7	(23.0)	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
40	土玉	2.1	2.4	0.3～0.6	25.0	長石・石英	黒褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
41	土玉	2.7	2.8	0.4～0.6	(19.0)	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
42	土玉	2.8	3.1	0.7～0.9	(22.0)	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
43	土玉	3.2	3.2～3.3	0.7	30.0	長石･石英･針状鉱物	黒褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
44	土玉	2.5	2.7～2.8	0.4～0.6	18.0	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
45	土玉	2.5	2.8	0.6	17.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
46	土玉	2.7	2.8	0.3～0.6	21.0	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
47	土玉	2.6	[3.1]	0.8	(10.0)	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
48	土玉	2.5	[3.1]	0.7	(13.0)	長石	暗赤灰	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
49	土玉	2.9	3.2	0.7	24.0	長石・石英	褐灰	外面ナデ　一方向からの穿孔	北西部床面	写真図版45
50	土玉	2.9	3.2～3.4	0.8	30.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
51	土玉	2.5	[2.5]	0.2～0.3	(7.0)	長石・スコリア	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
52	土玉	2.4	2.9	0.4～0.6	17.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
53	土玉	2.7	2.7	0.5～0.7	17.0	長石	灰褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
54	土玉	2.4	[3.1]	(0.7)	(10.8)	長石・石英	灰黄褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
55	土玉	(2.4)	[3.2]	(0.4)	(7.4)	長石・石英	褐灰	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
56	土玉	2.6	[2.9]	0.5	(12.0)	長石	にぶい褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版45
57	土玉	2.4	2.8	0.8	(15.0)	長石	褐灰	外面ナデ	北西部床面	写真図版45

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
58	紡錘車	3.6～3.7	2.2	0.9	448	滑石	上面に円と放射状のヘラ描き文	北西部覆土下層	写真図版45

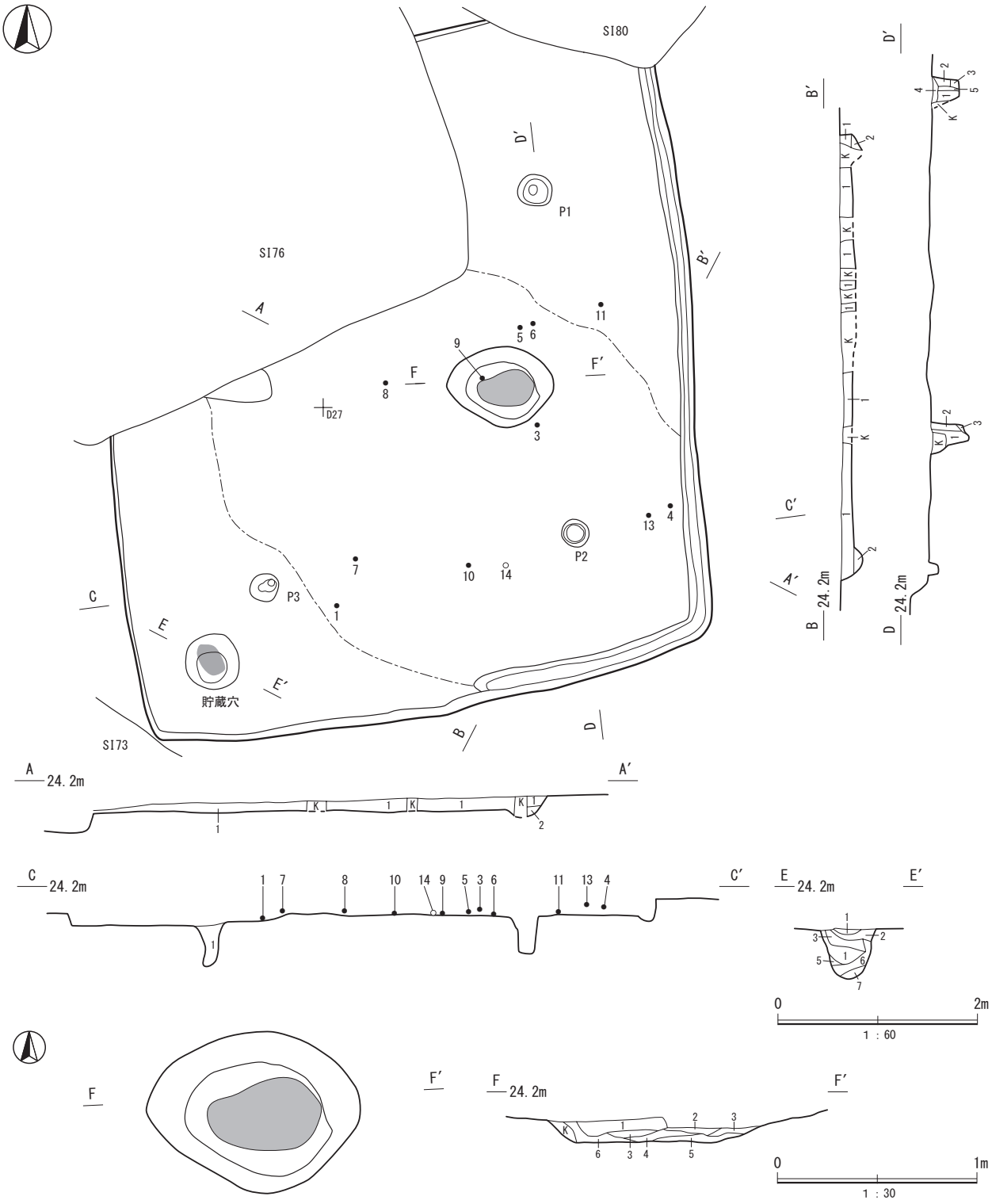
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
59	刀子	(6.3)	1.6	0.2～0.6	(7.0)	鉄	刃部のみ	中央部床面	写真図版45
60	鉄滓	(5.9)	5.6	2.1	(102.0)	鉄	磁力に反応なし	覆土中	

第 79 号竪穴建物跡 (SI-79)(第 61・62・63 図　写真図版 13・14)

位置　調査区中央部C 26･27、D 26･27 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 73・76・80 号竪穴建物に掘り込まれている。



第 61 図　第 79 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ローム粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

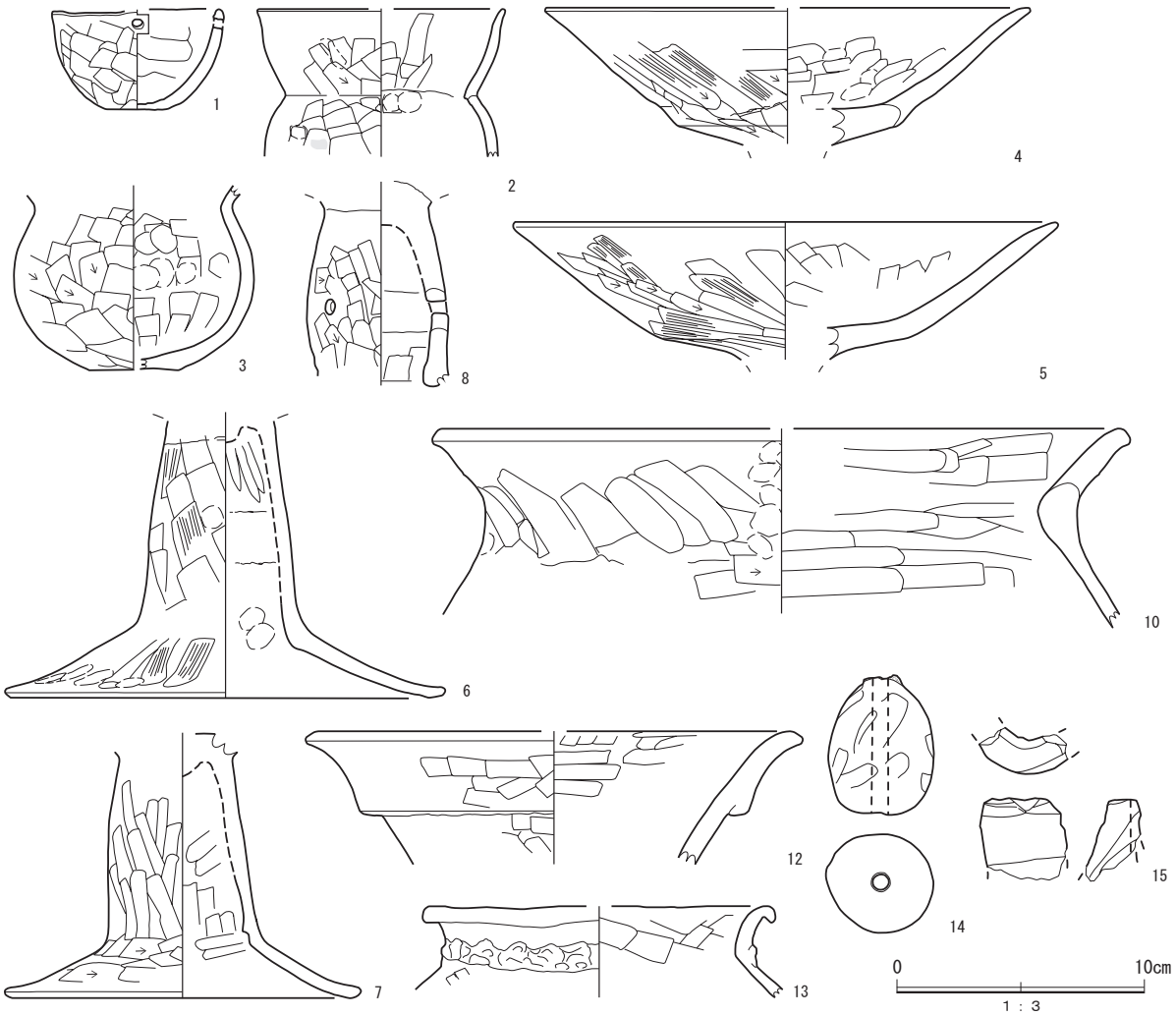
1　7.5YR　3/4　黒　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし 締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　2/2　黒　褐　色　ロームブロック中量・粒子／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/2　灰　褐　色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴土層解説

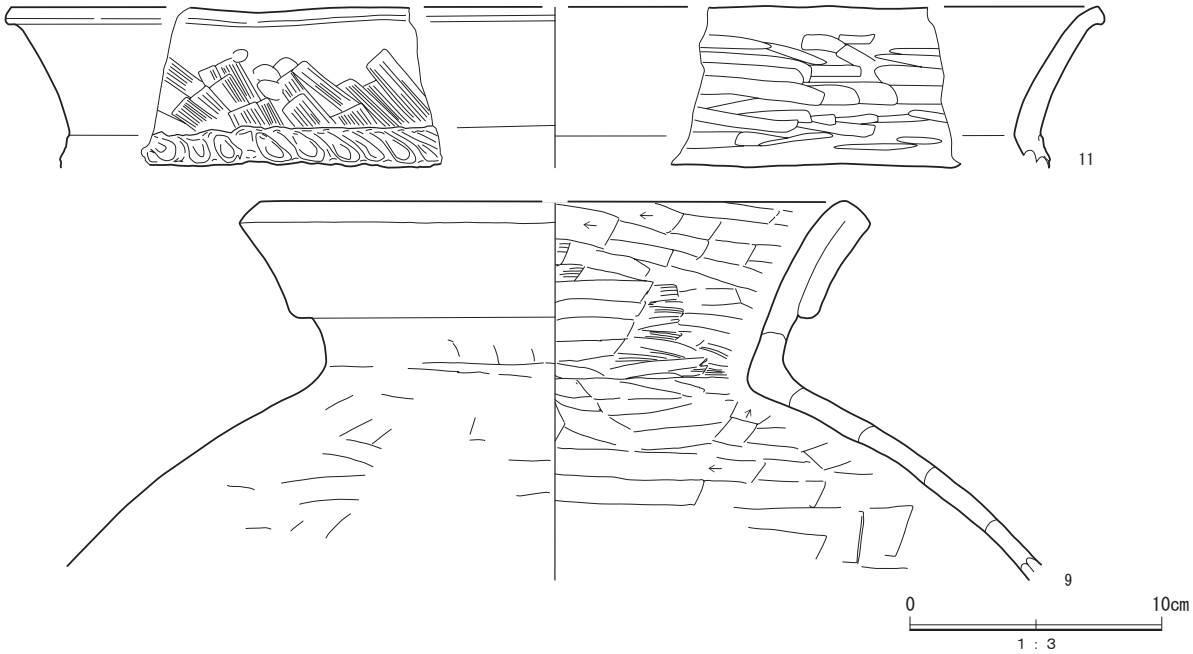
1　7.5YR　4/2　灰　褐　色　ローム粒子少量　焼土ブロック中量・粒子少量　黄白色粘土ブロック・粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　4/2　灰　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　黄白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりなし
7　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説

1　5YR　2/3　極暗赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
5　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりあり
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 62 図　第 79 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 63 図　第 79 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 31 表　第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	[6.8]	4.1	[2.4]	長石・白色粒子	黄橙	良好	内外面横位のヘラナデ　口縁下に径 0.3㎝の穿孔２か所	南西部床面	90% 写真図版 45
2	土師器	坩	[9.9]	(6.0)	—	長石･石英･雲母	明黄橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ	覆土中	10%
3	土師器	坩	—	(7.5)	[3.6]	長石･石英･雲母・黒色粒子	にぶい橙	良好	体部外面斜位のヘラ削り後縦位のヘラナデ	炉南側覆土下層	15%
4	土師器	高坏	[19.6]	(5.6)	—	長石・チャート・黒色粒子	橙	良好	口縁部横ナデ　坏部外面縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ	南東部覆土下層	25%
5	土師器	高坏	[21.8]	(5.6)	—	長石・チャート・黒色粒子・雲母	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面ヘラナデ	炉北側床面	30% 写真図版 45
6	土師器	高坏	—	(10.8)	[13.8]	長石・チャート・黒色粒子	橙	良好	脚部外面縦位のヘラナデ　裾部横位のヘラ削り　内面ナデ	炉北側床面	25%
7	土師器	高坏	—	(11.7)	[17.6]	長石･石英･チャート	にぶい黄橙		脚部外面ヘラナデ　脚部横ナデ　内面指圧痕	南西部床面	25% 写真図版 45
8	土師器	高坏	—	(8.3)	—	長石・チャート・黒色粒子	橙	良好	脚部横位のヘラ削り後縦位のヘラナデ　内面横ナデ　裾部穿孔３か所	炉西側覆土下層	30% 写真図版 45
9	土師器	甕	[23.0]	(15.0)	—	長石・チャート・黒色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内面横位のハケ目調整後ヘラナデ　体部内面縦位・横位のヘラナデ　外面摩滅のため調整痕不明	炉内	15%
10	土師器	甕	[27.6]	(8.1)	—	長石･雲母･黒色粒子	橙	良好	口縁部横ナデ　頸部斜位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	南部覆土下層	5%
11	土師器	甕	[43.2]	(6.4)	—	長石･雲母･黒色粒子	にぶい黄橙	良好	口縁部外面ハケ目調整　体部との境に粘土貼り付け痕　内面横位のヘラナデ	炉東側覆土下層	15% 煤付着
12	土師器	甕	[19.2]	(5.4)	—	長石・チャート・黒色粒子	にぶい橙	良好	口縁部内外面横位のヘラナデ	覆土中	15%
13	土師器	甕	[13.8]	(3.7)	—	長石・チャート・黒色粒子	橙	良好	口縁部ナデ	南東部覆土下層	25%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	管状土錘	5.5	3.9～4.3	0.65	91.0	長石・雲母	黒	外面ナデ　一方向からの穿孔	南部覆土下層	
15	羽口	(3.3)	(3.5)	—	(17.0)	長石・雲母	黒	土錘を羽口転用	覆土中	

規模と形状　長軸は6.60ｍ、短軸は5.82ｍで平面形は方形である。主軸方位はＮ－５°－Ｗである。壁は確認面から最大高10cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、南西壁と北東壁・南東壁の一部で確認でき、上幅20～30cm、下幅６～12cm、深さ6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　東壁から中央部にかけて踏み固められている。

炉　中央から東寄りに付設されており、長軸106cm、短軸78cmの不整楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　２層に分層できる。ロームや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴である。Ｐ１:32×30cm、深さ30cm、Ｐ２:28×28cm、深さ40cm、Ｐ３：30×30cm、深さ52cmである。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置し、長径54cm、短径50cmの円形で、深さ50cm円形である。

遺物出土状況　土師器片1,004点[坏14点(155g)、高坏166点(5,840g)、坩40点(431g)、甕784点(12,024g)]、須恵器坏片２点(９g)、弥生土器片14点(103g)、陶器片１点(10g)、土製品１点(91g)、礫15点(398g)。１の土師器椀、７の土師器高坏は南西部の床面、３の土師器坩は炉南側の覆土下層、４の土師器高坏・13の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。５・６の土師器高坏は炉の北側の床面・８の土師器高坏は炉の西側の覆土下層、９の土師器甕は炉内、11の土師器甕は炉の東側の覆土下層、10の土師器甕・14の管状土錘は南部の覆土下層から出土している。２の土師器坩・12の土師器甕・15の羽口は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀後葉と考えられる。

第80号竪穴建物跡(SI-80)(第64・65図　写真図版12・14・15)

位置　調査区中央部Ｂ26～28、Ｃ27グリットに位置し、標高24ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第75・76・79号竪穴建物に掘り込まれている。

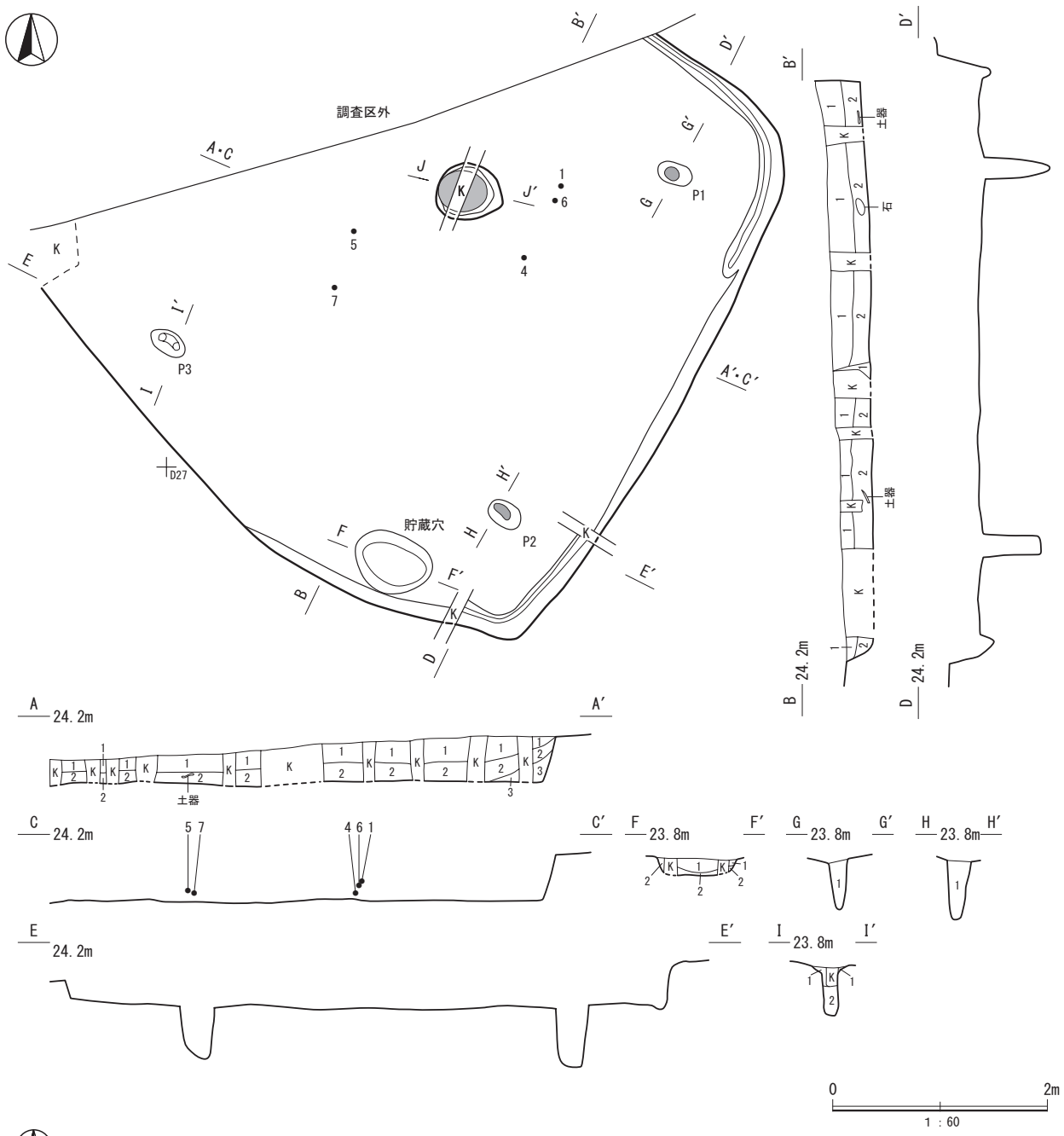
規模と形状　北西部が調査区外に延び、南部が第79号竪穴建物に掘り込まれているため、北東・南西軸は5.90ｍ、北西・南東軸は5.80ｍしか確認できなかった。平面形は隅丸方形で、主軸方位はＮ－25°－Ｅと推定される。壁は確認面から最大高46cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、北東壁・南東壁の一部で確認され、上幅14～16cm、下幅６～10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

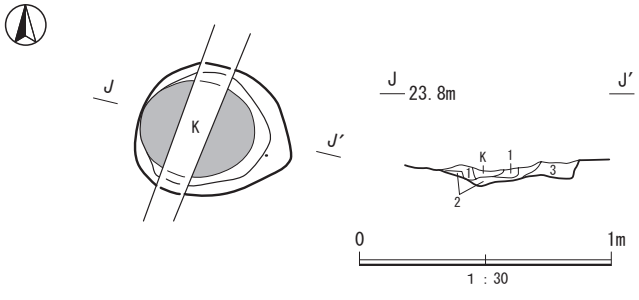
床　炉周辺が踏み固められている。

炉　中央から北東寄りに付設されており、長軸62cm、短軸52cmの不整楕円形で、床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　３層に分層できる。粒子が均一で規則的な堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:38×26cm、深さ60cm、





第 64 図　第 80 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　黒色土粒子中量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

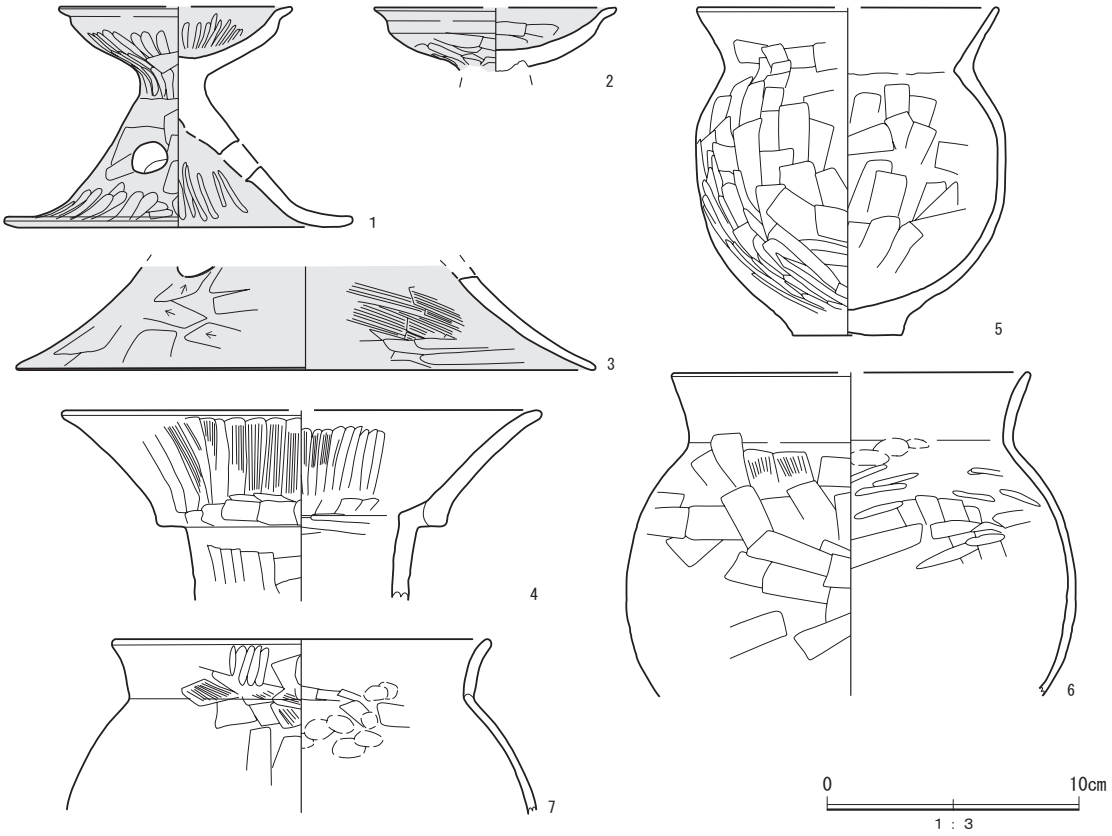
1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりなし

貯蔵穴土層解説

1　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

炉土層解説

1　2.5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　ローム粒子多量／粘性あり　締まりなし



第 65 図　第 80 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 32 表　第 80 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	[9.2]	(8.8)	[13.8]	チャート・黒色粒子・白色粒子	橙	良好	坏部外面縦位のヘラミガキ　内面放射状のヘラミガキ　脚部上位縦位のヘラナデ　裾部縦位のヘラミガキ　内外面赤彩　脚部3か所の穿孔	炉東側覆土中層	90% 写真図版46
2	土師器	器台	[9.5]	(2.5)	—	長石・チャート・黒色粒子	明褐	良好	坏部内外面横位のヘラナデ　内外面赤彩	覆土中	30%
3	土師器	高坏	—	(4.1)	[17.2]	長石・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部ヘラ削り後ヘラナデ　内面ハケナデ　裾部横ナデ　内外面赤彩	覆土中	5%
4	土師器	壺	[18.8]	(7.6)	—	長石・黒色粒子	橙	良好	口縁部内外面縦位のヘラミガキ　頸部縦位のヘラナデ	炉東側床面	20% 写真図版46
5	土師器	甕	[11.8]	13.1	[4.3]	長石・黒色粒子	にぶい黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部内外面縦位のヘラナデ	炉西側覆土下層	60% 煤付着 写真図版46
6	土師器	甕	[14.0]	(12.9)	—	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　頸部縦位のハケナデ　体部外面縦位のヘラナデ　内面ヘラナデ	炉東側覆土中層	20%
7	土師器	甕	14.8	(6.9)	—	長石・チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　頸部ハケナデ　体部外面縦位のヘラナデ	炉西側覆土下層	10%

Ｐ２：40 × 24cm、深さ 52cm、Ｐ３：54 × 22cm、深さ 48cmである。Ｐ２・Ｐ３は立て替えられたものと考えられる。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 72cm、短径 50cmの楕円形で、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器片 379 点 [坏 8 点 (84g)、高坏 4 点 (103g)、器台 4 点 (385g)、坩 7 点 (166g)、甕 355 点 (5,746g)、甑 1 点 (18g)]、須恵器片 9 点［坏 6 点 (36g)、甕 3 点 (73g)］、縄文土器片 7 点 (170g)、弥生土器片 72 点 (978g)、礫 8 点 (175g)。１の土師器器台・６の土師器甕は炉の東側の覆土中層、４の土師器壺は炉東側の床面、５・７の土師器甕は炉西側の覆土下層から出土している。２の土師器器台・3 の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。

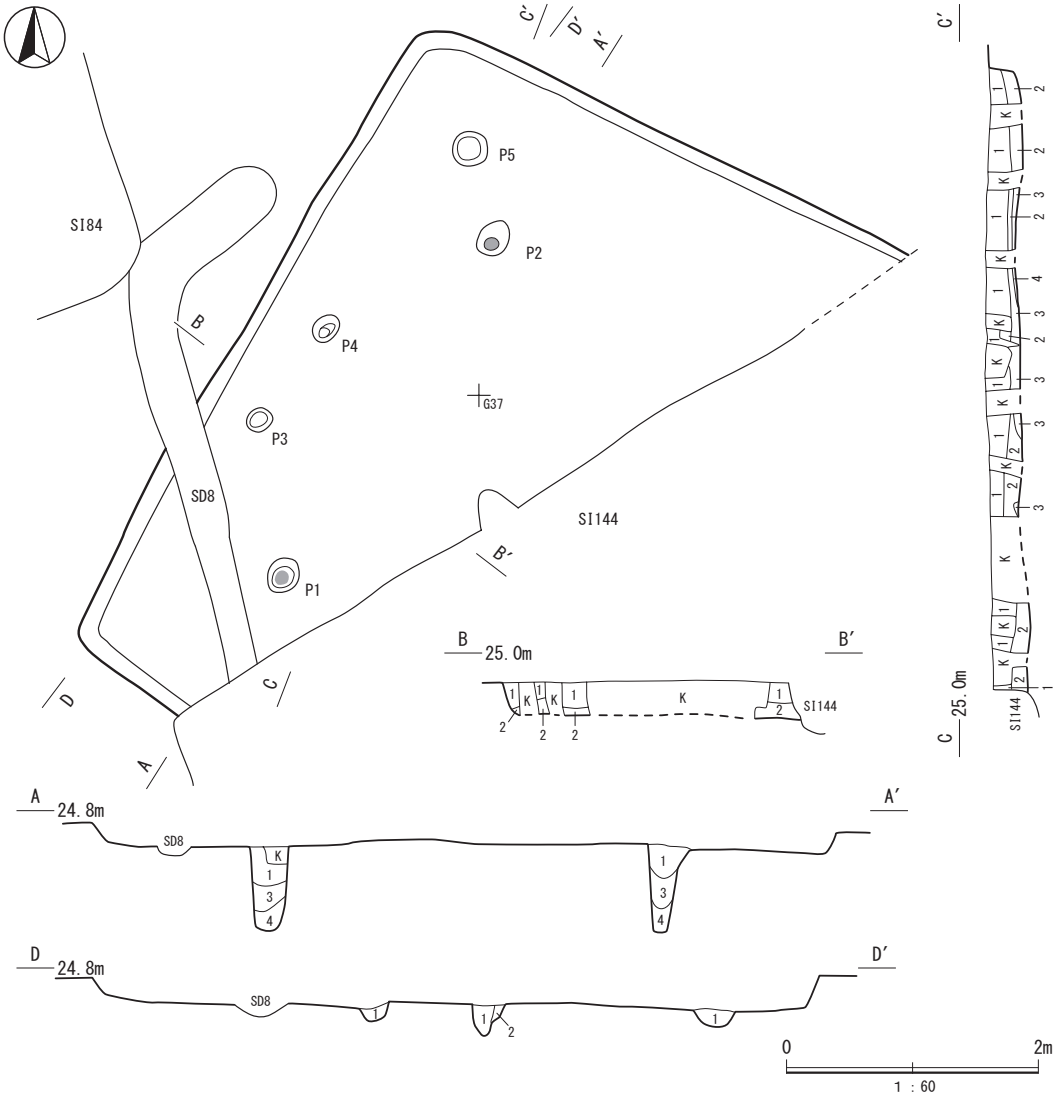
第 82 号竪穴建物跡 (SI-82)(第 66・67 図　写真図版 15・31)

位置　調査区中央部Ｆ 26･27、Ｇ 36･37 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第６・８号溝、第 144 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南東部を第 144 号竪穴建物に掘り込まれ、北東･南西軸は 5.72 ｍで、北西･南東軸は 4.20 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測される。主軸方位はＮ－ 30° － Ｅと推定される。壁は確認面から最大高 22㎝で、外傾して立ち上がっている。



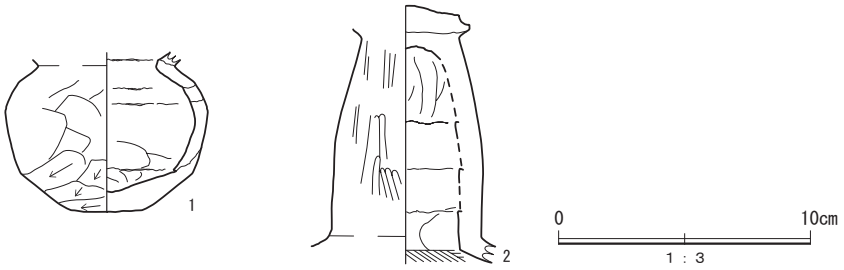
第 66 図　第 82 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YT　3/2　黒褐色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/1　黒褐色　ローム粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 67 図　第 82 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 33 表　第 82 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	(6.2)	2.4	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	30%
2	土師器	高坏	—	(10.2)	—	長石･石英･雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のナデ	覆土中	35%

床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１･Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１：32 × 28cm、深さ 66cm、Ｐ２：30 × 28cm、深さ 64cm、Ｐ３：20 × 18cm、深さ 14cm、Ｐ４：24 × 20cm、深さ 22cm、Ｐ５：30 × 22cm、深さ 14cmである。

遺物出土状況　土師器片 12 点 [高坏 1 点 (1,130g)、坩 1 点 (163g)、甕 10 点 (63g)]、須恵器坏片 1 点 (10g)、礫 4 点 (287g)。１の土師器坩・２の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。

第 83 号竪穴建物跡 (SI-83)(第 68・69・70 図　写真図版 15)

位置　調査区中央部Ｄ 34・35、Ｅ 34・35、Ｆ 35 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 140・141 号竪穴建物跡を掘り込み、第３号柱穴列に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.46 ｍ、短軸 5.20 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ − 25° − Ｗである。壁は確認面から最大高 34cmで、ほぼ直立している。壁溝は、全壁で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 10cm、深さ 10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

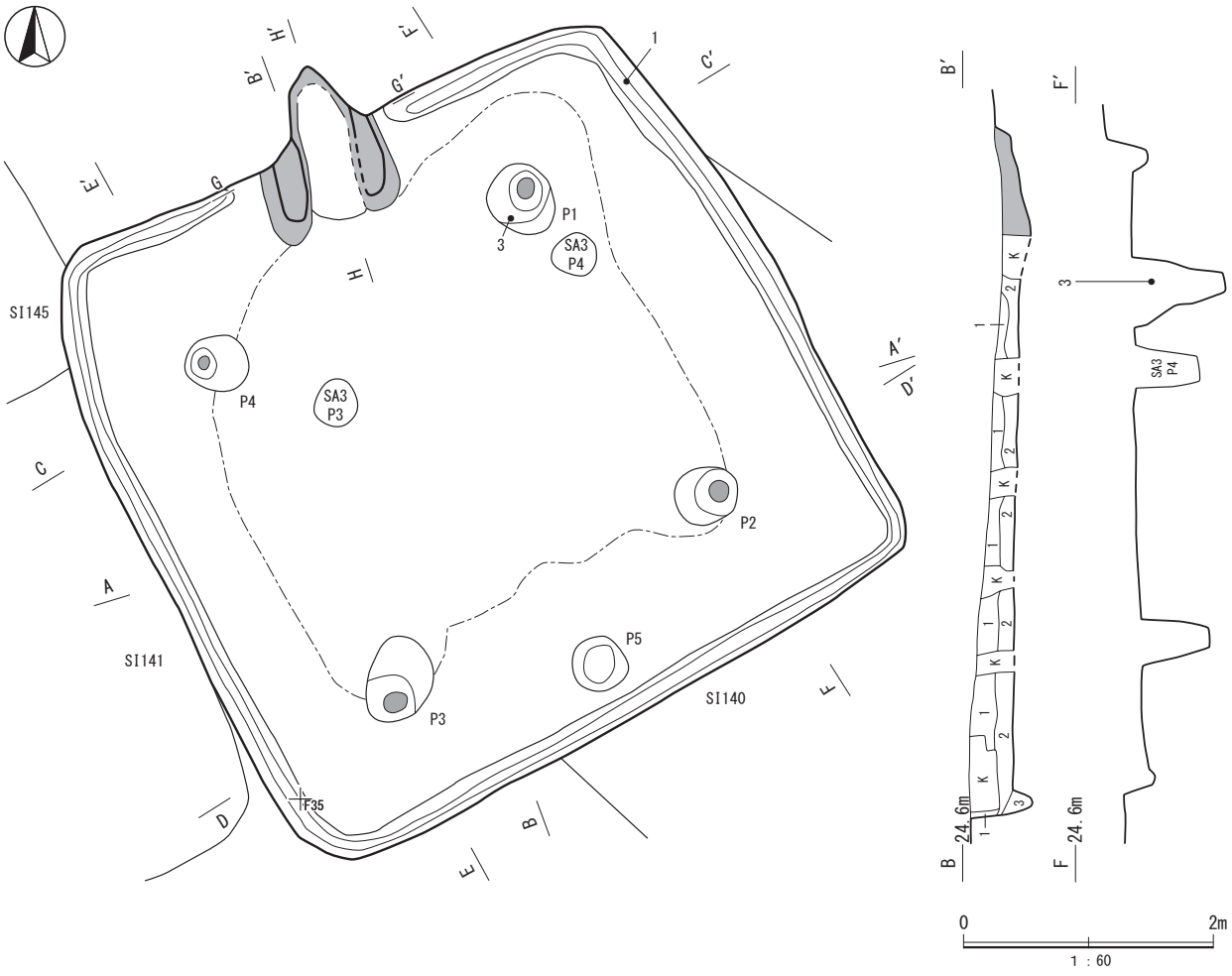
竈　北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 130cmである。袖部の基部の最大幅は 110cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

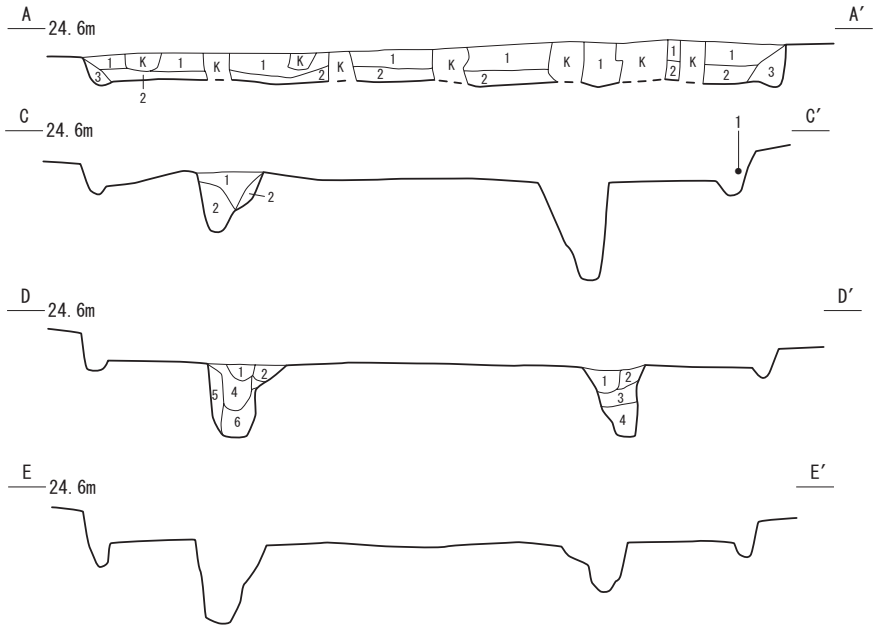
ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 52cm、深さ 70cm、Ｐ２:60 × 35cm、深さ 60cm、Ｐ３:70 × 50cm、深さ 58cm、Ｐ４:50 × 50cm、深さ 40cm、Ｐ５：40 × 40cm、深さ 40cmである。

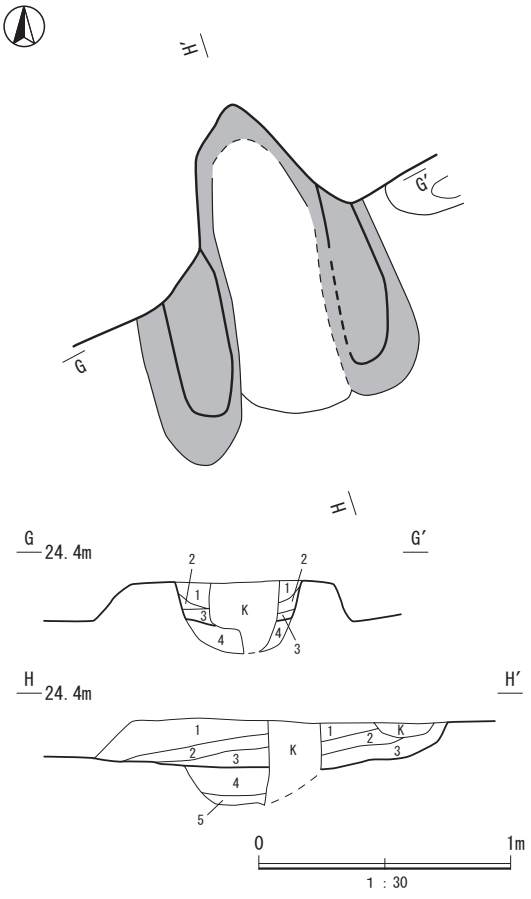
遺物出土状況　土師器片 293 点 [坏 28 点 (361g)、高坏 12 点 (149g)、手捏土器 1 点 (38g)、甕 252 点 (4,509g)]、須恵器甕片 1 点 (10g)、縄文土器片 4 点 (74g)、弥生土器片 16 点 (152g)、陶器片 1 点 (20g)、礫 12 点 (397g)。１の土師器甕は北東部の覆土下層、３の土師器甕はＰ１内から出土している。２・４の土師器甕・５の手捏土器は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期と考えられる。



第 68 図　第 83 号竪穴建物跡実測図 (1)





土層解説

1	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

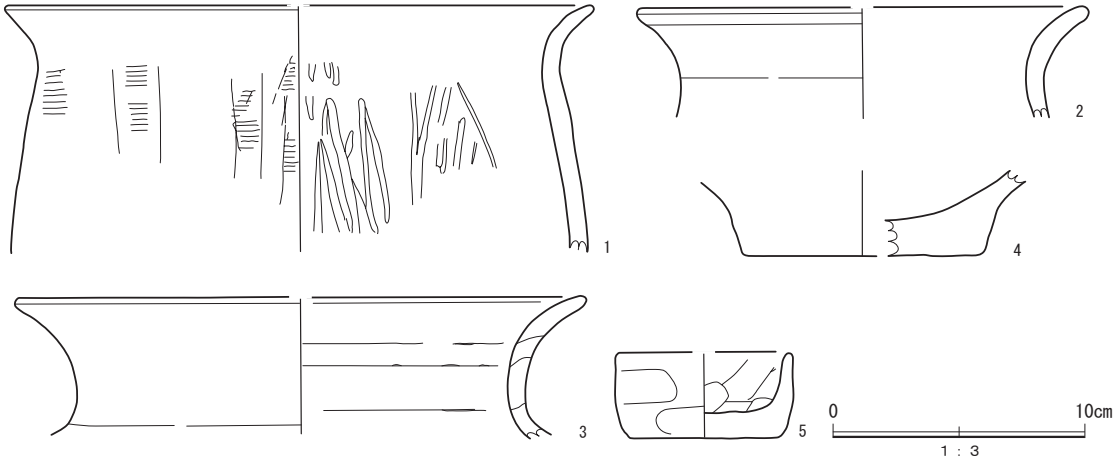
ピット土層解説

1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりあり
2	7.5YR	4/3	褐		色	ロームブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	6/1	褐	灰	色	粘土ブロック多量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/1	褐	灰	色	ローム粒子多量／粘性なし　締まりなし
5	7.5YR	4/4	褐		色	ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
6	7.5YR	4/4	褐		色	ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説

1	2.5YR	3/3	暗 赤 褐	色	焼土粒子微量　粘土ブロック・粒子少量／粘性なし 締まりあり
2	2.5YR	5/3	にぶい赤褐	色	炭化粒子少量　粘土ブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	2.5YR	3/2	暗 赤 褐	色	焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土ブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりあり
4	2.5YR	4/6	赤　褐	色	焼土粒子多量　ロームブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
5	5YR	5/4	にぶい赤褐色		焼土粒子多量　ローム粒子微量　粘土ブロック・粒子微量／粘性なし 締まりあり

第 69 図　第 83 号竪穴建物跡実測図 (2)



第 70 図　第 83 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 34 表　第 83 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[23.0]	(0.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ後縦位のヘラミガキ	北東部覆土下層	5%
2	土師器	甕	[17.5]	(4.4)	—	長石･石英･雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
3	土師器	甕	[22.4]	(5.6)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	Ｐ１内	5%
4	土師器	甕	—	(3.3)	[9.4]	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面摩滅により調整痕不明　内面ヘラナデ	覆土中	5%
5	土師器	手捏土器	[6.8]	3.8	[5.9]	長石・石英	褐	普通	内面ナデ	覆土中	20%

第 84 号竪穴建物跡 (SI-84)(第 71・72 図　写真図版 11・12)

位置　調査区中央部Ｆ 35・36 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 58 号竪穴建物跡を掘り込み、第 1 号柱穴列に掘り込まれている。

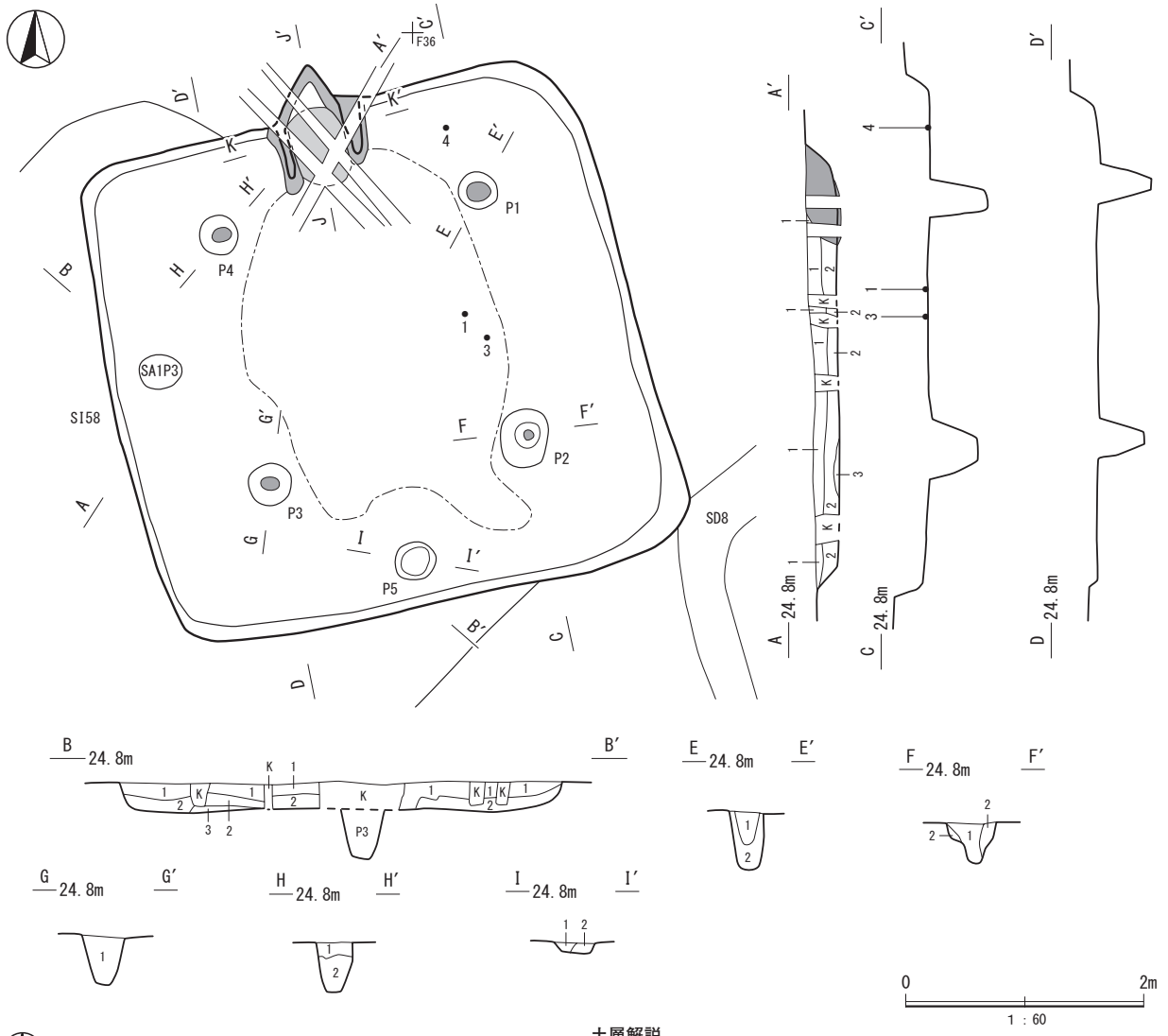
規模と形状　長軸 4.42 ｍ、短軸 4.40 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 15°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 22㎝で、外傾して立ち上がっている。

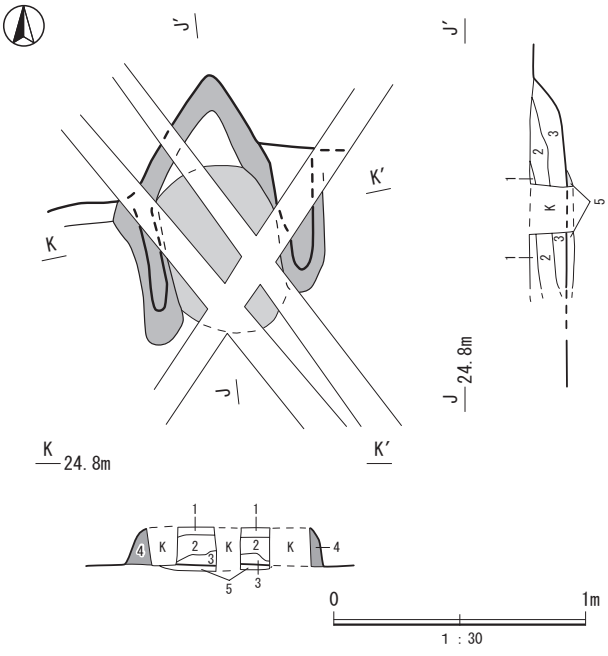
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110㎝である。袖部の基部の最大幅は 78㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：32 × 30㎝、深さ 50㎝、Ｐ２:40 × 34㎝、深さ 30㎝、Ｐ３:40 × 38㎝、深さ 40㎝、Ｐ４:44 × 40㎝、深さ 70㎝、Ｐ５：30 × 30㎝、深さ 10㎝である。





土層解説

1	7.5YR	3/3	暗	褐	色 ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2	7.5YR	3/1	黒	褐	色 ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
3	7.5YR	4/3	褐		色 ロームブロック・粒子微量／粘性なし 締まりなし

P1・P4 土層解説

1	7.5YR	3/3	暗	褐	色 ロームブロック少量・粒子中量　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりあり
2	7.5YR	3/2	黒	褐	色 ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

P2・P5 土層解説

1	7.5YR	3/4	暗	褐	色 ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2	7.5YR	4/6	褐		色 ロームブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし

P3 土層解説

1	7.5YR	3/3	暗	褐	色 ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり 締まりなし

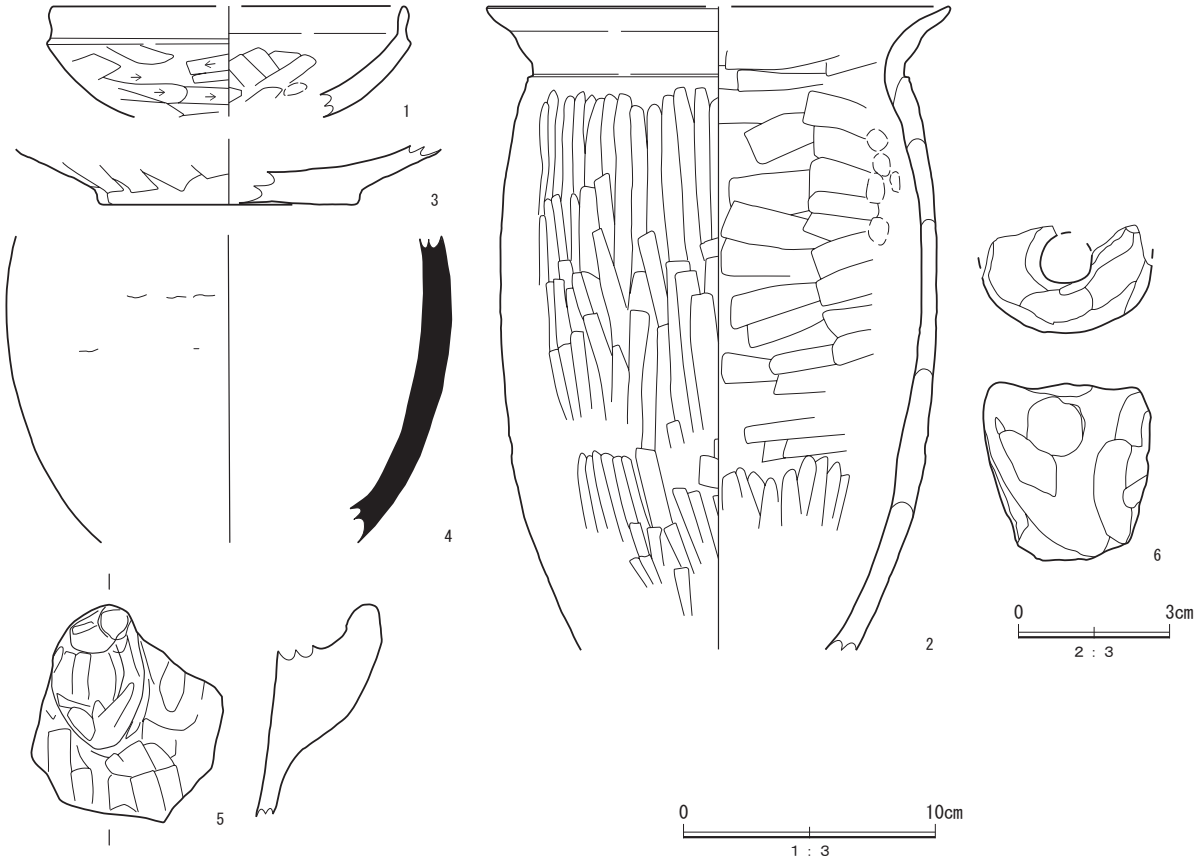
竈土層解説

1	2.5YR	4/3	にぶい赤褐色		焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2	2.5YR	3/3	暗	赤 褐 色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし 締まりなし
3	2.5YR	3/6	暗	赤 褐 色	焼土粒子多量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4	2.5YR	5/2	灰	赤 色	焼土粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5	2.5YR	4/6	赤	褐 色	焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

第 71 図　第 84 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 314 点 [坏 11 点 (116g)、高台付坏 1 点 (15g)、高坏 38 点 (910g)、坩 4 点 (52g)、甕 259 点 (4,082g)、甑 1 点 (124g)]、須恵器片 15 点［坏 2 点 (12g)、長頸瓶 1 点 (402g)、甕 12 点 (255g)］、土製品 1 点 (18g)、磁器片 4 点 (44g)、礫 21 点 (1,516g)。１の土師器坏･3 の土師器甕は中央部の床面、４の須恵器長頸瓶はは北東部の床面から出土している。２の土師器甕・５の土師器甑・６の管状土錘は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀代と考えられる。



第 72 図　第 84 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 35 表　第 84 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(4.4)	—	長石･雲母･チャート	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ　指頭痕	中央部床面	20%
2	土師器	甕	[18.4]	(25.5)	—	長石･雲母･黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	覆土中	25%
3	土師器	甕	—	(2.6)	[10.0]	長石･雲母･黒色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラナデ　底部ヘラ切り後ナデ	中央部床面	5 %
4	須恵器	長頸瓶	—	(12.1)	—	長石･石英･雲母･スコリア	灰白	やや不良	胴部外面横位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り　内面横位のナデ	北東部床面	30% 新治窯
5	土師器	甑	—	(8.5)	—	長石･雲母･チャート	橙	普通	把手部　外面ヘラ削り	覆土中	5 %

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
6	管状土錘	(3.5)	[3.3]	0.95	(18.0)	長石・石英	橙	外面ナデ	覆土中	

第 87 号竪穴建物跡 (SI-87)(第 73・74 図　写真図版 16)

位置　調査区中央部D 31・32、E 32 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

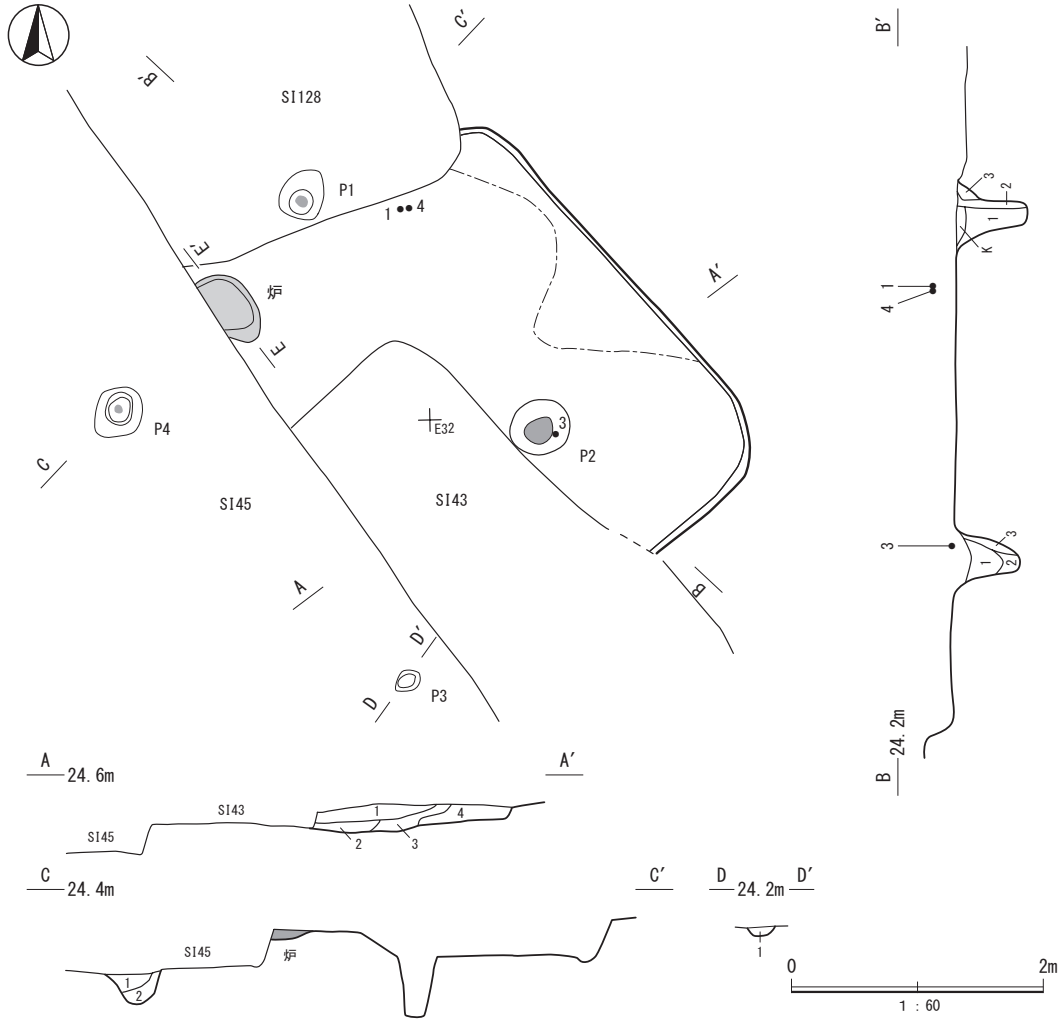
重複関係　第 43・45・128 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　第 43・45・128 号竪穴建物に掘り込まれているため、北西・南東軸は 3.50 mで、北東・南西軸は 2.76 mしか確認できなかった。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形で、主軸方位はN － 40° － W と推定される。壁は確認面から最大高 20cmで、外傾して立ち上がる。

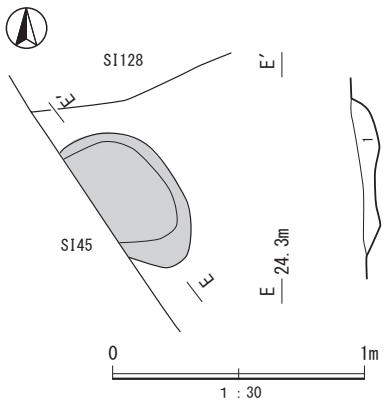
床　炉周辺が踏み固められている。

炉　中央から北西寄りに付設されており、長軸 65cm、短軸 26cmの不整楕円形で、床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。火熱を受けて赤変硬化している。

土層　4 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。



第 73 図　第 87 号竪穴建物跡実測図



土層解説

1　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック多量・粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし

P1・P2 土層解説

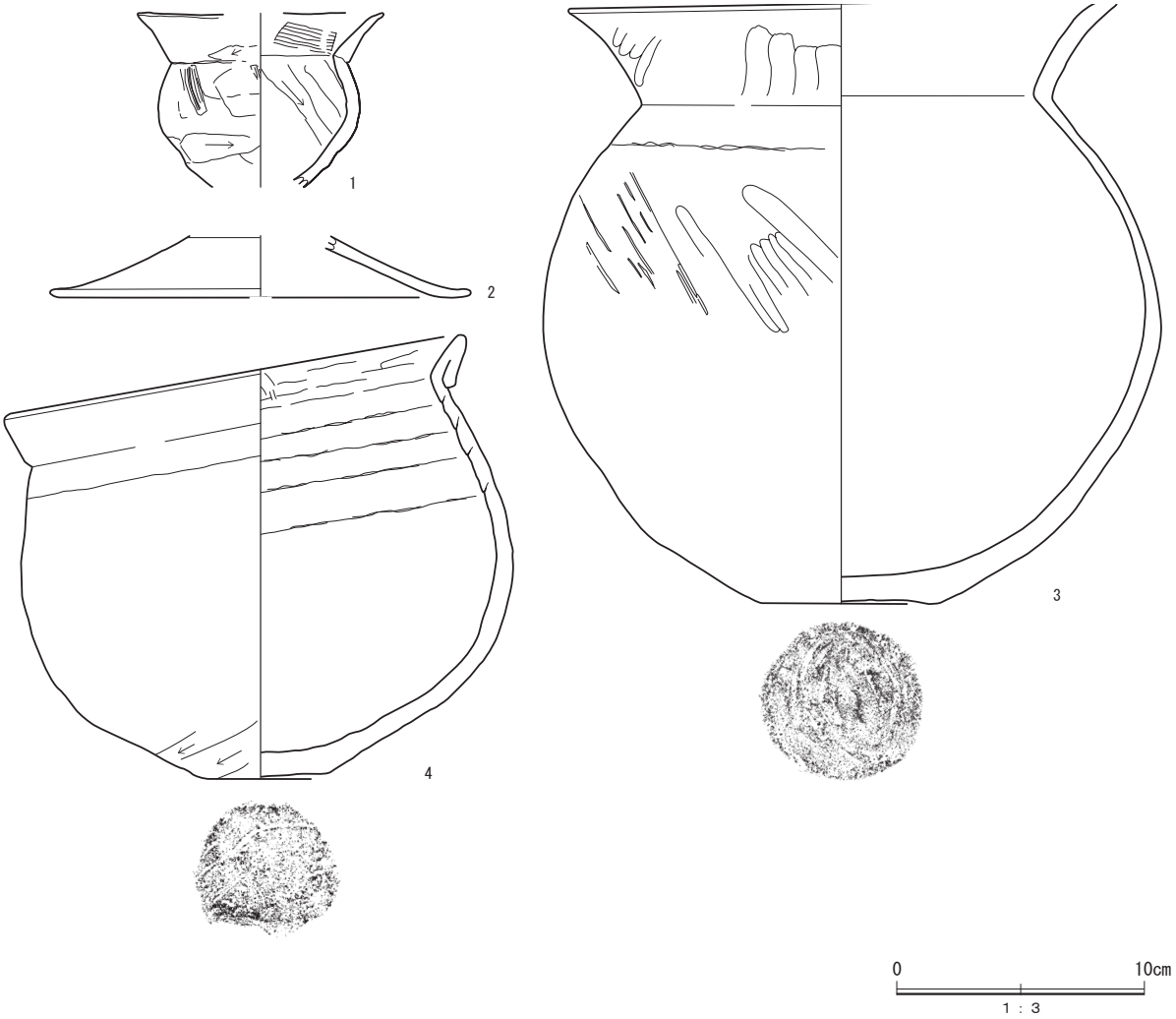
1　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

P3・P4 土層解説

1　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説

1　2.5YR　4/1　赤　灰　色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰少量／粘性なし　締まりなし



第 74 図　第 87 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 36 表　第 87 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	10.0	(7.0)	—	長石・石英	にぶい褐	良好	口縁部横ナデ　内面かすかに残す刷毛目ナデ 体部外面斜位のハケ目ナデ　内面ヘラナデ	北東部覆土中層	30% 写真図版 46
2	土師器	高坏	—	(2.5)	[17.0]	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	台部内外面横ナデ	覆土中	10%
3	土師器	甕	21.9	24.4	7.0	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラナデ　底部ナデ	P2 内	85% 写真図版 46
4	土師器	甕	17.6 ～ 18.3	17.9	4.9	長石･石英･雲母	黒褐	普通	口縁部貼り付け後ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明　下端斜位のヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	北東部覆土中層	70% 写真図版 46

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:48 × 42cm、深さ 48cm、Ｐ２：24 × 18cm、深さ 12cm、Ｐ３：42 × 30cm、深さ 28cm、Ｐ４：42 × 32cm、深さ 60cmである。

遺物出土状況　土師器片 224 点 [坏 12 点 (109g)、高坏 22 点 (277g)、坩３点 (143g)、甕 187 点 (4,647g)]、須恵器片２点 [坏１点 (2g)、甕１点 (12g)]、弥生土器片 45 点 (469g)、礫１点 (21g)。１の土師器坩・４の土師器甕は北東部の覆土中層、３の土師器甕はＰ２内から出土している。２の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第 88 号竪穴建物跡 (SI-88)(第 75 図　写真図版 16）

位置　調査区中央部Ｇ 23・24 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 17・19 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区外に延びて、西部を第 17 号竪穴建物に、東部を第 19 号竪穴建物に掘り込まれているため、北東・南西軸は 3.20 ｍ、北西・南東軸は 4.10 ｍしか確認できなかった。平面形は不明で、主軸方位はＮ－５°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 20cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北西壁の一部で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　北西壁から中央部にかけて踏み固められている。

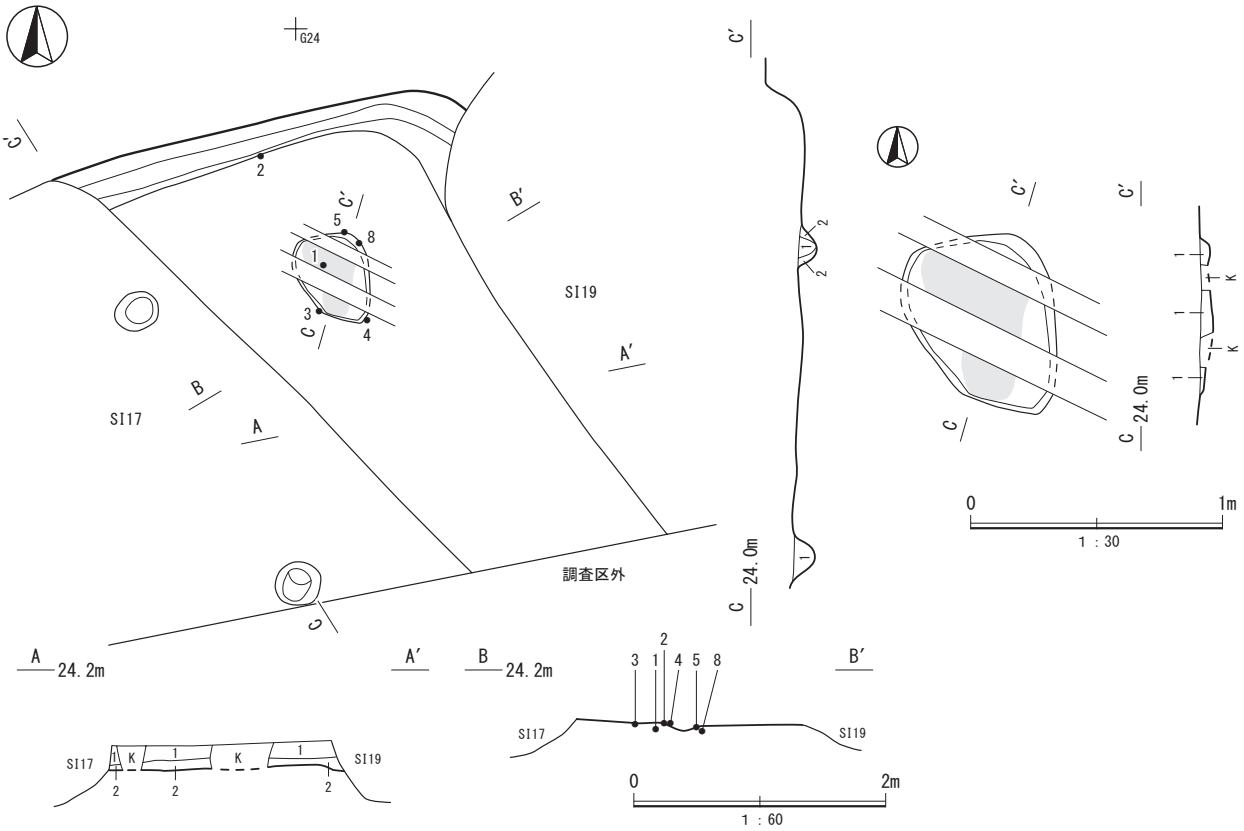
炉　北西壁寄りに付設されており、長軸 80cm、短軸 58cmの不整楕円形で、床面を 10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

土層　２層に分層できる。ローム粒子や炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　第 17 号竪穴建物の床面から、ピット２か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴と考えられる。Ｐ１：30 × 24cm、深さ 12cm、Ｐ２：34 × 28cm、深さ 22cmである。

遺物出土状況　土師器片 113 点 [椀１点 (222g)、高坏 32 点 (1,379g)、坩１点 (335g)、甕 79 点 (1,620g)]、須恵器甕片１点 (９g)、縄文土器片１点 (19g)。１の土師器椀・３～５の土師器高坏・８の土師器甕は炉内、２の土師器坩は北部の床面から出土している。６の土師器高坏・７の土師器壺は覆土中から出土している。

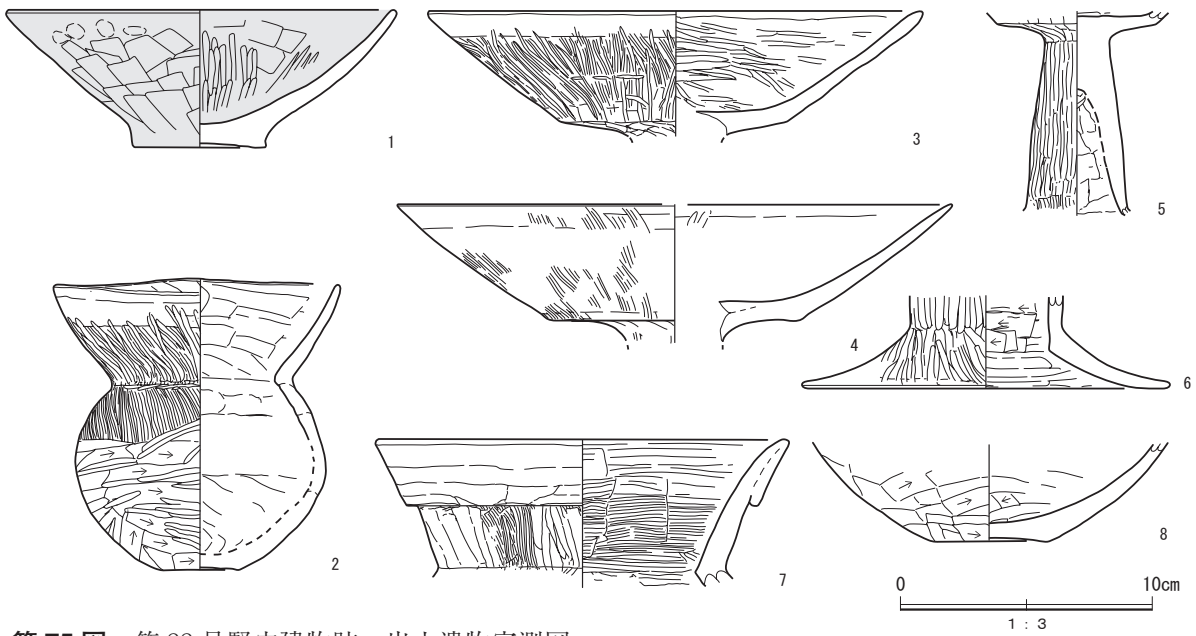
所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。



土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり 締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし 締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　4/8　赤 褐 色　焼土ブロック多量・粒子少量　ローム粒子微量／粘性なし 締まりなし



第 75 図　第 88 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 37 表　第 88 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	[15.2]	5.5	[5.2]	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ後ヘラミガキ　内外面赤彩　底部一方向のヘラナデ	炉内	70%　煤付着　写真図版 46
2	土師器	坩	11.2	11.6	3.0	長石･石英･スコリア	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　頸部外面縦位のヘラナデ後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ　体部外面上位縦位のハケ目　下位横位のヘラ削り後横位のヘラミガキ　底部２方向のナデ	北部床面	100%　写真図版 46
3	土師器	高坏	[19.4]	(5.0)	—	長石･石英･雲母･スコリア	にぶい褐	普通	坏部口縁部横ナデ　体部外面縦位のハケナデ後縦位のヘラミガキ　内面横位・斜位のヘラミガキ	炉内	40%
4	土師器	高坏	[21.8]	(5.5)	—	長石･石英･雲母･スコリア	橙	普通	坏部口縁部横ナデ　体部外面縦位のハケナデ後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラミガキヵ　器面摩滅により不鮮明	炉内	20%　写真図版 46
5	土師器	高坏	—	(8.8)	—	長石･石英･雲母･スコリア	にぶい赤褐	良好	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	炉内	10%
6	土師器	高坏	—	(3.7)	[14.6]	石英･雲母･スコリア	橙	良好	脚部外面縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラ削り　裾部横位のナデ	覆土中	10%
7	土師器	壺	[16.0]	(5.9)	—	長石･石英･雲母･スコリア	にぶい橙	良好	口縁部外面上位横位のヘラナデ　下位縦位のハケナデ後縦位のヘラミガキ　内面横位のハケナデ	覆土中	5%
8	土師器	甕	—	(3.9)	4.5	長石･石英･雲母･チャート	にぶい褐	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラナデ　底部２方向のヘラナデ	炉内	10%

第 90 号竪穴建物跡 (SI-90)(第 76・77・78 図　写真図版 17)

位置　調査区西部Ｊ 7・8、Ｋ 7・8 グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 247 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 5.63 ｍ、短軸 5.38 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 10° － Ｗである。壁は確認面から最大高 30㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北壁から東壁にかけてと南壁の一部で確認でき、上幅 25 ～ 30㎝、下幅８～ 15㎝、深さ 10㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

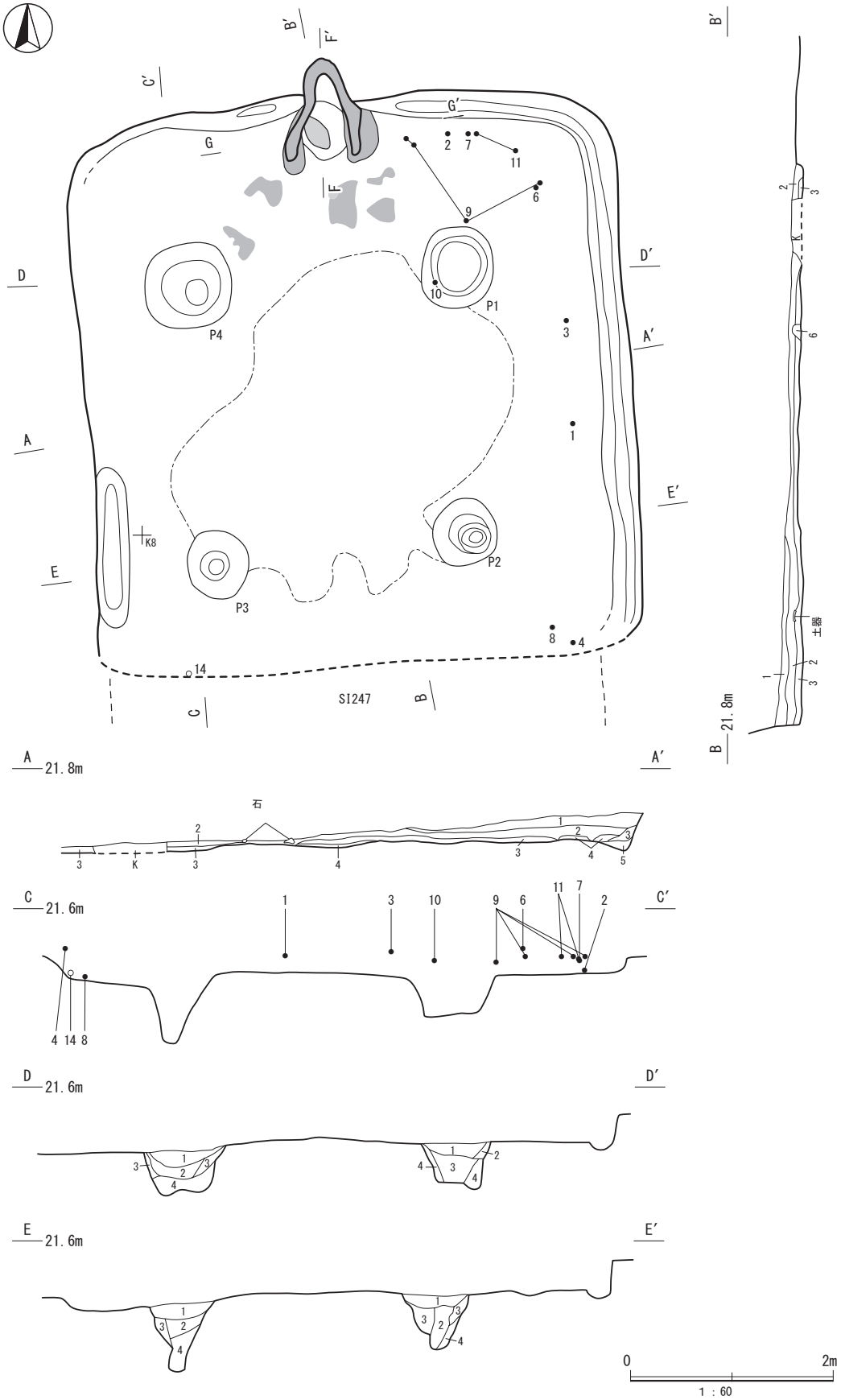
床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、黄白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110㎝である。袖部の基部の最大幅は 94㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

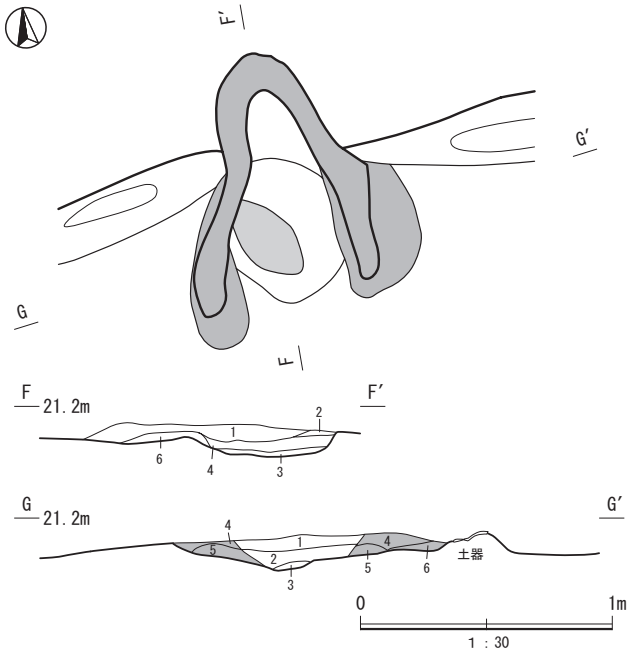
土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:92 × 68㎝、深さ 50㎝、Ｐ２：68 × 64㎝、深さ 58㎝、Ｐ３：62 × 60㎝、深さ 66㎝、Ｐ４：90 × 86㎝、深さ 44㎝である。Ｐ１～Ｐ４は建替えられたと考えられる。

遺物出土状況　土師器片 1,019 点 [坏５点 (652g)、椀２点 (304g)、甑１点 (588g)、甕 1,011 点 (1,300g)]、須恵器片５点［坏１点 (118g)、甕４点 (33g)］弥生土器片 72 点 (934g)、土製品１点 (26g)、石製品１点 (0.2g)、33 点 (6,100g)、貝４点 (21g)。１の土師器坏は東部の床面、２の土師器坏・７の土師器椀は北部の床面、３の土師器坏は東部の床面から出土している。４の土師器坏は南東部の覆土中層、６の須恵器坏・９・11 の土師器甕は北部の覆土下層、８の土師器椀は南東部の床面、10 の土



第 76 図　第 90 号竪穴建物跡実測図



土層解説

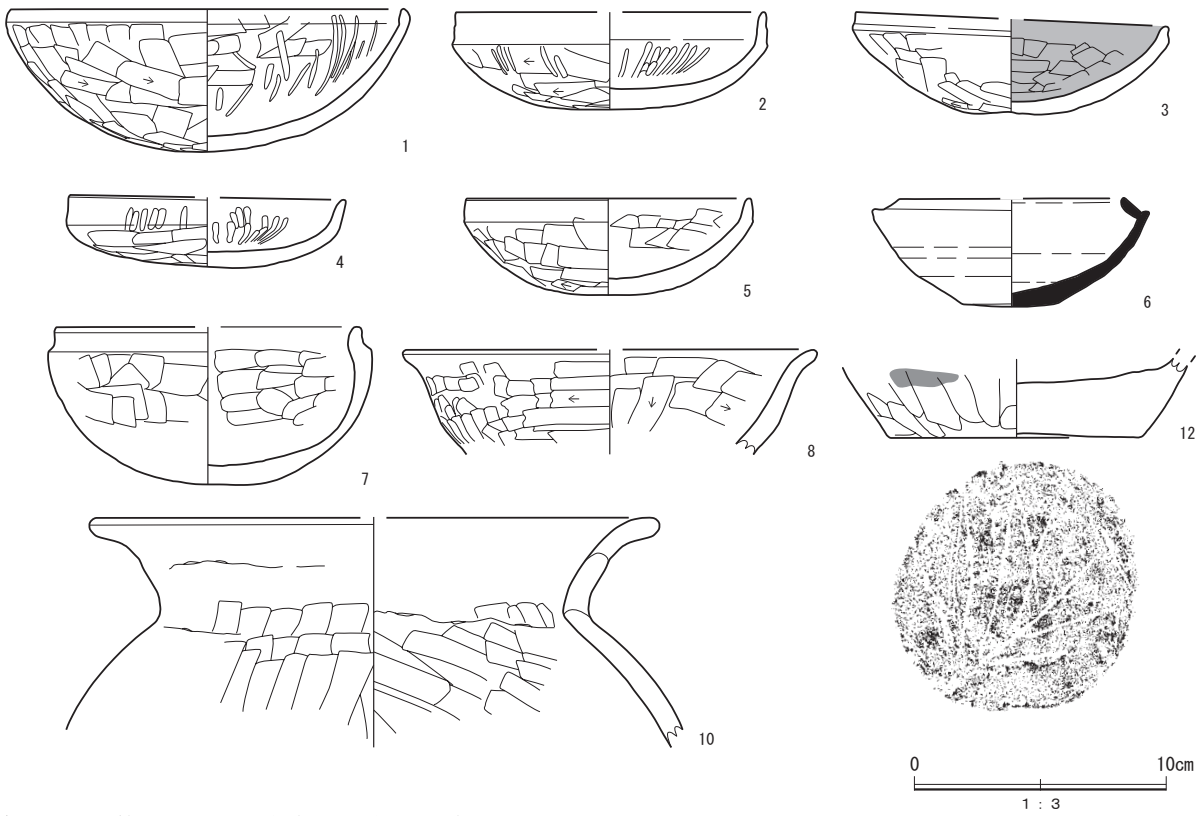
1	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ローム粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/3	褐		色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
5	7.5YR	4/4	褐		色	ローム粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
6	7.5YR	4/4	褐		色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

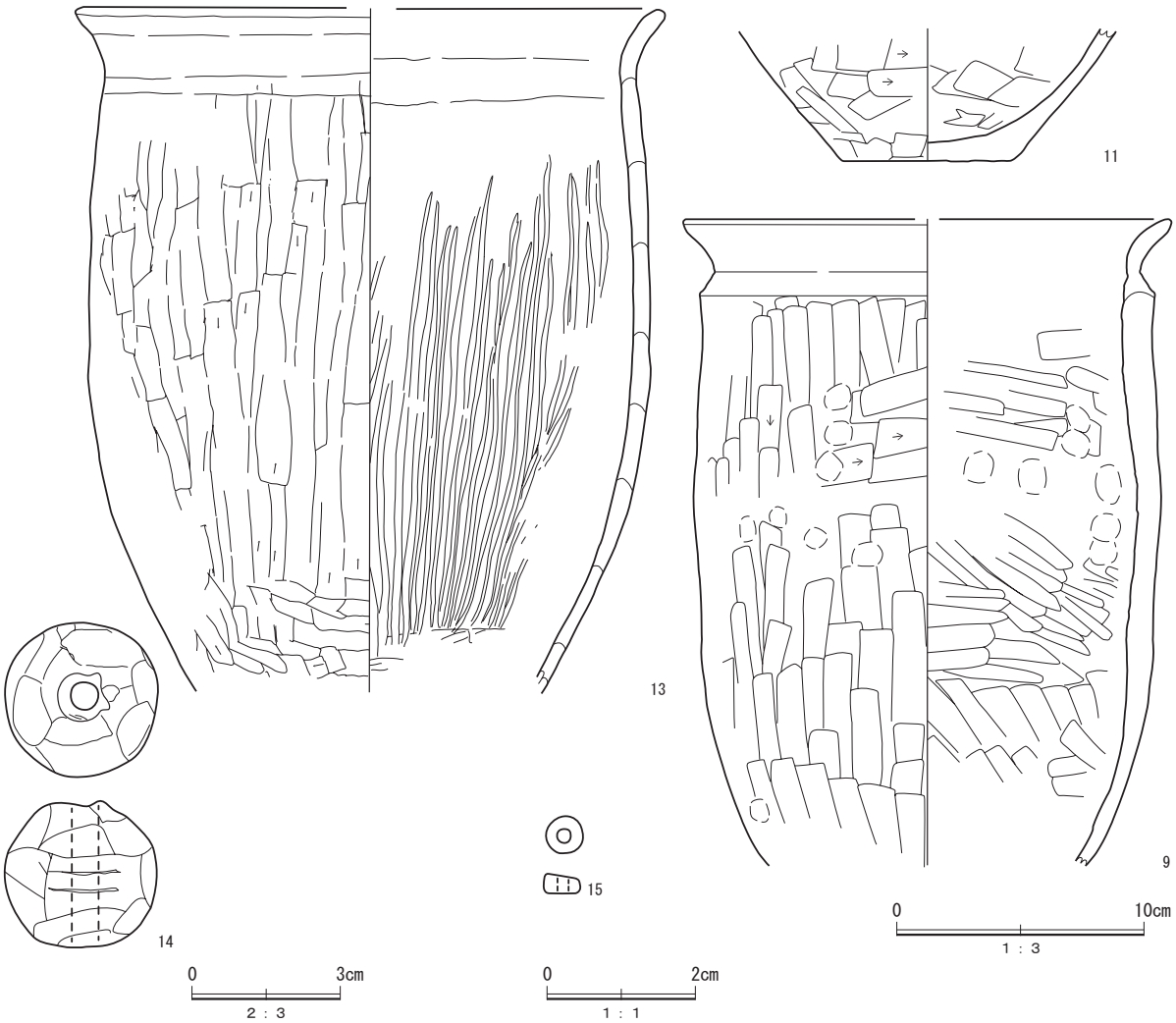
1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ロームブロック・粒子少量／粘性あり　しまりあり
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	4/3	褐		色	ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/3	褐		色	ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	5YR	5/3	にぶい赤褐色	焼土粒子中量	炭化粒子少量	黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子中量	黄白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	5YR	3/6	暗赤橙色	焼土粒子少量	炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし	
4	5YR	7/3	にぶい橙色	焼土粒子微量	炭化粒子少量	黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5	5YR	4/3	にぶい赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子中量	黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
6	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子少量	炭化粒子多量	黄白色粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 77 図　第 90 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 78 図　第 90 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 38 表　第 90 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.6	5.7	—	長石・雲母・チャート	赤褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ後放射状のヘラミガキ	東部床面	70% 煤付着 写真図版 46
2	土師器	坏	12.2	3.9	—	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面放射状のヘラミガキ	北部床面	70%
3	土師器	坏	12.3	4.1	—	長石・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面・内面ナデ　内面黒色処理	東壁床面	65% 煤付着 写真図版 46
4	土師器	坏	[10.8]	2.9	—	長石・雲母・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ後縦位のミガキ　内面放射状のヘラミガキ	南東部覆土中層	50% 写真図版 46
5	土師器	坏	[11.2]	3.9	—	長石・白色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面・横位のナデ	覆土中	45% 煤付着 写真図版 46
6	須恵器	坏	[9.0]	4.3	3.8	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切リ　底部回転ヘラ削り	北部覆土下層	80% 東海産 写真図版 46
7	土師器	椀	[11.0]	6.3	—	長石・雲母・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面・横位のナデ	北部床面	70% 煤付着 写真図版 46

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	土師器	椀	[16.0]	(4.2)	—	長石･雲母･白色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面赤彩・横位のナデ	南東部床面	20%煤付着
9	土師器	甕	[19.8]	(26.1)	—	長石･雲母･黒色粒子	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位・横位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	北部覆土下層	30%煤付着
10	土師器	甕	[22.0]	(9.2)	—	長石･雲母･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　縦部外面縦位のヘラナデ　内面斜位のヘラナデ	Ｐ１内	25%
11	土師器	甕	—	(5.4)	[7.0]	長石･雲母･チャート	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラナデ	北部覆土下層	10%
12	土師器	甕	—	(3.1)	10.0	長石･雲母･黒色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　底部木葉痕	覆土中	10%
13	土師器	甑	[23.4]	(27.6)	—	石英･雲母･スコリア・チャート	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り下端横位のヘラ削り　内面縦位のヘラミガキ	覆土中	40%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土玉	3.1	2.94	0.55	26.4	長石・石英	灰褐	外面ナデ	南西部覆土下層	

番号	種別	徑	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	臼玉	0.5	0.3	0.13	0.2	滑石	孔径 0.12cmである	覆土中	

土師器甕はＰ１内から出土している。13 の土師器甑は東壁の覆土下層、14 の土玉は南西部の覆土下層から出土している。５の土師器坏・15 の石製臼玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。東壁部で焼土が確認できたことから焼失家屋と考えられる。第 247 号竪穴建物の建て替えと考えられる。

第 91 号竪穴建物跡 (SI-91)(第 79・80 図　写真図版 17)

位置　調査区西部Ｈ 7･8、Ｉ 7･8、Ｊ 7･8 グリットに位置し、標高 21 ｍの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。北西部が斜面部である。

規模と形状　長軸は 6.10 ｍで、短軸は 5.37 ｍと推測される。平面形は長方形で、主軸方位はＮ－20°－Ｗと推定される。壁は確認面から最大高５㎝で、ほぼ直立している。壁溝は、東壁と南壁の一部で確認でき、上幅 18 ～ 20cm、下幅６～ 10cm、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

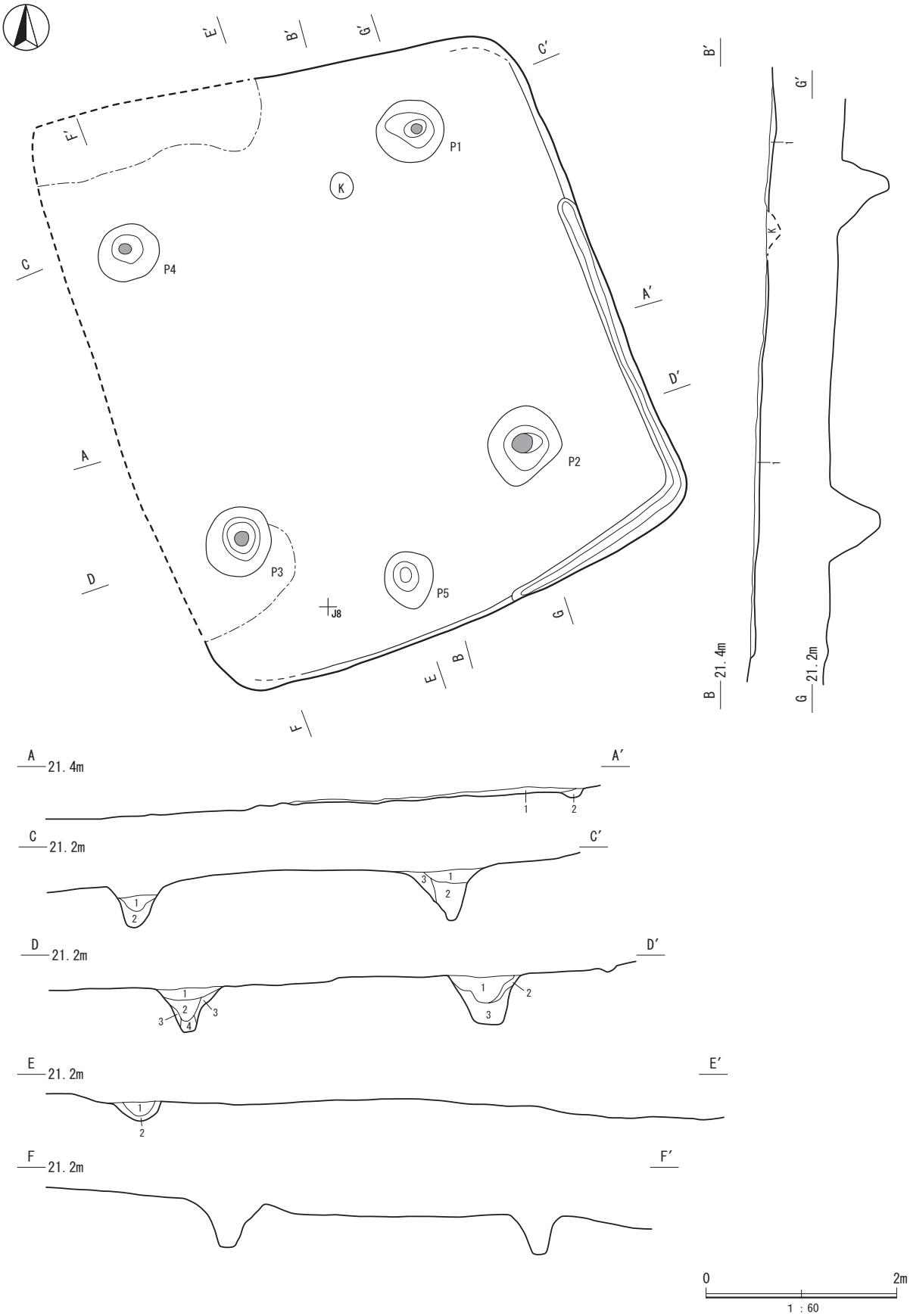
竈　竈は痕跡を確認したのみで、形状を測ることができなかった。

土層　２層に分層できる。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 64cm、深さ 50cm、Ｐ２:80 × 70cm、深さ 50cm、Ｐ３:80 × 64cm、深さ 48cm、Ｐ４:60 × 60cm、深さ 50cm、Ｐ５：50 × 45cm、深さ 20cmである。

遺物出土状況　土師器片 34 点 [坏 4 点 (191g)、坩 1 点 (10g)、甕 29 点 (575g)]、弥生土器片 1 点 (6 g)、礫３点 (320g)。１・２の土師器坏、３の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。



第 79 図　第 91 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　10YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　10YR　4/6　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりあり

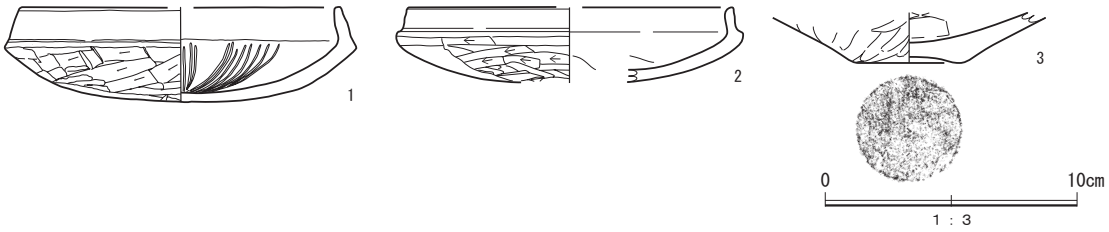
P1 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

P2 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック多量　炭化粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

P3 土層解説
1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

P4 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり

P5 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 80 図　第 91 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 39 表　第 91 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.6]	3.8	—	長石･石英･スコリア	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後横位のヘラミガキ　内面放射状のヘラミガキ	覆土中	50%
2	土師器	坏	[13.0]	(3.0)	—	長石･石英･スコリア・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	覆土中	10%
3	土師器	壺	—	(2.0)	[4.2]	長石･石英･雲母･スコリア	にぶい褐	良好	体部外面ヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面ヘラナデ　底部ナデ	覆土中	10%

第 93 号竪穴建物跡 (SI-93)(第 81・82・83 図　写真図版 18・19)

位置　調査区西部Ｊ 6、Ｋ 5・6 グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

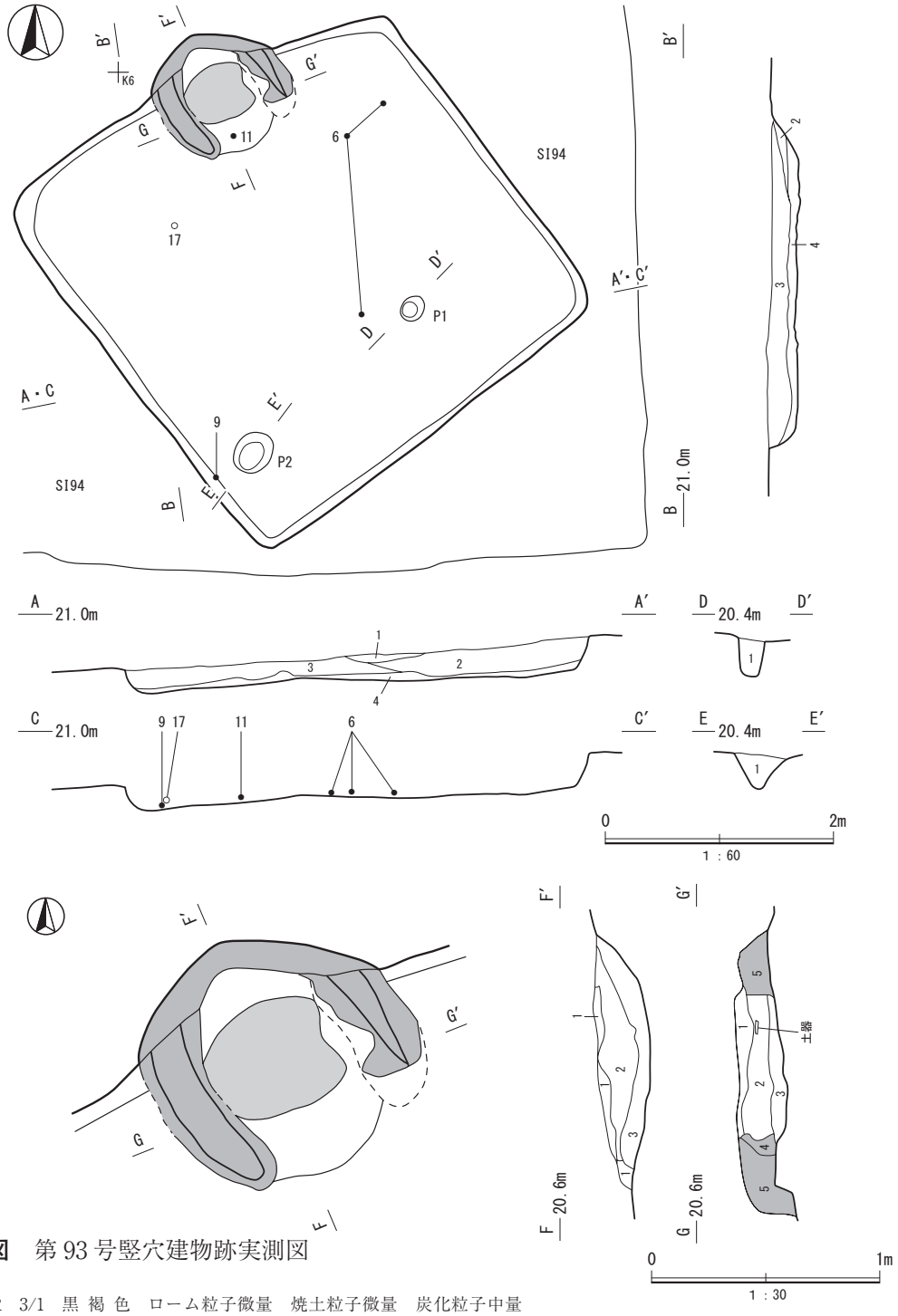
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 94 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.76 ｍ、短軸 3.60 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ － 40° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。

竈　北西壁中央に灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 112㎝である。袖部の基部の最大幅は 118㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめ



第 81 図　第 93 号竪穴建物跡実測図

土層解説

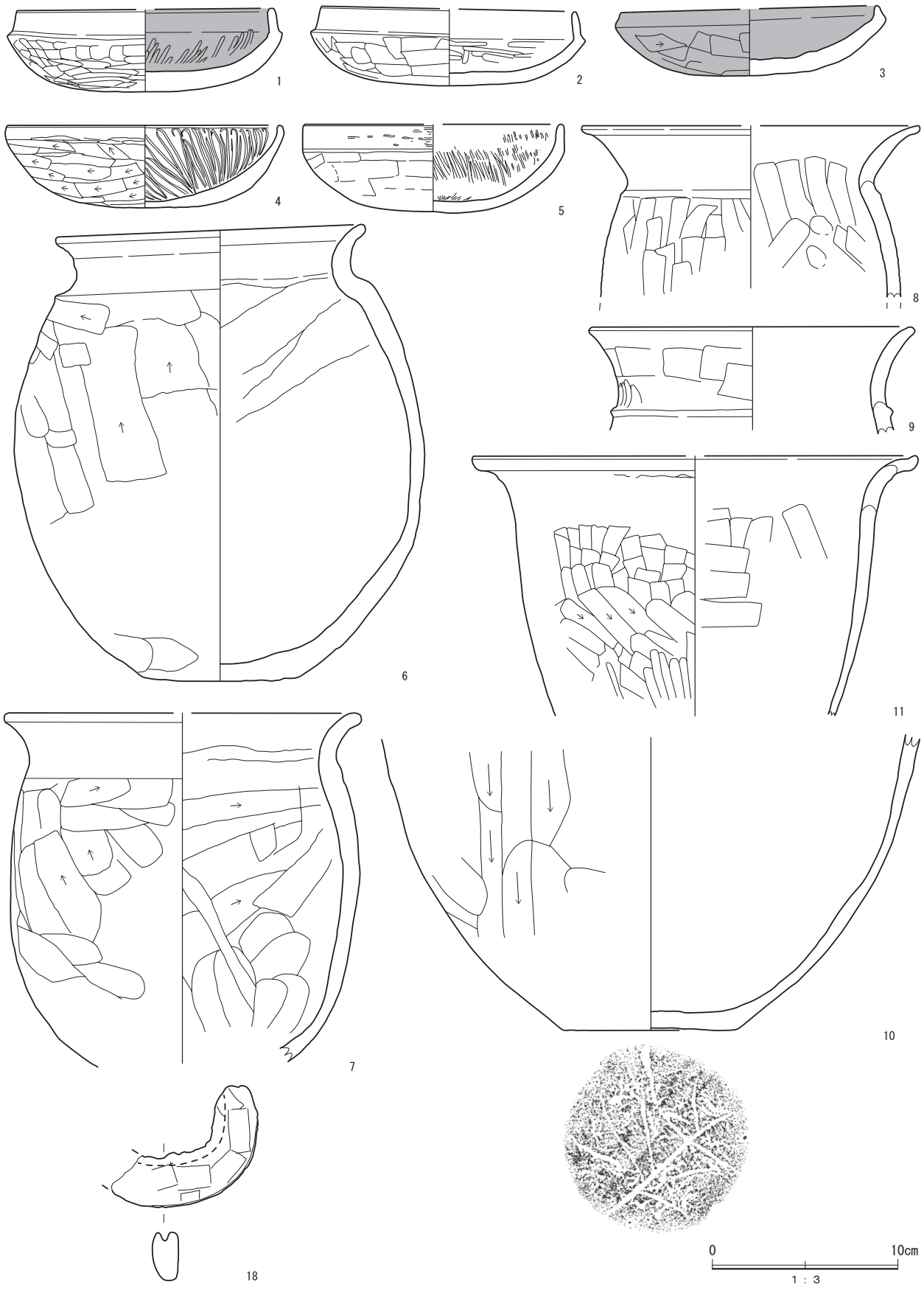
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　1.7/1 黒　　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

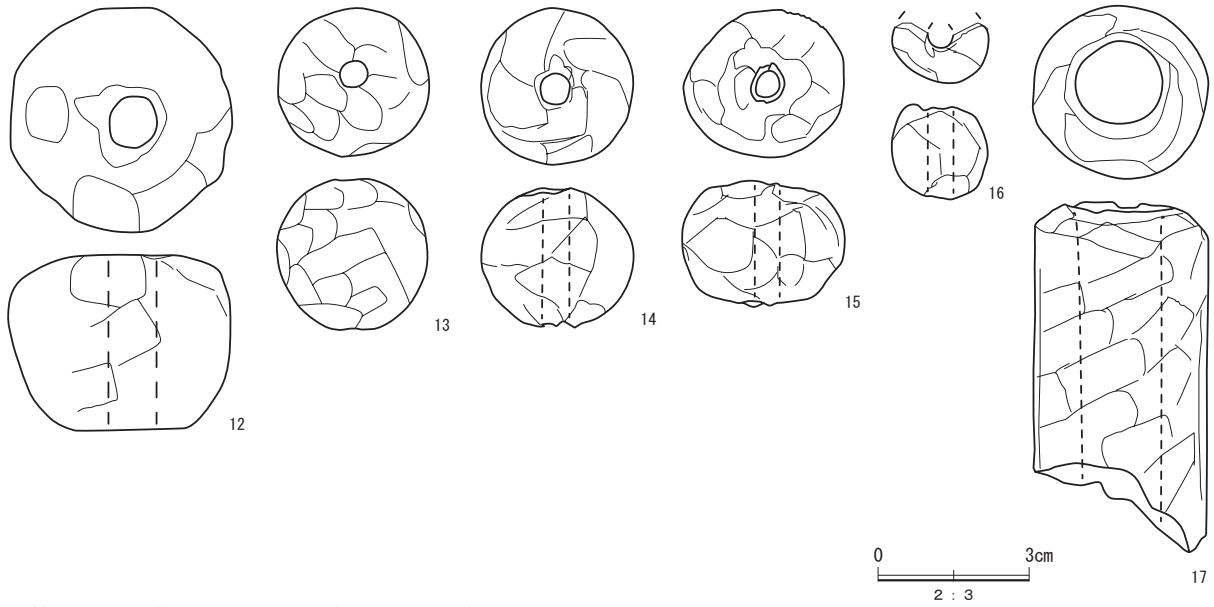
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりなし

竈土層解説

1　2.5Y　7/3　浅 黄 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　6/6　橙　　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　4/1　褐 灰 色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　2.5Y　7/3　浅 黄 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/1　褐 灰 色　焼土粒子少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり



第 82 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 83 図　第 93 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 40 表　第 93 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.8	4.5	—	長石・雲母・チャート	黒褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面上位横位のヘラナデ　下位横位のヘラミガキ　内面放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	覆土中	100% 写真図版 46
2	土師器	坏	13.6	4.3	—	長石・雲母・チャート	明赤褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ　内面横位のヘラミガキ	覆土中	100% 煤付着 写真図版 46
3	土師器	坏	13.8	3.8	—	長石・雲母・チャート	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　内面ヘラナデ　内外面黒色処理	覆土中	100% 写真図版 46
4	土師器	坏	14.6	4.5	—	長石・石英・スコリア	暗褐	普通	口縁部横ナデ後一部横位のヘラミガキ　体部外面横位のヘラ削り後一部横位のヘラミガキ　内面横ナデ後斜位のヘラミガキ	覆土中	85%
5	土師器	坏	[13.8]	4.8	—	石英・雲母・スコリア・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ後外面横位のヘラミガキ　体部外面横位のヘラ削り後一部ヘラミガキ　内面縦位のヘラミガキ　器面剥離のため調整痕不鮮明	覆土中	60% 写真図版 46
6	土師器	甕	16.6	24.5	8.5	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　下方斜位及び縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	中央部から北東部床面	98% 写真図版 46
7	土師器	甕	19.2	(19.0)	—	長石・石英・スコリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横位及び斜位のヘラ削り	覆土中	80% 写真図版 47
8	土師器	甕	[18.0]	(9.3)	—	長石・雲母・チャート	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ　体部内外面縦位のヘラナデ	覆土中	20%
9	土師器	甕	[17.2]	(5.8)	—	長石・雲母・チャート	にぶい黄橙	良好	口縁部横ナデ後外面横位のヘラナデ	南西部床面	10% 煤付着
10	土師器	甕	—	(15.7)	9.4	長石・石英・スコリア	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ　底部木葉痕	覆土中	10%
11	土師器	甑	[23.8]	(14.1)	—	長石・雲母・チャート	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　外面外面上位縦位のヘラナデ　中位斜位のヘラ削り　下位縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	竈前床面	10%

番号	機種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	土玉	3.5	4.39 ～ 4.42	0.89 ～ 1.04	67.7	長石・石英・スコリア	褐灰	外面ナデ	覆土中	写真図版 47

番号	機種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	土玉	2.95	2.89 ～ 2.96	0.46 ～ 0.49	22.6	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	覆土中	写真図版47
14	土玉	2.7	2.99	0.6	23.3	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ	覆土中	写真図版47
15	土玉	2.43	2.91 ～ 3.19	0.53 ～ 0.6	22.1	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ	覆土中	写真図版47
16	土玉	1.86	[1.8]	0.52	(3.2)	石英・雲母	にぶい黄橙	外面ナデ	覆土中	写真図版47
17	管状土錘	(7.0)	3.4	1.7	(67.9)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	北西部床面	写真図版47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
18	鋤先型土製品	6.55	(8.9)	1.4	(44.2)	長石・石英	黒褐	外面ヘラナデ	覆土中	写真図版47

て火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　4層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット2か所が検出された。P 1：22 × 20cm、深さ40cm、P 2：48 × 30cm、深さ32cmである。

遺物出土状況　土師器片1002点[坏149点(2,546g)、高台付坏1点(12g)、高坏5点(147g)、甕847点(18,404g)、甑4点(386g)]、弥生土器片64点(644g)、土製品11点(423g)、陶器片3点(27g)、礫30点(5,600g)。6の土師器甕は中央部から北東部にかけての床面に散乱していた。9の土師器甕は南西部の床面、11の土師器甑は竈前の床面、17の管状土錘は北西部の床面から出土している。1～5の土師器坏・7の土師器甕・12～16の土玉、18の土製鋤先模造品は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の7世紀前葉と考えられる。第94号竪穴建物跡を掘り込んでいるため建て替えられたものと考えられる。

第94号竪穴建物跡 (SI-94)(第84・85図　写真図版19)

位置　調査区西部Ｊ5・6、Ｋ5・6グリットに位置し、標高20ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

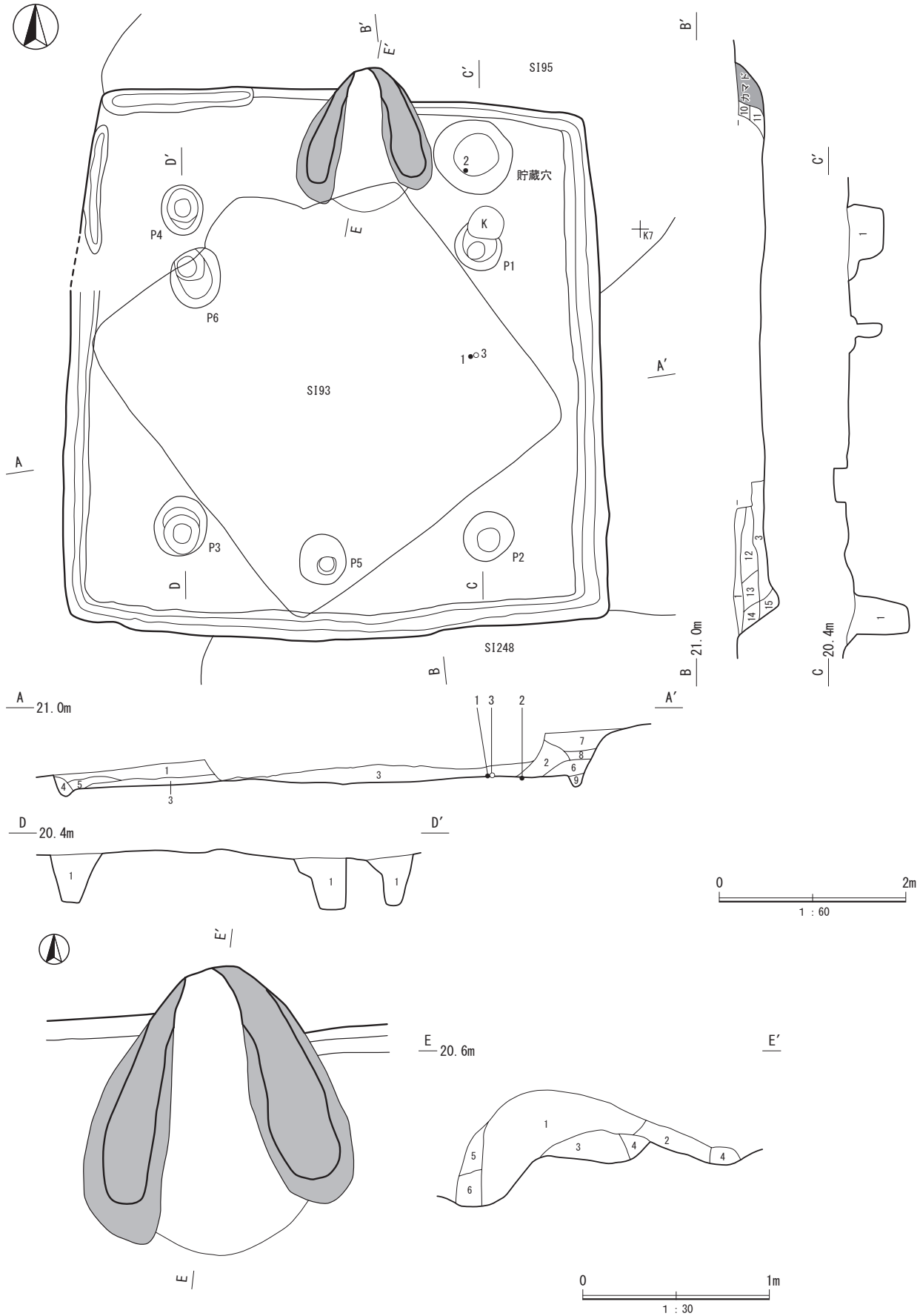
重複関係　第95・248号竪穴建物跡を掘り込み、第93号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　中央部を第93号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸5.90、短軸5.75ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－5°－Ｅである。壁は確認面から最大高50cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、全壁で確認でき、上幅18～25cm、下幅6～15cm、深さ10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、黄白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは150cmである。袖部の基部の最大幅は144cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　15層に分層できる。第12～13層はロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積で、



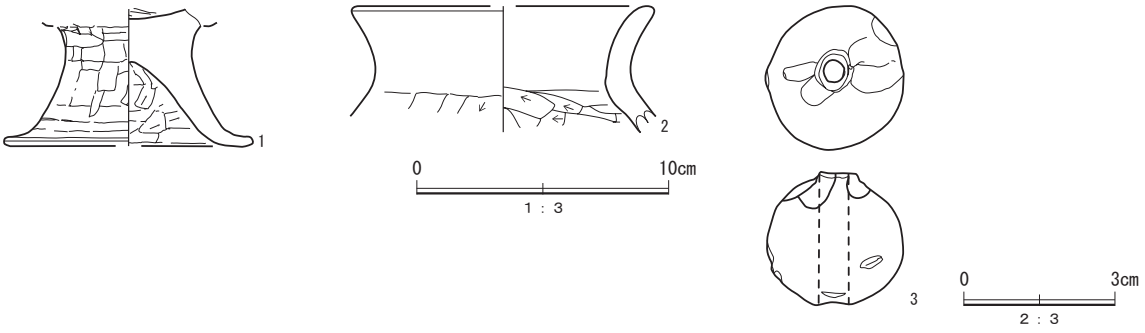
第 84 図　第 94 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　炭化粒子中量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　1.7/1　黒　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　2/1　黒　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　10YR　2/1　黒　色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　2/1　黒　色　ローム粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　1.7/1　黒　色　ローム粒子微量　炭化粒子多少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
7　7.5YR　4/2　灰　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
8　10YR　6/8　明黄褐色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
9　10YR　4/2　灰黄褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりなし
10　10YR　2/1　黒　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
11　10YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子微量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
12　10YR　2/1　黒　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
13　10YR　2/1　黒　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
14　10YR　3/3　暗　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
15　10YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子少量　黒色土ブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/1　暗　褐　色　ローム粒子少量　黒色土ブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説
1　7.5YR　3/1　黒　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　5/2　灰　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　10YR　7/2　にぶい黄褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
5　10YR　7/8　黄　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
6　10YR　4/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり



第 85 図　第 94 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 41 表　第 94 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	—	(5.5)	[9.9]	長石･石英･スコリア･チャート	橙	普通	脚部縦位のヘラ削り後縦位のナデ　内面横位のヘラナデ	東部床面	10%
2	土師器	甕	[11.4]	(5.1)	—	長石･石英･チャート	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	貯蔵穴内	10%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	2.6	2.7 ～ 2.9	0.6	18.9	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	東部床面	

他は自然堆積である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入り口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 60cm、深さ 36cm、Ｐ２:50 × 46cm、深さ 58cm、Ｐ３:56 × 52cm、深さ 50cm、Ｐ４:50 × 42cm、深さ 52cmである。Ｐ５：60 × 50cm、深さ 30cm、Ｐ６：60 × 60cm、深さ 50cmである。

貯蔵穴　竈右側に位置し、長径 78cm、短径 72cmの不整円形で、深さ 40cmである。

遺物出土状況　土師器片 180 点 [坏 18 点 (189g)、高坏２点 (180g)、甕 165 点 (2,741g)]、弥生土器片 10 点 (62g)、土製品１点 (19g)、礫１点 (43g)。１の土師器高坏・３の土玉は東部の床面、２の土師器甕は貯蔵穴内から出土している。

所見　出土土器が少なく時期を決定するのが難しいが古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

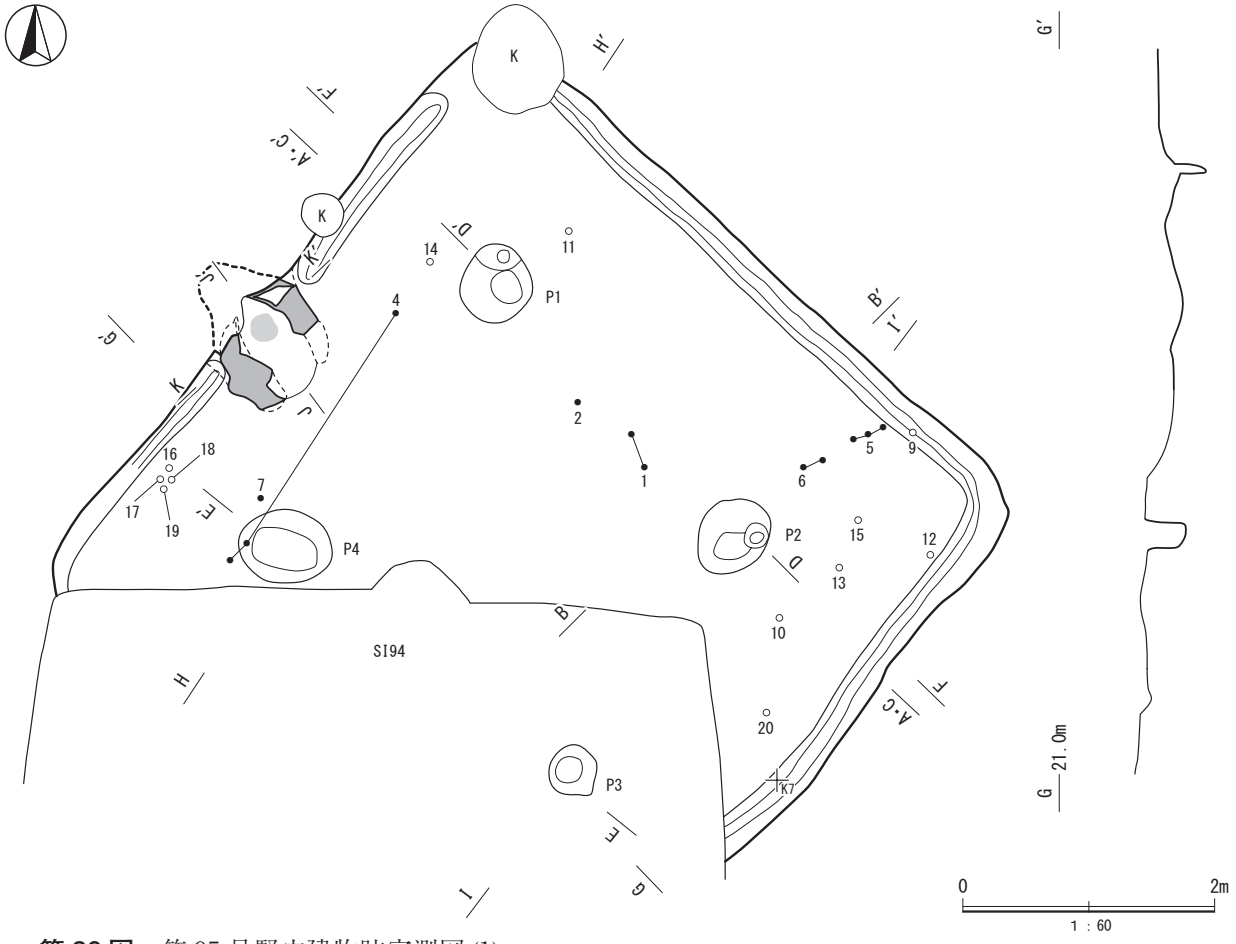
第 95 号竪穴建物跡 (SI-95)(第 86・87・88・89 図　写真図版 19)

位置　調査区西部Ｉ 6、Ｊ 5・6、Ｋ 6 グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜部に位置する。

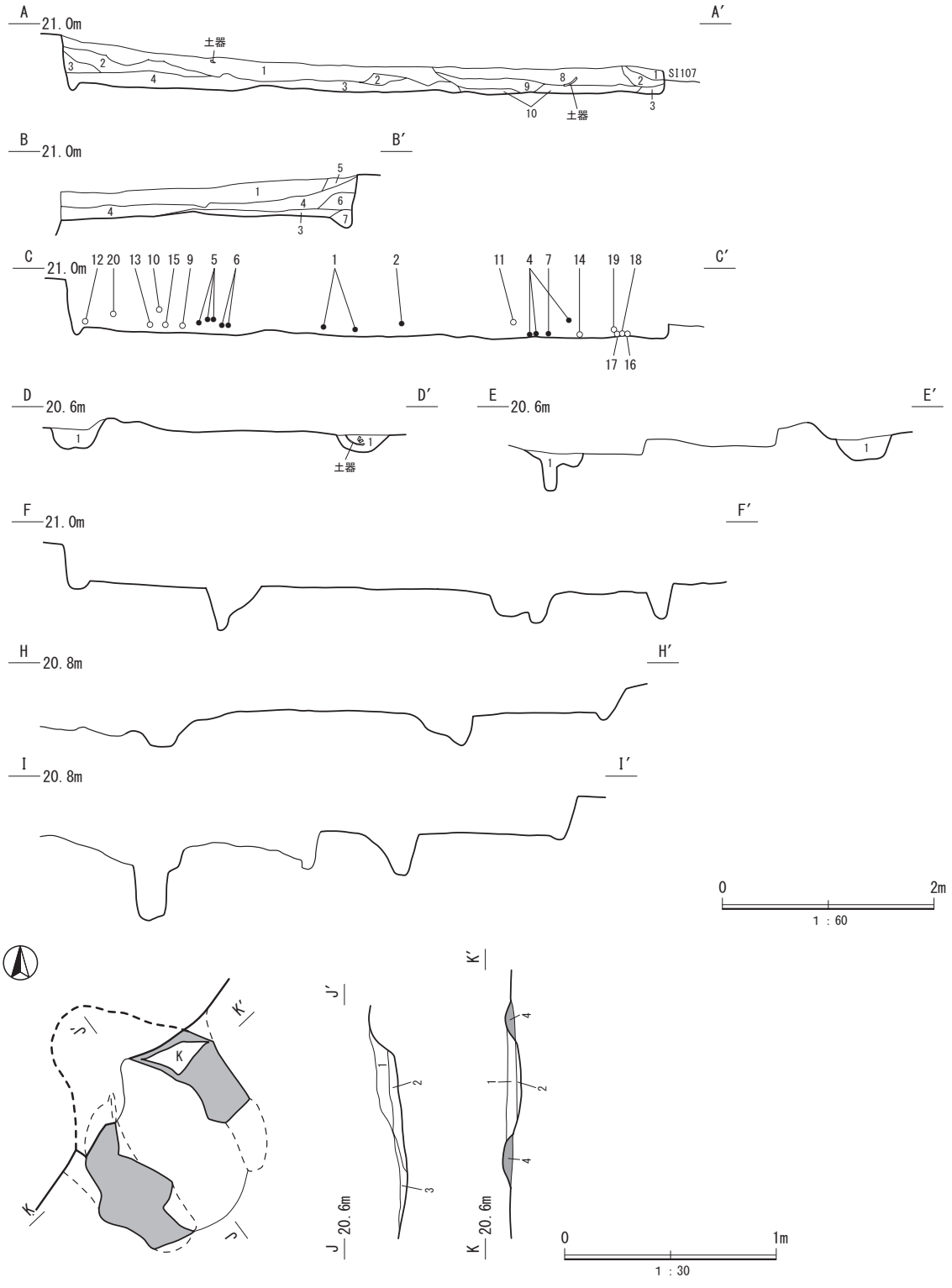
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 104・107 号竪穴建物跡を掘り込み、第 93・94 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部を第 94 号竪穴建物に掘り込まれ、北西・南東軸は 5.68 ｍで、北東・南西軸は 5.60 ｍしか確認できなかった。平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 50° － Ｗである。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認された壁で全周し、上幅 16 ～ 20cm、



第 86 図　第 95 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 87 図　第 95 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

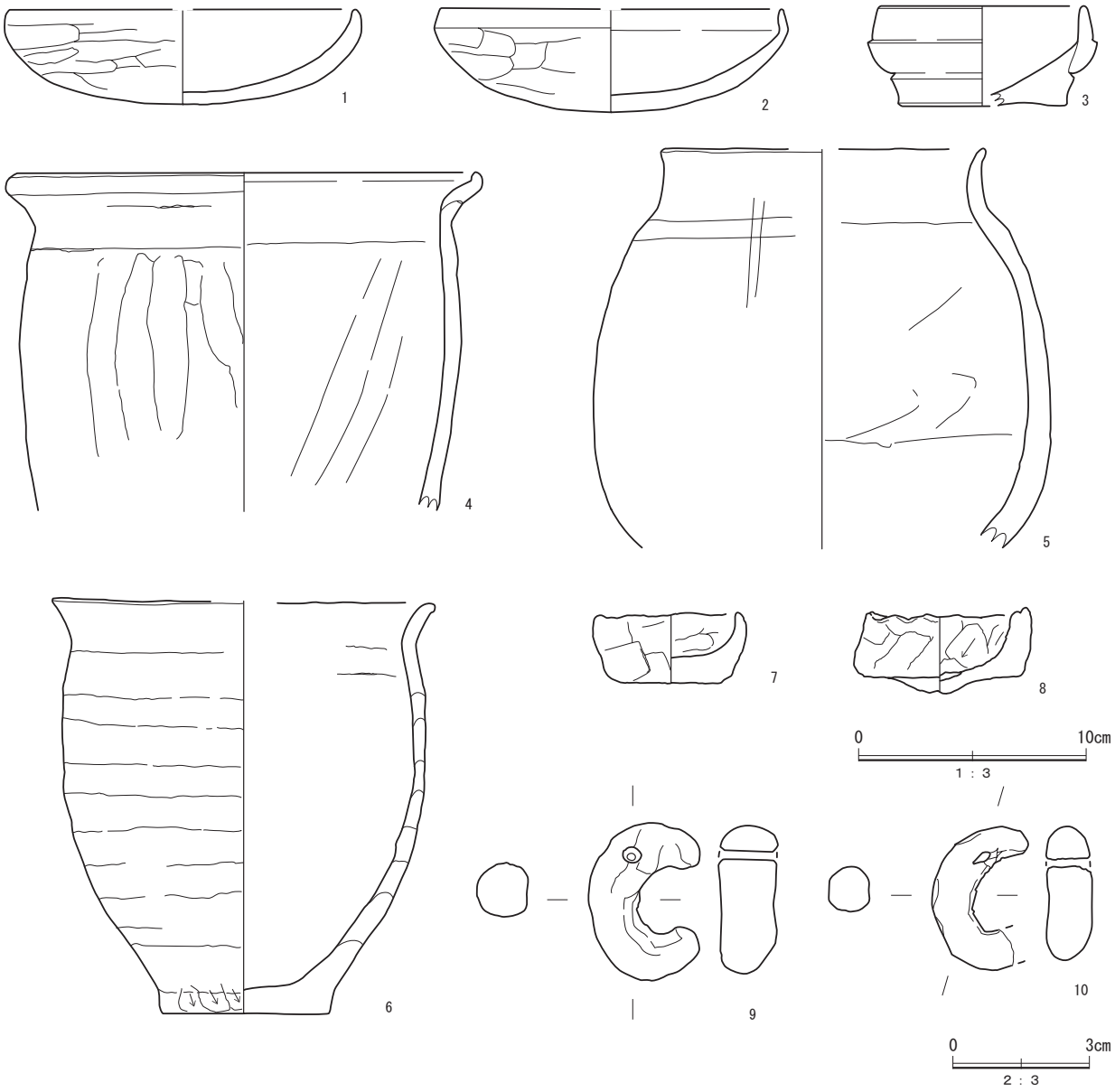
1　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　10YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　10YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量　／粘性あり　締まりなし
6　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
7　10YR　2/1　黒　　色　ロームブロック・粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
8　10YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
9　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子微量　焼土粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
10　10YR　2/1　黒　　色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

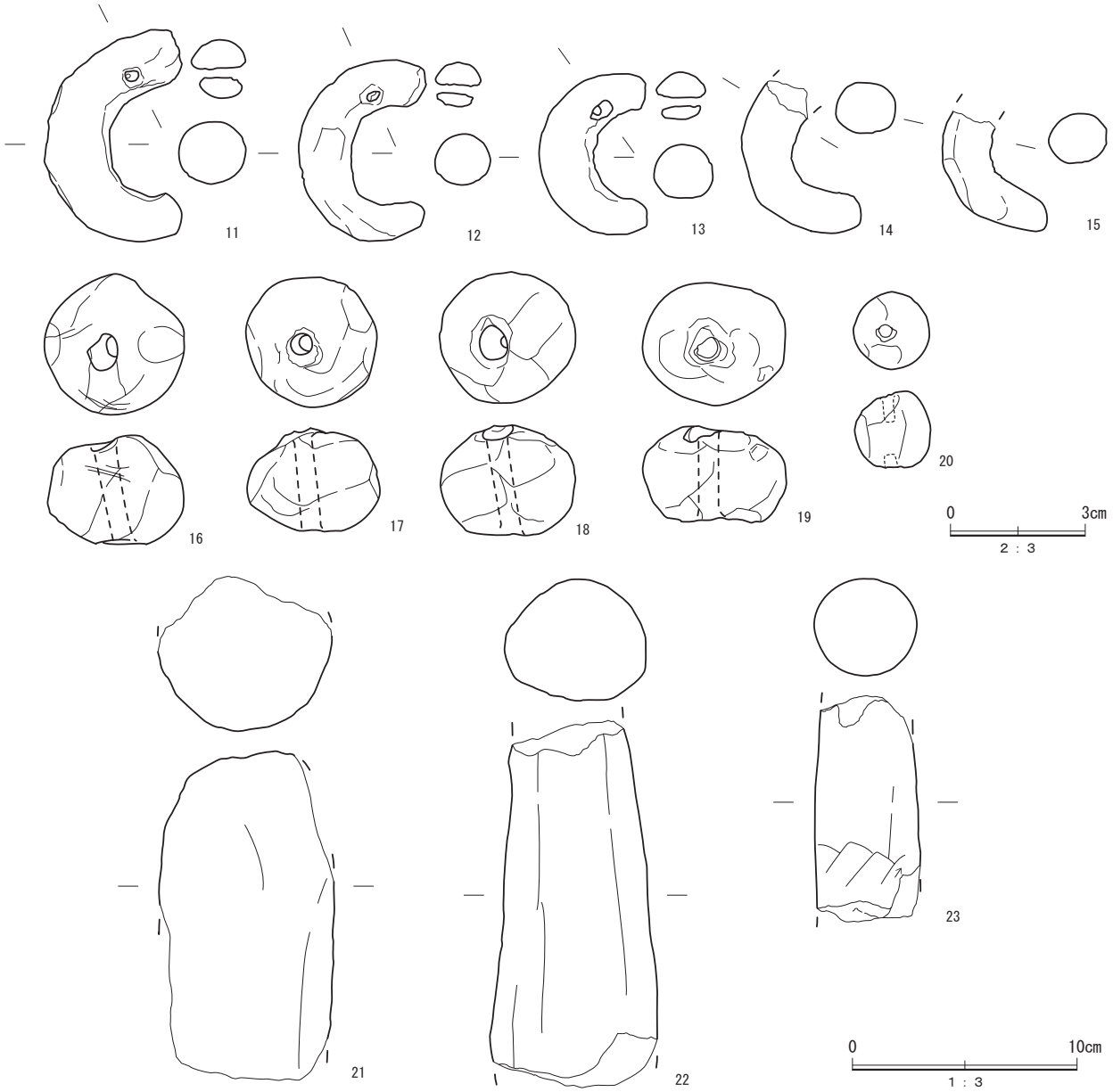
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　しまりなし

竈土層解説

1　10YR　4/2　灰黄褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　4/2　灰黄褐色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　6/6　明黄橙色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　黄白色粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　10YR　6/6　明黄褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量　黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり (袖部材)



第 88 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 89 図　第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

下幅 6 ～ 10cm、深さ 6 cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけてやや踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、黄白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 120cmである。袖部の基部の最大幅は 92cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面を 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　10 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット 4 か所で、第 94 号竪穴建物の床から 1 か所検出された。Ｐ 1 ～Ｐ 4 は主柱穴と考えられる。Ｐ 1 :64 × 62cm、深さ 30cm、Ｐ 2 :64 × 60cm、深さ 40cm、Ｐ 3 :42 × 40cm、深さ 58cm、Ｐ 4 ：80 × 64cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 691 点 [坏 35 点 (794g)、高台付坏 1 点 (57g)、高坏 4 点 (46g)、甕 648 点

第 42 表　第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	3.9	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	中央部覆土下層	30%
2	土師器	坏	[14.8]	4.5	—	長石・石英・スコリア	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　内面ナデ	中央部覆土下層	25%
3	土師器	高台付坏	[8.8]	4.4	[7.0]	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	20% 写真図版 47
4	土師器	甕	21.0	(15.0)	—	砂粒・石英	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面斜位のナデ　輪積痕あり	竈前床面	50% 写真図版 47
5	土師器	甕	[14.0]	(18.0)	—	砂粒・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のハケナデ　内面横位及び斜位のヘラナデ	南東隅覆土下層	20%
6	土師器	甕	[17.0]	18.0	7.4	砂粒・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面下端縦位のヘラ削り内面斜位のナデ　輪積痕あり　底部摩滅で調整痕不明	南東隅覆土下層	30% 写真図版 47
7	土師器	手捏土器	6.0	3.1	4.4	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部指ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ	P 4 北側床面	95%
8	土師器	手捏土器	6.3	3.3	7.0	長石・石英	黄灰	普通	内面斜位の指ナデ	覆土中	50% 写真図版 47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	勾玉	3.5	2.5	1.3	10.0	長石・石英	黒	孔径 0.18cm　一方向の穿孔	南東隅覆土下層	写真図版 47
10	勾玉	3.2	(2.1)	1.0	(5.5)	長石・石英	黄灰	孔径 0.15cm	南東部覆土中層	写真図版 47
11	勾玉	4.7	3.1	1.45	16.4	長石・石英	黒	孔径 0.2cm　一方向からの穿孔	北東部覆土中層	写真図版 47
12	勾玉	4.1	2.8	1.2	10.1	長石・石英	黒褐	孔径 0.2cm　一方向からの穿孔	南東部覆土下層	写真図版 47
13	勾玉	3.6	2.9	1.25	8.6	長石・石英・雲母	黒褐	孔径 0.2cm　一方向からの穿孔	南東部覆土下層	写真図版 47
14	勾玉	(3.4)	(2.0)	1.30	(7.7)	長石・石英・雲母	黒		北東部床面	写真図版 47
15	勾玉	(2.7)	(1.5)	1.25	(5.0)	長石・石英	灰黄		南東部覆土下層	写真図版 47
16	土玉	3.1	3.1	0.6	22.0	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ	竈西側床面	写真図版 47
17	土玉	2.9	2.9 ～ 3.0	0.4	18.0	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	竈西側床面	写真図版 47
18	土玉	2.9	2.9 ～ 3.0	0.6	21.1	長石・石英	にぶい黄褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	竈西側床面	写真図版 47
19	土玉	2.7	2.7 ～ 3.2	0.45	19.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	竈西側床面	写真図版 47
20	小玉	1.8	1.7 ～ 1.8	0.3	5.2	長石・石英	黒	外面ナデ　孔未貫通	南東部覆土中層	写真図版 47

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
21	支脚	(14.6)	(7.8)	(6.8)	(559.0)	凝灰岩		覆土中	写真図版 47
22	支脚	(16.2)	7.5	5.6	(451.0)	凝灰岩	縦位の削り	覆土中	写真図版 47
23	支脚	(10.1)	4.7	4.3	(230.0)	土製	斜位のヘラ削り	覆土中	写真図版 47

(12,571g)、甑１点 (40g) 手捏土器２点 (160g)]、縄文土器片３点 (77g)、弥生土器片 67 点 (1,000g)、陶器片２点 (20g)、土製品 19 点 (518g)、石製品２点 (1,010g)、礫 38 点 (3,000g)。１・２の土師器坏は中央部の覆土下層、４の土師器甕は竈前の床面から出土している。５・６の土師器甕と９・12・13・15 の土製勾玉は南東コーナー部の覆土下層から、11・14 の土製勾玉は北東部の覆土中層から、16 ～ 19 の土製土玉は竈西側の床面から、10 の土製勾玉・20 の小玉は南東部の覆土中層から、７の土師器手捏土器はＰ４北側の床面から出土している。３の土師器高台付杯、８の土師器手捏土器、21・22 の石製支脚、23 の土製支脚は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

第 100 号竪穴建物跡 (SI-100)(第 90 図　写真図版 20)

位置　調査区西部Ｊ２・3、Ｋ２・３グリットに位置し、標高 18 ｍの台地の傾斜部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西側が第１号溝に掘り込まれ、長軸は 4.90 ｍで、短軸は 4.10 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方位はＮ－ 30° － Ｗである。壁は確認面から最大高 20cm で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた部分で、上幅 18 ～ 30cm、下幅６～ 10cm、深さ 10cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部の残存部は 70cmである。袖部の基部の最大幅は 115cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

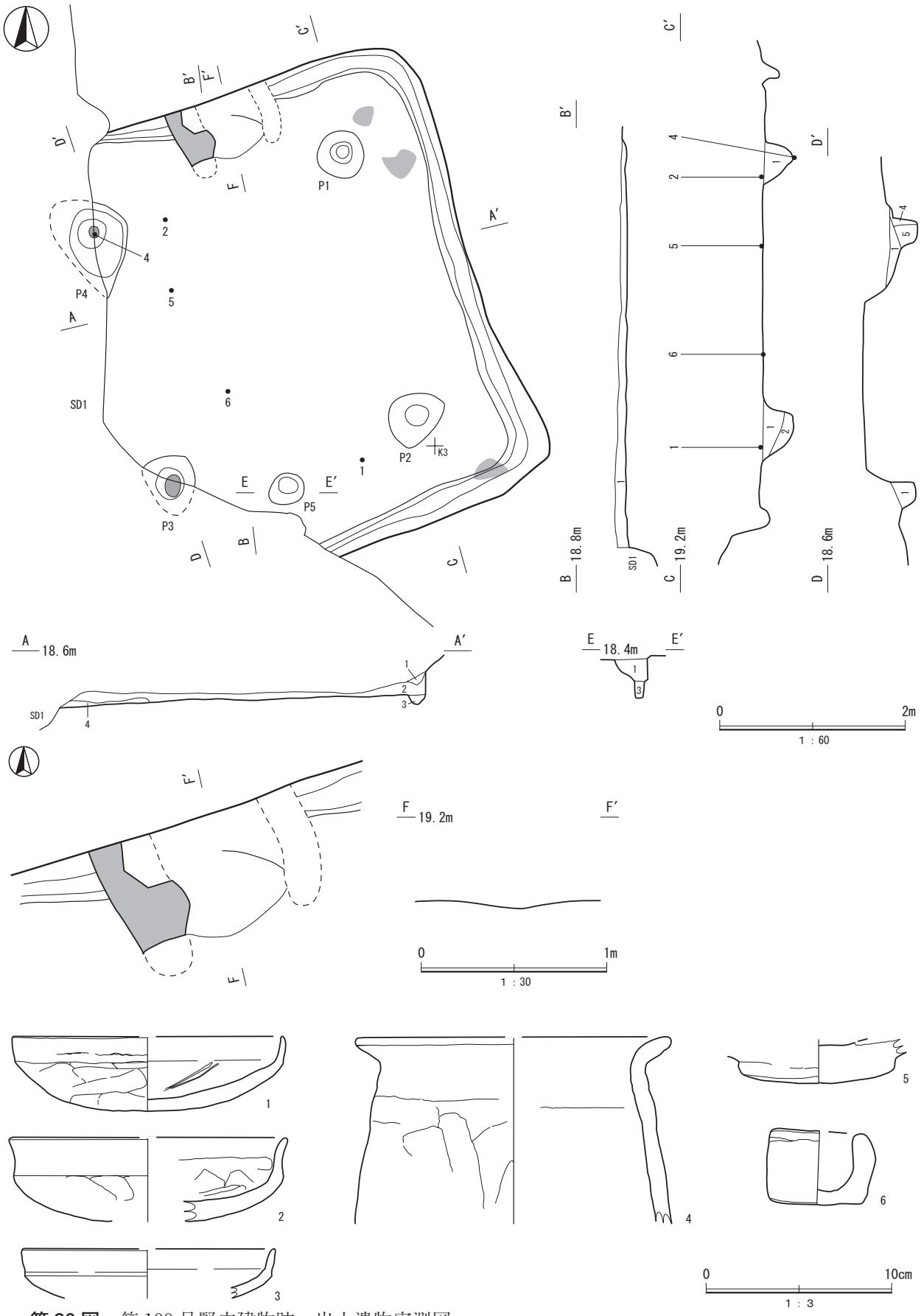
ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：90 × 60cm、深さ 50cm、Ｐ２:80 × 70cm、深さ 60cm、Ｐ３:90 × 64cm、深さ 64cm、Ｐ４:90 × 70cm、深さ 70cm、Ｐ５：60 × 55cm、深さ 14cmである。

遺物出土状況　土師器片 71 点 [坏８点 (441g)、甕 62 点 (1,439g)、手捏土器１点 (99g)]、弥生土器片５点 (84g)、礫 18 点 (1,817g)。１の土師器坏は南部の床面、２の土師器坏は北西部の床面、４の土師器甕はＰ４内から出土している。５の土師器甕、６の土師器手捏土器は中央部の床面から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。東壁付近で焼土の塊が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗　　褐　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗　　褐　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし 締まりなし



第 90 図　第 100 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 43 表　第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.6	4.0	—	長石・石英	明赤褐	良好	口縁部横ナデ　内面粗い放射状のヘラ磨き　外面横位のヘラ削り	南部床面	90%　写真図版 48
2	土師器	坏	[15.0]	(4.6)	—	長石・スコリア	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　外面ヘラ削り (不鮮明)　内面ヘラナデ	北西部床面	25%　写真図版 48
3	土師器	坏	[13.6]	(2.7)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　内外面調整痕不鮮明	覆土中	30%
4	土師器	甕	17.0	［10.0］	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ	Ｐ４内	20%
5	土師器	甕	—	(2.2)	—	長石･石英･スコリア	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ　外面摩滅により調整痕不明	中央部床面	5%
6	土師器	手捏土器	5.2	4.2	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	形状にゆがみ有	中央部床面	80%　写真図版 48

第 102 号竪穴建物跡 (SI-102)(第 91・92 図　写真図版 21)

位置　調査区西部Ｇ５～7、Ｈ５～７グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 96 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西部が傾斜地になり、推定で南北軸 6.20 ｍ、東西軸 6.10 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 20° － Ｗと推定される。壁は確認面から最大高 10cmで､ほぼ直立している。壁溝は、東･南壁で確認でき、上幅 18 ～ 20cm、下幅６～ 10cm、深さ６cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　東壁から中央部にかけてやや踏み固められている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

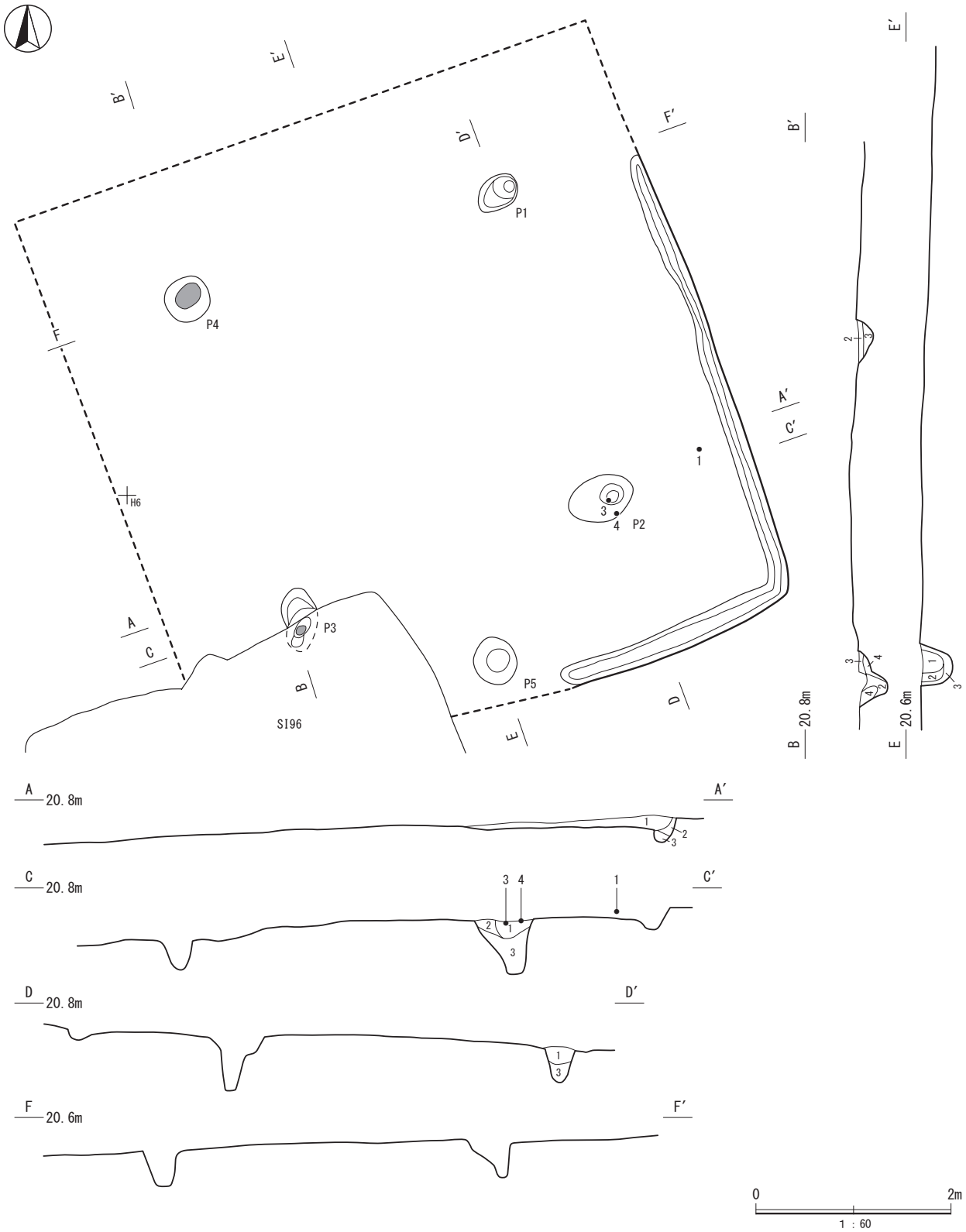
ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴､Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：50 × 30cm、深さ 40cm、Ｐ２:60 × 42cm、深さ 56cm、Ｐ３:62 × 34cm、深さ 30cm、Ｐ４:42 × 40cm、深さ 32cm、Ｐ５：50 × 48cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 32 点 [坏５点 (74g)、鉢２点 (146g)、甕 24 点 (650g)]、須恵器甕片１点 (12g)、弥生土器片１点 (８g)、礫５点 (223g)。１の土師器坏は東部の覆土中層、３・４の土師器甕はＰ２内から出土している。２の土師器鉢は覆土中から出土している。

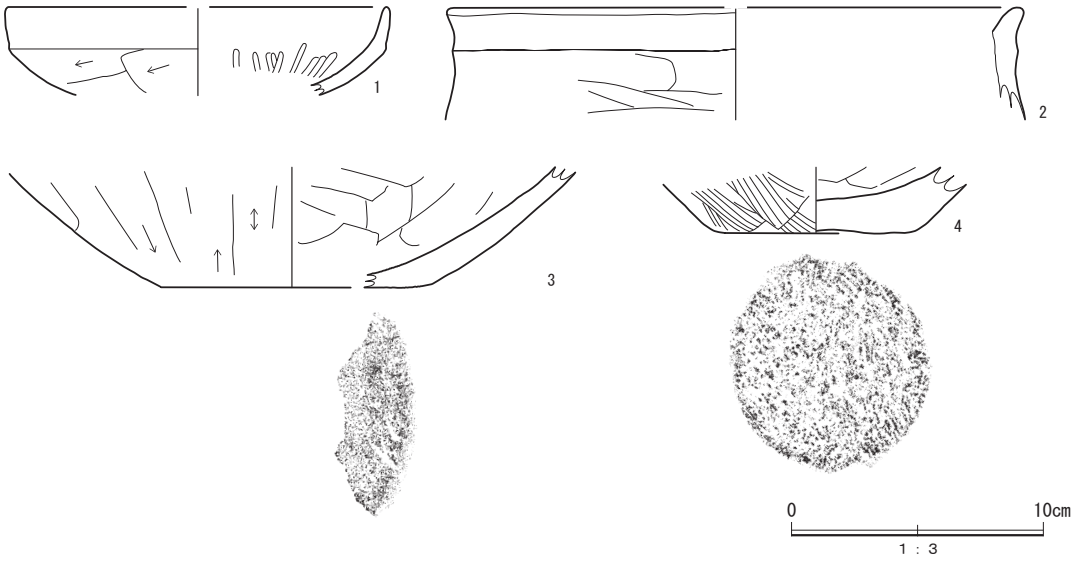
所見　時期は、出土土器が少ないが古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　間 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 91 図　第 102 号竪穴建物跡実測図



第 92 図　第 102 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 44 表　第 102 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	(3.5)	—	長石･石英･雲母	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ	東部覆土中層	5%
2	土師器	鉢	[22.4]	(4.5)	—	長石･石英･雲母	褐灰	普通	口縁部横ナデ内面斜位のナデ　内面剥離	覆土中	5%
3	土師器	甕	—	(4.7)	[10.6]	長石･石英･雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ　体部外面	Ｐ２内	5%底部煤付着
4	土師器	甕	—	(2.8)	7.8	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ハケ目調整　内面ヘラナデ	Ｐ２内	5%

第 103 号竪穴建物跡 (SI-103)(第 93・94 図　写真図版 21)

位置　調査区西部Ｋ３・4、Ｌ４グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 106 号竪穴建物に掘り込まれている。

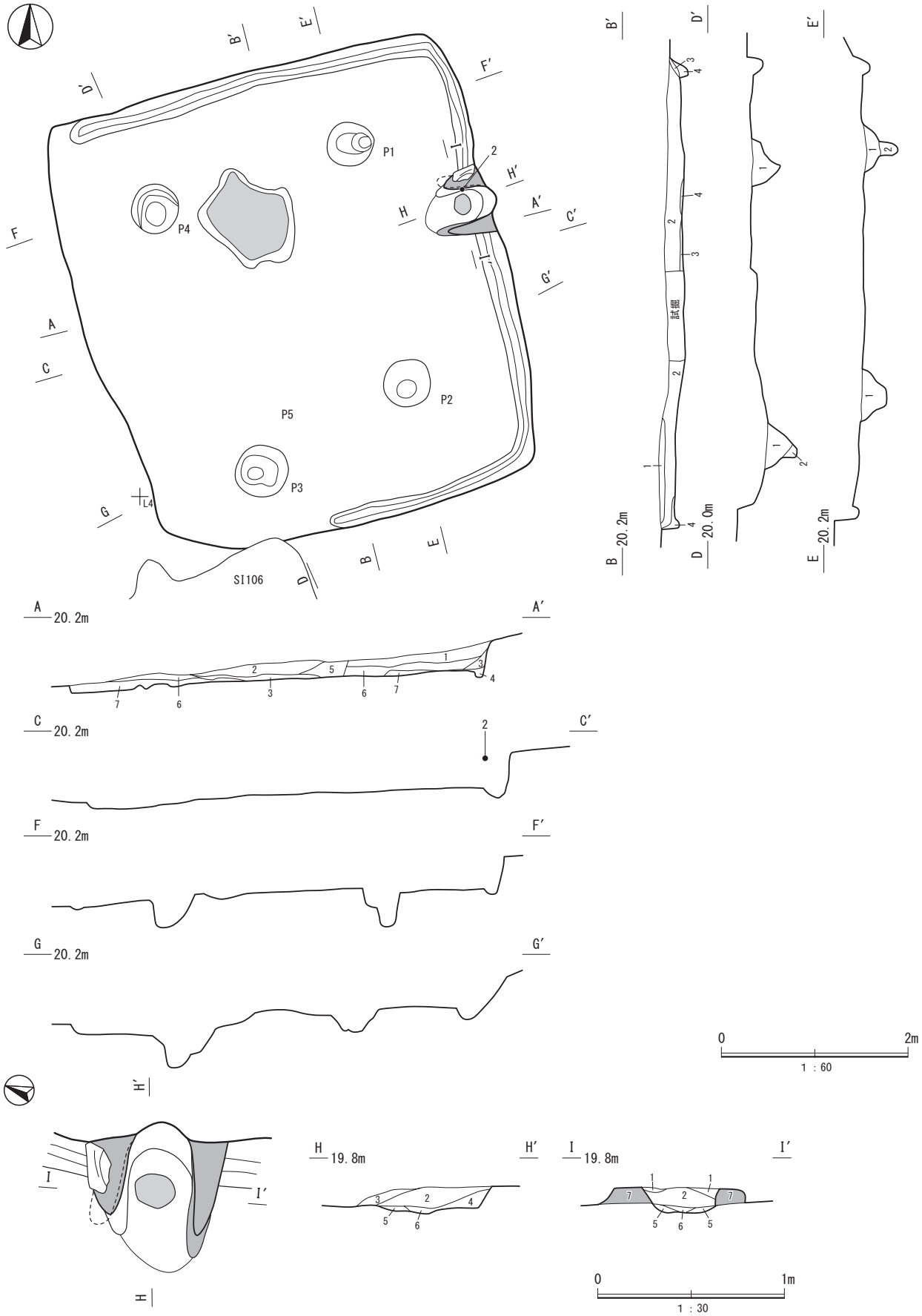
規模と形状　西部が傾斜地になり、南北軸は 4.90 ｍで、東西軸は 4.20 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方位はＮ－ 75°－ Ｅである。壁は確認面から最大高 25㎝で、ほぼ直立している。壁溝は、確認された壁で、上幅 18 ～ 30㎝、下幅６～ 10㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

竈　東壁中央部北寄りにあり､灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 80㎝である。袖部の基部の最大幅は 68㎝で、左袖部の補強材として砂岩を利用している。内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 50㎝､深さ 40㎝､

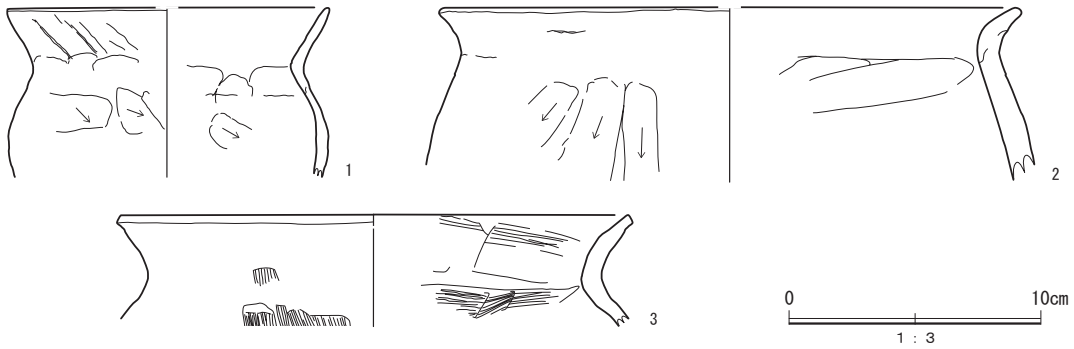


第 93 図　第 103 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子少量／粘性あり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし(壁溝)
5　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりあり
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック中量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説
1　2.5YR　3/2　暗 暗 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR　5/8　明 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
5　2.5YR　2/3　極暗赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰少量／粘性なし　締まりなし
7　2.5YR　4/1　赤　灰　色　焼土粒子微量　暗褐色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり



第 94 図　第 103 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 45 表　第 103 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	[12.6]	(7.0)	—	長石･石英･チャート･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　外面斜位のナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面指ナデ　指頭痕	覆土中	20%
2	土師器	甕	[23.0]	(7.0)	—	長石･石英･スコリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位及び斜位のヘラ削り　内面横ナデ	竈内中層	30%
3	土師器	甕	[20.2]	(4.5)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ後ハケ目ナデ調整　体部外面縦位のハケ目ナデ　内面横位のハケ目ナデ	覆土中	10%

Ｐ２：52 × 50cm、深さ 24cm、Ｐ３：58 × 54cm、深さ 40cm、Ｐ４：52 × 50cm、深さ 32cmである。Ｐ１・Ｐ３は立て替えが行われた痕跡がみられた。

遺物出土状況　土師器片 76 点 [坩 10 点 (98g)、甕 66 点 (1,353g)]、須恵器甕片 1 点 (8 g)、縄文土器片 1 点 (22g)、弥生土器片 15 点 (136g)、礫 7 点 (3,300g)。２の土師器甕は竈内から出土している。１・３の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器が少ないが古墳時代中期と考えられる。床面から焼土や炭化物範囲が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

第 104 号竪穴建物跡 (SI-104)(第 95・96 図)

位置　調査区西部Ｉ 5・6 グリットに位置し、標高 20 ｍの台地の斜面部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 95・96 号竪穴建物、第 11 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南東部を第 95 号竪穴建物に、北部を第 96 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は 4.40 ｍで、東西軸は 4.00 ｍしか確認できなかった。平面形は不明で、主軸方位はＮ－ 10°－Ｅである。壁は確認面から最大高 10㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北・南壁の一部と東壁で確認でき、上幅 20 ～ 30㎝、下幅６～ 10㎝、深さ 10㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　東壁側が踏み固められているのを確認するのみである。

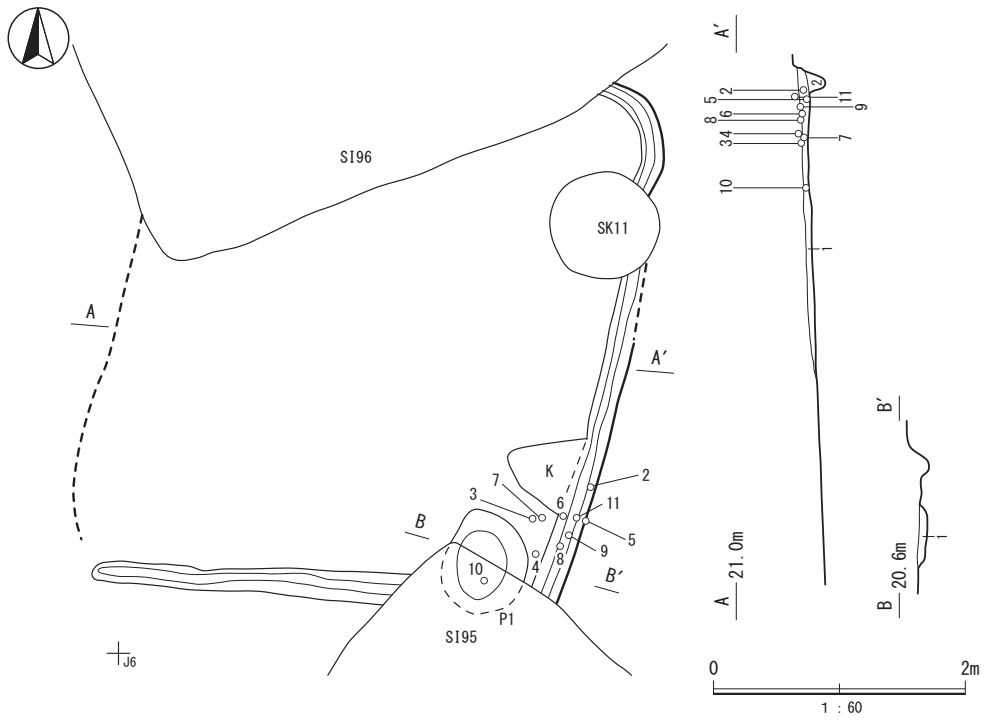
炉　確認できなかった。

土層　２層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：90 × 82㎝、深さ 12㎝である。

遺物出土状況　土師器甕片 17 点 (220g)、弥生土器片５点 (58g)、土製品 10 点 (280g)、礫２点 (2,238g)。２～９の土製土玉と 11 の管状土錘は南東コーナー寄りの壁溝とその周辺の床面から、10 の土製土玉は P1 内から出土している。１の土師器壺は覆土中から出土している。

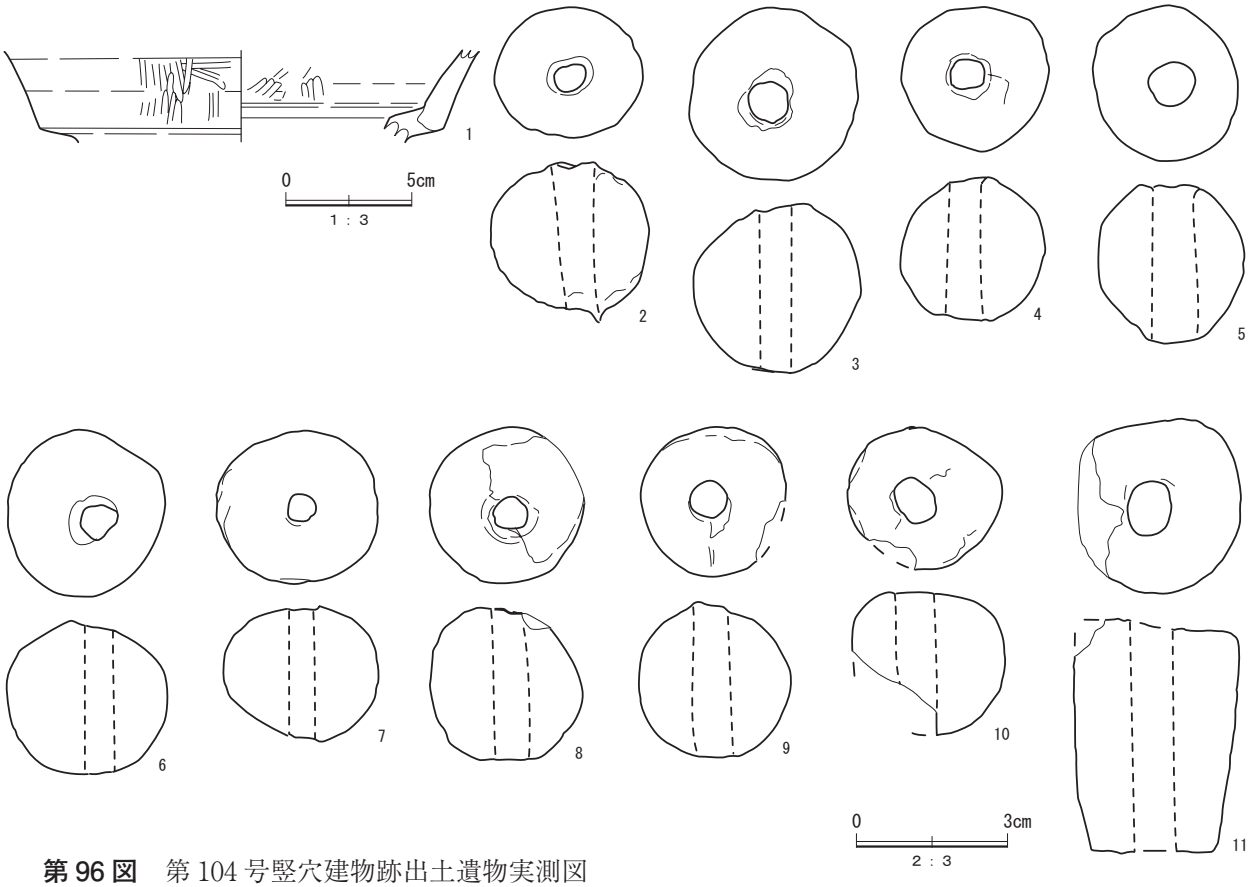
所見　時期は、重複関係と出土土器から古墳時代前期と考えられる。



土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

第 95 図　第 104 号竪穴建物跡実測図



第 96 図　第 104 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 46 表　第 104 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	壺	—	(3.6)	—	長石・小礫	にぶい橙	普通	口縁部内外面縦位のヘラミガキ	覆土中	5%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	3.0	2.9 ～ 3.1	0.7 ～ 0.9	27.0	石英・スコリア	黒褐	全面ナデ	南東部床面	
3	土玉	3.4	3.3	0.7 ～ 0.8	36.0	細砂・角閃石	褐灰	外面ナデ	南東部床面	
4	土玉	3.0	3.0 ～ 3.1	0.6 ～ 0.9	24.0	石英	灰褐	外面ヘラミガキ	南東部床面	
5	土玉	3.2	2.7	0.9	26.0	細砂	黒褐	外面ナデ	南東部床面	
6	土玉	3.0	3.2 ～ 3.4	0.7 ～ 0.9	28.0	細砂・雲母	褐灰	外面ナデ	南東部床面	
7	土玉	2.7	2.9 ～ 3.2	0.6 ～ 0.7	21.0	長石・石英	灰褐	外面ナデ	南東部床面	
8	土玉	3.1	2.9 ～ 3.1	0.8	22.0	細砂	黒褐	外面ナデ	南東部床面	
9	土玉	2.9 ～ 3.0	3.0	0.7 ～ 0.9	(21.0)	長石･石英･スコリア	褐灰	外面ナデ	南東部床面	
10	土玉	3.0	2.9 ～ 3.1	0.8 ～ 0.9	(20.0)	細砂	褐灰	外面ナデ	P 1内	
11	管状土錘	4.6	3.2 ～ 3.5	1.0	(59.0)	長石･石英･雲母	車塚	外面ナデ	南東部床面	

第 106 号竪穴建物跡 (SI-106)(第 97・98 図　写真図版 21)

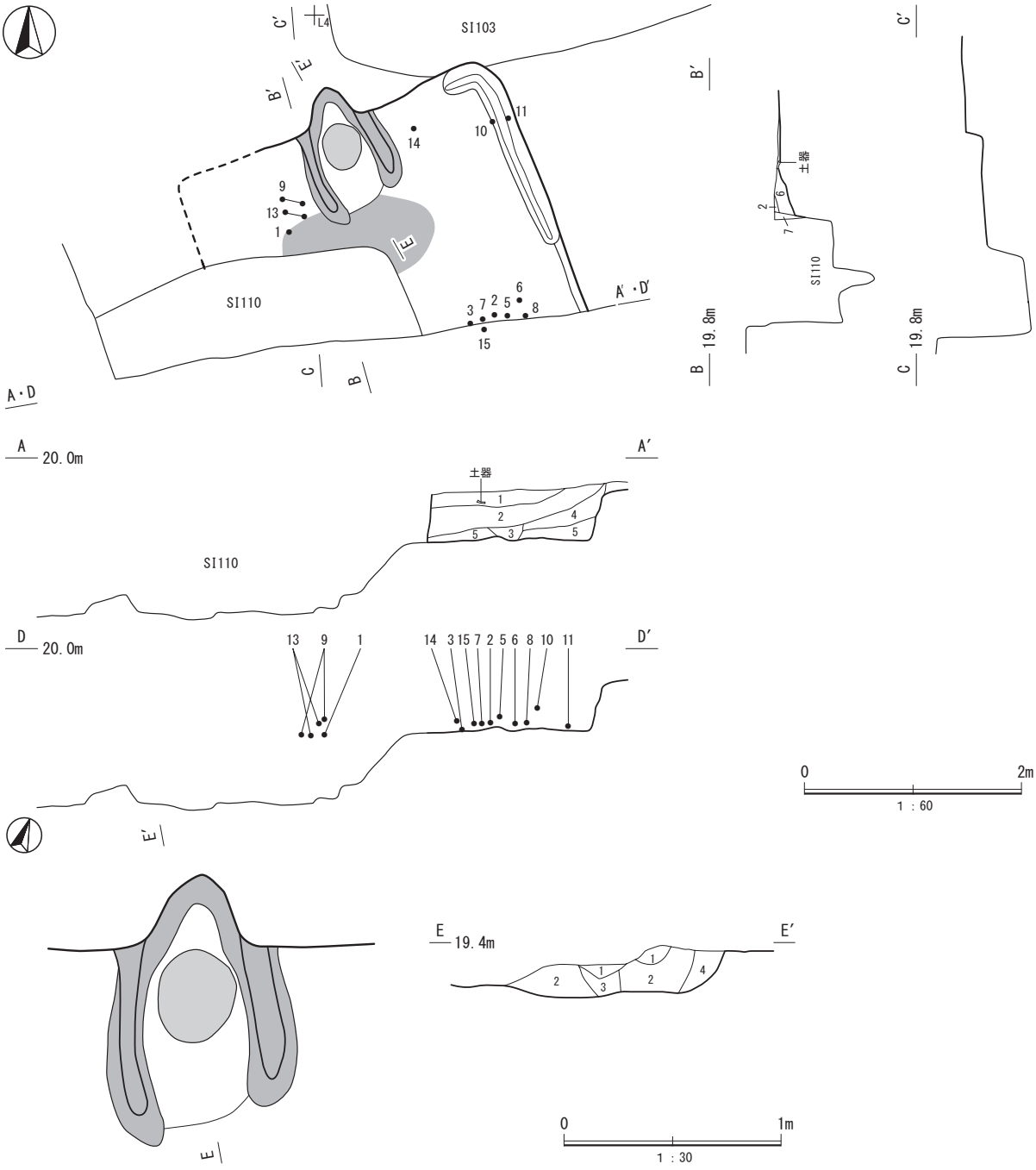
位置　調査区西部Ｌ 3・4 グリットに位置し、標高 19 ｍの台地の傾斜地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 110 号竪穴建物に掘り込まれ、第 103 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区外に延びており西部は傾斜地になり、第 110 号竪穴建物に掘り込まれているので、南北軸は 2.20 ｍ、東西軸は 3.10 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方位はＮ－ 30° － Ｗである。壁は確認面から最大高 50㎝で、ほぼ直立している。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。



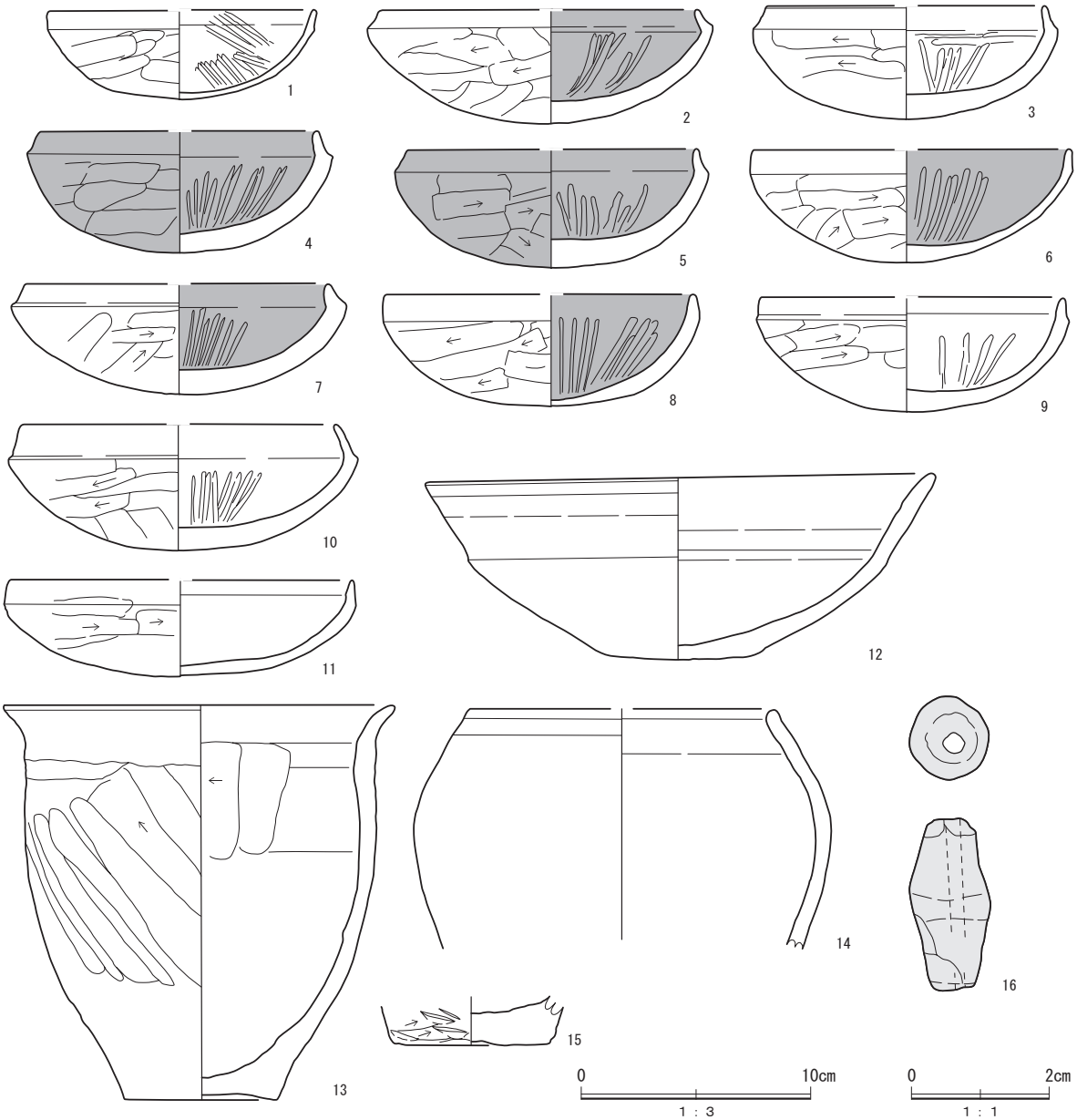
第 97 図　第 106 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　4/1　褐 灰 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子締まりあり量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームフロック少量・粒子中量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり
4　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　5/8　明 暗 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　10YR　4/1　褐　灰　色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
3　10YR　3/1　黒　　色　焼土粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
4　10YR　6/4　にぶい黄褐色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし



第 98 図　第 106 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 47 表　第 106 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.4 ～ 11.5	3.7	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　内面横位のヘラナデ　斜位のヘラミガキ	竈西側床面	100% 写真図版 48
2	土師器	坏	13.6	4.8	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	南東部床面	98% 写真図版 48
3	土師器	坏	13.4	5.0	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラミガキ　下方放射状のヘラミガキ	南東部床面	100% 写真図版 48
4	土師器	坏	12.0	5.3	—	長石・石英	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面上位横位のヘラ削り下位不定方向のヘラ削り　内面ロクロナデ後放射状のヘラミガキ　内外面黒色処理	覆土中	100% 写真図版 48
5	土師器	坏	12.5	5.2	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ロクロナデ後放射状のヘラミガキ　内外面黒色処理	南東部床面	95% 写真図版 48
6	土師器	坏	13.7	5.0	—	長石・石英・スコリア・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ後放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	南東部下層	95% 写真図版 48
7	土師器	坏	13.2	4.8	—	長石・石英・スコリア	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位・斜位のヘラ削り　内面ロクロナデ後放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	南東部下層	98% 写真図版 48
8	土師器	坏	13.7	4.9	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	南東部下層	10% 写真図版 48
9	土師器	坏	13.1	5.0	—	長石・石英・チャート	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ	竈西側床面	80% 写真図版 48
10	土師器	坏	13.7	5.5	—	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　下位一方向のヘラ削り　内面横位のナデ後放射状のヘラミガキ	北東部覆土中層	97% 写真図版 48
11	土師器	坏	14.8	4.7	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　下位一方向のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	北東部床面	100% 写真図版 48
12	土師器	浅鉢	22.2	8.1	6.5	長石・石英・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	覆土中	100% 写真図版 48
13	土師器	甕	16.8	17.1	6.6	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ　底部不定方向のヘラ削り	竈西側床面	60% 写真図版 48
14	土師器	鉢	13.2	(10.4)	—	長石・石英・雲母・スコリア	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のナデ　内面横位のナデ	竈東側覆土下層	30% 写真図版 48
15	土師器	鉢	—	(2.1)	6.7	長石・石英・雲母・スコリア	褐灰	普通	体部外面横位のヘラナデ　底部不定方向のヘラナデ	南東部覆土下層	5% 写真図版 48

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
16	管玉	1.25	2.5	0.2	3.3	長石・石英	橙	全面ナデ　赤彩　孔未貫通	覆土中	写真図版 48

竈　北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 126㎝である。袖部の基部の最大幅は 90㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片 108 点 [坏 15 点 (2,811g)、鉢２点 (802g)、甕 91 点 (2,230g)]、須恵器坏片２点 (22g)、弥生土器片９点 (61g)、礫４点 (1,641g)。１・９の土師器坏、13 の土師器甕は竈西側の床面、２・３・５～８の土師器坏は南東部の覆土下層、10 の土師器坏は北東部の覆土中層、11 の土師器坏は北東部の床面、15 の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。14 の土師器鉢は竈東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。

第 114 号竪穴建物跡 (SI-114)(第 99・100・101・102・103・104・105 図　写真図版 22・23・26)

位置　調査区東Ｉ 39・40、Ｊ 38 ～ 41、Ｋ 38 ～ 40 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 120・121 号竪穴建物、第２号柱穴列に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 8.40 ｍ、短軸 7.80 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 30° －Ｅである。壁は確認面から最大高 50㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、全壁で確認でき、上幅 40 ～ 50㎝、下幅 10 ～ 16㎝、深さ 16㎝で、断面形は逆台形を呈している。

床　全体的に踏み固められている。各壁際から中央に向かって伸びる間仕切溝６条を確認した。作業兼住居として使用されていた人々の生活スペースとして活用されていたと考えられる。

炉　炉は３か所 (炉１～炉３) を確認した。炉１は中央から北東寄りに位置し、長径 118㎝、短径 80㎝の楕円形で、床面を８㎝掘りくぼめている。炉壁滓や鉄滓の出土から二次精製炉とも考えられるが地床炉である。炉２は北西寄りに位置し、長径 48㎝、短径 41㎝の不整楕円形の鍛冶炉で、炉床の北部が赤変している。炉の上に金床石や砥石が置かれている。炉３はほぼ中央に位置し、長径 40㎝、短径 30㎝の円形の鍛冶炉で、炉床は南部が赤変している。床面を５㎝掘りくぼめている。

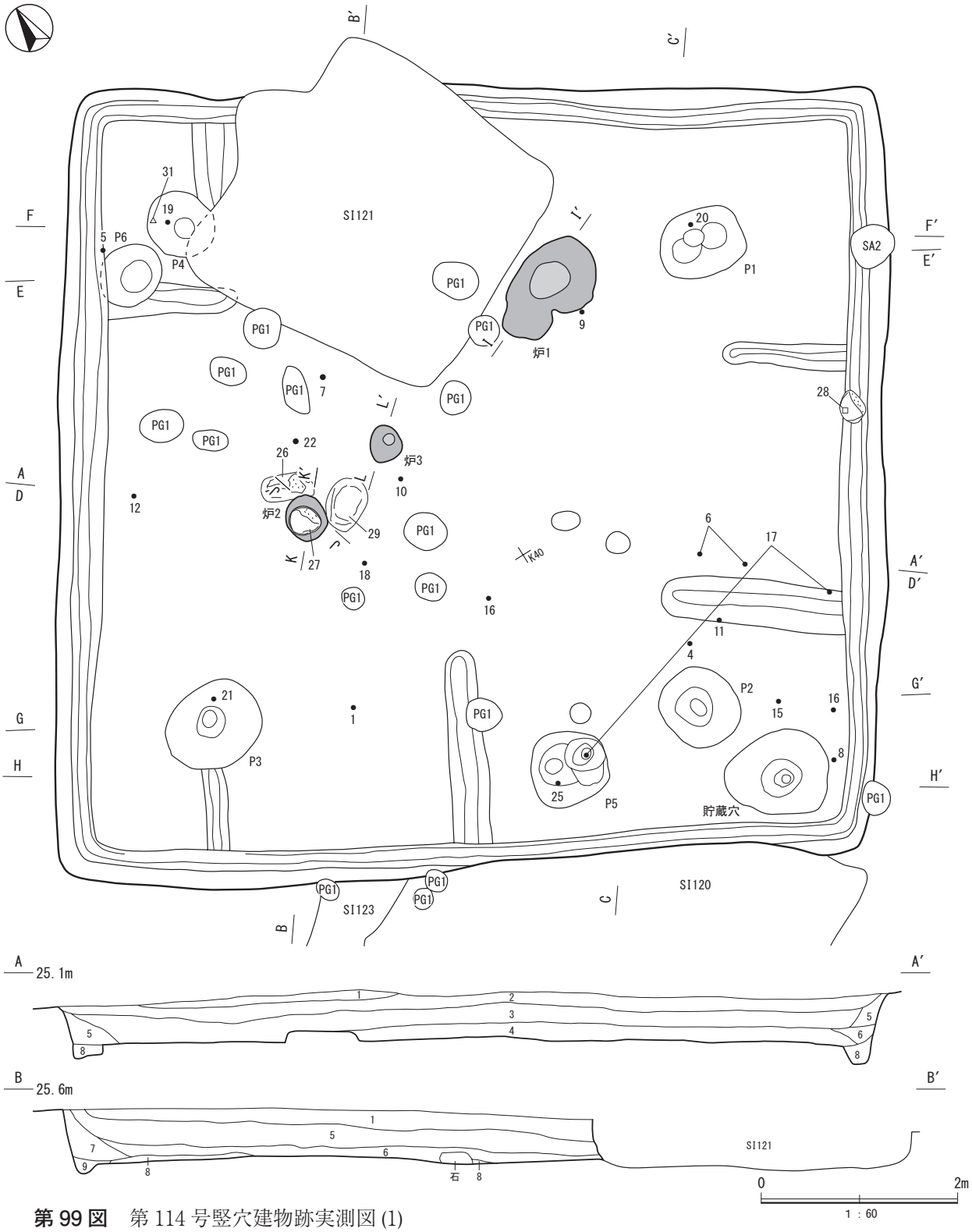
土層　９層に分層できる。８層はロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　６か所が確認された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：80 × 70㎝、深さ 76㎝、Ｐ２：82 × 80㎝、深さ 62㎝、Ｐ３：96 × 80㎝、深さ 72㎝、Ｐ４：80 × 64㎝、深さ 42㎝、Ｐ５：50 × 30㎝、深さ 22㎝、Ｐ６：102 × 86㎝、深さ 106㎝である。炉２、炉３の周辺に位置しているピットは、金床石や砥石を据えたピットか、作業用のピットの可能性がある。Ｐ１～Ｐ４は立て替えが行われた痕跡がみられた。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 98㎝、短径 82㎝ の楕円形で深さ 102㎝ である。

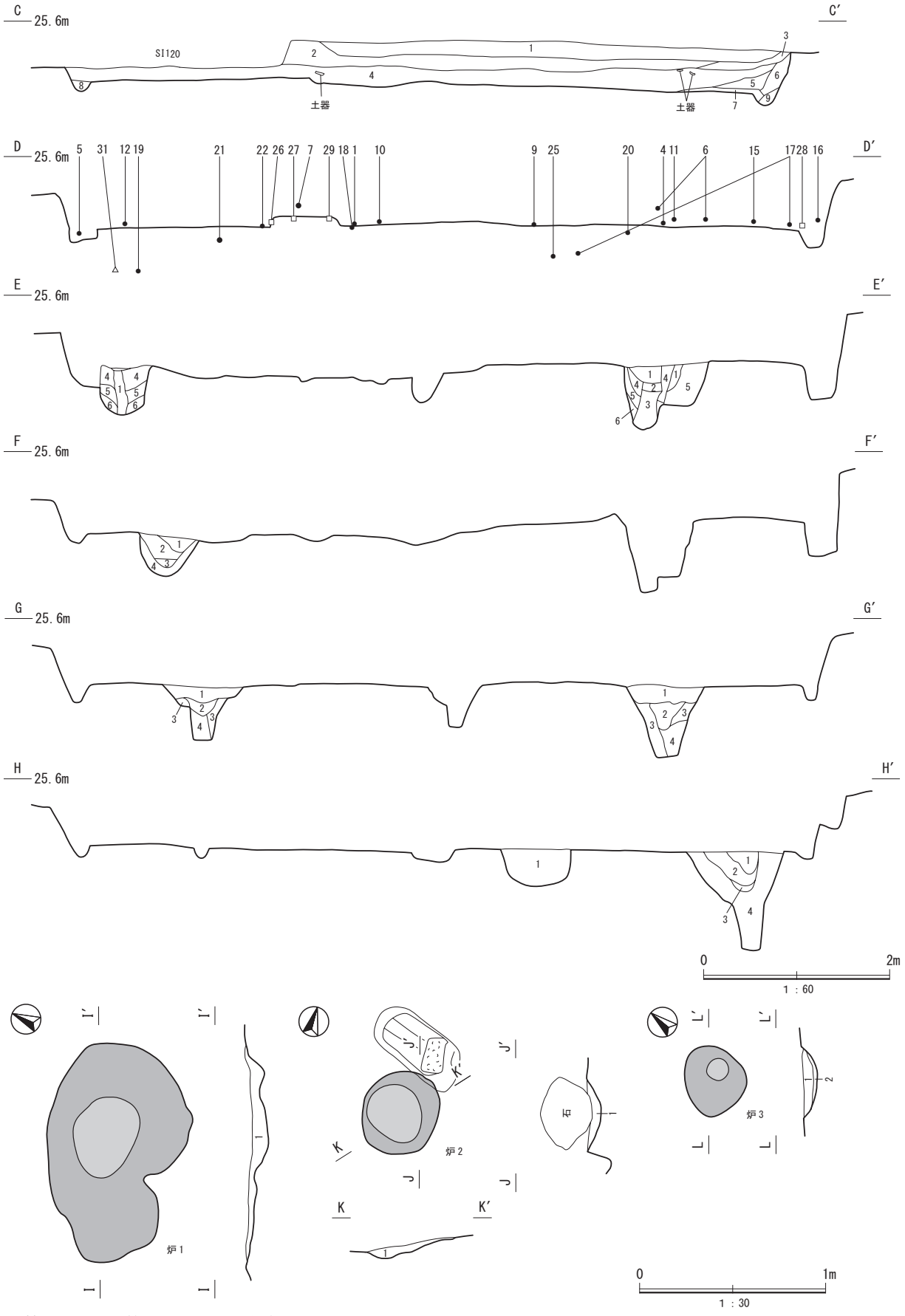
遺物出土状況　土師器片 3,006 点 [坏 14 点 (151g)、高台付坏１点 (19g)、高坏 419 点 (5,063g)、坩 41 点 (620g)、甕 2,531 点 (35,50g)]、須恵器片 11 点 [坏３点 (51g)、甕８点 (167g)]、鉄滓 70 点 (561g)、弥生土器片 25 点 (525g)、礫 55 点 (15,765g)。１の土師器椀は南西部の床面、４の土師器高坏は南東部の床面、５の土師器高坏は北西壁溝内、６の土師器高坏は南東部の覆土中層、７の土師器高坏は北西部の床面、９の転用羽口は炉１東側の床面、10 の転用羽口は中央部の床面、11 の転用羽口は南東部の覆土下層、12 の転用羽口は北西部の覆土下層、15 の土師器甕は南東部の床面、16 の土師器甕は南東部の覆土下層、17 の土師器甕はＰ５内と南東壁寄りの床面、19 の土師器甕・31 の刀子はＰ４内、20 の土師器甕はＰ１内、21 の土師器台付甕はＰ３内、22 の土師器小型甕は炉３西側の床面、25 の砥石はＰ５内、26 の砥石は炉２の北側から、27 の砥石は炉２の上から、29 の金床石は炉２と炉３の間から、28 の金床石は東壁中央部の床面で出土している。

炉覆土サンプリング結果　鍛造剥片 3.3g(516 個)、粒状滓 3.2g(95g)、砂鉄 408.8g 検出された。特に、鍛冶炉１から鍛造剥片 0.4g(64 個)、粒状滓 1g(10 個)、砂鉄 54.6g を、鍛冶炉２から鍛造剥片 1 g(152 個)、粒状滓 1.2g(38 個)、砂鉄 96g を検出した。砂鉄は鍛冶炉を構成する砂に含まれていたものと考えられる。



第 99 図　第 114 号竪穴建物跡実測図 (1)

所見　高坏脚部を転用した羽口 18 点や炉壁滓及び鉄滓・金床石・砥石が出土していることから、鍛冶工房として使用していたと考えられる。砥石も粗砥石と仕上げ砥石があることから製品作成の手順も想定される。鎌や刀子が出土していることから生活用具を製作していたと考えられる。時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀前葉と考えられる。



第 100 図　第 114 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
8　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
9　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

P1 ～ 4 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　2/3　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
6　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量／粘性なし　締まりあり

P5 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　砂粒子少量／粘性なし　締まりなし

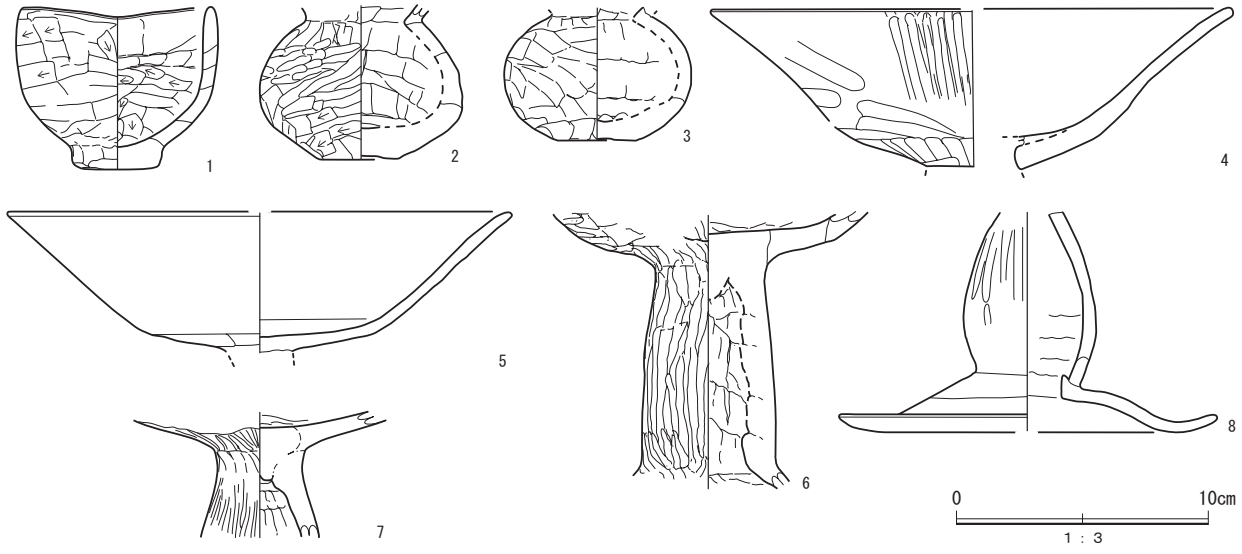
P6 土層解説
1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉 1 土層解説
1　2.5YR　4/8　赤 褐 色　焼土ブロック中量・粒子多量／粘性なし　締まりあり

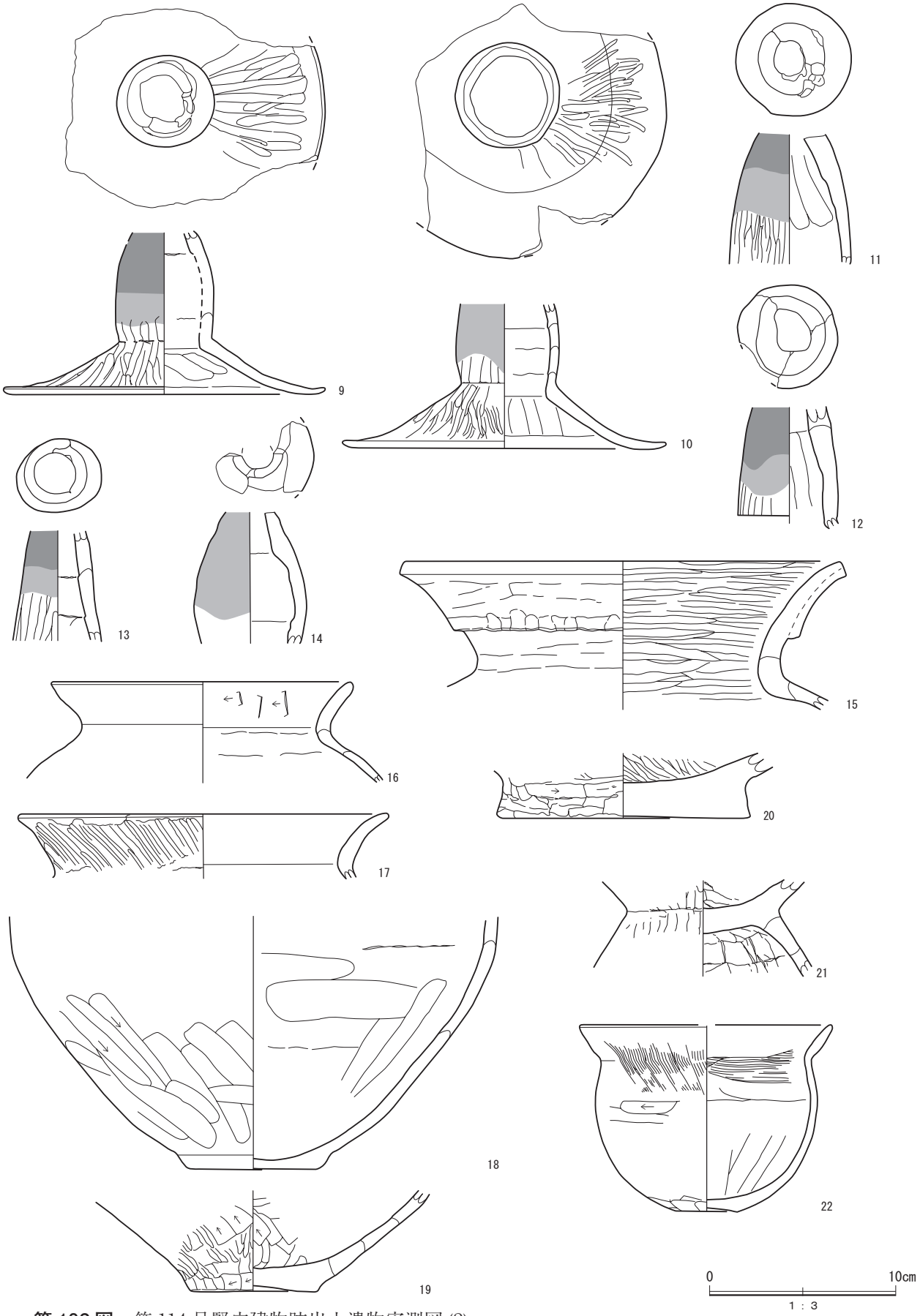
炉 2 土層解説
1　2.5YR　4/6　赤　　褐　　色　焼土ブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

炉 3 土層解説
1　2.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土ブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
2　2.5YR　4/6　赤 褐 色　焼土ブロック微量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

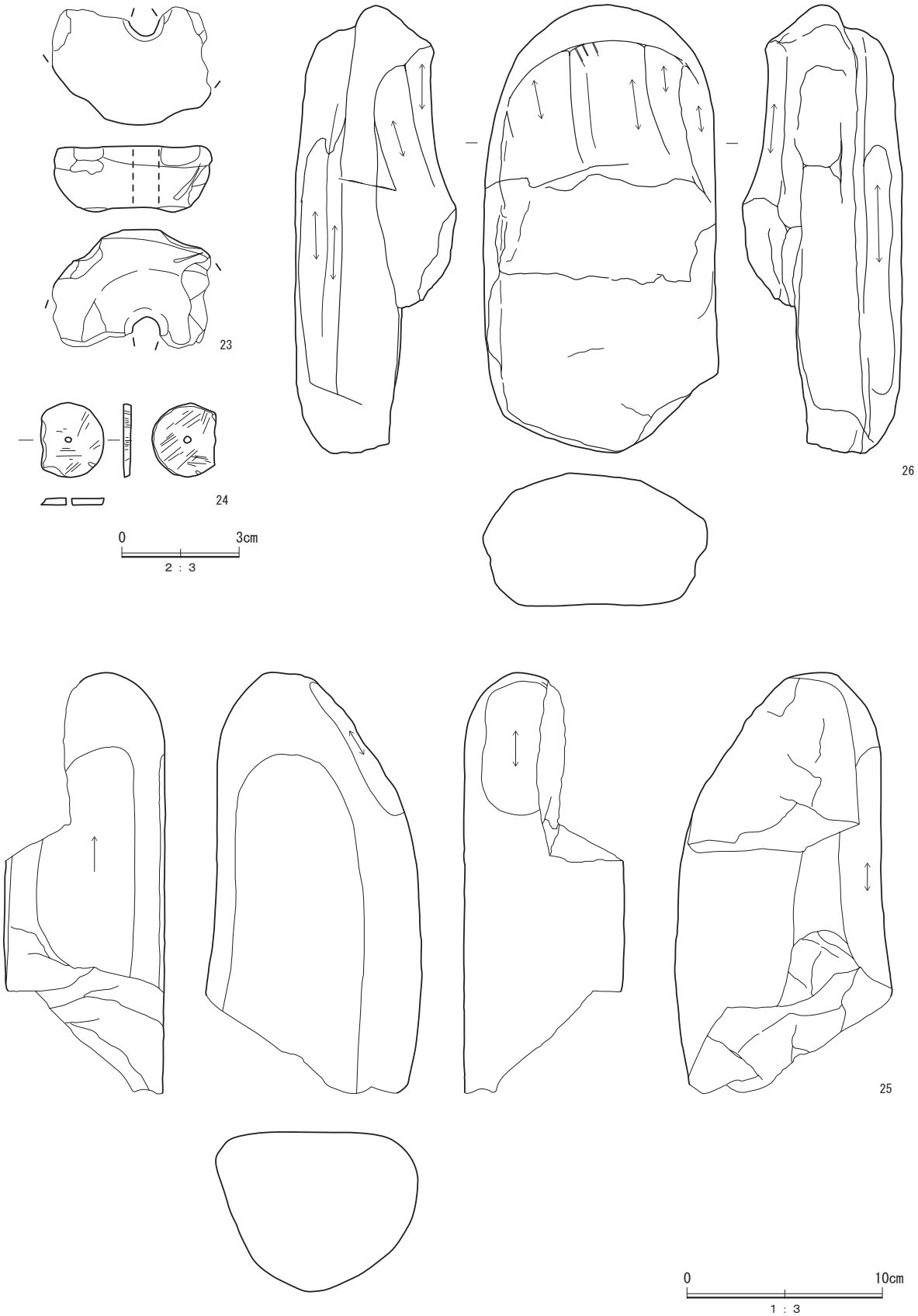
貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり



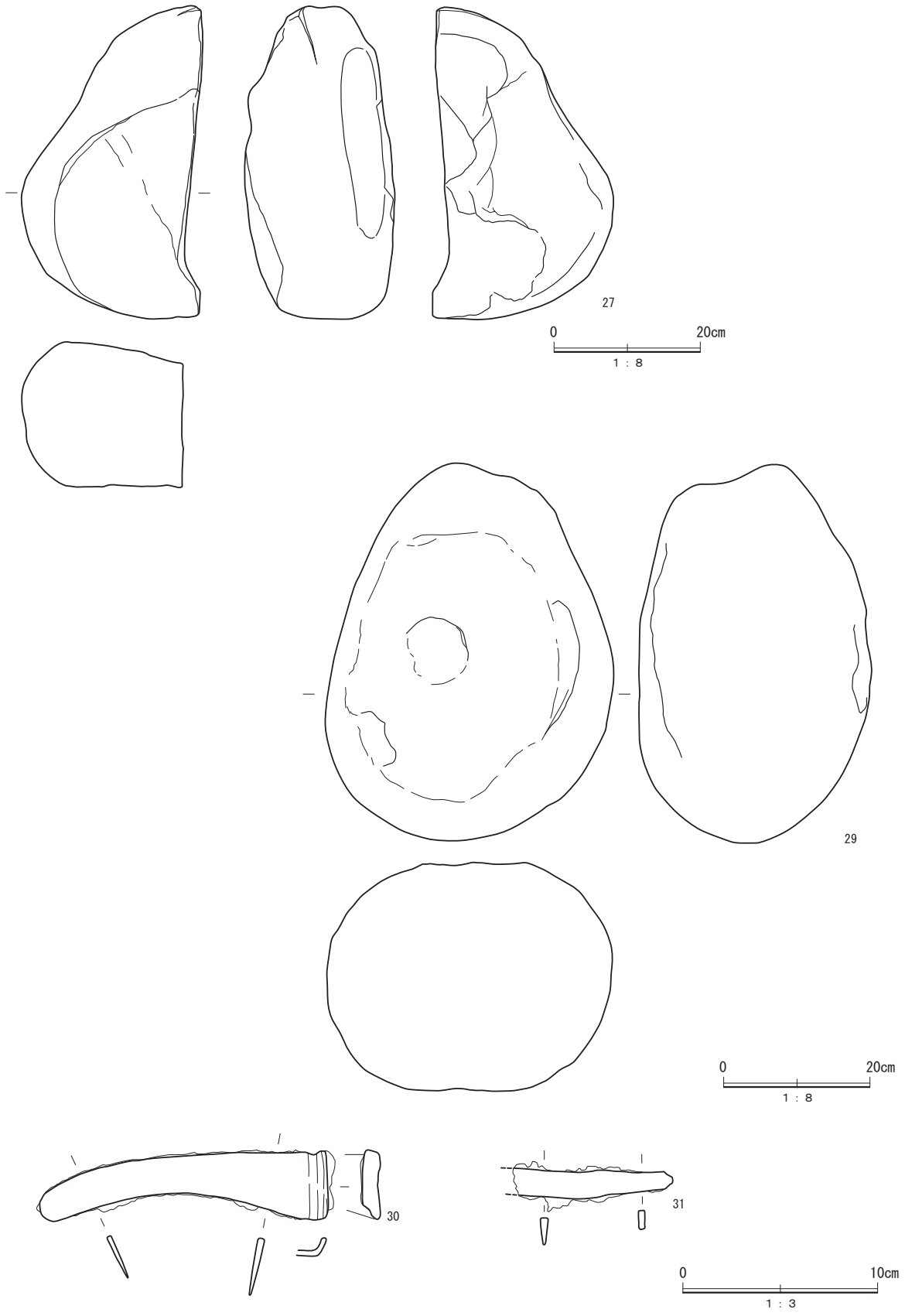
第 101 図　第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



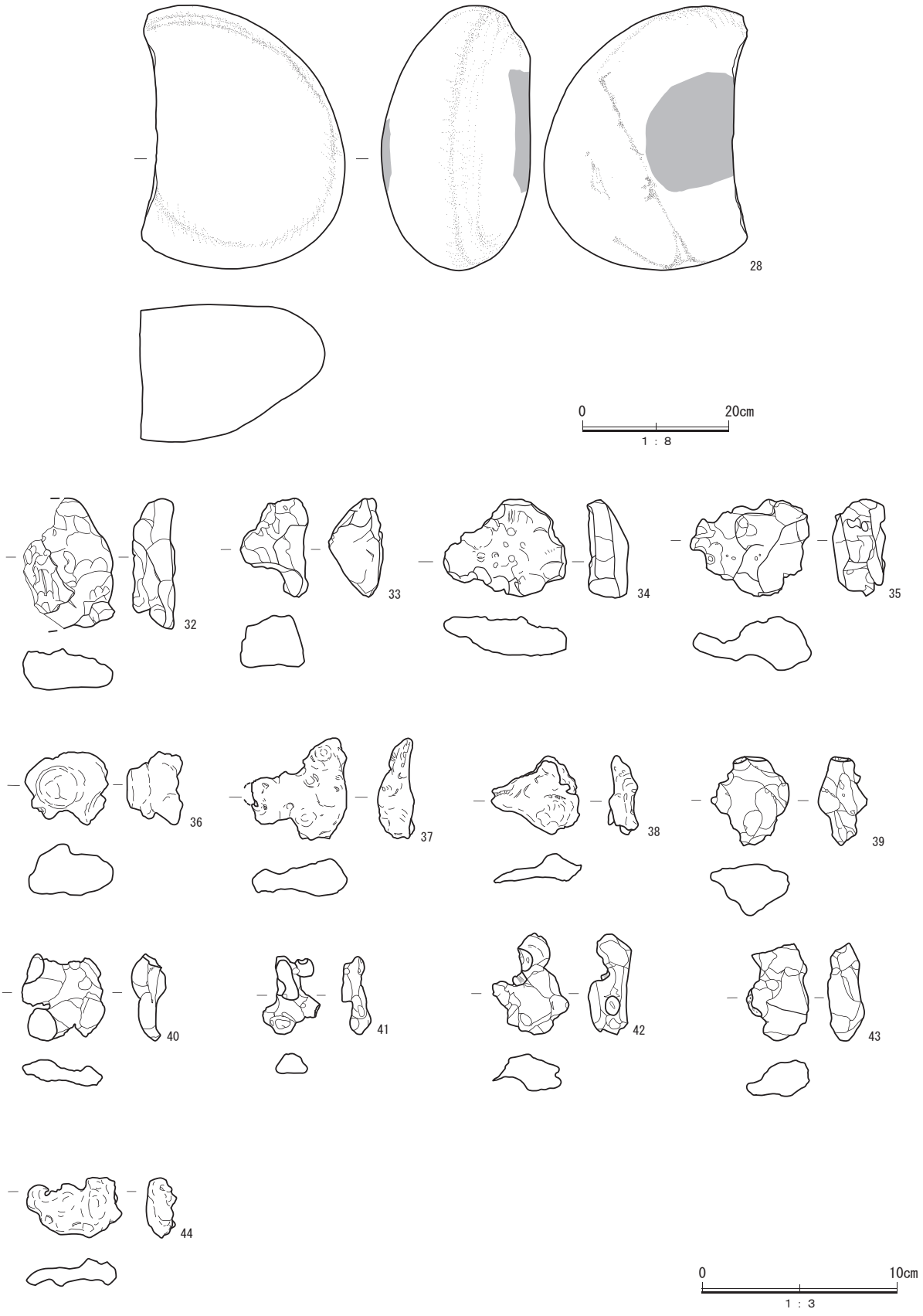
第 102 図　第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 103 図　第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 104 図　第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)



第 105 図　第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (5)

第 48 表　第 114 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	[7.4]	6.5	3.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラナデ	南西部床面	40%
2	土師器	坩	—	(5.6)	3.0	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい橙	普通	体部外面上位縦位のヘラ削り後横位のヘラミガキ　下位斜位のヘラ削り　底部指ナデ	覆土中	80% 写真図版 49
3	土師器	坩	—	(5.3)	3.0	長石・精鋭・スコリア・雲母	にぶい橙	普通	体部外面上位縦位のヘラ削り後ナデ　中位ヘラ削り後ナデ　下位横位のヘラ削り　底部指ナデ	覆土中	80% 写真図版 49
4	土師器	高坏	[20.4]	(6.4)	—	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	坏部外面横位のヘラナデ後縦位のヘラ磨き　中位横位のヘラナデ　下端縦位のヘラナデ　内面摩滅	南東部床面	50%
5	土師器	高坏	[20.0]	(5.5)	—	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	坏部外面横位のヘラナデ後縦位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ後縦位のヘラミガキ	北西壁壁溝内	40% 写真図版 49
6	土師器	高坏	—	(10.6)	—	長石・石英・雲母・スコリア	橙	良好	坏部外面横位のヘラ削り後横位のヘラミガキ　脚部外面縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	南東壁覆土中層	50% 写真図版 49
7	土師器	高坏	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	良好	坏部から脚部縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	北西部床面	15%
8	土師器	高坏	—	(8.7)	[15.0]	長石・石英・スコリア	橙	普通	脚部から裾部外面縦位のヘラミガキ　脚部内面横位のナデ　裾部横位のナデ	貯蔵穴付近	60% 写真図版 49
9	土師器	高坏	—	(9.3)	[17.2]	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	脚部から裾部外面縦位のヘラミガキ　脚部内面横位のナデ　裾部内面斜位のヘラナデ　羽口転用により高熱による変質	炉 1 東側床面	40%羽口転用 写真図版 49
10	土師器	高坏	—	(7.7)	[17.4]	長石・石英・雲母・チャート	橙	普通	脚部から裾部外面横ナデ後縦位のヘラミガキ　脚部内面横位のヘラ削り　裾部横ナデ　羽口転用により高温により器面変質	中央部床面	30%羽口転用 写真図版 49
11	土師器	高坏	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面上位指頭による縦位のナデ下位縦位のナデ　羽口転用により高温で器面変質	南東部覆土下層	5%羽口転用 写真図版 49
12	土師器	高坏	—	(6.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面絞りの後横位のヘラ削り　羽口転用により高温で器面変質	北西壁覆土下層	15%羽口転用
13	土師器	高坏	—	(5.9)	—	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　内面絞りの後横位のヘラ削り　羽口転用により高温で器面変質	覆土中	5%羽口転用 写真図版 49
14	土師器	高坏	—	(7.0)	—	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面上位縦位のヘラナデ会社位のヘラナデ　内面横位のヘラ削り　羽口転用により高温で器面変質	覆土中	5%羽口転用
15	土師器	壺	23.3	(7.9)	—	長石・石英・スコリア・チャート	橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位のヘラミガキ　外面横位のヘラナデ　体部外面摩滅により調整不明	南東部床面	20% 写真図版 49
16	土師器	甕	15.9	(5.4)	—	長石・石英	暗褐	普通	口縁部横ナデ後横位のヘラ削り　外面ハケ目調整の後横位のナデ　体部外面横位のナデ	南東部覆土下層	10%
17	土師器	甕	[19.6]	(3.5)	—	長石・石英・スコリア	暗赤褐	普通	口縁部横ナデ後外面斜位のヘラミガキ	南東壁寄り床面	10%
18	土師器	甕	—	(13.6)	[6.8]	長石・石英・チャート・スコリア	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のナデ	中央部床面	30%
19	土師器	甕	—	(5.4)	7.0	石英・雲母・スコリア	にぶい橙	良好	多部外面縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　底部２方向のヘラナデ	P4 内	10%
20	土師器	壺	—	(3.3)	13.5	石英・雲母・スコリア	にぶい橙	良好	体部外面横位のヘラ削り　内面ヘラミガキ　底部ヘラ削り後２方向へのヘラナデ	P1 内	10%
21	土師器	台付甕	—	(5.5)	—	長石・石英・雲母・スコリア	にぶい橙	良好	台部外面縦位のヘラミガキ　内面ヘラミガキ　台部内面横位のヘラナデ	P3 内	10% 写真図版 49

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
23	紡錘車	[5.2]	1.7	0.8	(19.0)	土製	褐灰	外面ナデ	覆土中	30% 写真図版49
24	有孔円板	1.9	0.2	0.15	(1.1)	滑石	孔１か所		覆土中	写真図版49

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
25	砥石	(21.5)	11.1	8.1	(2095.0)	砂岩	砥面４面	Ｐ５内	写真図版49

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
26	砥石	60.4	31.6	21.6	38100	砂岩	砥面３面　砥面の長さ20cm　幅８～14cm	炉2北側	写真図版49
27	砥石	42.6	24.6	(20.6)	(17200.0)	凝灰岩	砥面１面　砥面の長さ25cm　幅５㎝　金床石使用後に砥石として使用	炉２内	写真図版49
28	金床石	36.1	27.7	(20.4)	(2095.0)	砂岩		東壁床面	写真図版49
29	金床石	51.4	39.6	31.4	94,000.0	砂岩		炉２炉３間	写真図版49

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
30	鎌	14.6	3.6	0.3	(42.0)	鉄	手元Ｌ字に湾曲する	覆土中	写真図版49
31	刀子	(8.1)	1.6	0.4	(14.0)	鉄	茎部に木質依存	Ｐ４内	写真図版49
32	鉄滓	6.7	4.6	2.2	69.0	鉄		覆土中	
33	鉄滓	5.1	3.5	2.8	50.0	鉄		覆土中	
34	鉄滓	5.0	6.3	2.2	67.0	鉄		覆土中	
35	鉄滓	5.0	6.1	2.7	70.0	鉄		覆土中	
36	鉄滓	3.8	4.3	2.8	36.2	鉄	鍛冶滓	覆土中	
37	鉄滓	5.1	4.8	1.9	43.0	鉄	鍛冶滓	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
38	鉄滓	4.0	4.5	1.5	21.0	鉄	鍛冶滓	覆土中	
39	鉄滓	4.5	4	2.5	39	鉄	磁石に反応あり	覆土中	
40	鉄滓	4.5	4.2	1.7	36	鉄	磁石の反応あり　鍛冶滓	覆土中	
41	鉄滓	4	2.9	1.5	10	鉄	鍛冶滓	覆土中	
42	鉄滓	5.2	3.9	2.2	32	鉄	鍛冶滓	覆土中	
43	鉄滓	7.8	3.2	1.9	30	鉄	磁石に反応あり　鍛冶滓	覆土中	
44	鉄滓	3.1	4.8	1.5	19	鉄	鍛冶滓	覆土中	

第 117 号竪穴建物跡 (SI-117)(第 106・107・108・109 図　写真図版 24)

位置　調査区西部K 41・42、L 41・42 グリットに位置し、標高 25 mの台地の平坦地に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　長軸は4.50 m、短軸は4.32 mで、平面形は方形である。主軸方位はN − 50° − W である。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

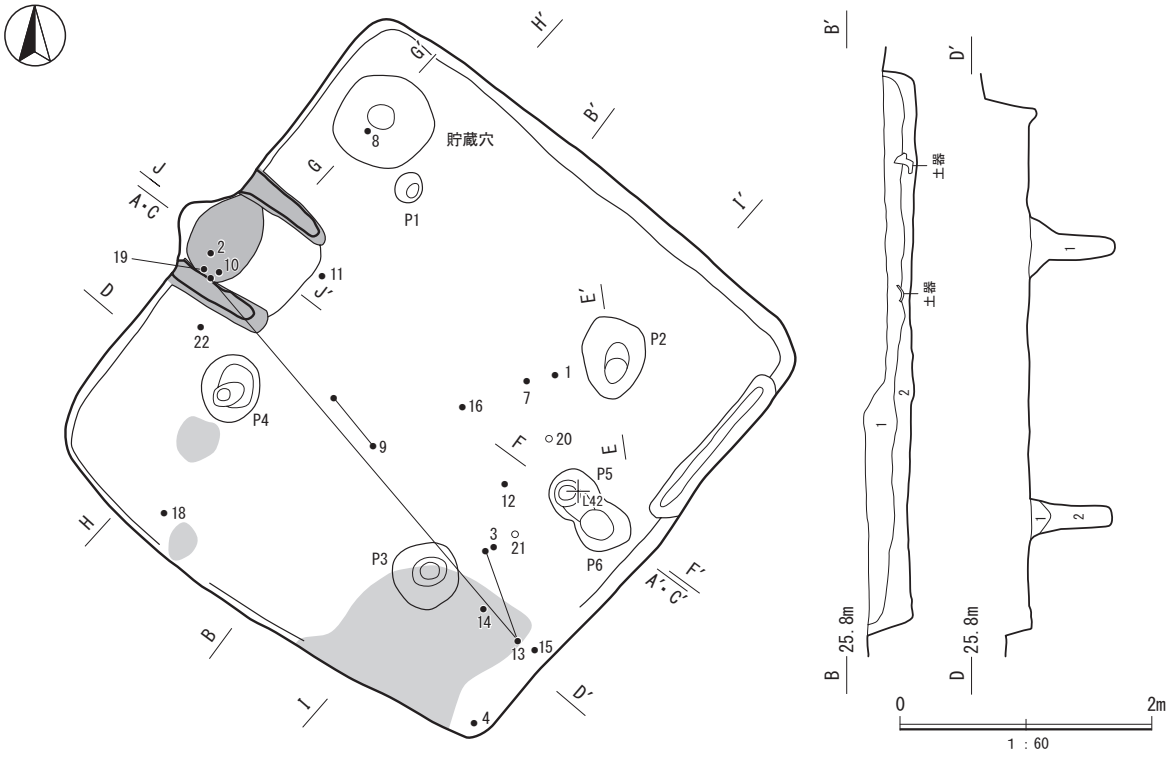
竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 110cmである。袖部の基部の最大幅は 110cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　3 層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

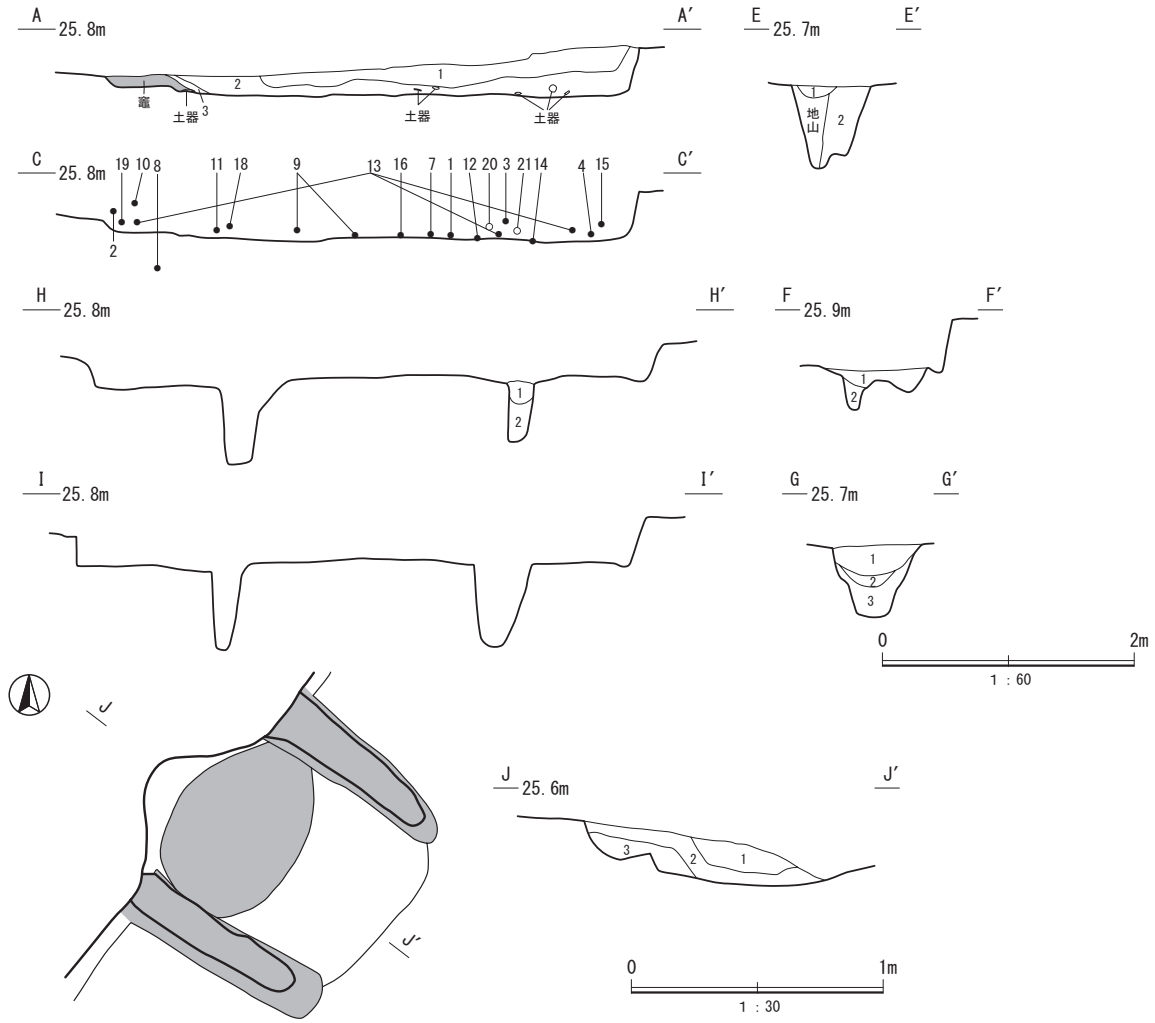
ピット　ピット 6 か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５・６は出入口施設と考えられる。Ｐ１：28 × 22cm、深さ 44cm、Ｐ２：70 × 50cm、深さ 66cm、Ｐ３：54 × 50cm、深さ 62cm、Ｐ４：52 × 44cm、深さ 60cm、Ｐ５：40 × 40cm、深さ 20cm、Ｐ６：42 × 40cm、深さ 30cmである。、Ｐ２～Ｐ４は立て替えが考えられる。

貯蔵穴　北コーナー部に位置し、径 75cmの略円形で、深さ 60cmである。

遺物出土状況　土師器片 614 点 [坏 51 点 (897g)、高坏 7 点 (892g)、坩 3 点 (50g)、鉢 2 点 (131g)、甕 539 点 (14,943g)、小形甕 4 点 (988g)、甑 8 点 (1,744g)]、須恵器片 16 点 [壺 1 点 (29g)、長頸瓶 1 点 (89g)、甕 14 点 (136g)]、鉄製品 2 点 (24g)、弥生土器片 20 点 (199g)、土製品 2 点 (57g)、石製品 2 点 (722g)、貝 68 点 (1,134g)、礫 20 点 (8,200g)。1 の土師器坏、7 の須恵器長頸瓶、12・16 の土師器小形甕は中央部の床面、2 の土師器坏・10 の土師器甕・19 の土師器甑は竈内、4 の土師器高坏は南部の覆土下層、



第 106 図　第 117 号竪穴建物跡実測図 (1)



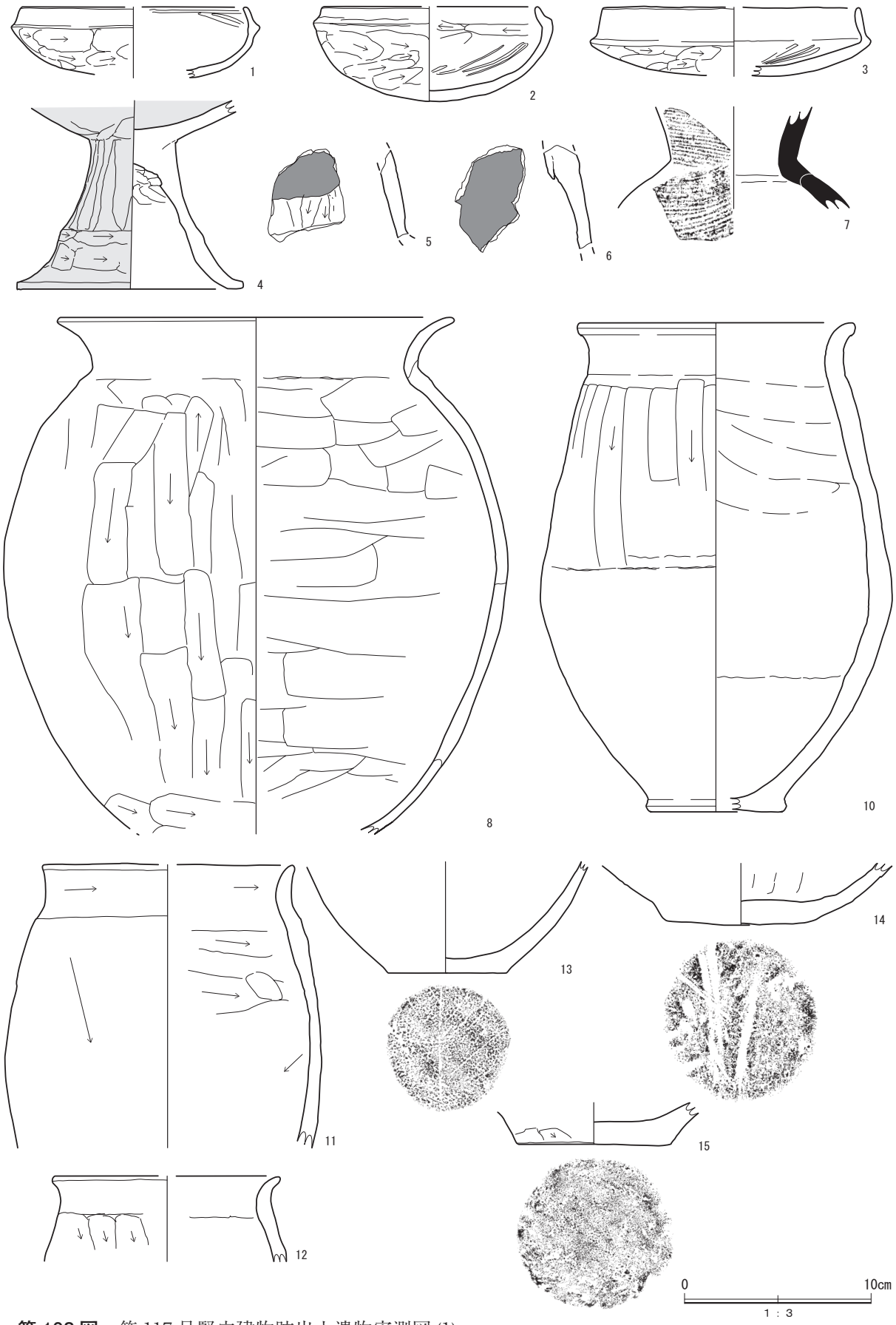
土層解説
1　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　7/3　にぶい橙色　ローム粒子多量　焼土粒子だ量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり

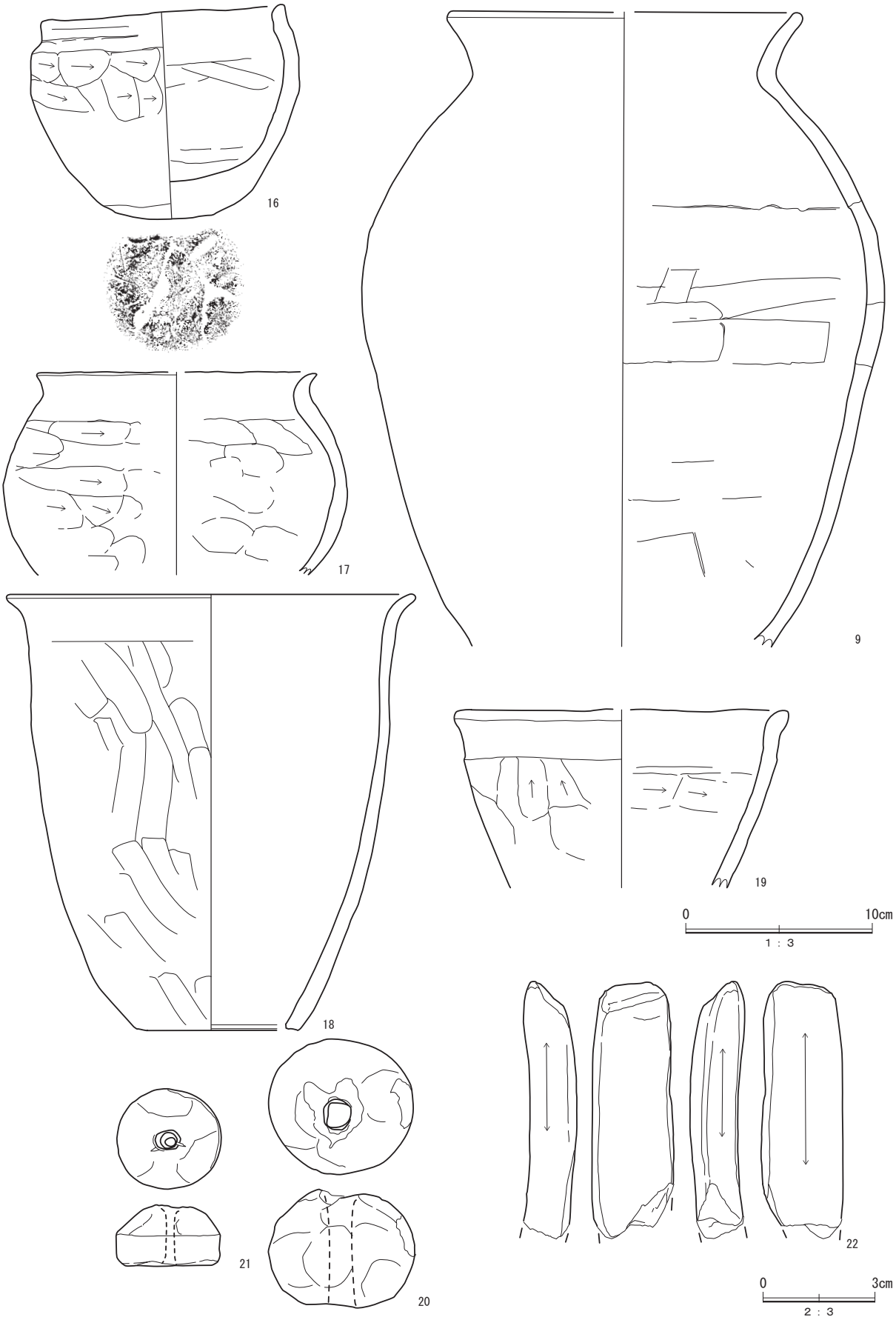
貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説
1　5YR　4/4　にぶい赤褐色　ロームブロック・粒子多量　焼土ブロック多量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　ローム粒子多量　粘土粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　ローム粒子多量　粘土粒子少量　焼土ブロック微量／粘性あり　締まりあり

第 107 図　第 117 号竪穴建物跡実測図 (2)



第 108 図　第 117 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 109 図　第 117 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 49 表　第 117 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	(3.8)	—	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	中央部床面	70% 写真図版50
2	土師器	坏	[11.4]	5.1	—	長石・石英	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	竈内	50% 写真図版50
3	土師器	坏	[13.6]	(3.7)	—	長石・石英	にぶい褐	良好	口縁部横ナデ　外面横位のヘラ削り　体部内面放射状のヘラ磨き	南東部覆土下層	20%
4	土師器	高坏	—	(10.0)	12.0	長石・石英	暗赤褐	良好	脚部縦位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ　内外面赤彩	南部覆土下層	50% 写真図版50
5	須恵器	高坏	—	(5.0)	—	長石・石英	橙	普通	羽口転用　脚部縦位のヘラ削り　上部火熱変色	覆土中	5%
6	土師器	高坏	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	羽口転用　脚部縦位のヘラ削り　上部火熱変色	覆土中	5%
7	須恵器	長頸瓶	—	(5.3)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　頸部外面横位のカキ目	中央部床面	５％在地 写真図版50
8	土師器	甕	[21.0]	(27.8)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面上位横位のナデ会社位のナデ	貯蔵穴内	40% 写真図版50
9	土師器	甕	[18.6]	(33.9)	—	長石･石英･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整不明 内面横ナデ　輪積痕	中央部覆土中層から下層	10%
10	土師器	甕	14.4	26.1	[7.2]	長石･石英･細礫	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	竈内	30% 写真図版50
11	土師器	甕	13.4	(15.0)	—	長石･石英･チャート	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り摩滅 内面横位のヘラナデ	竈前覆土下層	40% 写真図版50
12	土師器	小形甕	12.0	(4.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	中央部床面	25% 写真図版50
13	土師器	甕	—	(6.0)	6.4	長石・石英	褐	普通	体部外面摩耗により調整痕不鮮明　内面ナデ 底部木葉痕	竈中･南部覆土下層	30%
14	土師器	甕	—	(3.4)	8.0	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ削り不鮮明　底部木葉痕摩耗により一部不鮮明	南部床面	5%
15	土師器	甕	—	(2.3)	8.2	長石・石英	橙	普通	体部下端横位のヘラ削り　一方向のヘラ削り 内面ナデ	南東部覆土中層	5%
16	土師器	小形甕	13.0	10.5 ～ 11.5	8.0	長石・石英	灰褐	普通	口縁部横ナデ　体部が異変横位のヘラ削り 内面指ナデ	中央部床面	100%
17	土師器	小形甕	[15.0]	(11.0)	—	砂粒･石英･スコリア	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部内・外面横位のヘラ削り	覆土中	20%
18	土師器	甑	21.6	23.3	8.6	長石･石英･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のナデ	西部の覆土中層	70% 写真図版50
19	土師器	甑	17.8	(9.8)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	竈内	15%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
20	土玉	3.1	3.6 ～ 3.7	0.7	44.0	長石・石英	橙	外面ナデ	南東部覆土下層	写真図版50
21	土玉	(1.6)	2.7 ～ 2.8	0.45	(13.0)	長石・石英	橙	外面ナデ	南東部覆土下層	写真図版50

番号	種別	幅	長さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
22	砥石	2.2	(6.9)	1.5	(33.0)	粘板岩	砥面３面	覆土中	

８の土師器甕は貯蔵穴内、９の土師器甕は中央部の覆土中層から下層に、11 の土師器甕は竈前の覆土下層、13 の土師器甕は竈内と南部の覆土下層、14 の土師器甕は南部の床面、15 の土師器甕は南部の覆土中層、18 の土師器甑は西部の覆土下層、３の土師器坏、20・21 の土製土玉は南東部の覆土下層、５・６の土師器高坏、17 の土師器甕、22 の砥石は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。床面南西部で焼土が確認できたことから焼失家屋と考えられる。

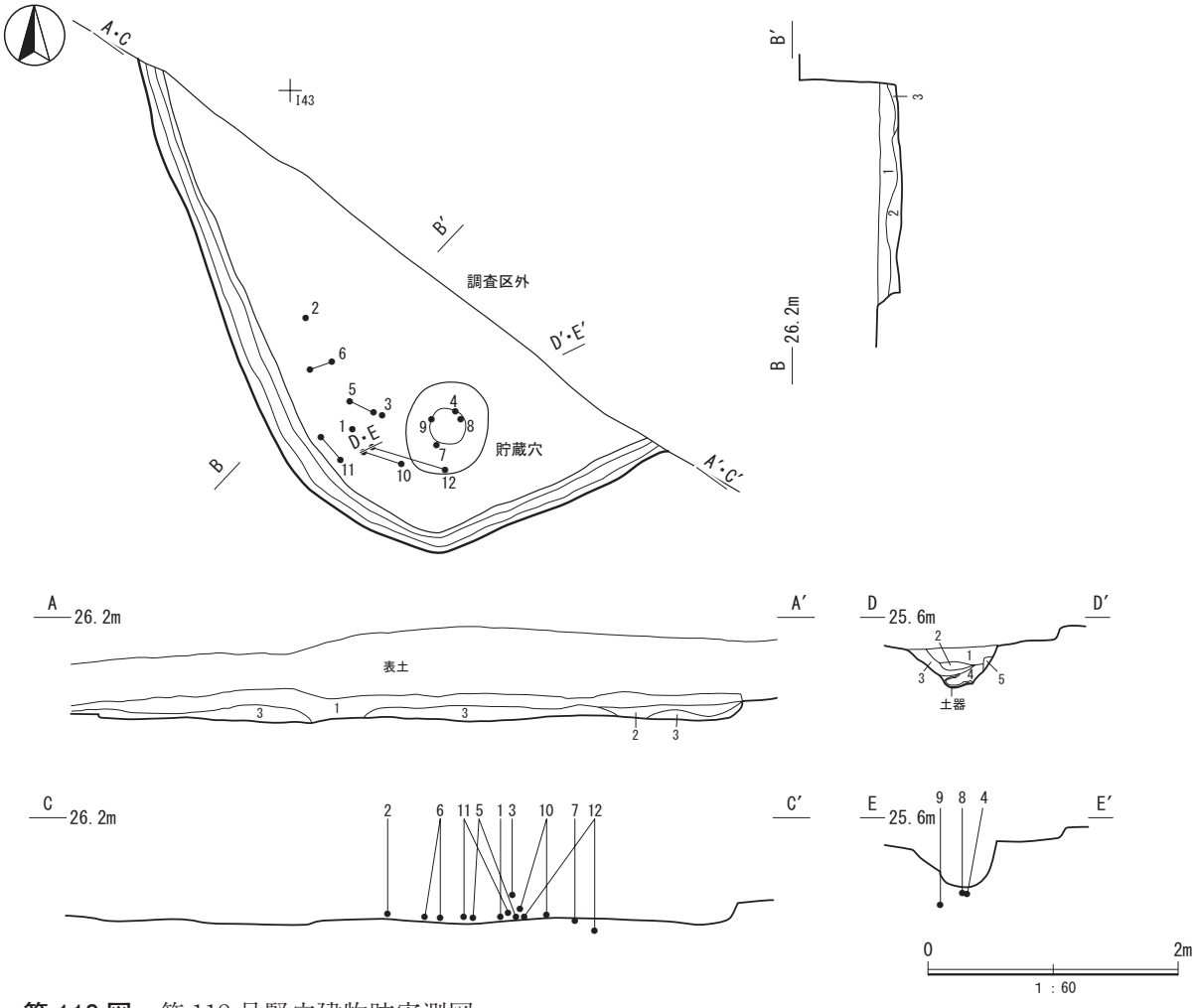
第 118 号竪穴建物跡 (SI-118)(第 110・111・112 図　写真図版 25)

位置　調査区西部Ｈ 42、Ｉ 41・42 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　北部が調査区外に延びて、南北軸は 4.50 ｍ、東西軸は 2.20 ｍしか確認できなかった。平面形は隅丸方形または隅丸長方形と推測される。主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 22㎝で、外傾して立ち上がっている。確認できた壁溝は、上幅 18 ～ 20㎝、下幅６～ 10㎝、深さ６㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

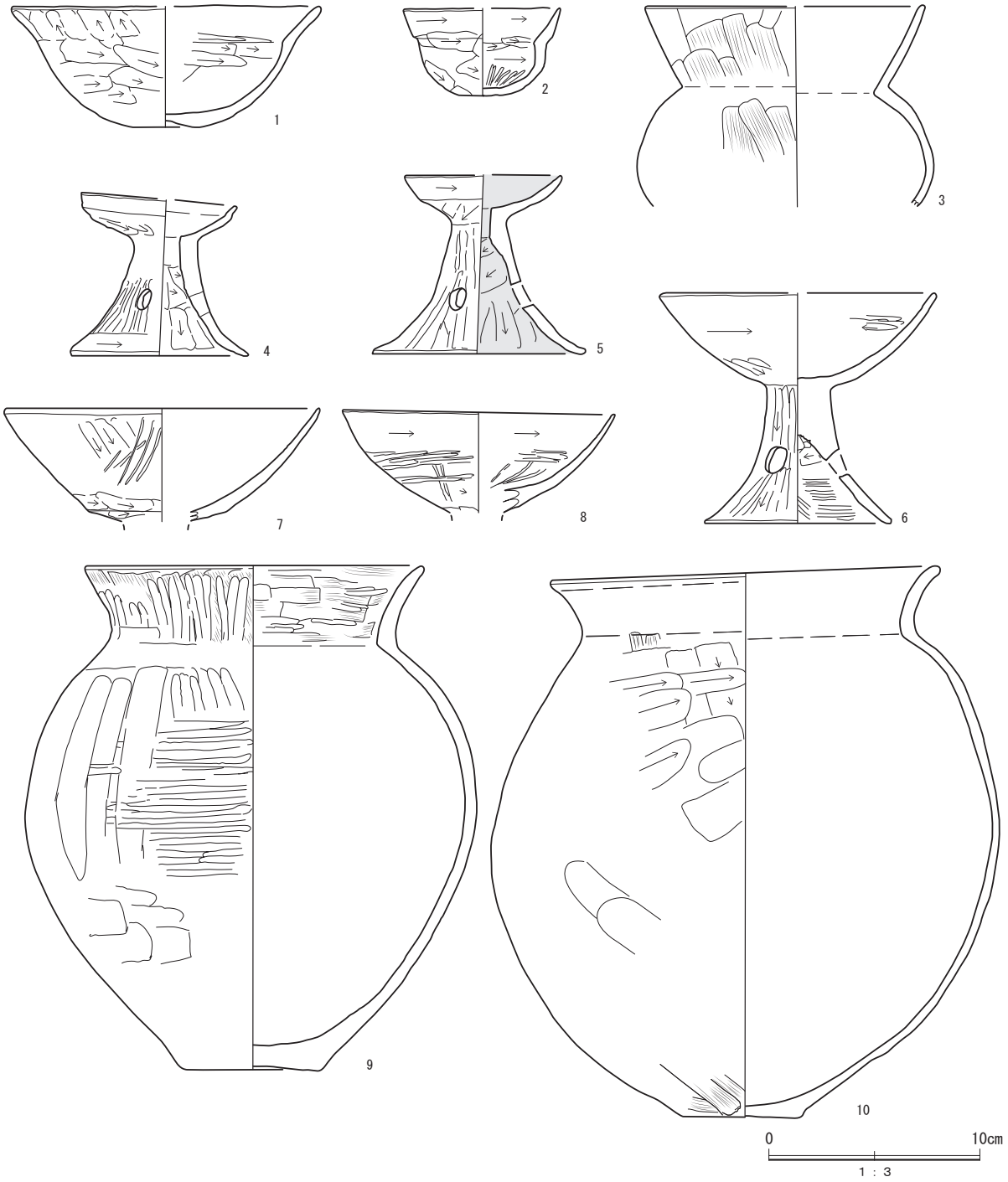
床　確認できた部分は踏み固められている。



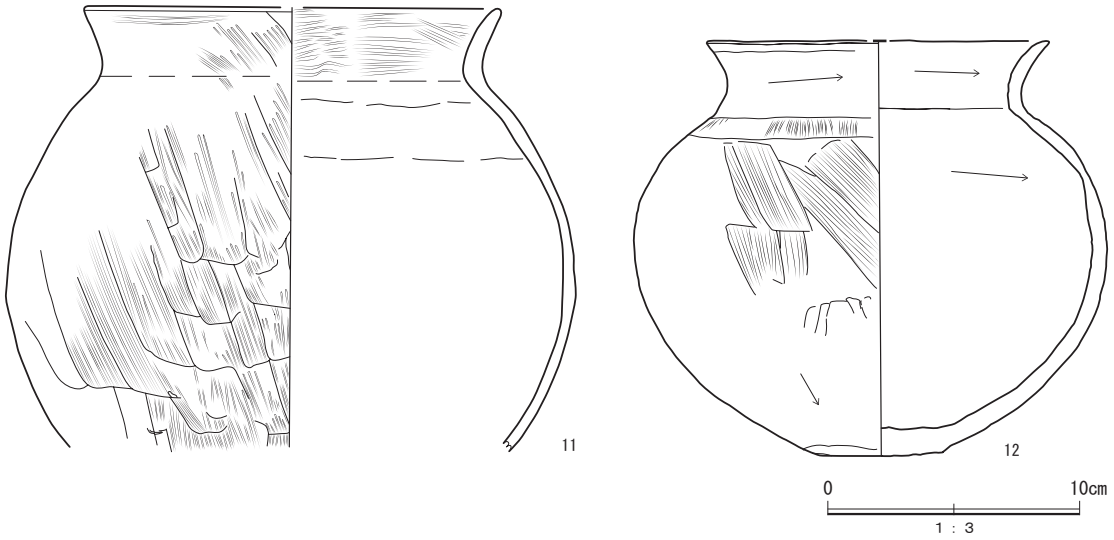
第 110 図　第 118 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 111 図　第 118 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 112 図　第 118 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 50 表　第 118 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	14.8	5.7	3.0	長石･石英･スコリア	明褐	普通	口縁部横ナデ　外面斜位のヘラナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部ヘラ削り	南部床面	30%
2	土師器	坩	7.4	4.2	—	長石･石英･角閃石	暗赤褐	良好	口縁部横ナデ後ヘラミガキ　体部外面横位のヘラ削り　内面上位横位のヘラミガキ下端放射状のヘラミガキ	南部床面	50% 写真図版 50
3	土師器	坩	[13.2]	(9.5)	—	長石・石英	赤褐	普通	口縁部横ナデ後　外面縦位のハケ目調整　体部外面縦位のハケ目調整	南部覆土中層	30%
4	土師器	器台	7.4	7.4	8.4	長石･石英･スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　外面ヘラナデ脚部縦位のヘラナデ摩滅により不鮮明　脚部内面上位横位のヘラ削り下位縦位のヘラ削り　透かし３孔	貯蔵穴内	95% 写真図版 50
5	土師器	器台	7.4	8.6	10.0	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　頸部外面斜位のヘラナデ　外面縦位のヘラナデ　脚部上位横位のヘラ削り下位縦位のヘラ削り　透かし３孔　台部内面赤彩	南部床面	85%
6	土師器	高坏	[13.0]	10.8	[8.8]	長石・石英	灰褐	普通	口縁部横ナデ　坏部内面横位のヘラミガキ外面斜位のヘラナデ　脚部外面縦位のヘラナデ　内面上位横位のヘラ削り　下位横位のハケ目調整	南部床面	30% 写真図版 50
7	土師器	高坏	15.0	(5.4)	—	長石･石英･スコリア	にぶい橙	良好	坏部内面横位のヘラナデ　外面斜位のヘラナデ	貯蔵穴内	50% 写真図版 50
8	土師器	高坏	13.0	(4.7)	—	長石・石英	明赤褐	良好	坏部内面上位横位のヘラミガキ下位縦位・斜位のヘラミガキ　外面横位・斜位のヘラミガキ	貯蔵穴内	40% 写真図版 50
9	土師器	甕	15.7	23.8	6.6	長石･石英･スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後外面刷毛目後縦位のヘラミガキ内面横位の刷毛目ナデ後横位のヘラミガキ体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラもガキ底部２方向へのヘラ削り	貯蔵穴内	95%
10	土師器	甕	18.2	25.3 ～ 26.0	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ調整　下端ハケ目調整	南部床面	80% 写真図版 51
11	土師器	甕	16.4	(17.4)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部横ナデ後外面縦位のハケ目成形内面横位のハケ目ナデ　体部外面縦位のハケ目調整	南部床面	60% 写真図版 51
12	土師器	小形甕	13.8	16.5	5.6	長石・石英	橙	良好	口縁部横ナデ　体部上位縦位のハケ目　中位斜位のハケ目調整　下位縦位のヘラナデ　内面上位横位のハケナデ　下位縦位のヘラミガキ　底部ヘラ削り	貯蔵穴内	80% 写真図版 51

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 76cm、短径 60cmの楕円形で深さ 54cmである。

遺物出土状況　土師器片 131 点 [坏２点 (７g)、高坏 28 点 (684g)、坩 7 点 (291g)、器台３点 (252g)、甕 91 点 (4,92g)]、礫２点 (1,500g)。１の土師器椀・５の土師器器台・10 ～ 12 土師器甕は南部の床面、２の土師器坩・６の土師器器台は南部の床面、３の土師器坩は南部の覆土上層、４の土師器器台・８の土師器高坏・９の土師器甕は貯蔵穴内から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。

第 119 号竪穴建物跡 (SI-119)(第 113・114・115 図　写真図版 25)

位置　調査区東部Ｉ 42・43、Ｊ 42・43、Ｋ 42・43 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 10 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　覆土が薄かったが、長軸 6.80 ｍ、短軸 6.40 ｍと推測でき、平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 20° － Ｅと推定される。壁は確認面から最大高 10cmで、外傾して立ち上がる。

床　炉周辺でやや踏み固められている。

炉　中央から北西寄りに付設されており、長軸 105cm、短軸 50cmの不整楕円形で、床面を５cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

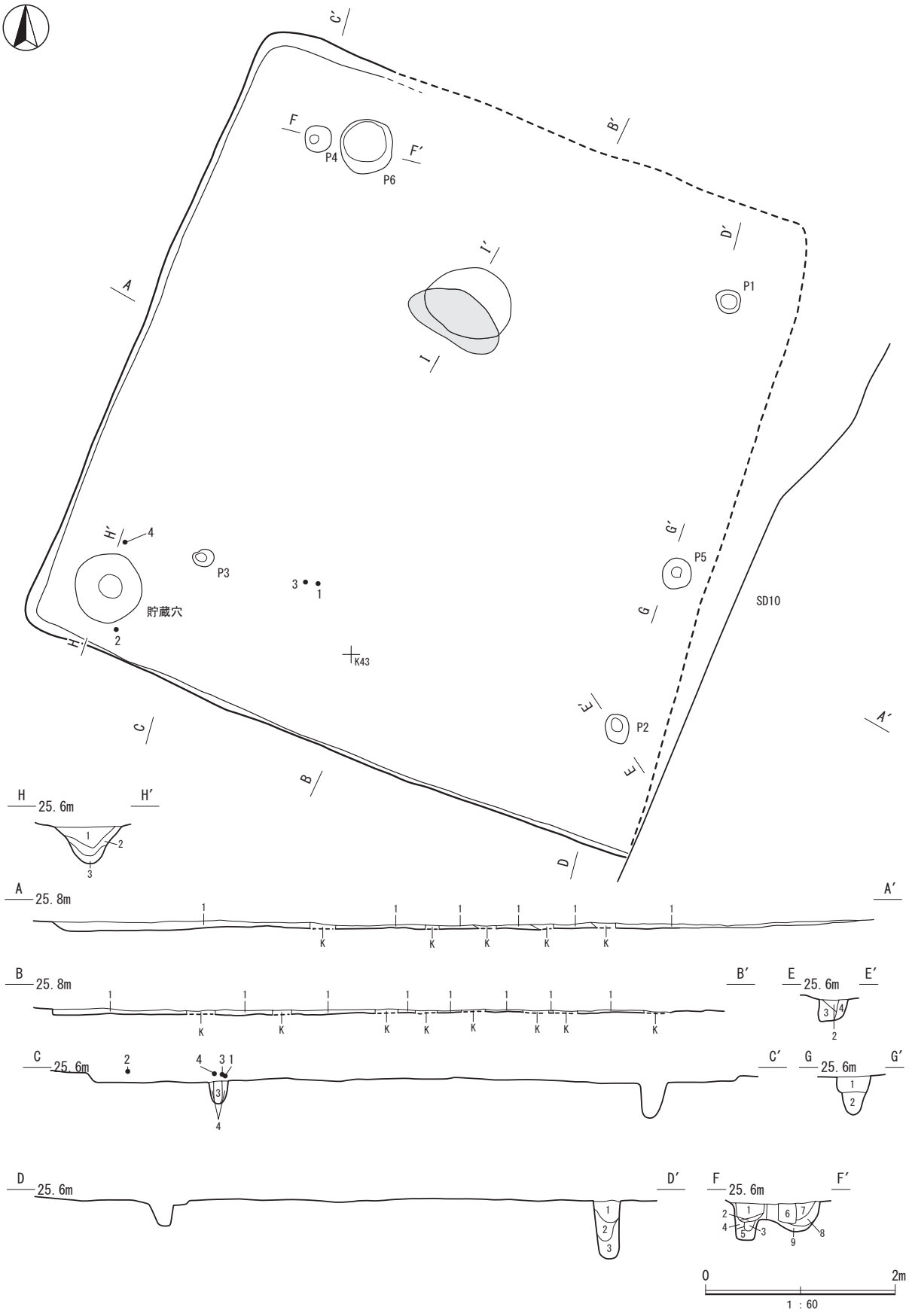
土層　単一層である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:24 × 24cm､深さ 56cm、Ｐ２：34 × 28cm、深さ 28cm、Ｐ３：22 × 20cm、深さ 22cm、Ｐ４：30 × 30cm、深さ 40cm、Ｐ５：32 × 30cm、深さ 40cm、Ｐ６：60 × 52cm、深さ 30cmである。

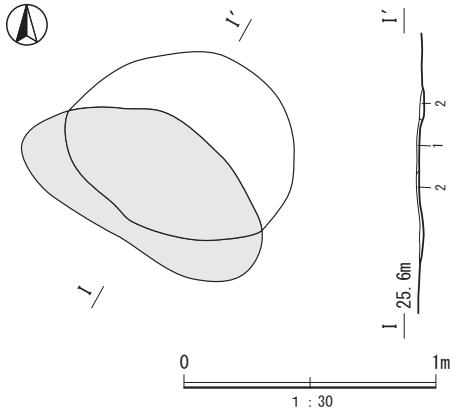
貯蔵穴　西コーナー部に位置し、長径 76cm、短径 70cmの円形で深さ 38cmである。

遺物出土状況　土師器片 419 点 [高坏 156 点 (2,082g)、坩 19 点 (334g)、甕 244 点 (2,647g)]、須恵器片７点［坏３点 (12g)、高台付坏１点 (58g)、甕２点 (1,16g)、甑１点 (40g)］縄文土器片１点 (15g)、礫 11 点 (1,198g)。１の土師器坩、２・３の土師器高坏は南西部の覆土下層、４の土師器甕は貯蔵穴北側の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀前葉と考えられる。



第 113 図　第 119 号竪穴建物跡実測図 (1)



土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームフロック少量・粒子多量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりなし

P1 ～ 3 土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量／粘性あり　締まりあり

第 114 図　第 119 号竪穴建物跡実測図 (2)

P4・P6 土層解説
1　10YR　5/1　褐　灰　色　ローム粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　10YR　4/2　灰 黄 褐 色　ローム粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　10YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　10YR　4/3　にぶい黄褐色　ローム粒子多量／粘性あり　締まりあり
5　10YR　5/4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量／粘性あり　締まりあり
6　10YR　5/2　灰 黄 褐 色　ローム粒子微量／粘性あり　締まりあり
7　10YR　5/3　黒　褐　色　ローム粒子微量　黒色土粒子中量／粘性あり　締まりあり
8　10YR　4/2　灰 黄 褐 色　ローム粒子微量／粘性あり　締まりあり
9　10YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量／粘性あり　締まりあり

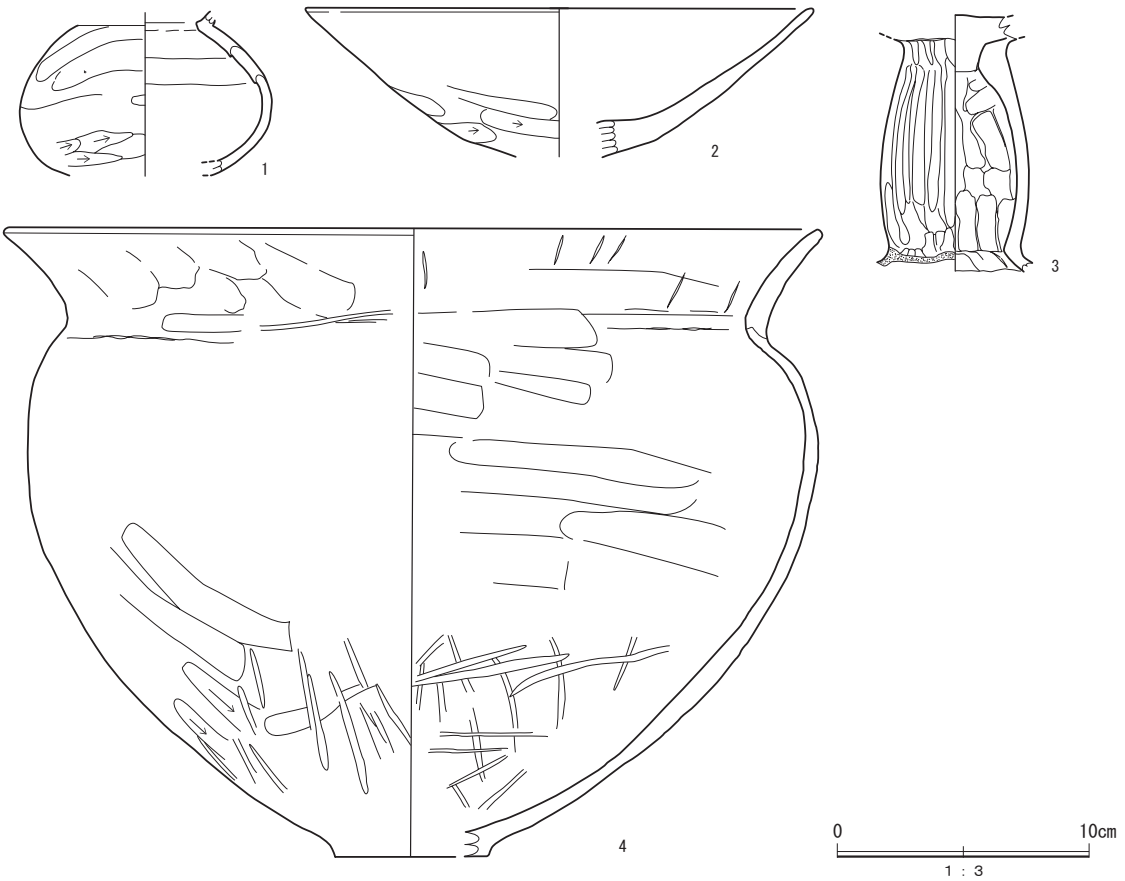
P5 土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量　黒色土粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土ブロック中量・粒子多量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性なし　締まりなし

第 51 表　第 119 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	(6.5)	—	長石・石英	橙	良好	体部外面上位横位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り　内面輪積跡	南西部覆土下層	60% 写真図版 51
2	土師器	高坏	[20.0]	(5.9)	—	長石･石英･角閃石	にぶい橙	良好	坏部口縁横ナデ　体部横位のヘラ削り	南西部覆土下層	25%
3	土師器	高坏	—	(10.2)	—	長石･石英･スコリア	灰黄褐	良好	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面縦位のヘラナデ	南西部覆土下層	30% 写真図版 51
4	土師器	甕	32.2	24.9	6.0	長石･石英･細礫	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のナデ　内面横位のナデ　体部外面斜位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面上位横位のヘラナデ　下位縦位の方向へのヘラミガキ	貯蔵穴北側覆土下層	75% 写真図版 51



第 115 図　第 119 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 120 号竪穴建物跡 (SI-120)(第 116・117 図　写真図版 26)

位置　調査区東部Ｋ 39・40、Ｌ 39・40 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 114・122・123 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.00 ｍ、短軸 3.60 ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ－ 15°－ Ｗである。壁は確認面から最大高 28㎝で、外傾して立ち上がる。

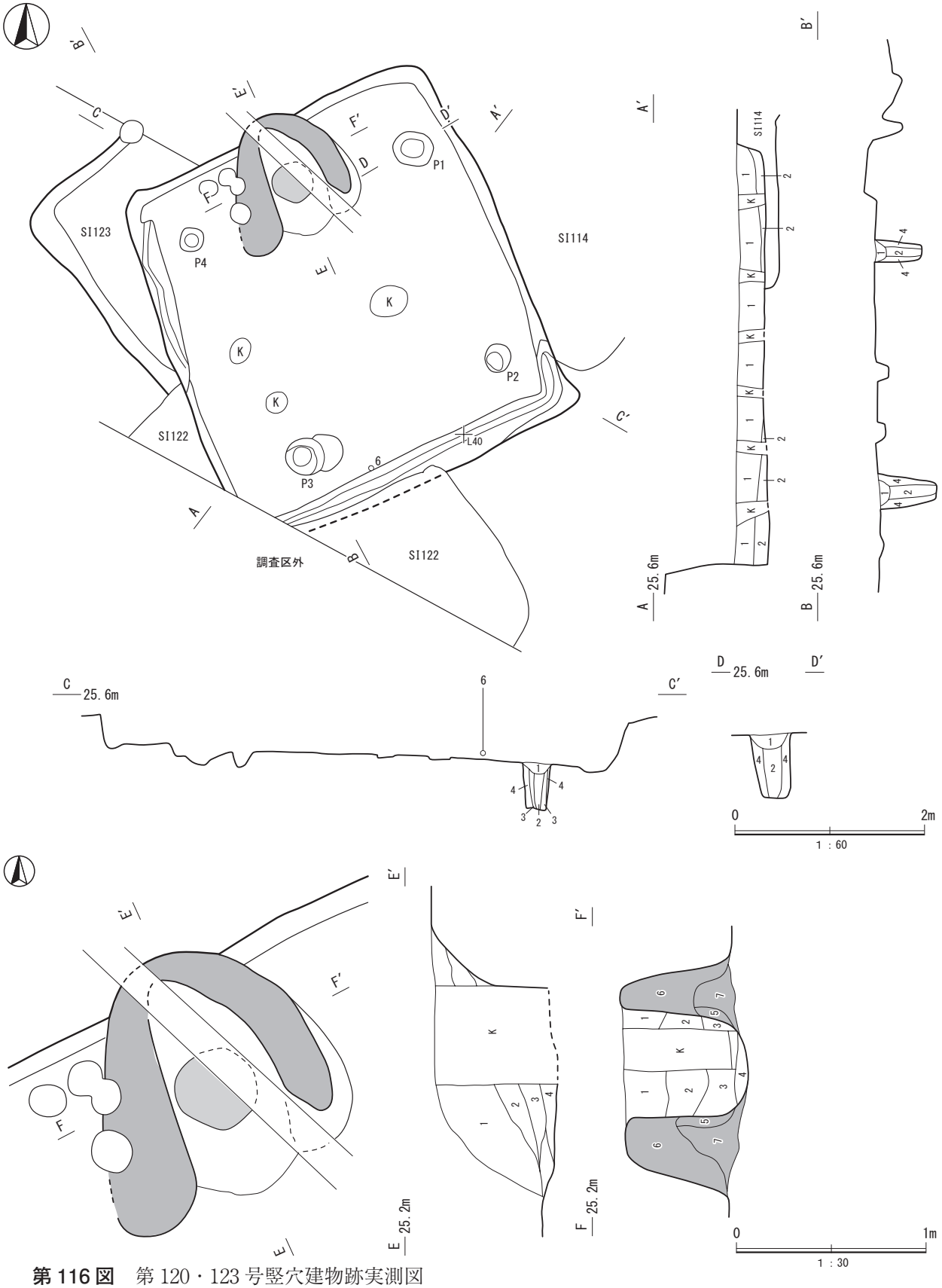
床　全体にやや踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、黄白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 135㎝である。袖部の基部の最大幅は約 137㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。焚口は床面から５㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは急角度で立ち上がる。

土層　２層に分層でき、堆積状況から自然堆積と考えられる。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:50 × 40㎝､深さ 68㎝、Ｐ２：30 × 26㎝、深さ 50㎝、Ｐ３：50 × 40㎝、深さ 38㎝、Ｐ４：22 × 22㎝、深さ 52㎝である。

遺物出土状況　土師器片 275 点 [坏 15 点 (129g)､高坏 17 点 (343g)､鉢１点 (278g)､甕 242 点 (6,989g)]、須恵器片６点［坏２点 (30g)、蓋１点 (65g)、鼈１点 (26g)、瓶１点 (14g)、甕１点 (14g)］、弥生土器片１点 (８g)、土製品１点 (201g)、石製品１点 (629g)、礫８点 (3,151g)。６の管状土錘は南



第 116 図　第 120・123 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒褐色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗褐色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり

東部の床面から出土している。１の土師器坏・２～４の土師器甕・７の石製支脚は覆土中から出土している。

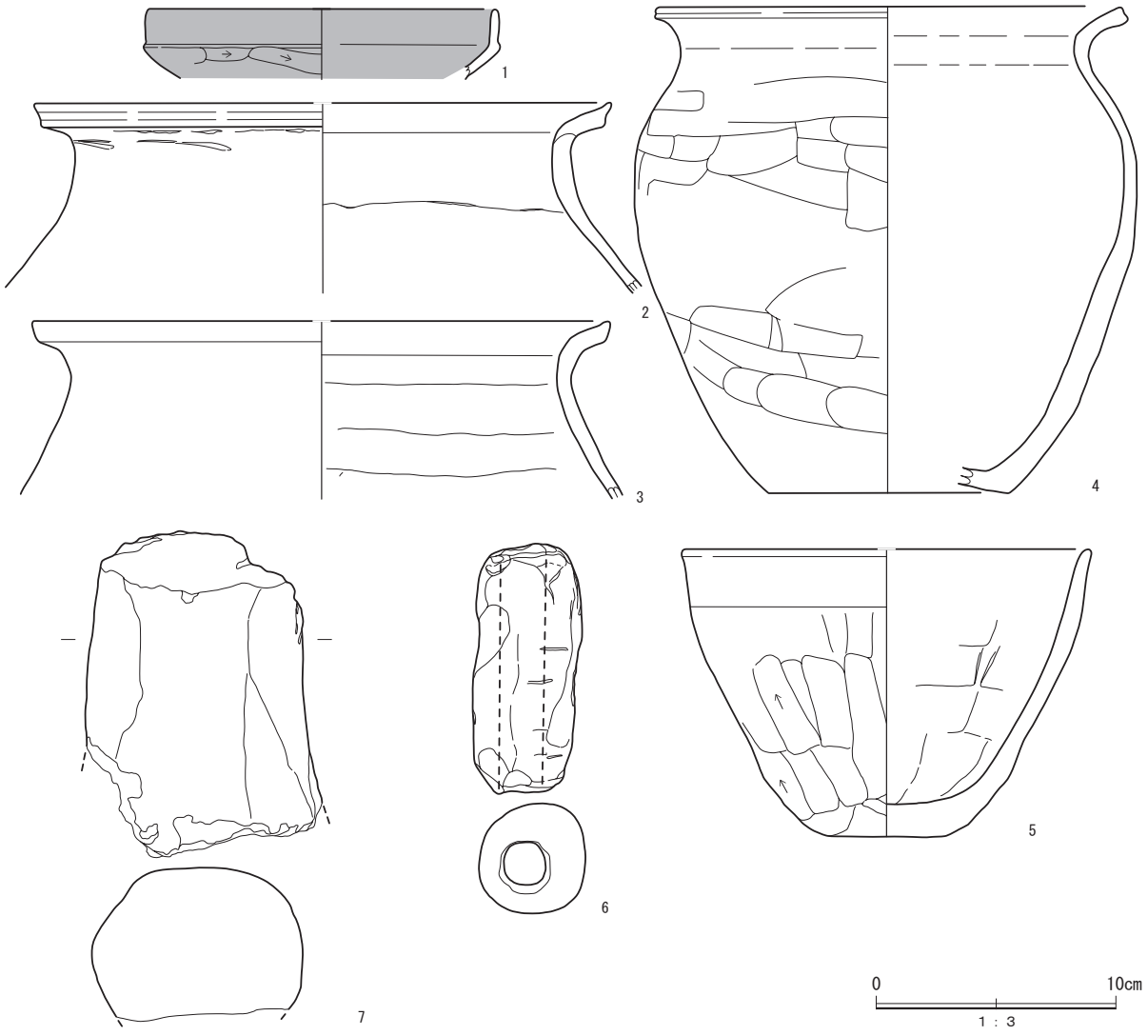
所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。

ピット土層解説

1　7.5YR　4/2　灰褐色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗褐色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗褐色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　色　ローム粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　2.5YR　5/3　にぶい赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　2.5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
3　2.5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
4　2.5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし(火床部
5　2.5YR　4/6　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　黄白色粘土粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　５YR　7/2　明 褐 灰 色　焼土粒子少量　黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)
7　５YR　4/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　黄白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり(袖部)



第 117 図　第 120 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 52 表　第 120 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	(2.9)	—	長石･石英･角閃石	褐灰	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　内外面黒色処理	覆土中	5%
2	土師器	甕	[23.8]	(7.9)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　体部内外面ナデ	覆土中	10%
3	土師器	甕	[24.0]	(7.5)	—	長石･石英･雲母	にぶい赤褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面ナデ　内面横位のナデ	覆土中	10%
4	土師器	甕	[19.3]	20.2	[10.0]	長石・石英	赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ	覆土中	90% 写真図版 51
5	土師器	鉢	[16.8]	12.0	5.0	長石･石英･スコリア	赤黒	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	覆土中	50% 写真図版 51

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
6	管状土錘	4.5	10.4	1.7	(201.0)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	南東部床面	写真図版 51

番号	種別	長さ	上径	下径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	支脚	(13.6)	8.7	(10.0)	(629.0)	凝灰岩	外面縦位のヘラ削り	覆土中	

第 123 号竪穴建物跡 (SI-123)(第 116 図　写真図版 26)

位置　調査区東部Ｋ 39 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 120・122 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 120 号竪穴建物に、南部を第 122 号竪穴建物に掘り込まれ、北西･南東軸は 2.20 ｍ、北東・南西軸は 1.60 ｍしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 28㎝で、外傾して立ち上がる。

床　確認できた部分はやや踏み固められている。

土層　第 120・122 号竪穴建物に掘り込まれ不明である。

ピット　確認できなかった。

遺物出土状況　土師器片 26 点 [坏３点 (19g)、高坏４点 (95g)、坩２点 (20g)、甕 17 点 (641g)]、礫１点 (2020g)。

所見　時期は、重複関係から古墳時代後期と推測される。

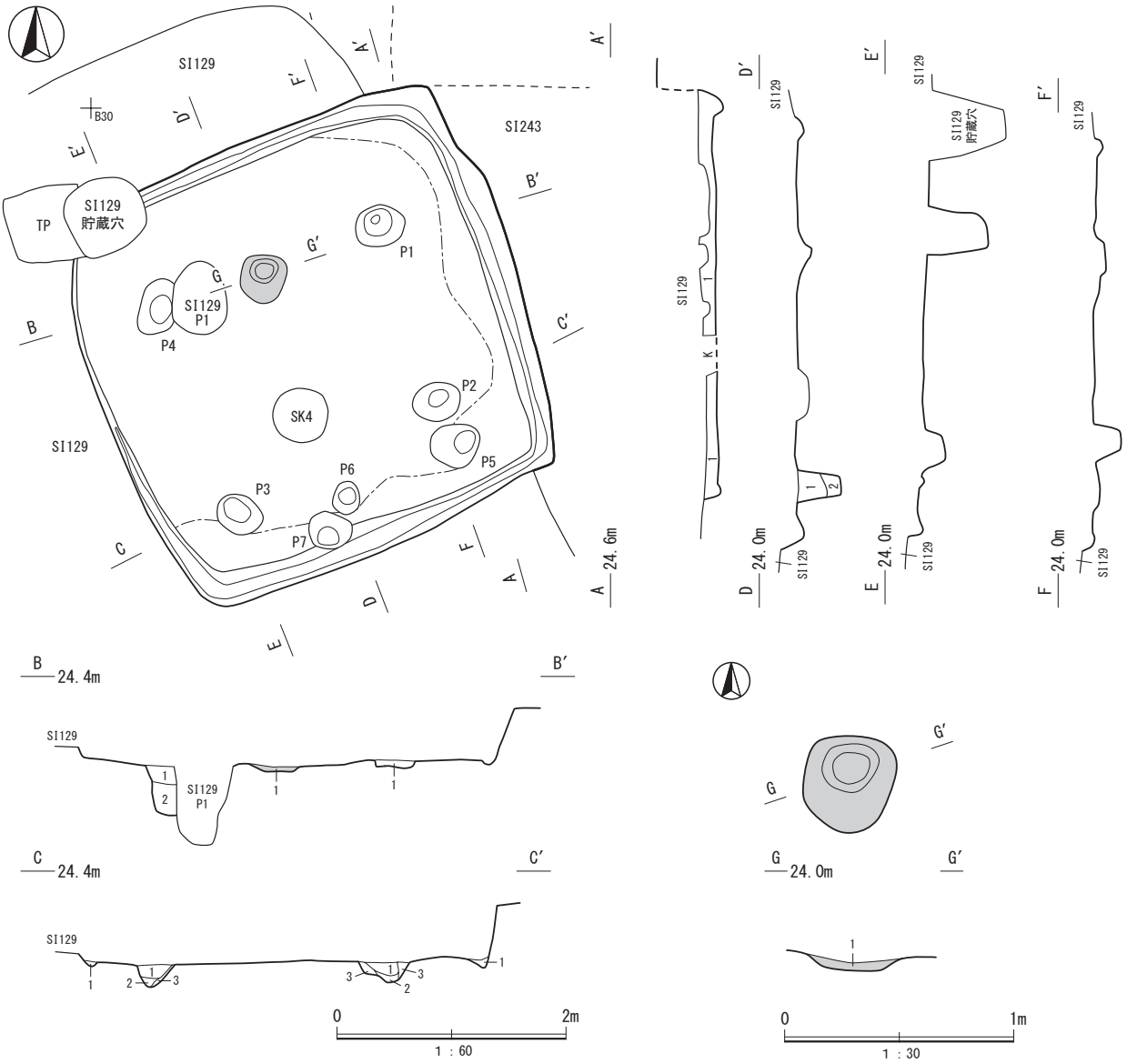
第 124 号竪穴建物跡 (SI-124)(第 118・119 図　写真図版 26)

位置　調査区中央部Ｂ 30 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 129 号竪穴建物と第４号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　大部分を第 129 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸は 3.70 ｍ、短軸は 3.68. ｍで、平面形は方形である。主軸方位はＮ － 25° － Ｗである。壁は確認面から最大高５㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた南壁、西壁・東壁の一部で、上幅 12 ～ 22㎝、下幅６～ 12



土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック中量・粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　4/3　褐　　色　ローム粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説
1　1.5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子少量・炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし

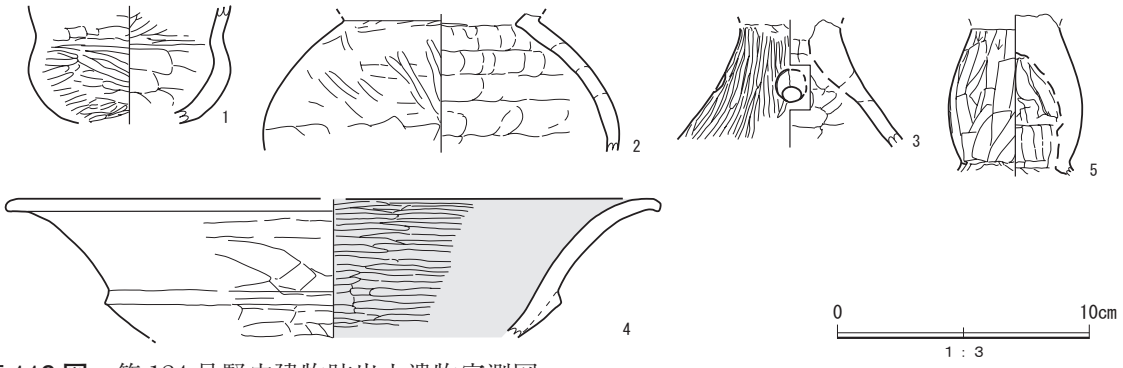
第 118 図　第 124 号竪穴建物跡実測図

cm、深さ 6cmで、断面形はU字形を呈している。

床　炉周辺から中央部が踏み固められている。

炉　中央北寄りにあり、長径 46cm、短径 40cmの円形で、床面を５cmほど掘り窪めて造られている。

土層　単一層である。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。



第 119 図　第 124 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 53 表　第 124 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	(4.6)	—	長石･石英･雲母･スコリア	橙	普通	体部外面ヘラ削り後横位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	覆土中	20%
2	土師器	坩	—	(5.5)	—	石英･雲母･チャート･スコリア	にぶい橙	不良	体部外面横位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ内面横位の指ナデ	覆土中	20%
3	土師器	器台	—	(4.8)	—	長石･雲母･スコリア	にぶい褐	普通	脚部縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面横ナデ　透かし部２か所確認	覆土中	5%
4	土師器	高坏	[25.4]	(5.5)	—	長石･石英･雲母･スコリア	にぶい橙	普通	坏部外面横位のヘラナデ下端ヘラ削り後横位のヘラミガキ　内面ヘラナデ後横位のヘラミガキ　内外面赤彩	覆土中	5％
5	土師器	高坏	—	(6.4)	—	石英･雲母･スコリア	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	覆土中	10%

ピット　ピット７か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ６は出入口施設と考えられる。Ｐ１：40 × 35cm、深さ６cm、Ｐ２:40 × 40cm、深さ 15cm、Ｐ３:40 × 30cm、深さ 20cm、Ｐ４:50 × 35cm、深さ 35cm、Ｐ５：45 × 35cm、深さ 25cm、Ｐ６：35 × 35cm、深さ 30cm、Ｐ７：35 × 30cm、深さ 10cmである。

遺物出土状況　土師器片 517 点 [坏 40 点 (632g)、高坏 18 点 (377g)、坩 1 点 (24g)、器台 1 点 (36g)、壺 1 点 (107g)、甕 456 点 (7,000g)]、須恵器片 16 点 [坏２点 (12g)、甕 14 点 (260g)]、縄文土器片 11 点 (343g)、弥生土器片 72 点 (782g)、陶器片 3 点 (24g)、礫 30 点 (3,700g)。１・２の土師器坩・３の土師器器台・４・５の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。

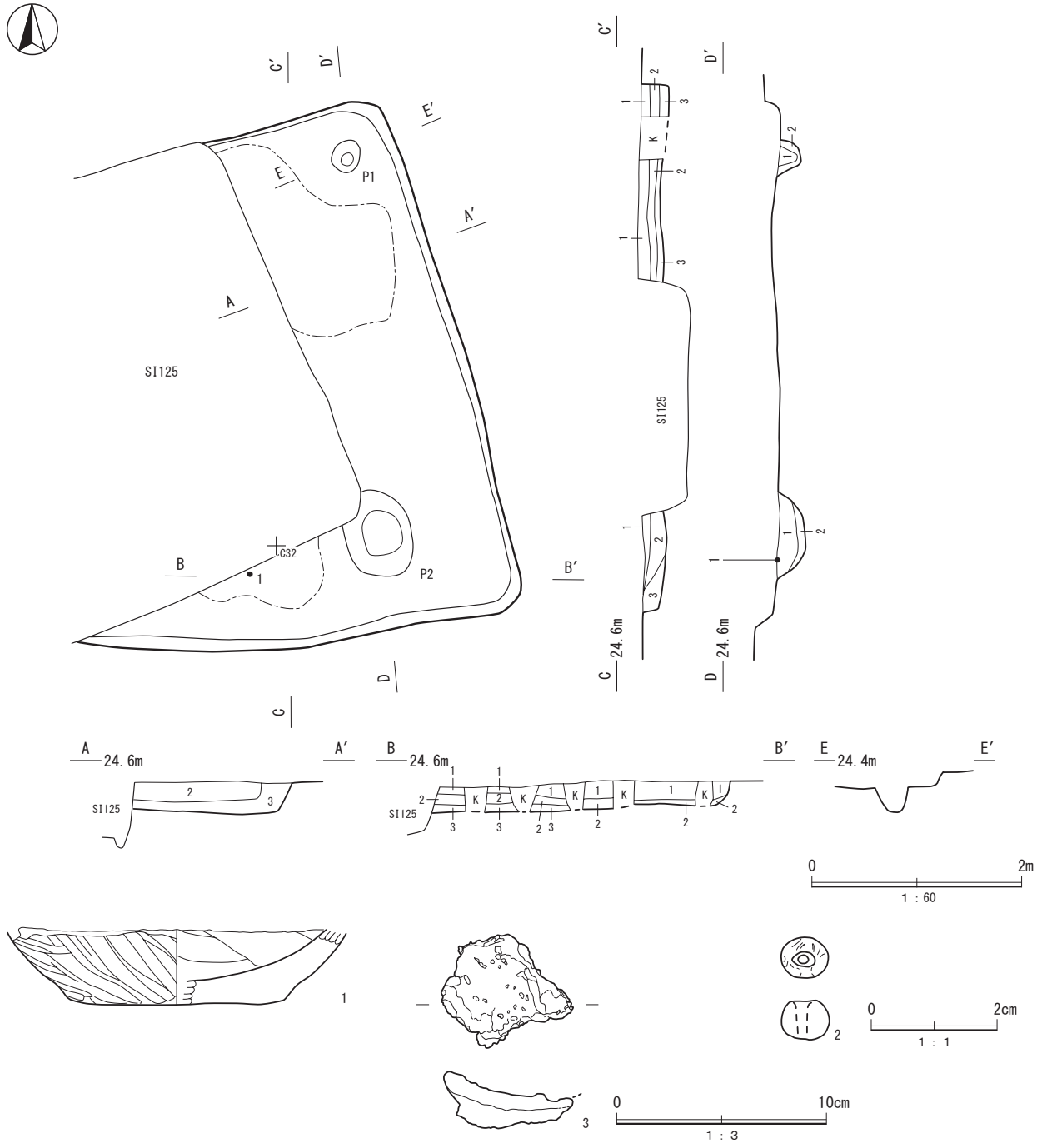
第 126 号竪穴建物跡 (SI-126)(第 120 図　写真図版 26・27・39)

位置　調査区中央部Ｂ 31･32、Ｃ 31･32 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 125 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　西部の大半を第 125 号竪穴建物に掘り込まれ、南北軸は 5.10 ｍで、東西軸は 4.40 ｍしか確認できなかった。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 15° － Ｗと推測される。壁は確認面から最大高 30cmで、外傾して立ち上がっている。



土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

第 120 図　第 126 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 54 表　第 126 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	—	(3.6)	[10.3]	長石･石英･雲母	明赤褐	良好	体部外面横位・斜位のヘラナデ　内面横位のナデ　底部木葉痕	南部床面	10%

番号	種別	径	長さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	小玉	0.9	1.1	0.3	2.06	細砂	にぶい黄橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	幅	長さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	鉄滓	6.1	5.4	1.6	65.1	鉄	磁力反応あり	覆土中	

床　中央部が踏み固められている。

竈　確認できなかった。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット２か所が検出された。Ｐ１:22 × 20cm､深さ 20cm､Ｐ２:80 × 60cm､深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 152 点 [坏 12 点 (70g)、高台付坏２点 (32g)、高坏９点 (73g)、甕 129 点 (1、210g)]、須恵器片９点［高坏３点 (21g)、甕６点 (93g)］、弥生土器片８点 (53g)、鉄製品１点 (65g)、土製品１点 (２g)、礫 14 点 (4,500g)。１の土師器甕は南部の床面、２の小玉・３の鉄滓は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と僅かな出土土器から古墳時代後期の７世紀代と考えられる。

第 128 号竪穴建物跡 (SI-128)(第 121・122 図　写真図版９・27)

位置　調査区中央部Ｃ 30･31、Ｄ 30 ～ 32 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 87・243 号竪穴建物跡を掘り込み、第 45 号竪穴建物に掘り込まれている。

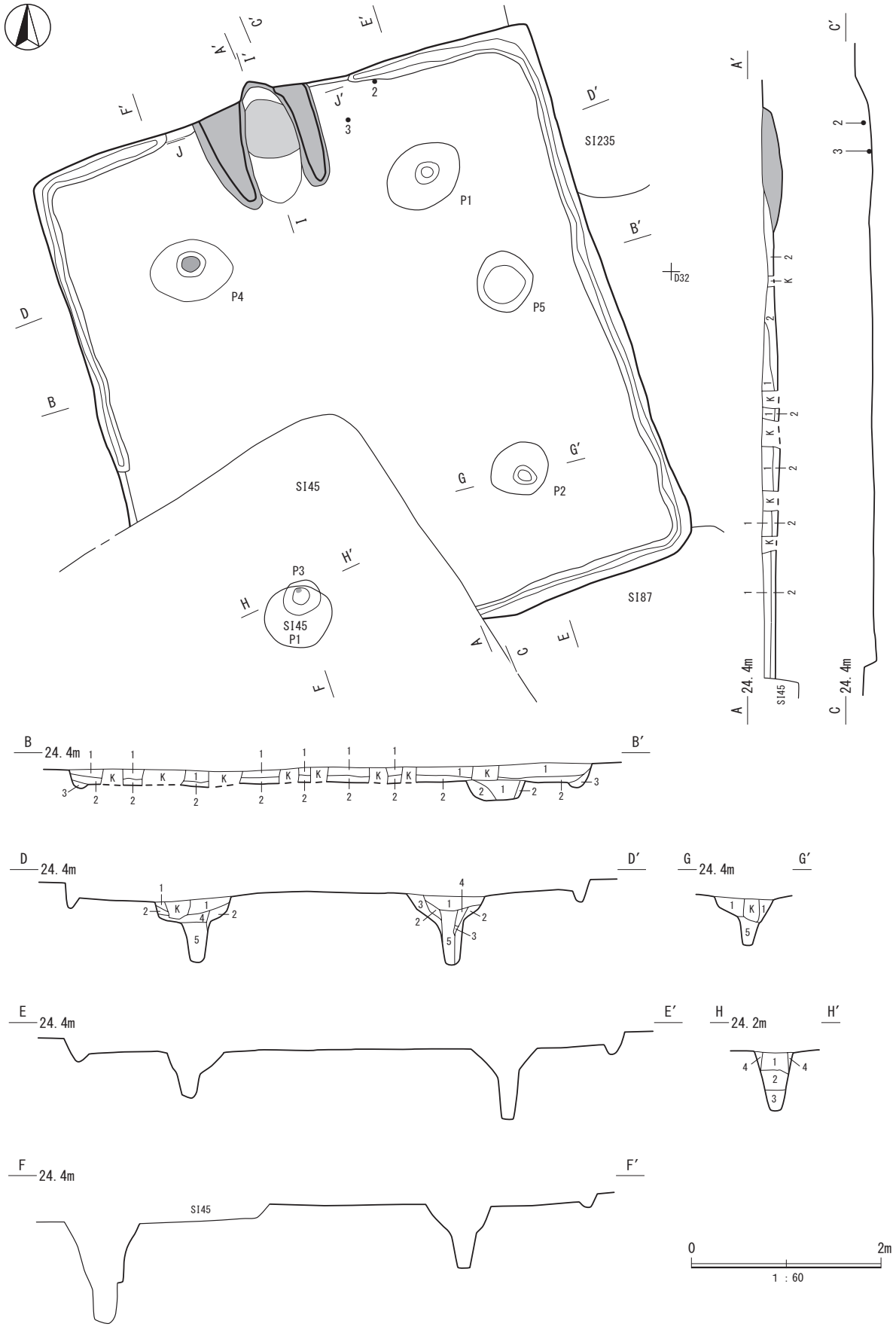
規模と形状　南西部を第 45 号竪穴建物に掘り込まれ、長軸は 5.92 ｍ、短軸は 5.50 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ － 20° － Ｗである。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた壁で全周し、上幅 12 ～ 22cm、下幅６～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から確認部が踏み固められている。

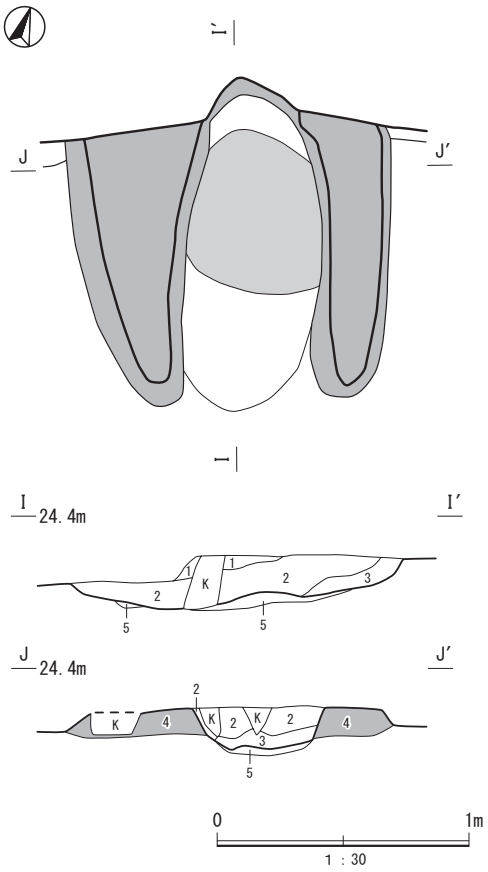
竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 130cmである。袖部の基部の最大幅は 126cmで、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:90 × 60cm､深さ 80cm、Ｐ２：60 × 60cm、深さ 54cm、Ｐ３：80 × 66cm、深さ 54cm、Ｐ４：80 × 60cm、深さ 64cm、Ｐ５：62 × 60cm、深さ 18cmである。



第 121 図　第 128 号竪穴建物跡実測図 (1)



土層解説

1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ローム粒子少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/1	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし

P1・2・4 土層解説

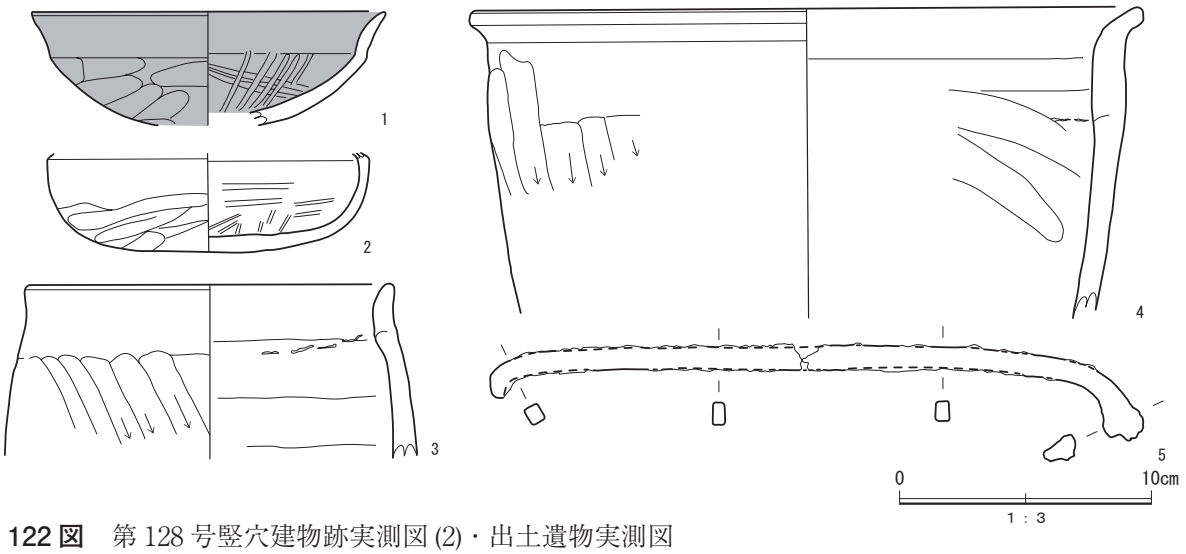
1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	4/4	褐		色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロッシ・粒子微量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
5	7.5YR	4/4	褐		色	ローム粒子多量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり

P3・5 土層解説

1	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1	5YR	3/1	黒	褐	色	焼土粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	5YR	4/4	にぶい赤色			焼土ブロック多量・粒子少量　粘土粒子多量／粘性なし　締まりあり
3	5YR	3/3	暗 赤	褐	色	焼土ブロック・粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	5YR	5/2	灰	褐	色	粘土ブロック・粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり (袖部)
5	2.5YR	3/6	暗 赤	褐	色	焼土ブロック・粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし (火床部)



第 122 図　第 128 号竪穴建物跡実測図 (2)・出土遺物実測図

第 55 表　第 128 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(4.5)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内外面黒色処理	覆土中	30%
2	土師器	坏	—	(3.9)	8.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面横位のナデ　内面多方向のヘラミガキ	竈東側床面	80% 写真図版 51
3	土師器	甕	[14.2]	(6.9)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のナデ	竈東側床面	20%
4	土師器	甕	[26.2]	(12.3)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下位斜位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	覆土中	10%

番号	種別	幅	長さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	不明鉄製品	3.3	(25.7)	0.6 ～ 0.9	(56.3)	鉄	両端が屈曲しており、鎹の可能性有り	覆土中	写真図版 51

遺物出土状況　土師器片 293 点 [坏 25 点 (439g)、高坏５点 (73g)、甕 263 点 (3,924g)]、須恵器片 14 点 [坏３点 (89g)、甕 11 点 (191g)]、弥生土器片 41 点 (329g)、鉄製品１点 (56g)、瓦片１点 (7g)、礫 23 点 (1,391g)。２の土師器坏・３の土師器甕は竈東側の床面から出土している。１の土師器坏・４の土師器甕・５の不明鉄製品は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

第 129 号竪穴建物跡 (SI-129)(第 123・124・125・126・127 図　写真図版 26・28)

位置　調査区中央部Ａ 29・30、Ｂ 28 ～ 30、Ｃ 28 ～ 31、Ｄ 29 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 124・130・131・211・243 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

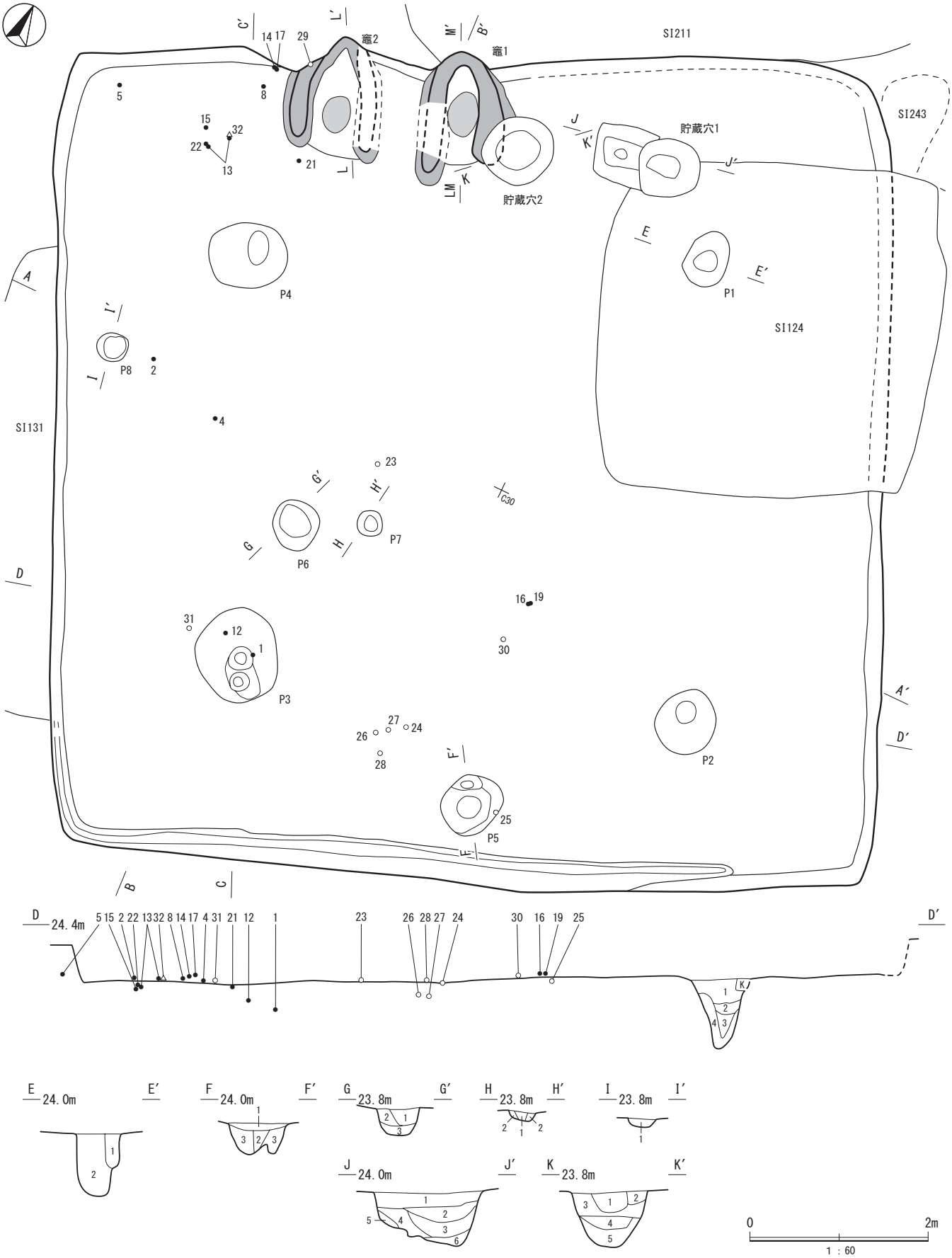
規模と形状　長軸は 9.10 ｍ、短軸は 8.92 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 25° － Ｗである。壁は確認面から最大高 48㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認できた南壁の一部で、上幅 12 ～ 22㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面から確認部が踏み固められている。

竈　竈１は北壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 160㎝である。袖部の基部の最大幅は 108㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床部から煙道部に緩やかに立ち上がっている。竈２は竈１の西側にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 130㎝である。袖部の基部の最大幅は約 110㎝で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。竈２から竈１への造り替えと考えられる。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット８か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 50㎝、深さ 48㎝、Ｐ２：80 × 70㎝、深さ 80㎝、Ｐ３：110 × 90㎝、深さ 88㎝、Ｐ４：74 × 70㎝、深さ 52㎝、Ｐ５：60 × 60㎝、深さ 38㎝、Ｐ６：80 × 66㎝、深さ 30㎝、Ｐ７：30 × 30㎝、



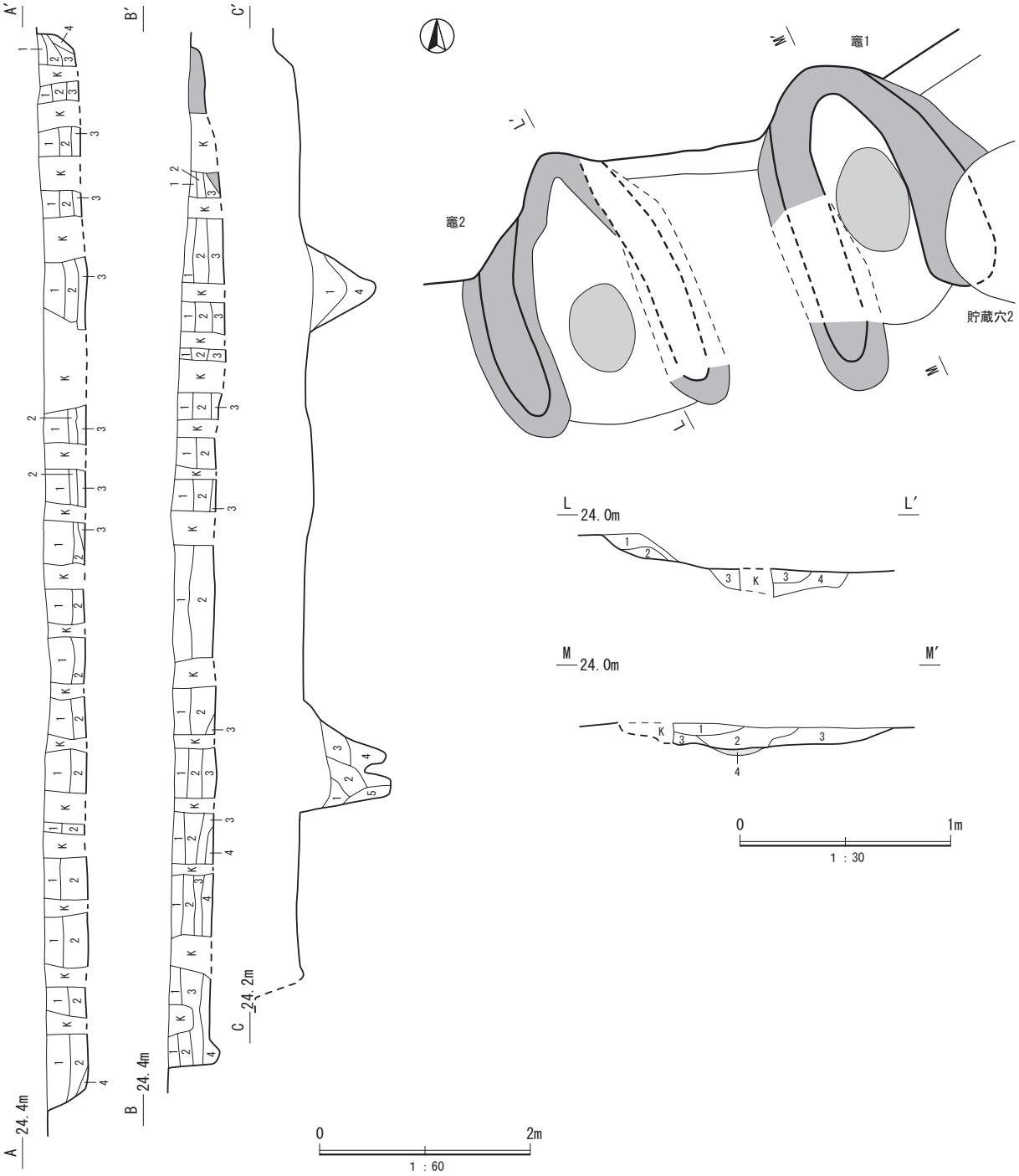
第 123 図　第 129 号竪穴建物跡実測図 (1)

深さ 10cm、Ｐ８：30 × 28cm、深さ 10cmである。Ｐ１～Ｐ４は建て替えが考えられる。

貯蔵穴１　北東部で長軸 120cm、短軸 80cm、深さ 70cm長方形の掘り込みを確認する。

貯蔵穴２　竈１の下部から長径 90cm、短径 80cm、深さ 60cm円形の掘り込みを確認する。

遺物出土状況　土師器片 601 点 [坏 63 点 (1,732g)、高坏 15 点 (728g)、甕 518 点 (11,292g)、甑 5



第 124 図　第 129 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

竈１土層解説
1　5YR　4/6　赤 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/2　暗赤褐色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土ブロック多量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　4/2　灰 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

竈２土層解説
1　5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子多量　炭化粒子少量　焼土粒子微量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　4/4　にぶい赤褐色　ローム粒子少量　焼土粒子多量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　5YR　4/6　赤　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土粒子多量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量　焼土ブロック多量／粘性あり　締まりあり

P1 ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　焼土粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

P2 ～ 4 ピット土層解説
1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子微量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　色　ローム粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

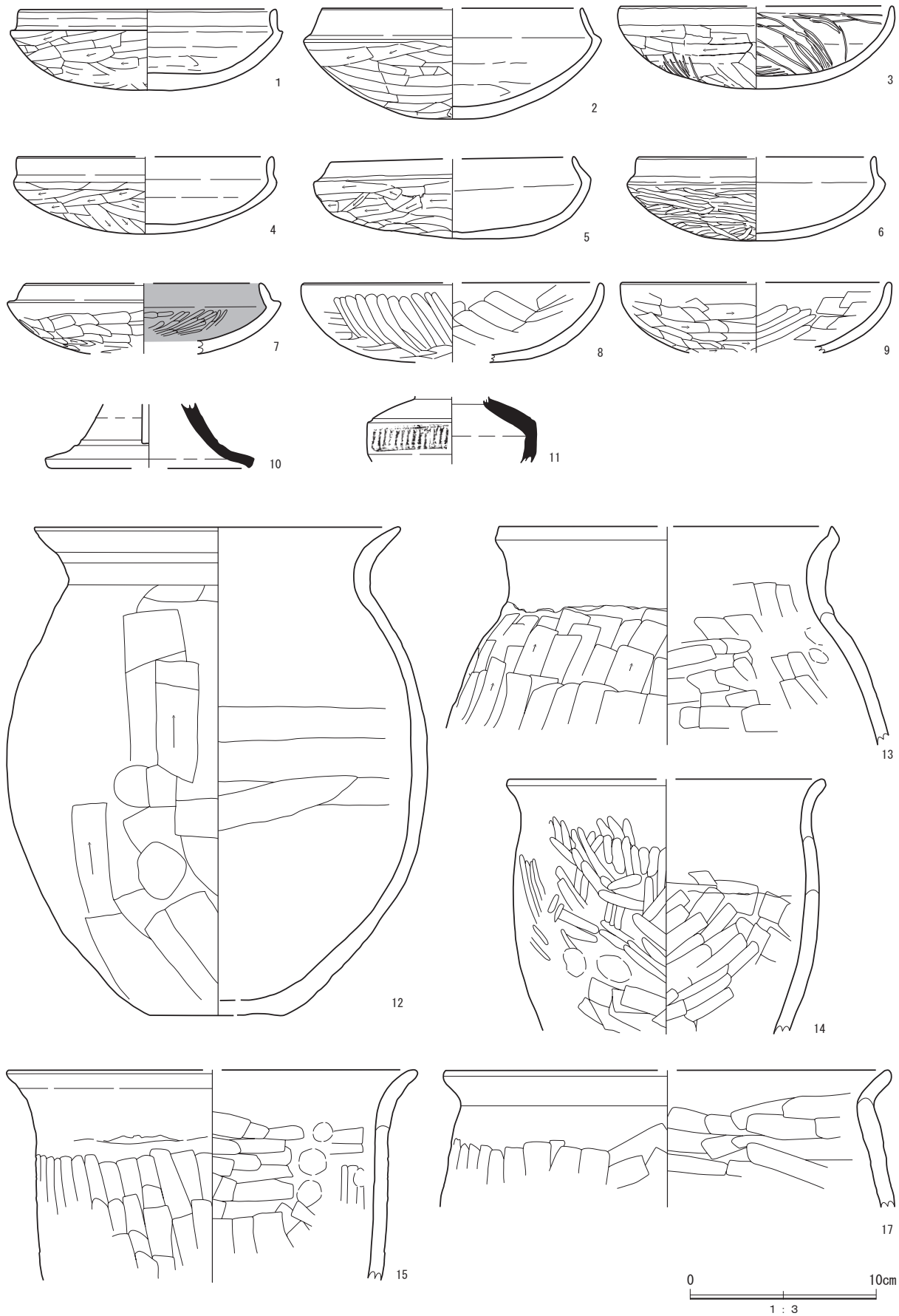
P5 ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴１土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

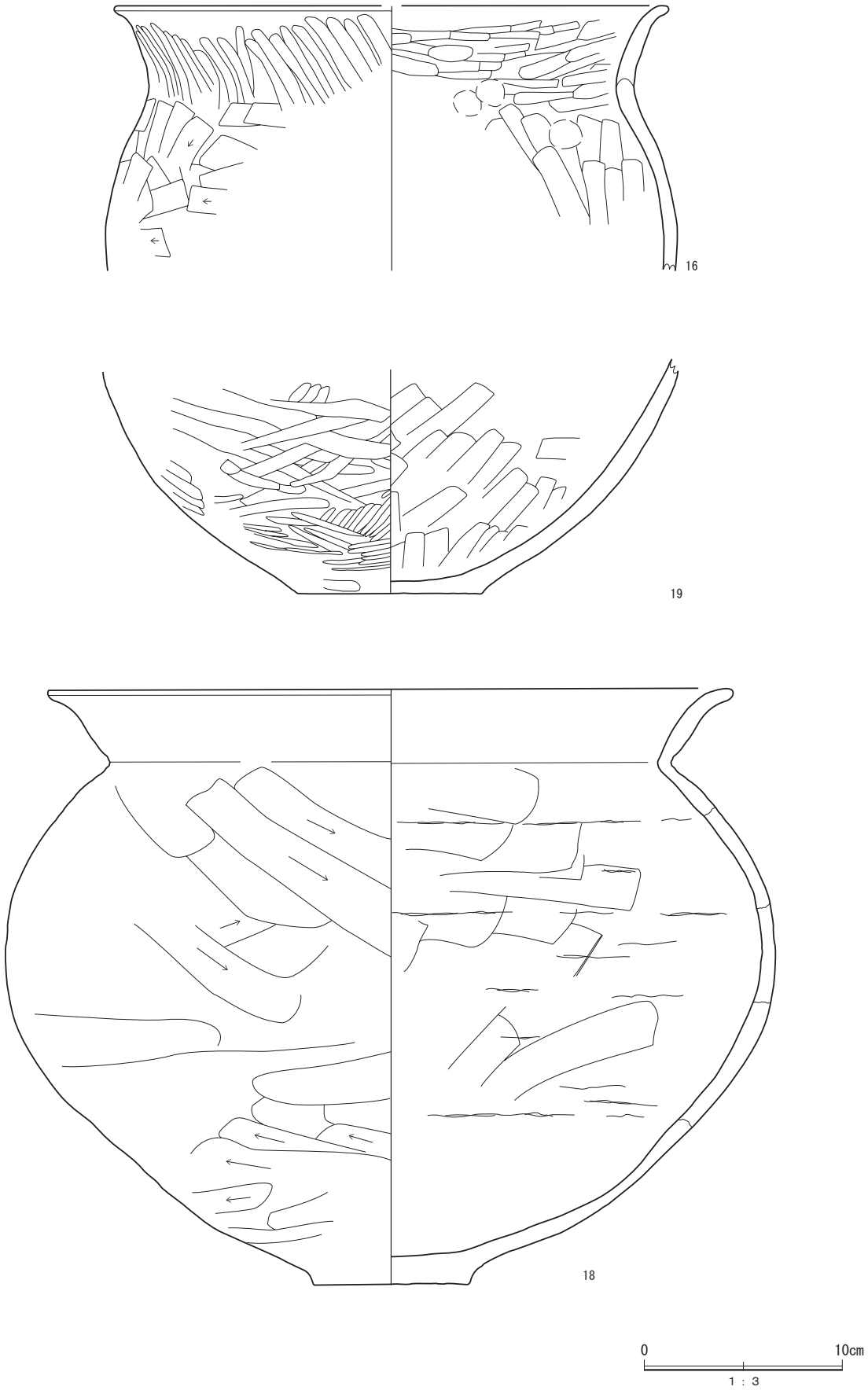
貯蔵穴２土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まり強い
2　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰中量／粘性あり　締まり強い
3　5YR　3/3　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　3/2　暗赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

点 (2,996g)]、須恵器片 18 点［坏２点 (17g)、高坏１点 (24g)、鼈１点 (36g)、甕 14 点 (178g)］、縄文土器片８点 (126g)、弥生土器片 56 点 (507g)、土製品８点 (198g)、礫 23 点 (1,017g)。１の土師器坏、12 の土師器甕はＰ３内から、２の土師器坏は P8 東側の床面から、４の土師器坏は西部の床面から出土している。５の土師器坏、13 の土師器甕、15･21･22 の土師器甑、32 の刀子は北西部の床面から、16・19 の土師器甕、23 の土玉・30 の小玉は中央部の床面から、８の土師器坏、14・17 の土師器甕は竈２西側の覆土下層から、24 ～ 28 の土製土玉はＰ５周辺の床面から、31 の双孔円板はＰ３西側の床面から出土している。３・6・7・9 の土師器坏、10 の須恵器高坏、11 の須恵器鼈、18・20 の土師器甕、29 の土製土玉は覆土中から出土している。

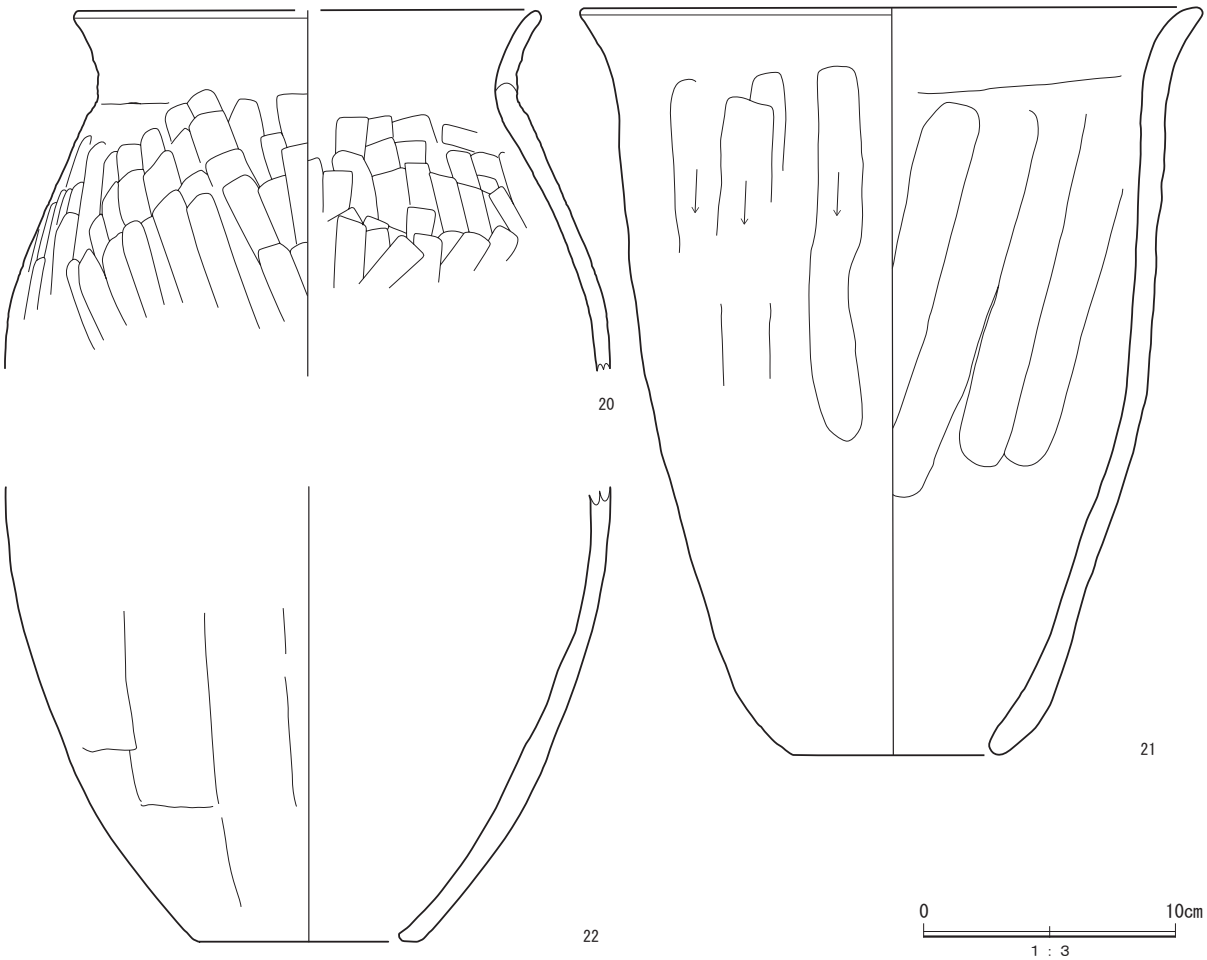
所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。竈と貯蔵穴は造り替えられたものと考える。

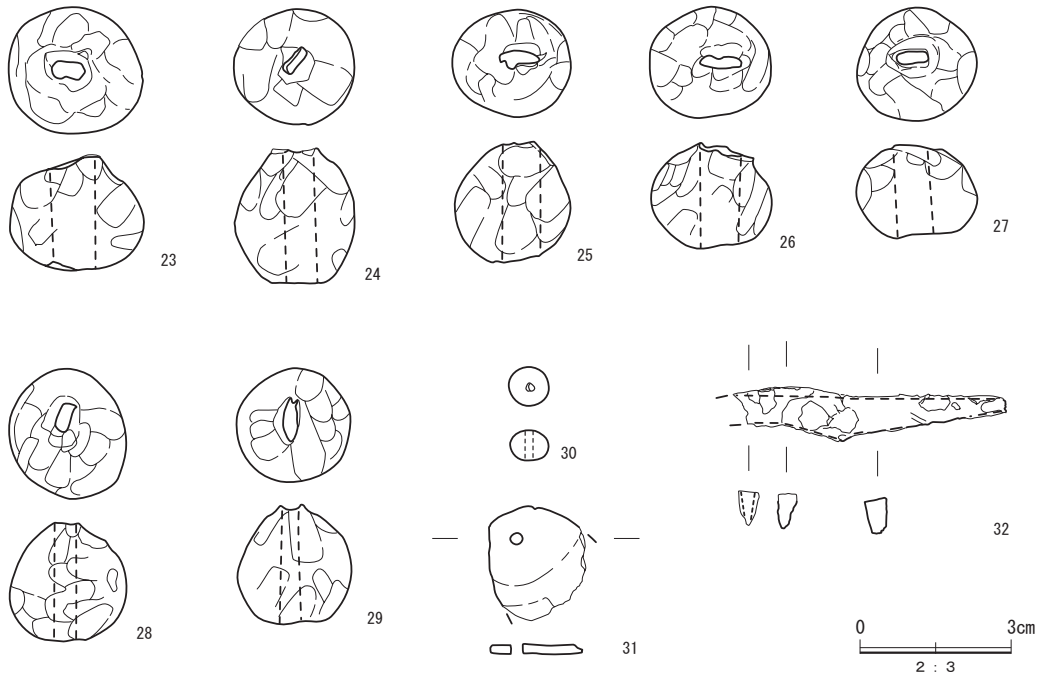


第 125 図　第 129 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 126 図　第 129 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)





第 127 図　第 129 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 56 表　第 129 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.7	4.3	—	石英・雲母	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ　内外面赤彩	P3 内	90% 写真図版 51
2	土師器	坏	[14.0]	6.0	—	石英･雲母･スコリア	にぶい褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	P8 東側床面	50% 写真図版 52
3	土師器	坏	[14.6]	4.5	—	長石･石英･雲母･スコリア	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　内面ヘラミガキ	覆土中	40%
4	土師器	坏	[13.6]	4.2	—	長石･石英･雲母･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	西部床面	40% 写真図版 51
5	土師器	坏	[13.0]	4.5	—	長石･石英･チャート･スコリア	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	北西部床面	40%
6	土師器	坏	[12.6]	4.5	—	長石･雲母･スコリア	暗褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラ削り後横位のヘラミガキ	覆土中	40%
7	土師器	坏	[12.6]	(3.8)	—	長石･雲母･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ　内面放射状のヘラミガキ	覆土中	25%
8	土師器	坏	[18.0]	(3.8)	—	長石･雲母･チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位・縦位のヘラナデ　内面斜位のヘラナデ　内面赤彩	竈 2 西側覆土下層	25%
9	土師器	坏	[14.3]	(3.8)	—	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	覆土中	25%
10	須恵器	高坏	—	(3.4)	[10.6]	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ　脚部透かし孔あり　外面自然釉	覆土中	5% 東海産ヵ
11	須恵器	甕	—	(3.5)	—	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ　11 本歯の櫛状工具によるヘラ削り	覆土中	10% 東海産ヵ
12	土師器	甕	19.6	26.2	[7.3]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	P3 内	70% 写真図版 51
13	土師器	甕	[18.0]	(11.4)	—	長石･雲母･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	北西部床面	煤付着
14	土師器	甕	[15.8]	(13.8)	—	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位・斜位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	竈 2 西側覆土下層	
15	土師器	甑	[21.8]	(11.4)	—	長石･雲母･チャート	明赤褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位・縦位のヘラナデ	北西部床面	
16	土師器	甕	[27.6]	(136.0)	—	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　外面縦位のヘラナデ内面横位のヘラナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	中央部床面	5 %
17	土師器	甕	[23.8]	(7.4)	—	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ　内面横位のヘラナデ	竈 2 西側覆土下層	5 %
18	土師器	甕	[34.0]	330.0	7.8	長石･石英･細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	50% 写真図版 51
19	土師器	甕	—	(11.9)	9.2	長石･雲母･チャート	橙	良好	体部外面斜位のヘラナデ　内面斜位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	中央部床面	20%
20	土師器	甕	[18.2]	(14.4)	—	長石･雲母･チャート	橙	良好	口縁部横ナデ　体部内外面縦位のヘラナデ	覆土中	20%
21	土師器	甑	24.4	29.6	8.2	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	北西部床面	60%
22	土師器	甑	—	(18.1)	8.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　摩耗して調整不明内面縦位のヘラナデ不鮮明	北西部床面	

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
23	土玉	3.5	3.1 ～ 3.2	0.8	34.2	長石・細礫	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	中央部床面	写真図版 52
24	土玉	3.2	2.9 ～ 3.1	1.0	26.8	長石・石英	明赤褐	外面ナデ	P5 北西部床面	写真図版 52
25	土玉	2.8	3.0 ～ 3.2	1.1	23.6	長石・石英	橙	外面ナデ　下面使用痕あり	P5 南東部床面	写真図版 52

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
26	土玉	2.45	3.0 ～ 3.2	0.95	22.5	長石・細礫	明赤褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	P5 北西部床面	写真図版 52
27	土玉	3.15	3.1 ～ 3.5	0.6	34.1	長石	明赤橙	外面ナデ	P5 北西部床面	写真図版 52
28	土玉	3.15	3.0	0.55	27.7	長石・細礫	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	P5 北西部床面	写真図版 52
29	土玉	3.0	3.4	0.8	29.1	長石・細礫	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	写真図版 52
30	小玉	0.8	1.0	0.2	1.0	長石	黒褐	外面ナデ	中央部床面	写真図版 52

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
31	有孔円板	3.0	2.4	0.3	(2.4)	滑石	0.3cmの穿孔	P3 付近	写真図版 52

番号	種別	幅	長さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
32	刀子	1.6	(7.2)	0.6	(11.7)	鉄	刃部の長さ 2.9cm	北西部床面	

第 131 号竪穴建物跡 (SI-131)(第 128・129 図　写真図版 26・28)

位置　調査区中央部Ｂ 28･29、Ｃ 28･29 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 129 号竪穴建物に掘り込まれ、第 130 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　中央部を第 129 号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は 5.20 ｍで、東西軸は 3.20 ｍしか確認できなかった。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 10°－ Ｗと推定される。壁は確認面から最大高 46cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、西壁と北壁･南壁の一部で確認でき、上幅 20 ～ 30cm、下幅６～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

床　東壁から中央部にかけて踏み固められている。

炉　中央から北寄りに付設されており、長軸 70cm、短軸 46cmの不整楕円形で、床面を 10cmほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。

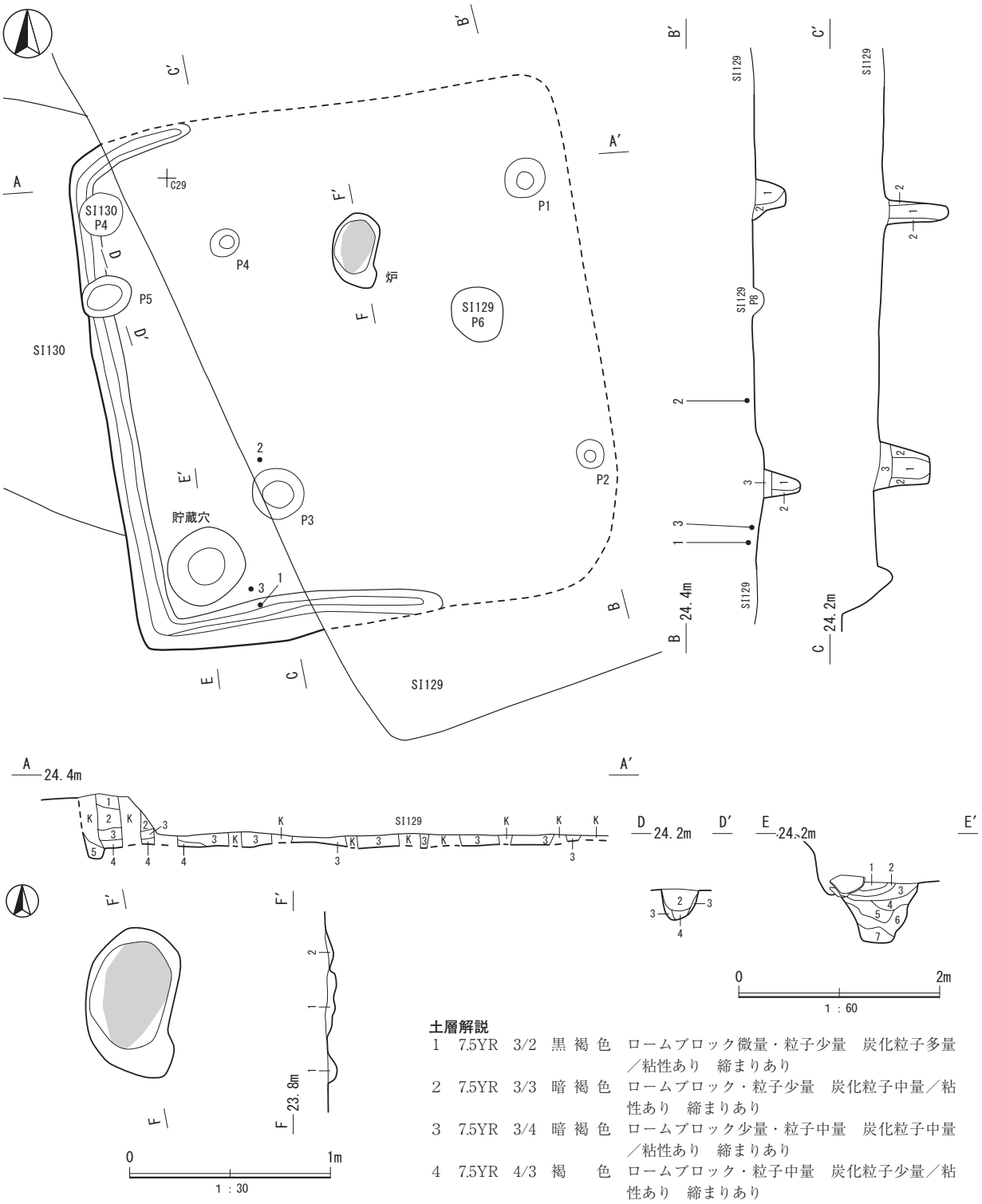
土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１:40 × 30cm､深さ 36cm、Ｐ２：40 × 40cm、深さ 36cm、Ｐ３：52 × 50cm、深さ 54cm、Ｐ４：52 × 50cm、深さ 68cm、Ｐ５：50 × 40cm、深さ 30cmである。

貯蔵穴　南コーナーに位置し、長径 80cm、短径 74cmの円形で、深さ 58cmである。

遺物出土状況　土師器片 812 点 [坏 54 点 (675g)､高坏 43 点 (1,286g)､坩９点 (269g)､甕 706 点 (12,200g)]、須恵器甕片 15 点 (425g)、縄文土器片２点 (38g)、弥生土器片 46 点 (441g)、鉄製品１点 (50g)、土製品１点 (43g)、石製品１点 (4g)、礫 24 点 (732g)。１の土師器坩・３の土製土玉は南西部の床面、２の土師器高坏はＰ３北側の床面から出土している。４の双孔円板は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。



土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

第 128 図　第 131 号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説

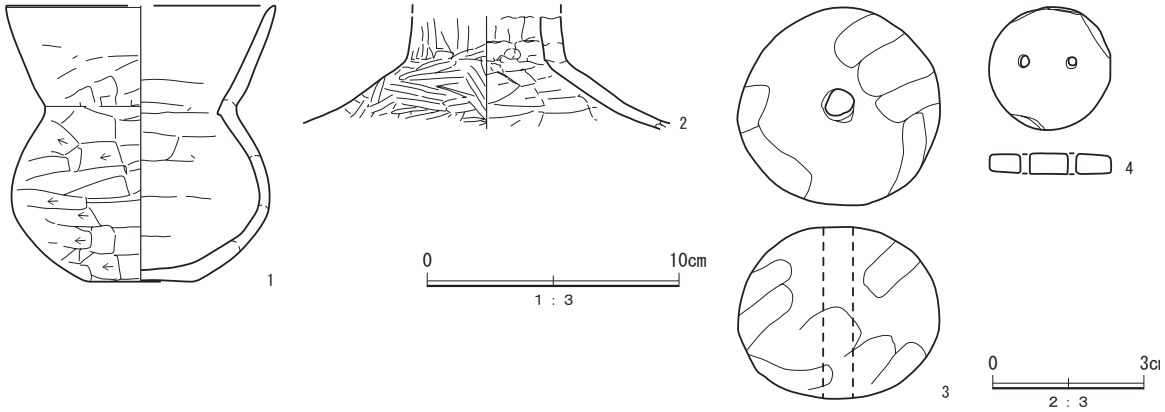
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

炉土層解説

1　5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子美量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 129 図　第 131 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 57 表　第 131 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	[10.6]	11.0	4.2	長石・石英・雲母・スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　外面縦位のヘラ削り後横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後横ナデ　内面横位のヘラナデ	南西壁床面	60%　写真図版 52
2	土師器	高坏	—	(4.4)	—	長石・石英・雲母・スコリア・チャート	橙	良好	脚部外面縦位のヘラ削り後縦位のヘラミガキ　裾部ヘラ削り後横位・斜位のヘラミガキ　内面横位のヘラナデ	P3 北側床面	10%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	3.4	3.9	0.6	43.8	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ	南西壁床面	写真図版 52

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	双孔円板	2.4	2.4	0.4	4.4	滑石	孔径 0.2cm　孔２か所	覆土中	写真図版 52

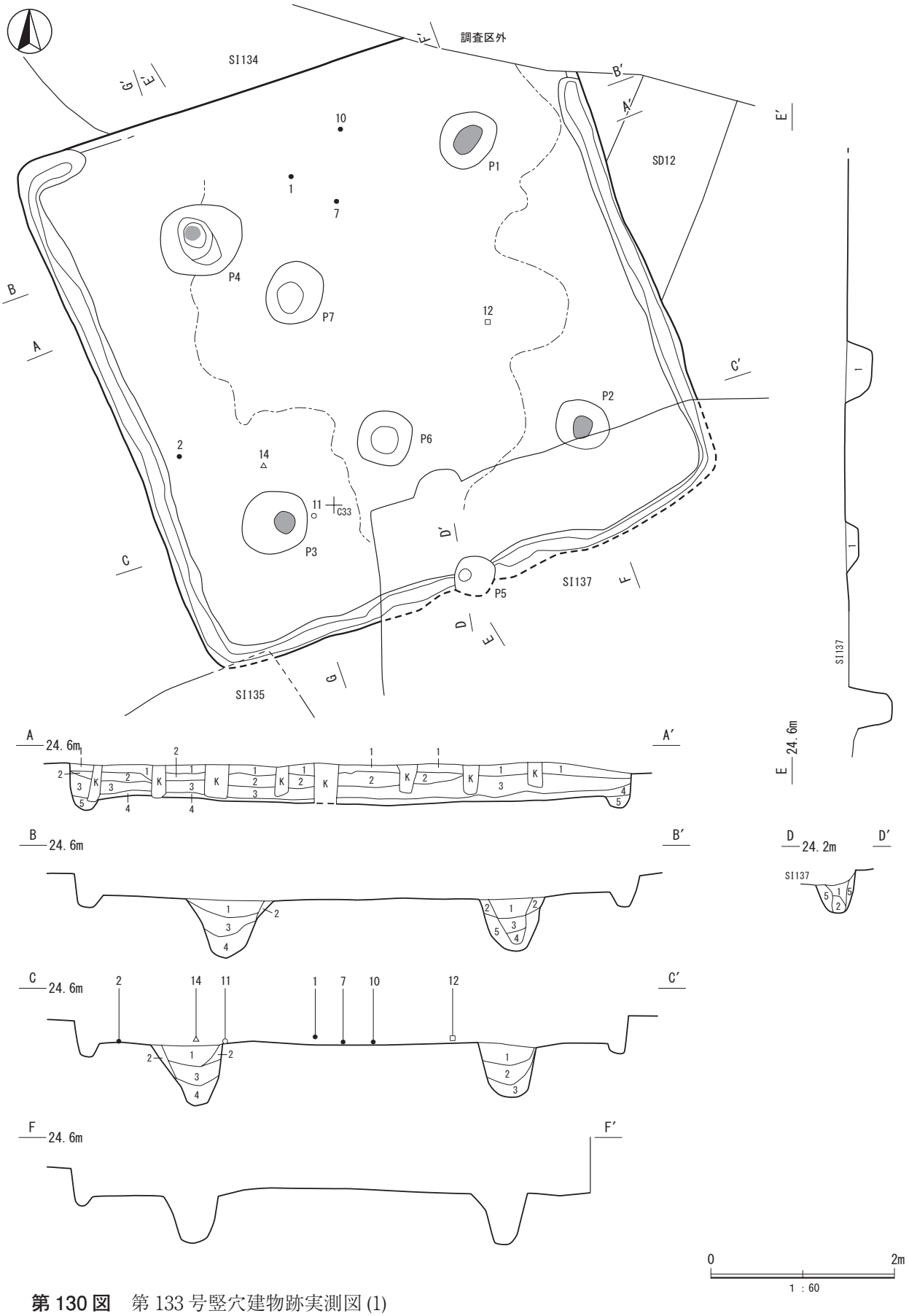
第 133 号竪穴建物跡 (SI-133)(第 130・131・132 図　写真図版 28・29)

位置　調査区中央部Ｂ 22･23、Ｃ 22･23 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

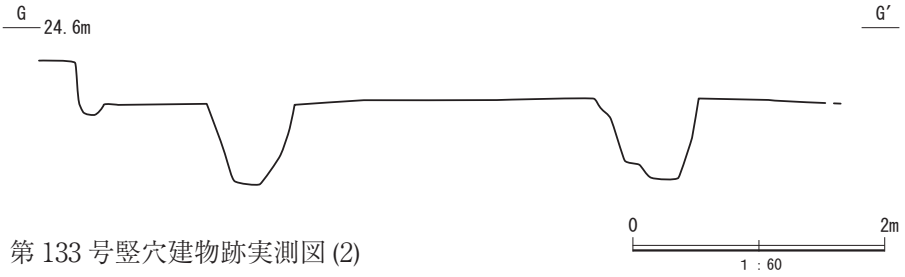
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 134 号竪穴建物跡を掘り込み、第 135･137 号竪穴建物･第 12 号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延びて、南部を第 135・137 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸は 5.95 ｍ、短軸は 5.90 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 20° － Ｗである。壁は確認面から最大高 36㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認された壁で、上幅 12 ～ 22㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。



第 130 図　第 133 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 131 図　第 133 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化物微量・粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし (壁溝)

ピット土層解説

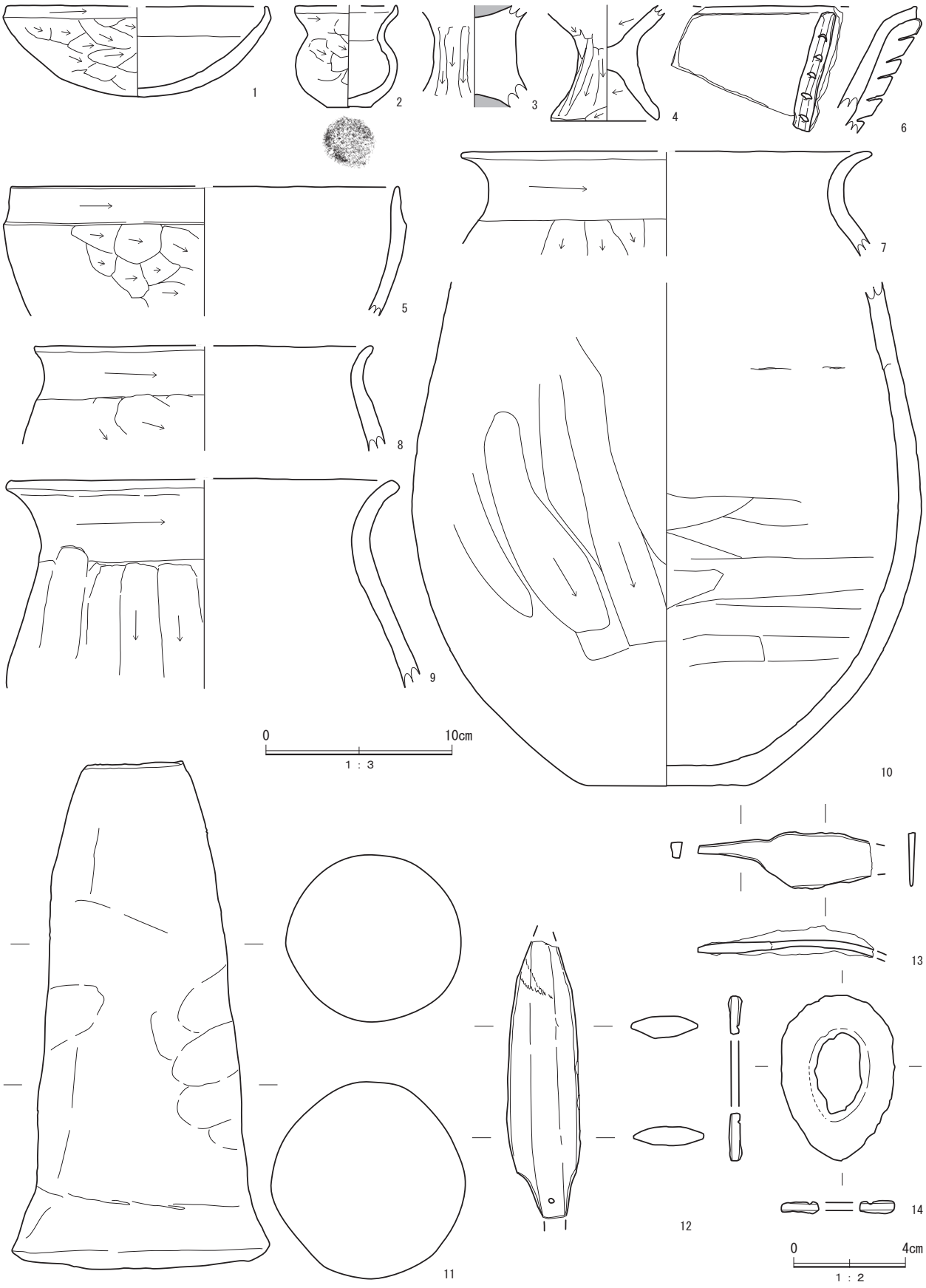
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 58 表　第 133 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.0	5.0	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	北部覆土下層	100% 写真図版 52
2	土師器	坩	[6.0]	5.5	2.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面ヘラナデ　内面ナデ	西部床面	80% 写真図版 52
3	須恵器	高坏	—	(5.5)	—	長石・石英	黒褐	普通	脚部縦位のヘラ削り　坏部内面黒色処理	覆土中	10%
4	土師器	高坏	—	(6.2)	6.8	長石・石英	暗褐	普通	脚部縦位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	50%
5	土師器	鉢	[20.6]	(7.0)	—	長石・石英	赤橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	10%
6	土師器	壺	[24.0]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面・外面横位のナデ　体部外面縦位の隆帯貼り付け後箆状工具で刻みを入れる	覆土中	15% 写真図版 52
7	土師器	甕	[22.0]	(5.5)	—	長石･石英･微礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	北部床面	10%
8	土師器	甕	[18.0]	(5.5)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　器面剥離	覆土中	20%
9	土師器	甕	21.0	(11.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	20% 写真図版 52
10	土師器	甕	—	(27.0)	8.5	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ　底部木葉痕	北部床面	15%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	支脚	18.2	2.7 ～ 9.2	2.7 ～ 9.2	1089.0	土製	表面に指跡	南部床面	写真図版 52
12	剣型模造品	(9.9)	2.6	0.7	(27.0)	片岩	基部に 0.2cmの穿孔	東部床面	90% 写真図版 52
13	刀子	(6.2)	2.0	0.2 ～ 0.3	(11.0)	鉄	基部は長さ (2.5)cm、幅 0.3 ～ 0.6cm、厚さ 0.2 ～ 0.3cm　刃部外圧により湾曲	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	切羽	5.85	4.05	0.4	23.3	鉄	内径の長径 2.9cm　短径 1.4cm	南部床面	写真図版 52



第 132 図　第 133 号竪穴建物跡出土遺物実測図

床　中央が踏み固められている。

竈　北壁中央に構築されていた痕跡を確認するのみである。

土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット７か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 55cm、深さ 50cm、Ｐ２：60 × 50cm、深さ 65cm、Ｐ３：70 × 64cm、深さ 70cm、Ｐ４：90 × 74cm、深さ 60cm、Ｐ５：50 × 50cm、深さ 30cm、Ｐ６：56 × 50cm、深さ 18cm、Ｐ７：70 × 60cm、深さ 24cmである。

遺物出土状況　土師器片 777 点 [坏 42 点 (843g)、椀２点 (22g)、高坏 19 点 (677g)、器台１点 (85g)、鉢１点 (85g)、壺１点 (779g)、甕 711 点 (10,688g)]、須恵器片 15 点［坏７点 (58g)、短頸壺１点 (34g)、甕７点 (128g)］、縄文土器片３点 (78g)、弥生土器片 73 点 (802g)、鉄製品２点 (34g)、土製品１点 (1,089g)、石製品１点 (27g)、礫 38 点 (5,500g)。１の土師器坏は北部の覆土下層、２の土師器坩は西部の床面、７・10 の土師器甕は北部の床面、11 の土製支脚、14 の鉄製品切羽は南部の床面、12 の石製剣型模造品は東部の床面から出土している。３の須恵器高坏、４の土師器高坏、５の土師器鉢、６の土師器壺、８・９の土師器甕、13 の刀子は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀代と考えられる。

第 137 号竪穴建物跡 (SI-137)(第 133・134・135・136 図　写真図版 29)

位置　調査区中央部Ｂ 33･34、Ｃ 33･34 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 133・135・139 号竪穴建物跡を掘り込んで第 136 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.80 ｍ、短軸 5.60 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－５°－Ｗである。壁は確認面から最大高 52cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北壁と西・南壁の一部で、上幅 12 ～ 22cm、下幅６～ 12cm、深さ 6cmで、断面形はＵ字形を呈している。

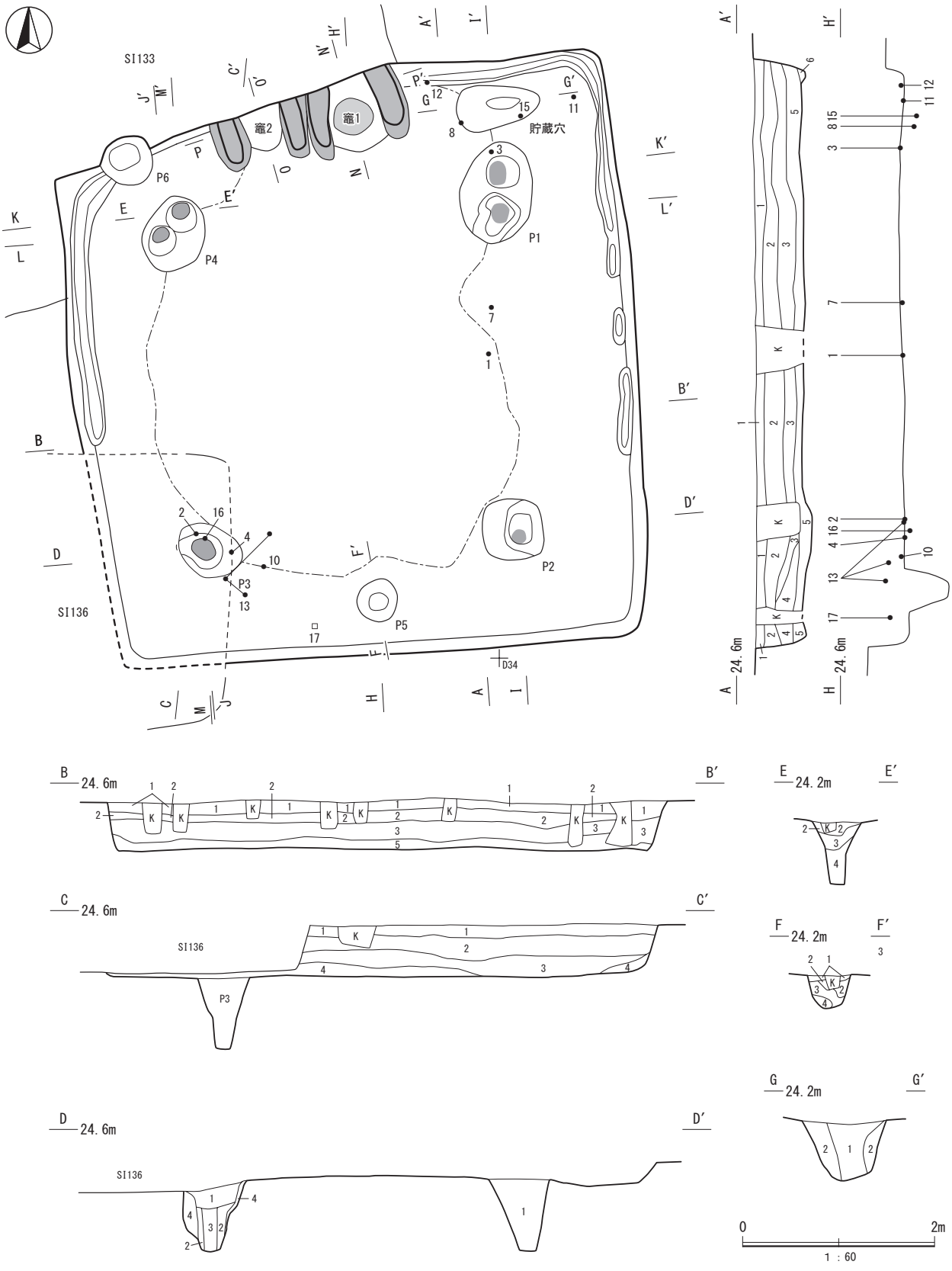
床　竈前面から中央にかけて踏み固められている。

竈　竈１は北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部にかけて 80cm。袖部の基部の最大幅は 105cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。竈１の左側に竈２を確認し、袖部の基部の最大幅 100cmの痕跡を確認する。竈２から竈１に作り替えられたとみられる。

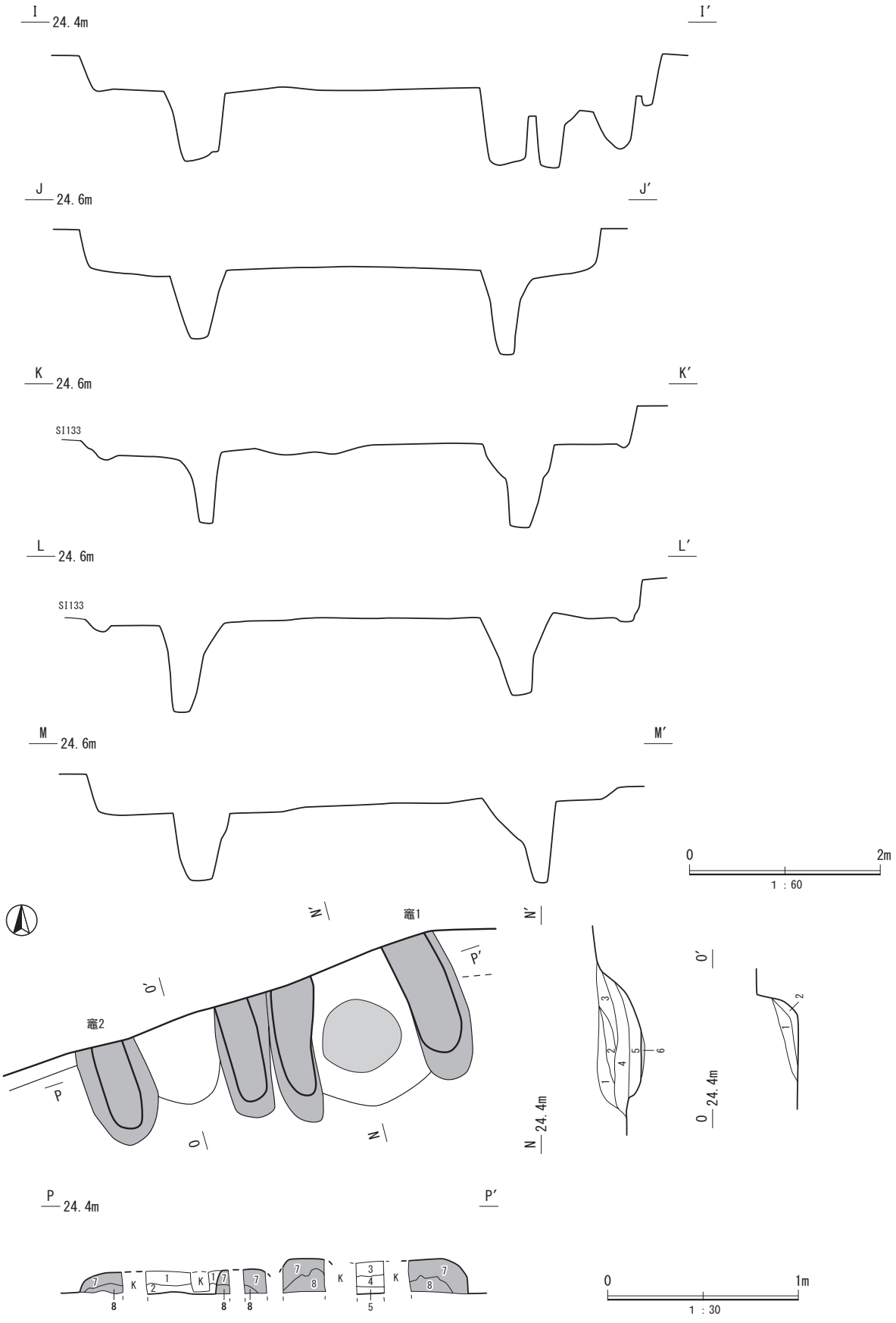
土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：96 × 80cm、深さ 80cm、Ｐ２:62 × 60cm、深さ 90cm、Ｐ３:70 × 50cm、深さ 72cm、Ｐ４:80 × 68cm、深さ 80cm、Ｐ５：50 × 48cm、深さ 30cm、Ｐ６：55 × 50cm、深さ 30cmである。Ｐ１～Ｐ４は立て替えられたものと考えられる。

貯蔵穴　竈東側に位置し、長径 90cm、短径 46cmの楕円形で、深さ 58cmである。



第 133 図　第 137 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 134 図　第 137 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子多量／粘性あり　締まり強い
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
6　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし(壁溝)

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子微量／粘性あり　締まりあり

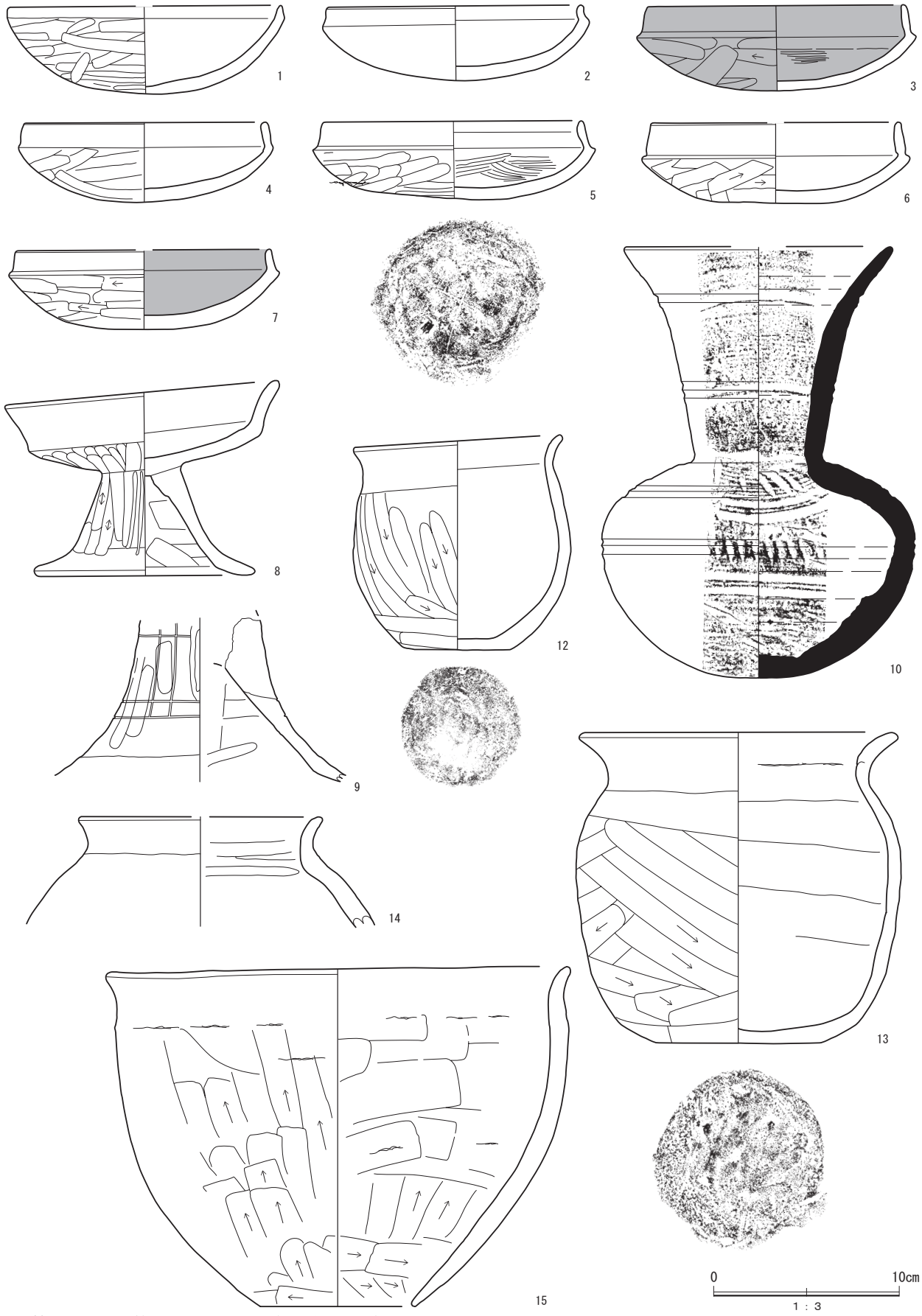
竈１土層解説
1　5YR　6/1　褐　灰　色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　4/3　灰　褐　色　焼土粒子少量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
4　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
5　5YR　3/6　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
6　5YR　4/4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
7　5YR　6/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
8　5YR　6/3　にぶい橙色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈２土層解説
1　5YR　5/1　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
2　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　5YR　5/1　褐　灰　色　焼土粒子微量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　5YR　4/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
7　5YR　6/2　灰　褐　色　焼土粒子微量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり
8　5YR　6/3　にぶい橙色　焼土粒子少量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり

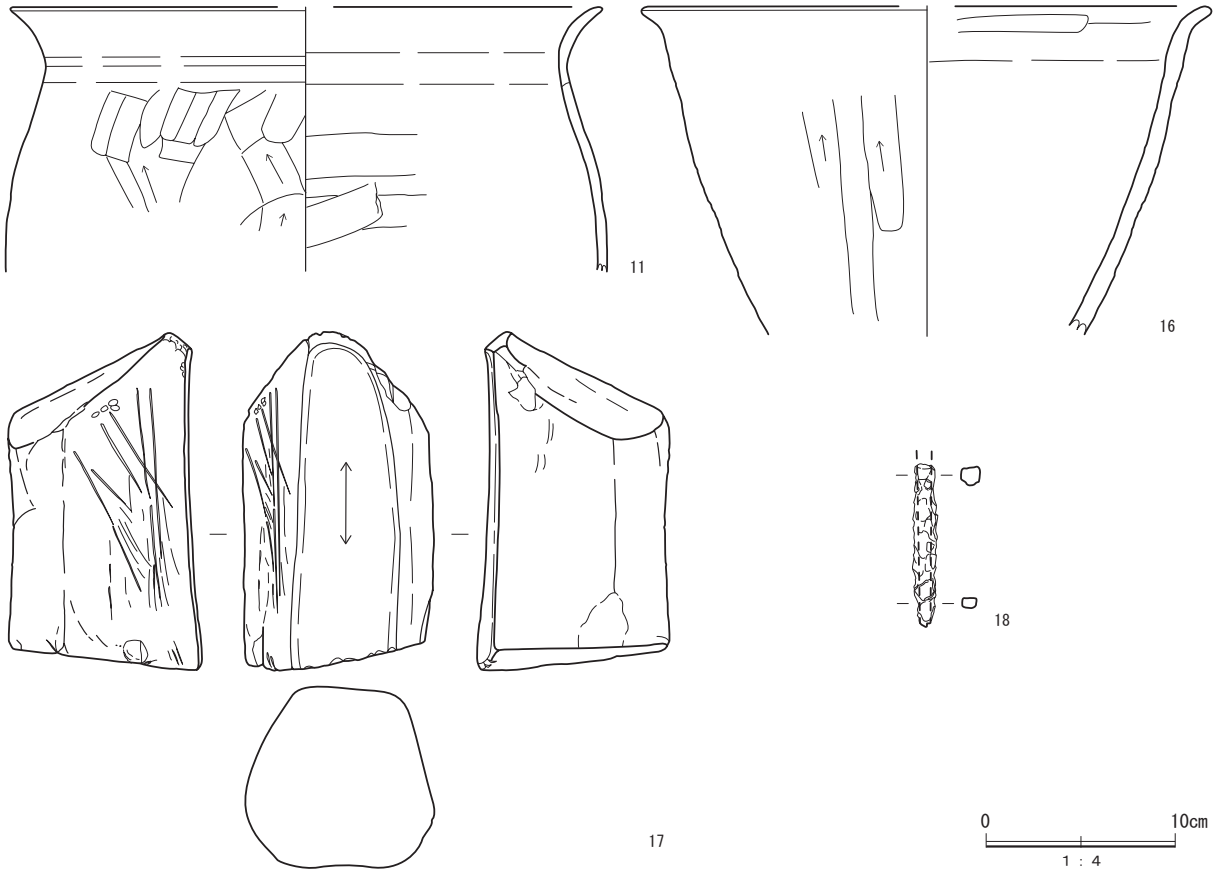
貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/1　黒　褐　色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒　褐　色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

遺物出土状況　土師器片 1,295 点 [坏 167 点 (3,726g)、高台付坏 1 点 (17g)、高坏 30 点 (1,175g)、甕 1,095 点 (25,702g)、甑 2 点 (2,091g)]、須恵器片 15 点［坏 3 点 (49g)、鉢 1 点 (20g)、甕 11 点 (661g)］、縄文土器片 12 点 (227g)、弥生土器片 38 点 (395g)、陶器片 3 点 (15g)、鉄製品 1 点 (6g)、石製品 1 点 (2,867g)、礫 52 点 (18,800g)。１・7 の土師器坏は中央部の床面、2・4 の土師器坏、16 の土師器甕はＰ３内、３の土師器坏はＰ１内、８の土師器高坏・15 の土師器甑は貯蔵穴内、10 の須恵器鉢、17 の砥石は南部の覆土下層、11 の土師器甕は北東コーナーの覆土下層、12 の土師器小形甕は竈 1 東側の床面、13 の土師器甕はＰ３周辺の覆土中層から下層、５・６の土師器坏、9 の土師器高坏、14 の土師器小形甕、18 の鉄鏃は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の７世紀前葉と考えられる。竈が作り替えられ、柱穴も立て替えられていることから、建て替えられていると考えられる。



第 135 図　第 137 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 136 図　第 137 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 59 表　第 137 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.4	4.7	—	長石･石英･雲母	橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ	中央部床面	写真図版 52
2	土師器	坏	13.5	4.0	—	長石･石英･雲母･スコリア	明赤褐	普通	口縁部横ナデ	P3 内	95% 写真図版 52
3	土師器	坏	13.6	4.6	—	長石･石英･スコリア	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラミガキ　下方斜位のヘラミガキ　内外面黒色処理	P1 内	90% 写真図版 52
4	土師器	坏	12.8	4.3	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ	P3 内	95% 写真図版 52
5	土師器	坏	13.7	4.2	—	長石・石英	にぶい褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のヘラミガキ　下方斜位のヘラミガキ　底部「×」のヘラ記号	覆土中	90% 写真図版 52
6	土師器	坏	[13.2]	4.4	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中	50% 写真図版 52
7	土師器	坏	[13.5]	4.3	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面黒色処理	中央部床面	50%
8	土師器	高坏	14.6	10.5	11.4	長石･石英･スコリア	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラナデ　脚部縦位のヘラ削り　内面横ナデ	貯蔵穴内	95% 写真図版 52
9	土師器	高坏	—	(8.8)	—	長石･石英･雲母	明赤褐	普通	脚部外面篦状工具で上下左右に区画文　透かし孔４か所　内面ナデ	覆土中	20% 写真図版 52
10	須恵器	甕	14.3 ～ 14.5	23.1	—	長石・石英	灰	普通	頸部外面１５本櫛歯状工具による波状文２段　体部外面横位の平行叩き	南部覆土下層	70%在地 写真図版 52

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	土師器	甕	[31.1]	(14.0)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	北東コーナー覆土下層	10%
12	土師器	小形甕	11.0	11.6	5.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ	竈1東側床面	90% 写真図版53
13	土師器	甕	[16.6]	16.8	8.8	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のナデ　底部ナデ	P3周辺覆土中層･下層	40% 写真図版53
14	土師器	小形甕	[12.8]	(5.9)	—	長石･石英･雲母	灰褐	普通	口縁部横ナデ　体部内外面ナデ	覆土中	10%
15	土師器	甑	24.6	18.3	8.2	長石･石英･細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下位横位のヘラ削り　内面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り	貯蔵穴内	100% 写真図版53
16	土師器	甕	29.5	(10.8)	—	長石･石英･細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位・横位のヘラ削り　内面ナデ	P3内	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	砥石	17.8	10.1	10.2	2,867	粘板岩	砥面1面	南部覆土下層	写真図版53

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
18	鏃	(6.45)	0.4～0.55	0.4～0.7	(6.3)	鉄	茎部	覆土中	

第138号竪穴建物跡 (SI-138)(第137・138図　写真図版29・30)

位置　調査区中央部B 34･35、C 34･35グリットに位置し、標高24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第139号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北東部の一部が調査区外に延びているが、長軸5.08 m、短軸5.06 mで、平面形は方形である。主軸方位はN－10°－Wである。壁は確認面から最大高54cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

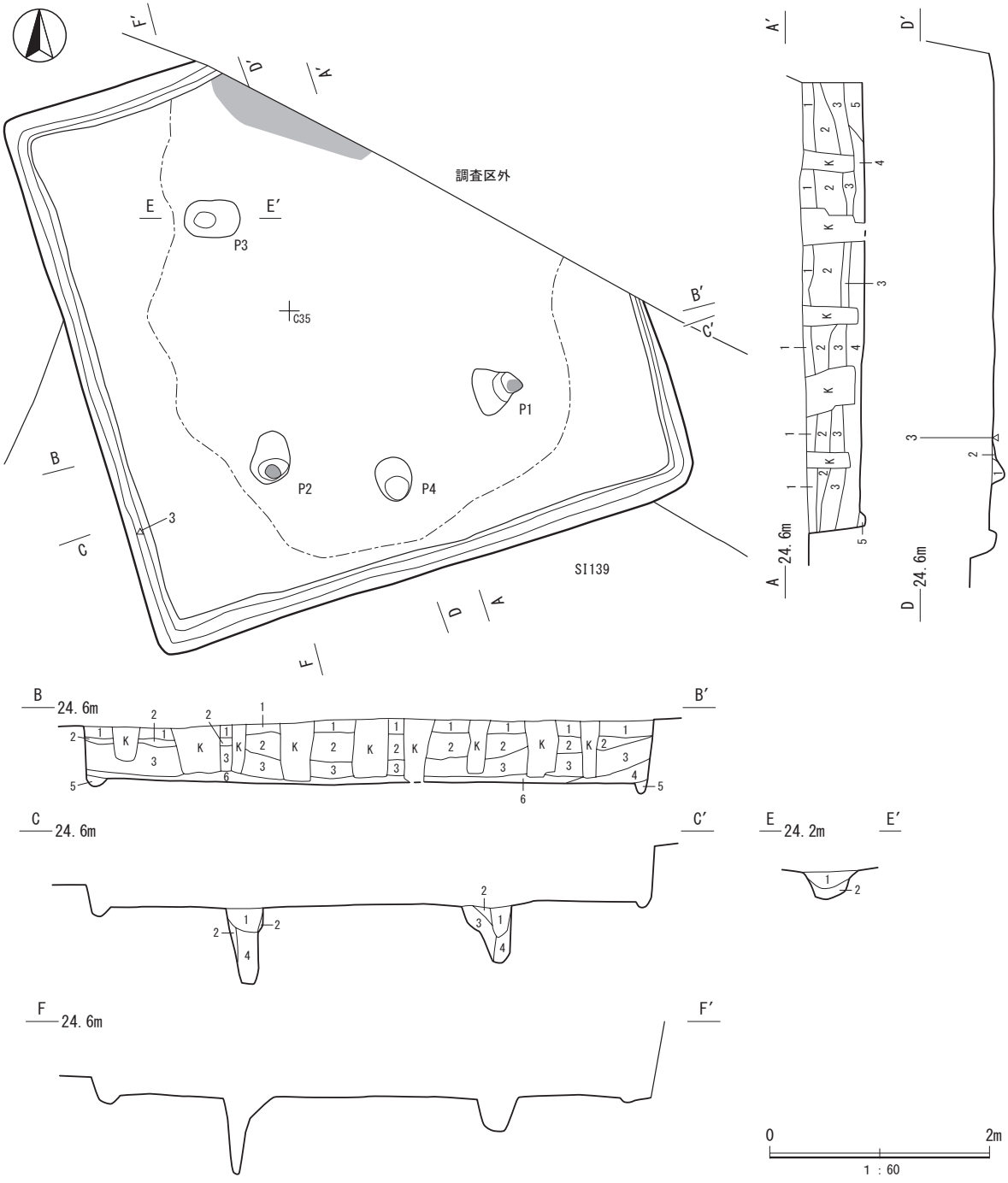
竈　北西壁中央で痕跡を確認する。

土層　6層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット4か所が検出された。P 1～P 3は主柱穴と考えられる。P 1：50×40cm、深さ50cm、P 2：48×34cm、深さ70cm、P 3：54×30cm、深さ30cm、P 4：40×34cm、深さ10cmである。

遺物出土状況　土師器片464点[坏23点(281g)、高坏19点(841g)、坩6点(89g)、甕416点(6,363g)]、須恵器甕片3点(57g)、縄文土器片2点(34g)、弥生土器片10点(132g)、陶器片2点(10g)、鉄製品1点(38g)、礫13点(4,000g)。3の鉄製鋤先は南壁の壁溝内、1の土師器坏・2の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の6世紀後葉と考えられる。



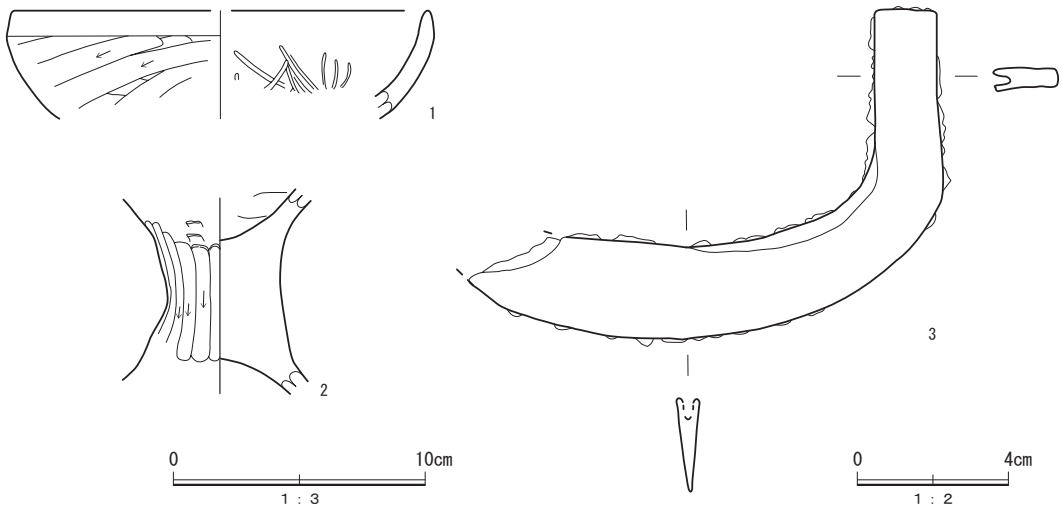
第 137 図　第 138 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
6　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 138 図　第 138 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 60 表　第 138 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[16.3]	(4.3)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横ナデ後放射状のヘラミガキ	覆土中	5%
2	土師器	高坏	—	(8.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面縦位のヘラ削り　坏部内面横ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	鋤先	8.7	(12.5)	0.6	(68.8)	鉄	刃部	壁溝内	

第 139 号竪穴建物跡 (SI-139)(第 139・140・141 図　写真図版 29・30)

位置　調査区中央部Ｃ 34･35、Ｄ 34･35 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 137・138 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部と西部を第 137･138 号竪穴建物に掘り込まれているが､長軸は 7.20 ｍ､短軸は 7.00 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 30° －Ｅである。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認でき壁で、上幅 20 ～ 30㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

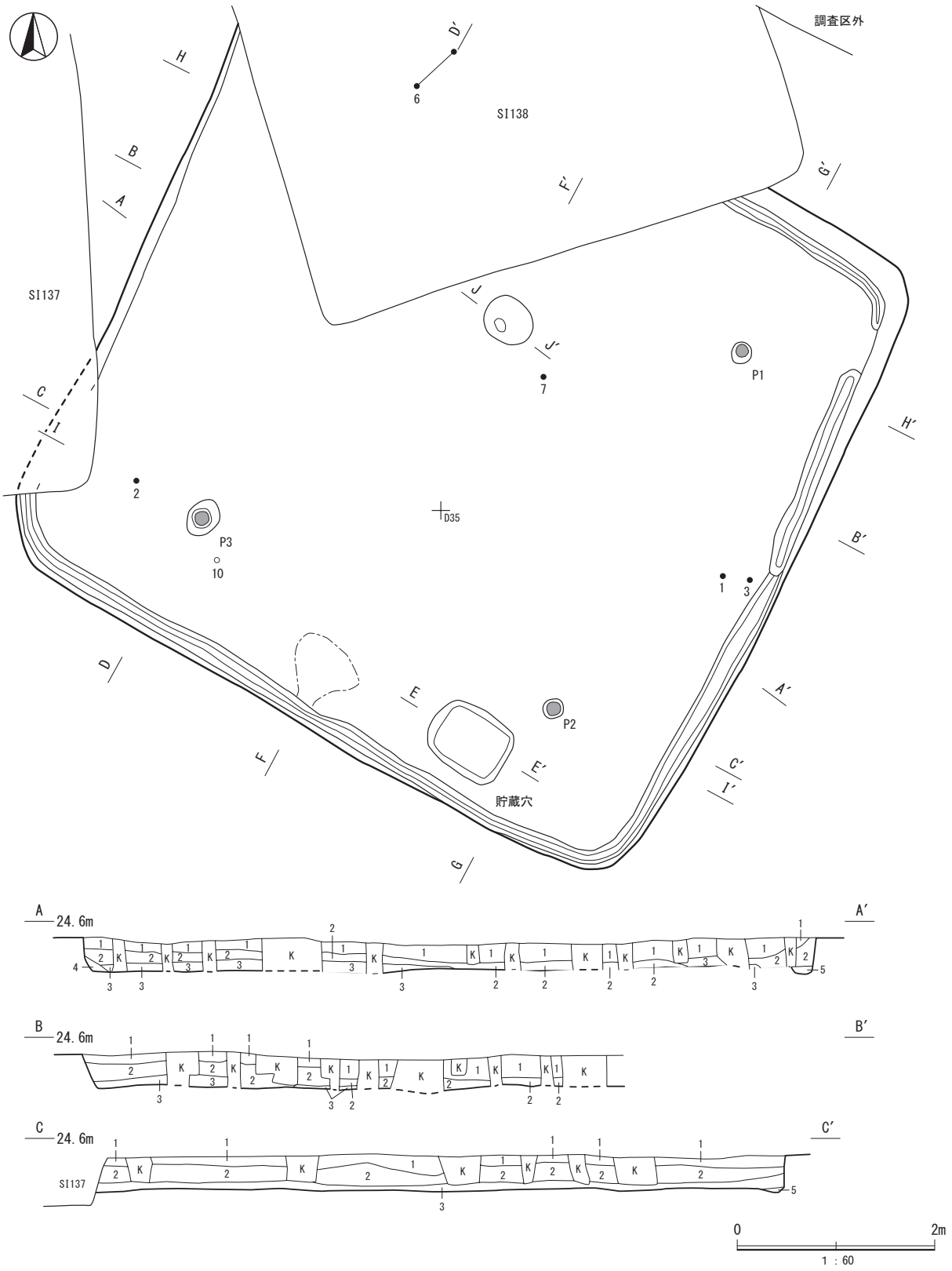
床　炉周辺から中央部にかけて踏み固められている。

炉　中央から北東寄りに付設されており、長径 50㎝、短径 40㎝の不整楕円形で、床面を 10㎝ほど掘りくぼめて使用している。炉床面はローム面で、火熱を受けて赤変硬化している。。

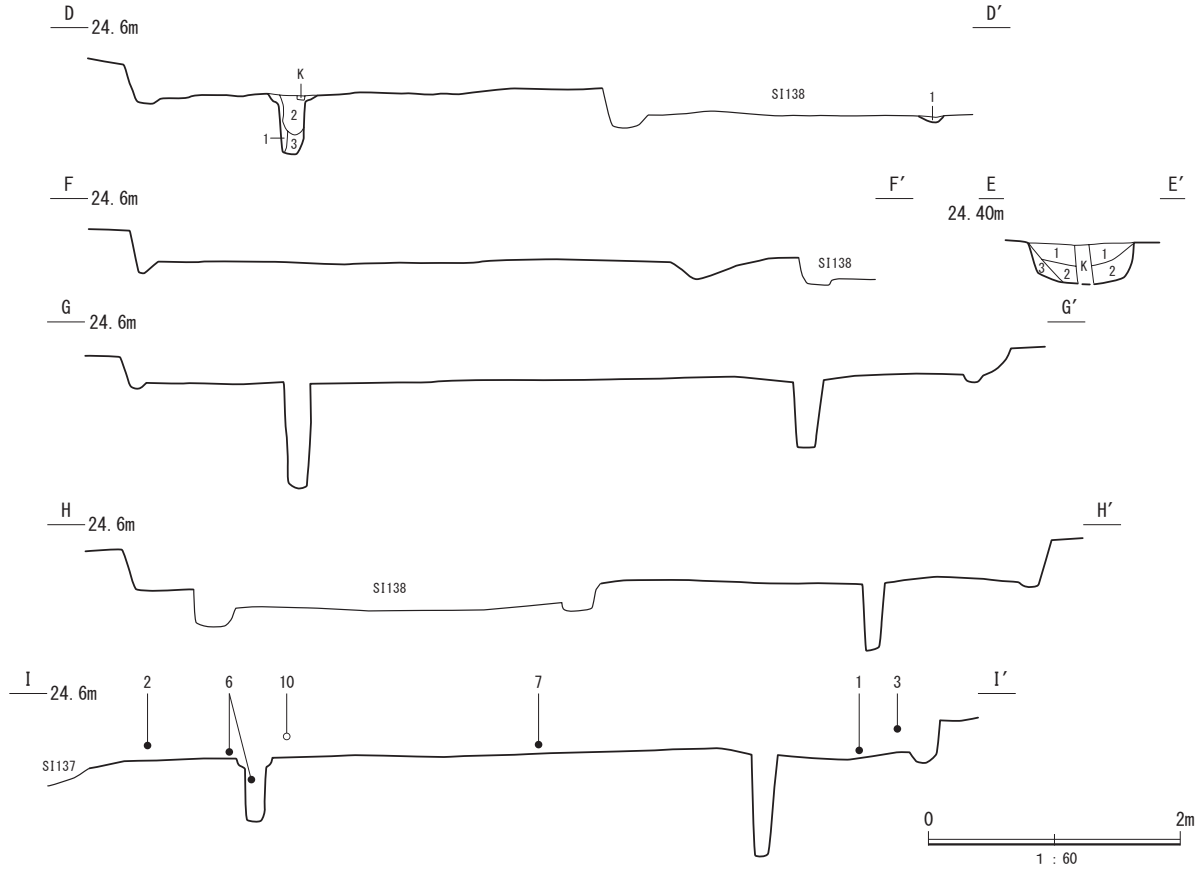
土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

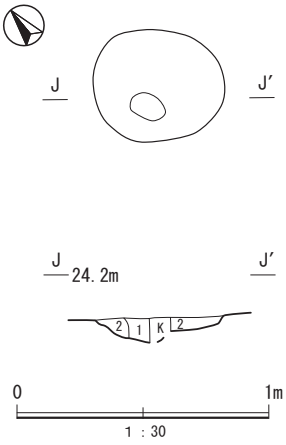
ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:16 × 14㎝､深さ 50㎝、Ｐ２：20 × 18㎝、深さ 70㎝、Ｐ３：38 × 28㎝、深さ 46㎝である。

貯蔵穴　南コーナーに位置し、長径 90㎝、短径 70㎝の長方形で、深さ 30㎝である。



第 139 図　第 139 号竪穴建物跡実測図 (1)





土層解説

1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量　焼土粒子微量／粘性あり 締まりなし
3	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

炉土層

1	5YR	3/3	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし
2	5YR	3/4	暗赤褐色	焼土粒子中量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説

1	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ローム粒子中量　炭化物微量・粒子少量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ローム粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	3/4	暗	褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし

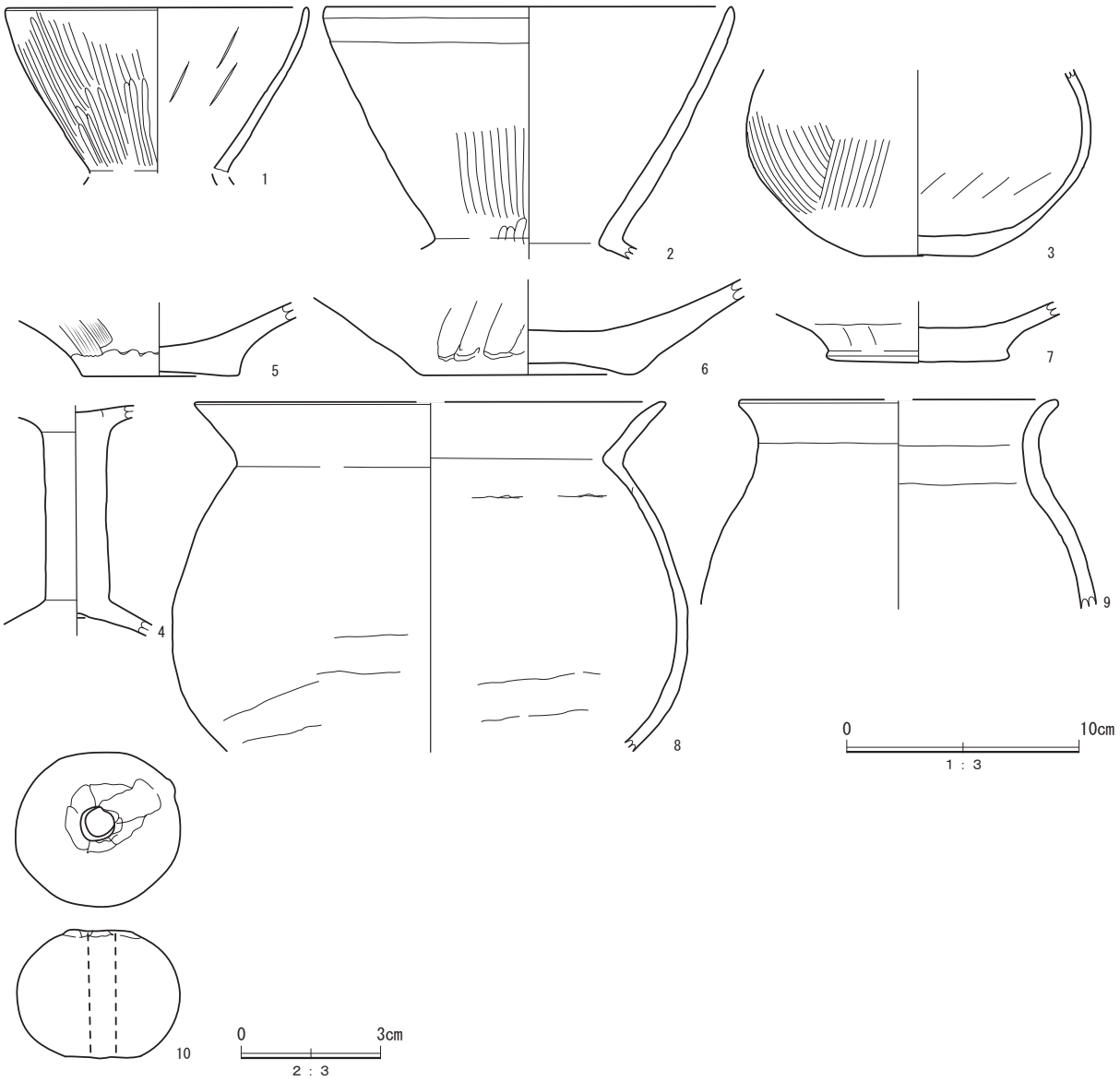
貯蔵穴土層解説

1	7.5YR	3/2	黒	褐	色	ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/3	暗	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3	7.5YR	4/3	褐		色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

第 140 図　第 139 号竪穴建物跡実測図 (2)

遺物出土状況　土師器片 315 点 [坏 10 点 (52g)、高坏 3 点 (81g)、坩 7 点 (77g)、器台 1 点 (18g)、甕 294 点 (4,012g)]、須恵器片 4 点［坏 1 点 (55g)、甕 3 点 (61g)］、縄文土器片 2 点 (43g)、弥生土器片 10 点 (107g)、瓦片 1 点 (45g)、礫 20 点 (10,200g)。1・3 の土師器坩は東部の覆土中層、2 の土師器坩は西部の覆土下層、6 の土師器甕は北部の床面、7 の土師器甕は炉の中央部の覆土下層、10 の土製土玉はＰ 3 南側の覆土下層から出土している。4・5・8・9 の土師器甕は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代前期と考えられる。



第 141 図　第 139 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 61 表　第 139 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	[12.8]	(7.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　外面縦位のヘラミガキ　内面縦位と横位のヘラミガキ	東部覆土中層	50%
2	土師器	坩	[17.4]	(10.9)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　外面縦位のヘラミガキ　内面横位のナデ	西部覆土下層	30%
3	土師器	坩	—	(8.0)	4.8	長石・石英	橙	普通	体部外面　斜位のヘラミガキ　内面斜位のヘラナデ　底部ヘラ削り	東部覆土中層	40%
4	土師器	高坏	—	(9.9)	—	長石・石英	橙	普通	脚部外面縦位のヘラナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	—	(3.2)	6.4 ～ 6.7	長石・石英	橙	普通	体部外面ハケ目調整　内面ヘラナデ　底部貼り付け	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	甕	—	(4.1)	9.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面縦位のヘラナデ　底部２方向のヘラ削り	北部床面	5%
7	土師器	甕	—	(2.6)	[7.8]	長石･石英･雲母	褐	普通	体部外面横位のナデ下端縦位のナデ　底部２方向のナデ	中央部覆土下層	5%
8	土師器	甕	[20.0]	(15.1)	—	長石･石英･雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面横ナデ	覆土中	30%
9	土師器	甕	[13.4]	(9.0)	—	長石･石英･雲母	赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明 内面横ナデ	覆土中	10%

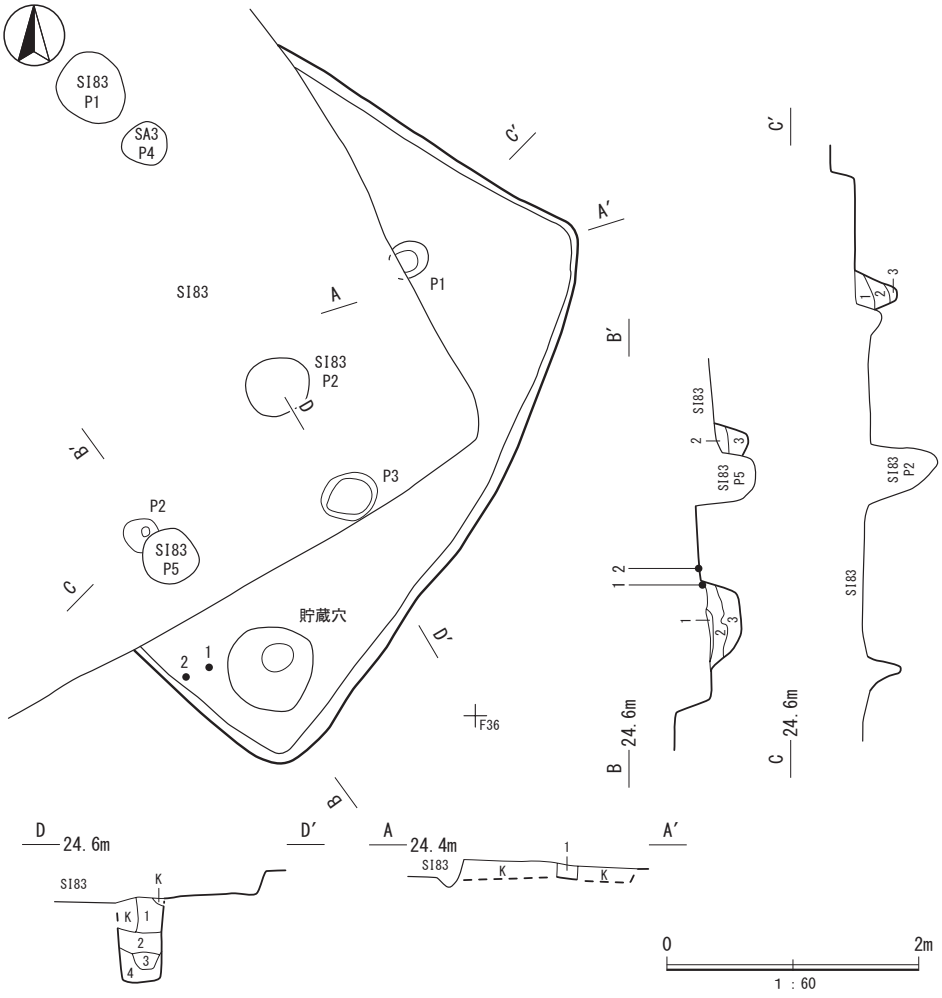
番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	土玉	2.8	3.3～3.5	0.7	30.0	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ　上下面使用痕あり	P3 南側覆土下層	95%

第 140 号竪穴建物跡 (SI-140)(第 142・143 図　写真図版 15)

位置　調査区中央部D 35、E 35･36、F 35 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 83 号竪穴建物に掘り込まれている。

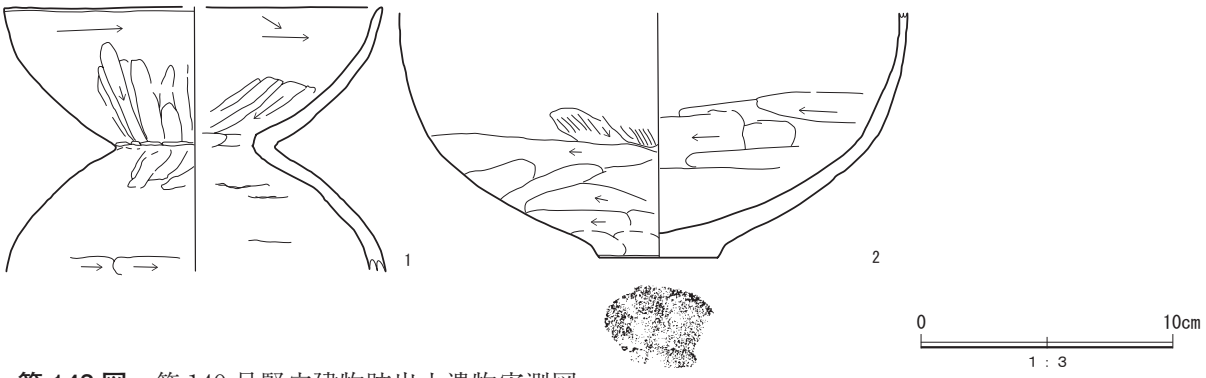


第 142 図　第 140 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームフロック微量・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし

ピット土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

貯蔵穴土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりなし



第 143 図　第 140 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 62 表　第 140 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	[15.0]	(11.0)	—	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラナデ　下位斜位のヘラナデ　内面横位のナデ　輪積痕	南部床面	50%
2	土師器	壺	—	(9.5)	4.8	長石・石英	灰赤	良好	体部外面中位斜位のハケ後ヘラナデ　下位横位のヘラ削り　内面中位横位のヘラ削り　下位放射状のヘナミガキ　底部ナデ	南部床面	30%

規模と形状　大半を第 83 号竪穴建物に掘り込まれているため、北東・南西軸は 4.86 m、北西・南東軸は 2.20 mしか確認できなかった。平面形は方形もしくは長方形で、主軸方位はN − 60° − W と推定される。壁は確認面から最大高 12cmで、ほぼ直立している。

床　確認された部分はやや踏み固められている。

土層　単一層である。

ピット　ピット３か所が検出された。Ｐ１・Ｐ２は主柱穴、Ｐ３は出入口施設と考えられる。Ｐ１：30 × 28cm、深さ 36cm、Ｐ２：30 × 24cm、深さ 30cm、Ｐ３：40 × 38cm、深さ 70cmである。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し、長径 76cm、短径 62cmの楕円形で、深さ 28cmである。

遺物出土状況　土師器片 95 点 [坏 16 点 (190g)、坩 1 点 (100g)、器台 4 点 (77g)、壺 1 点 (180g)、甕 73 点 (757g)]、弥生土器片 6 点 (37g)、礫２点 (36g)。１の土師器坩・２の土師器壺は南部の床面から出土している。

所見　時期は、重複関係と出土土器から古墳時代中期の５世紀中葉と考えられる。

第 142 号竪穴建物跡 (SI-142)(第 144・145・146 図　写真図版 30)

位置　調査区中央部Ｉ 37 ～ 39、Ｉ 37 ～ 39 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 143・233 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 6.75 ｍ、短軸 6.40 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 35°－ Ｗ である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がる。

床　竈前から中央にかけて踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 150㎝である。袖部の基部の最大幅は 120㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　７層に分層できる。堆積状況から、自然堆積である。

ピット　ピット４か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１：90 × 60㎝、深さ 36㎝、Ｐ２：110 × 92㎝、深さ 80㎝、Ｐ３：70 × 66㎝、深さ 65㎝、Ｐ４：80 × 80㎝、深さ 64㎝である。

遺物出土状況　土師器片 861 点 [坏 55 点 (653g)、坩５点 (89g)、高坏 41 点 (1,046g)、甕 760 点 (10,800g)]、須恵器片５点 [坏１点 (13g)、横瓶１点 (12g)、甕３点 (127g)]、弥生土器片６点 (41g)、礫 19 点 (3,300g)。８の土師器甕・16 の土製支脚は竈内、11 の土師器甑はＰ１の覆土中層、12 の土師器甑はＰ３の覆土下層から出土している。１～５の土師器坏、６の須恵器横瓶、９・10 の土師器小形甕、13・14 の土師器手捏土器、15 の土製土玉は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

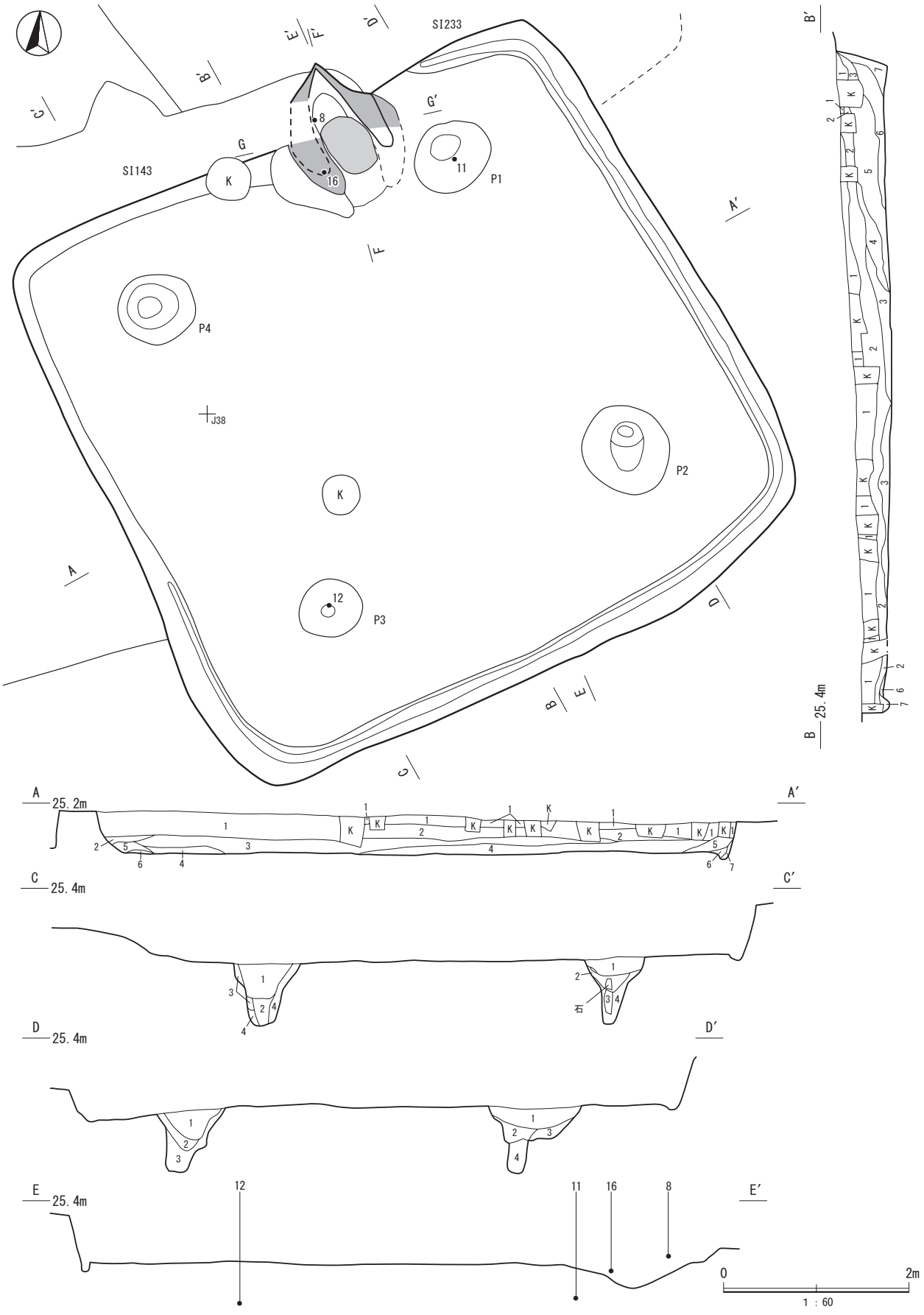
1	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子多量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	3/2	黒褐色	ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	4/3	褐　色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子少量／粘性なし　締まりあり
6	7.5YR	4/4	褐　色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
7	7.5YR	4/4	褐　色	ローム粒子多量　炭化粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

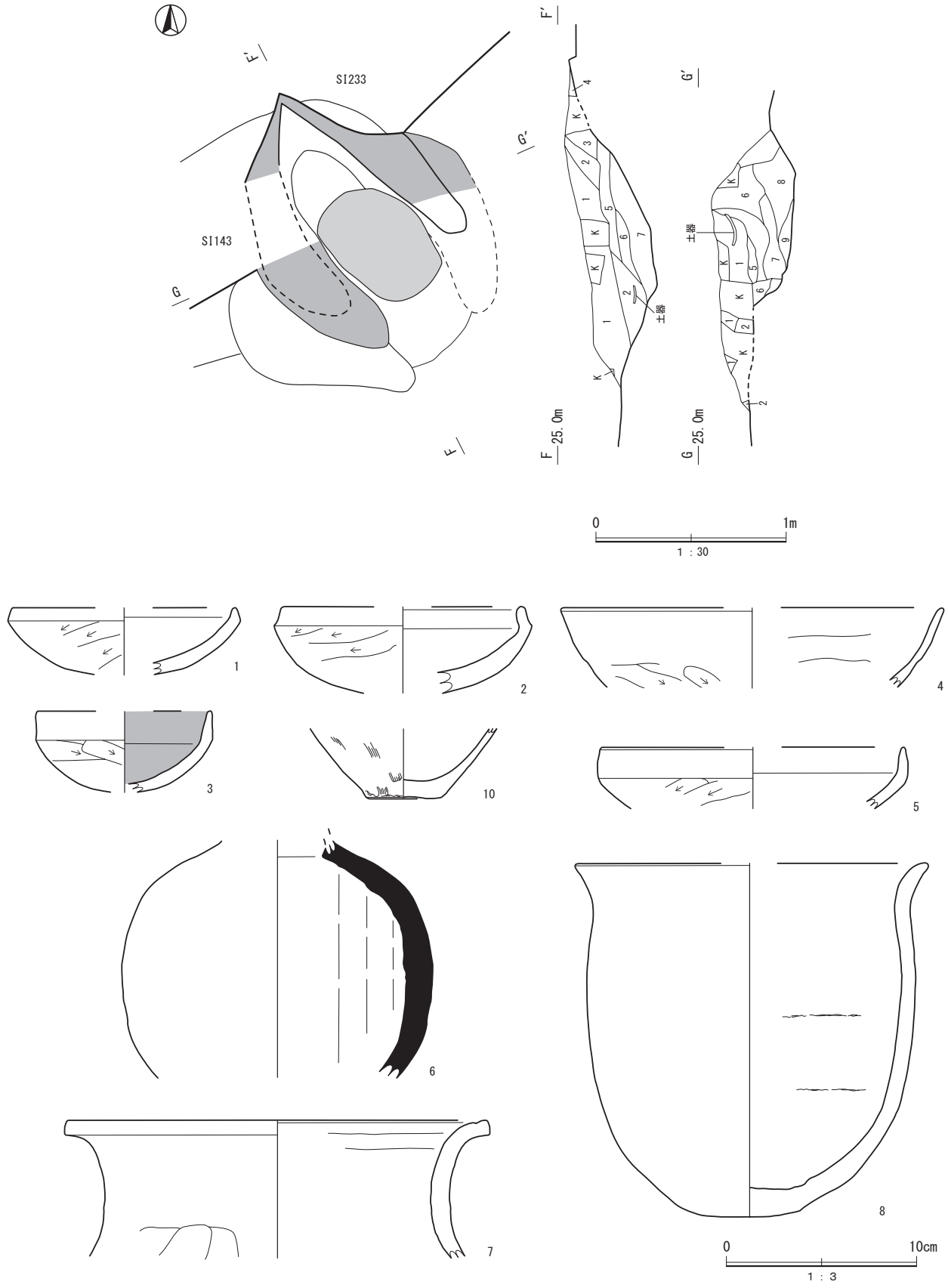
1	7.5YR	3/3	暗褐色	ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	4/4	褐　色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/3	黒褐色	ロームブロッシ微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	4/6	褐　色	ロームブロック少量・粒子多量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

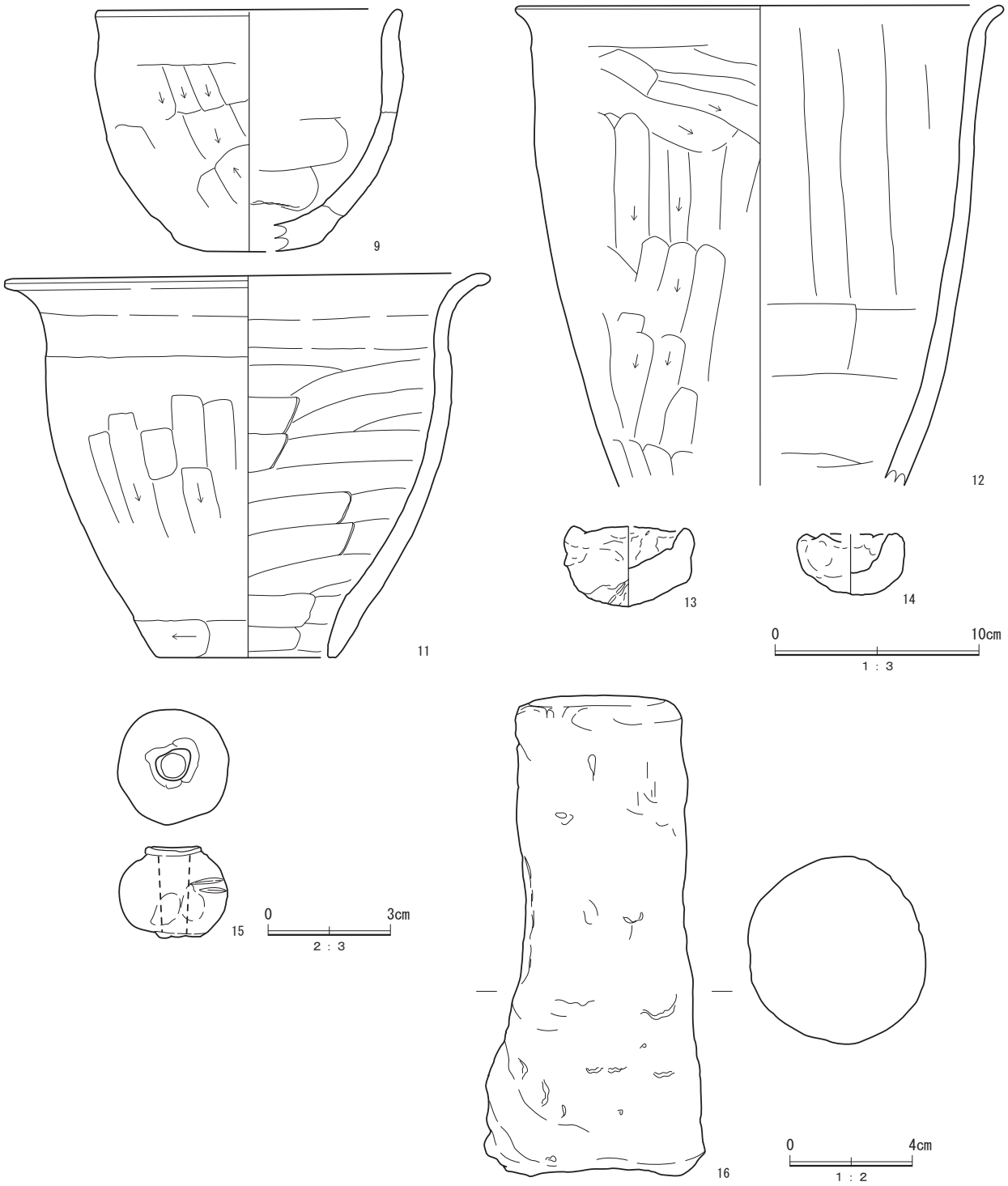
1	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子微量　ローム粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
2	2.5YR	3/3	暗赤褐色	炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	2.5YR	3/3	暗赤褐色	粘土ブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	2.5YR	3/2	暗赤褐色	焼土粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
5	2.5YR	3/1	暗赤灰色	焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
6	2.5YR	3/1	暗赤灰色	粘土粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり (袖部)
7	5YR	8/1	灰白色	粘土ブロック少量・粒子多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり (掘方)
8	5YR	3/2	暗赤褐色	ロームブロック少量・粒子多量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり (掘方)
9	5YR	6/8	橙　色	ロームブロック多量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 144 図　第 142 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 145 図　第 142 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図



第 146 図　第 142 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 63 表　第 142 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.6]	(3.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り	覆土中	10%
2	土師器	坏	[12.4]	(4.5)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り	覆土中	20% 写真図版 53

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3	土師器	坏	[9.0]	(4.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横ナデ　内面黒色処理	覆土中	30%
4	土師器	坏	[20.0]	(4.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横ナデ	覆土中	5%
5	土師器	坏	[15.8]	(3.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り	覆土中	5%
6	須恵器	横瓶	—	(12.7)	—	長石･石英･鉄分吹き出し	灰	良好	ロクロナデ　外面自然釉	覆土中	20%
7	土師器	甕	22.0	(7.2)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ	覆土中	5%
8	土師器	甕	[18.2]	18.6	5.2	長石･石英･細礫	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明　内面横ナデ	竈内	30% 写真図版53
9	土師器	小形甕	[14.8]	11.8	6.6	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のナデ	覆土中	40%
10	土師器	小形甕	—	(3.7)	4.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面縦位のハケ目調整　底部貼り付け後一方向のヘラ削り	覆土中	10%
11	土師器	甑	23.3	18.8	8.3 ～ 9.0	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り　内面横位のヘラナデ	P1 内	90% 写真図版53
12	土師器	甑	23.6	(23.5)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面上位斜位のヘラ削り下位縦位のヘラ削り　内面上位縦位のナデ下位横位のナデ	P3 内	30% 写真図版53
13	土師器	手捏土器	4.8 ～ 5.6	3.9	—	長石・石英	にぶい橙	普通		覆土中	100% 写真図版53
14	土師器	手捏土器	[4.5]	(3.0)	—	長石・石英	にぶい褐	普通		覆土中	50% 写真図版53

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
15	土玉	2.2	2.7 ～ 2.8	0.7 ～ 0.9	15.6	長石･石英･雲母	橙	外面ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

番号	種別	長さ	上徑	下徑	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
16	支脚	15.7	5.5	7.2	655	土製	橙	指頭ナデ	竈内	写真図版53

第 143 号竪穴建物跡 (SI-143)(第 147・148 図　写真図版 30)

位置　調査区中央部Ⅰ 37・38、Ｊ 37 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

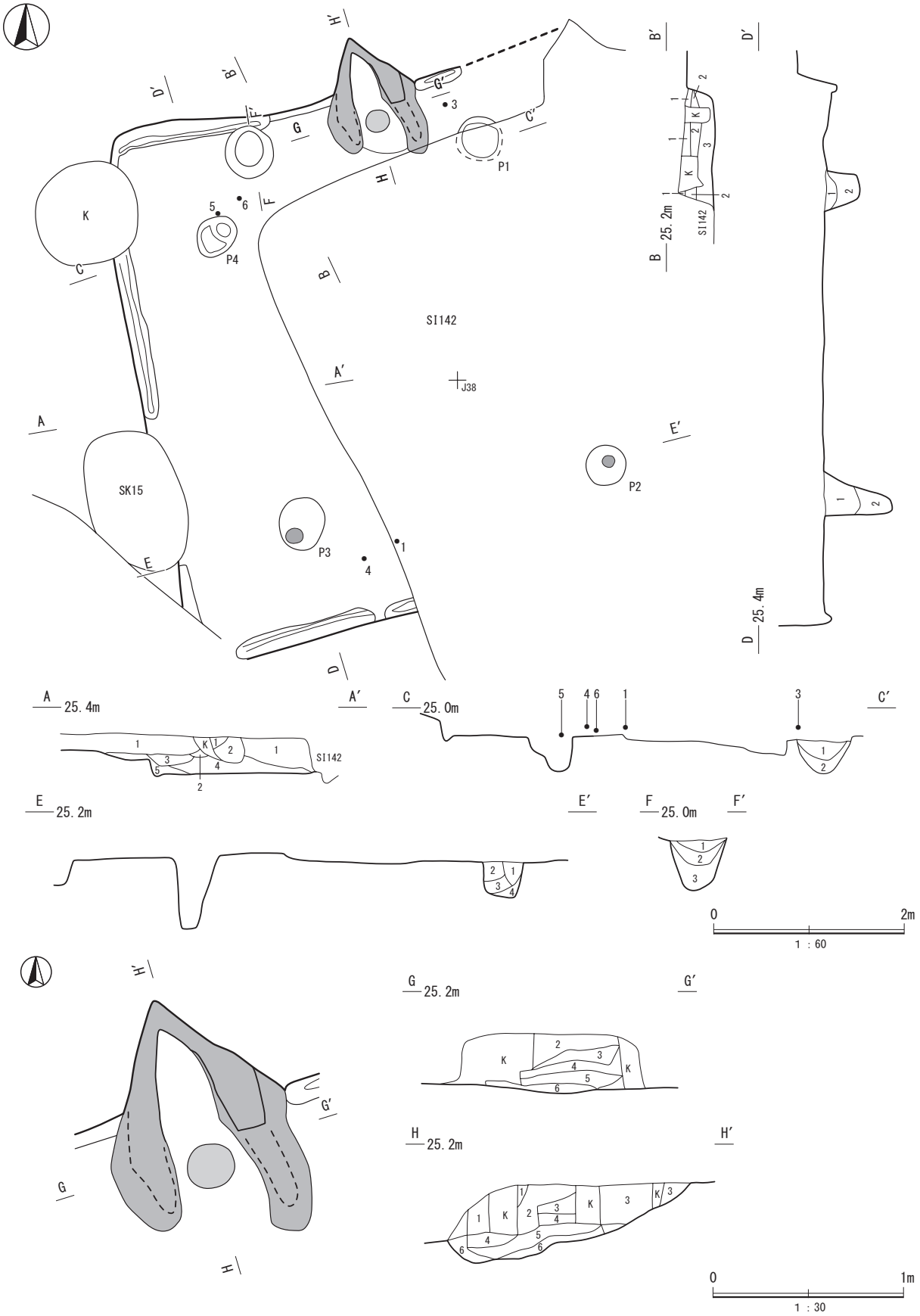
確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 142 号竪穴建物・第 15 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 142 号竪穴建物に掘り込まれ、南北軸は 5.60 ｍで、東西軸は 4.10 ｍしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測される。主軸方位はＮ － 10° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 40㎝で、外傾して立ち上がる。

床　竈前と確認できた部分が踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 120㎝である。袖部の基部の最大幅は 95㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

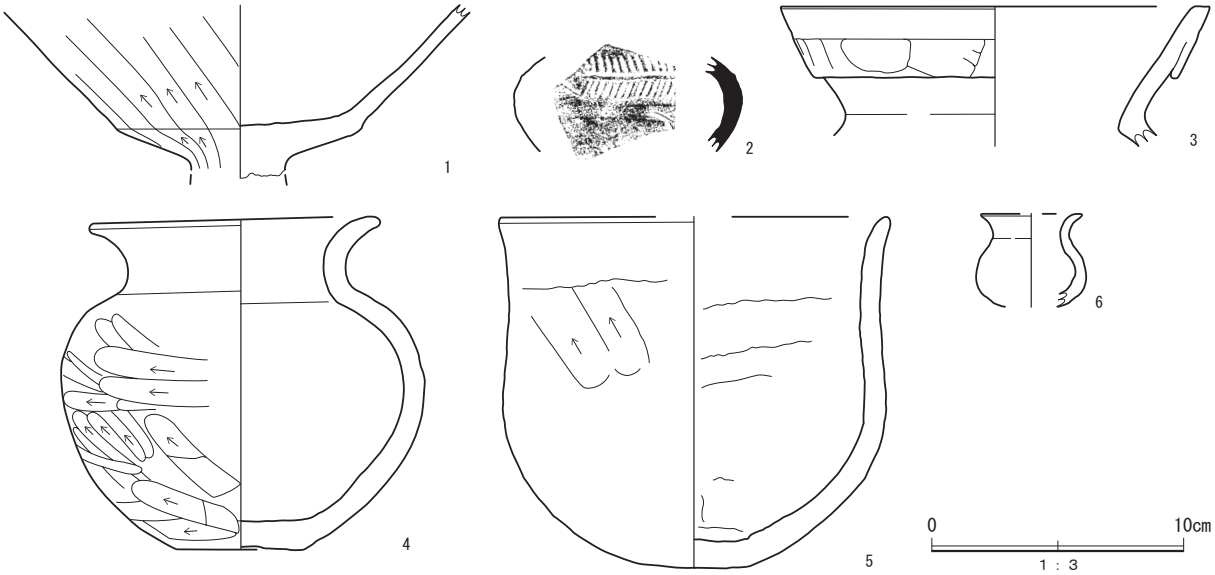


第 147 図　第 143 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　4/6　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロッシ少量・粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/4　褐　　色　ローム粒子多量　炭化粒子微／粘性あり　締まりあり

竈土層解説
1　5YR　4/2　灰　褐　色　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2　5YR　3/4　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量　炭化粒子多量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　5YR　4/1　褐　灰　色　粘土ブロック・粒子微量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　5YR　4/3　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量・粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　粘土ブロック・粒子微量／粘性なし　締まりあり
6　5YR　4/1　褐　灰　色　粘土ブロック微量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり



第 148 図　第 143 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 64 表　第 143 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	—	(6.9)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	坏部外面斜位のヘラ削り　内面摩滅により調整不明	南部床面	40%
2	須恵器	甕	—	(3.8)	—	細砂・鉄分吹き出し	灰	良好	ロクロナデ　6 本歯の櫛状工具による連続刺突文	覆土中	10% 猿投窯 写真図版 53
3	土師器	甕	[17.0]	(5.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　外面二重に貼り付け	竈東側下層	5% 写真図版 53
4	土師器	小形甕	11.0	13.2	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位・横位のヘラ削り	南部覆土下層	95% 写真図版 53
5	土師器	小形甕	[15.3]	13.9	4.4	長石･石英･雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り下端摩滅により調整痕不明	P 4 北側床面	50% 写真図版 53
6	土師器	ミニチュア土器	[3.8]	(3.3)	—	長石･石英･雲母	黒褐	普通	内外面ナデ　内面朱痕あり	P 4 北側覆土下層	30%

土層　５層に分層できる。ロームブロックを含むことから人為堆積である。

ピット　ピット２か所と第 142 号竪穴建物の床下から２ヵ所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１：50 × 50cm、深さ 30cm、Ｐ２：40 × 40cm、深さ 35cm、Ｐ３：52 × 50cm、深さ 70cm、Ｐ４：48 × 42cm、深さ 40cmである。

遺物出土状況　土師器片 499 点 [坏 48 点 (473g)、高坏 23 点 (346g)、坩 4 点 (97g)、甕 424 点 (6,225g)]、須恵器片 17 点［坏 1 点 (7 g)、鬶 1 点 (37g)、甕 15 点 (511g)］、縄文土器片 1 点 (22g)、弥生土器片 9 点 (157g)、土製品 1 点 (22g)、土製支脚片 2 点 (581g)、礫 12 点 (2,638g)。１の土師器高坏は南部の床面、３の土師器甕は竈東側の覆土下層、４の土師器小形甕は南部の覆土下層、５の土師器小形甕はＰ４北側の床面、６の土師器ミニチュア土器はＰ４北側の覆土下層から出土している。２の須恵器鬶は覆土中から出土している。

所見　時期は、重複関係と出土土器から古墳時代中期の５世紀後葉と考えられる。

第 144 号竪穴建物跡 (SI-144)(第 149・150・151 図　写真図版 12・31)

位置　調査区中央部Ｇ 36 ～ 38、Ｈ 36 ～ 38 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 61・82 号竪穴建物跡を掘り込み、第 52 号竪穴建物・第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北西部を第６号溝に、南東部を第 52 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸 7.80 ｍ、短軸 7.20 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ－ 35° －Ｗである。壁は確認面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床　中央部が踏み固められている。

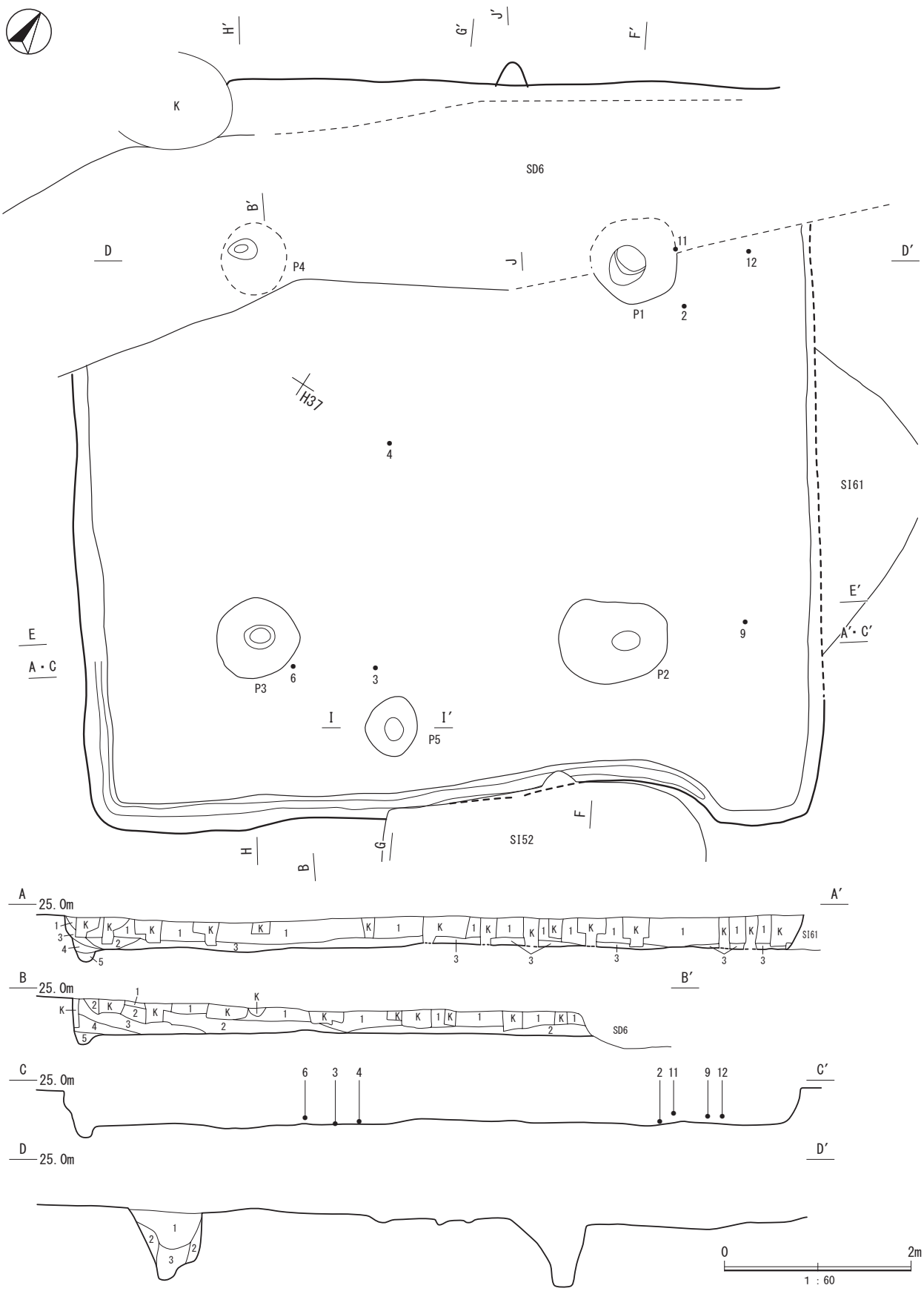
土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

竈　北西壁中央部と考えられる位置に煙道部の先端を確認する。袖部は第６号溝に掘り込まれて確認できなかった。

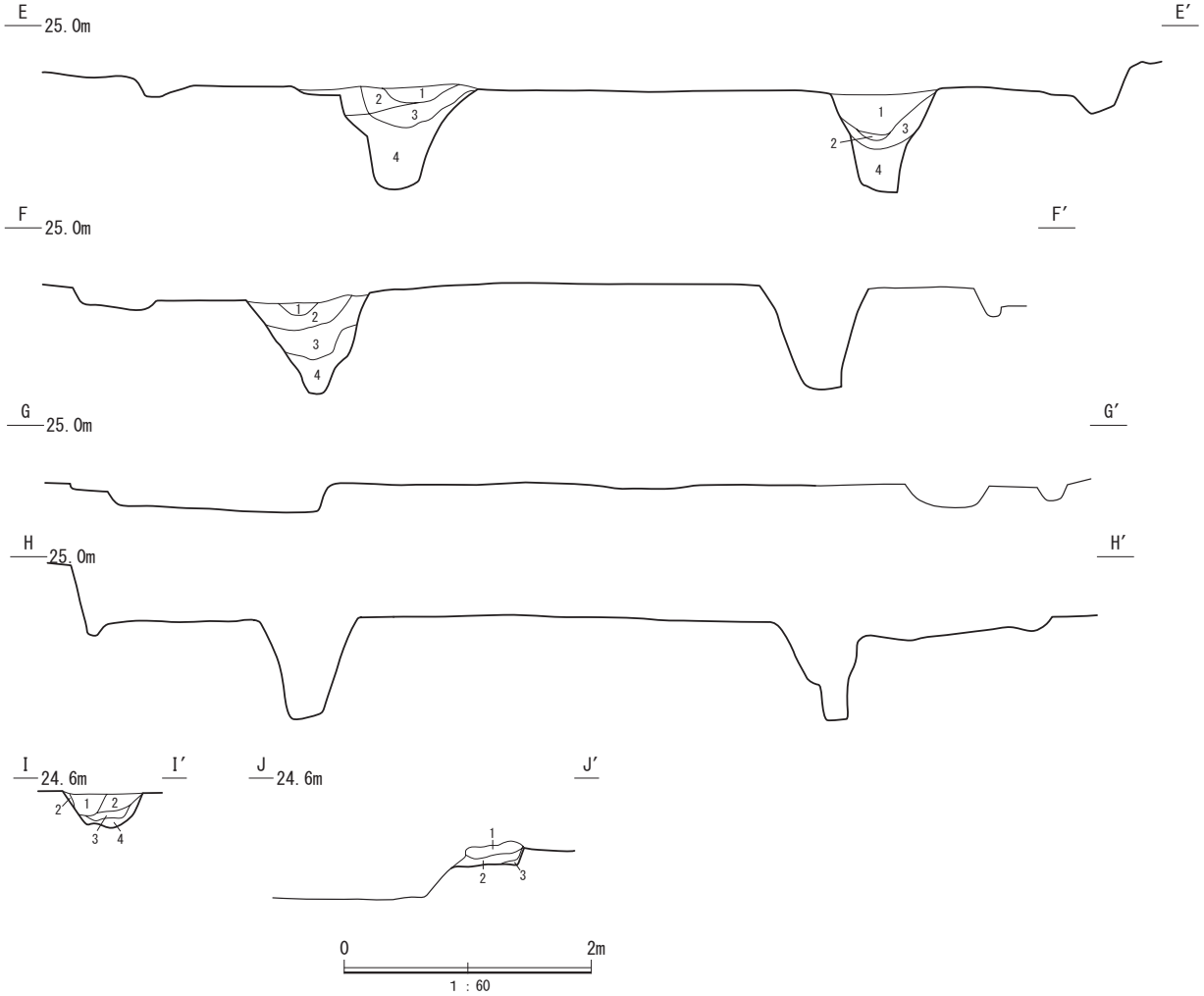
ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５は出入口施設と考えられる。Ｐ１：90 × 88cm、深さ 62cm、Ｐ２：112 × 92cm、深さ 82cm、Ｐ３：90 × 80cm、深さ 78cm、Ｐ４：80 × 70cm、深さ 70cm、Ｐ５：60 × 58cm、深さ 14cmである。

遺物出土状況　土師器片 684 点 [坏 79 点 (1,340g)、高台付坏３点 (68g)、高坏８点 (279g)、坩 4 点 (142g)、甕 529 点 (9,255g)、甑 1 点 (1,320g)]、須恵器片 70 点［坏 25 点 (361g)、鬶 1 点 (36g)、蓋 1 点 (5 g)、甕 43 点 (1,106g)］、弥生土器片 12 点 (114g)、石製品 1 点 (790g)、礫 27 点 (4,505g)。２の土師器坏のは北東部の床面、３の土師器坏は南部の床面、4 の土師器坏は中央部の床面、６の土師器高坏はＰ３東側の覆土下層、９の土師器甕は南東部の覆土下層、11 の土師器甑・12 の砥石は北東部の覆土下層から出土している。1・５の土師器坏、７の須恵器鬶、8 の土師器甕、10 の土師器甑は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の 6 世紀後葉と考えられる。



第 149 図　第 144 号竪穴建物跡実測図 (1)



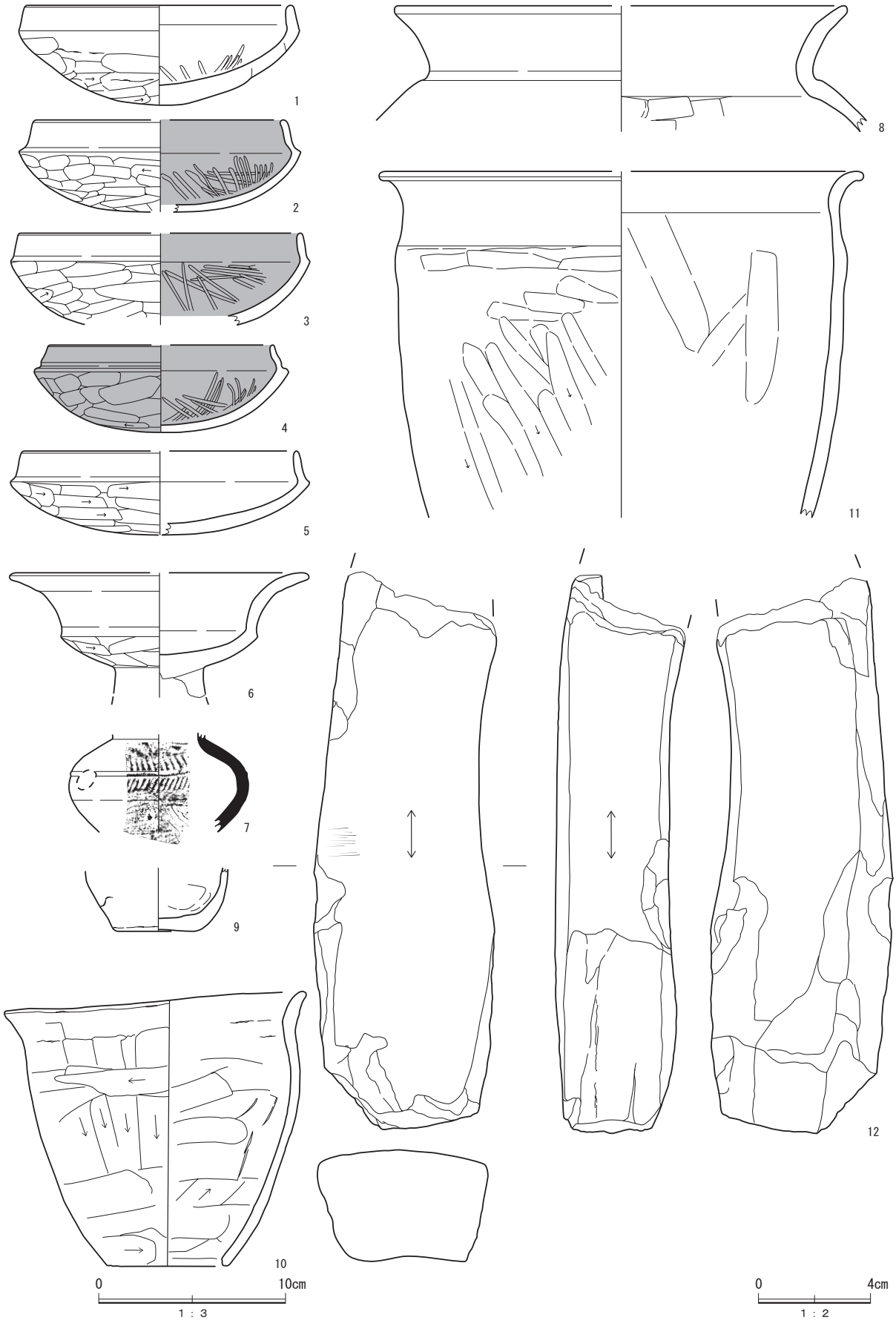
第 150 図　第 144 号竪穴建物跡実測図 (2)

土層解説
1　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性なし　締まりなし
5　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量／粘性あり 締まりあり

P1 ～ 3 ピット土層解説
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック多量・粒子少量　炭化粒子少量　粘土粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

P4・5 ピット土層解説
1　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ロームブロック・粒子微量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム部ロッシ少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし

竈土層解説
1　2.5YR　4/6　赤　褐　色　焼土粒子多量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子中量／粘性なし　しまりなし
2　2.5YR　3/4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰少量／粘性なし　締まりなし
3　2.5YR　2/2　極墳赤褐色　焼土粒子少量　炭化粒子多量　灰少量／粘性なし　締まりなし



第 151 図　第 144 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 65 表　第 144 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.1	5.4	—	長石･石英･チャート	明赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ	覆土中	55% 写真図版 54
2	土師器	坏	[13.1]	5.0	—	長石･石英･チャート	灰褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	北東部床面	45% 写真図版 54
3	土師器	坏	[15.0]	(4.9)	—	長石･石英･チャート	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内面黒色処理	南部床面	20%
4	土師器	坏	[11.8]	(4.7)	—	長石･石英･チャート	黒褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラミガキ　内外面黒色処理	中央部床面	25% 写真図版 54
5	土師器	坏	[14.6]	(4.5)	—	長石・石英・雲母・チャート	灰褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ	覆土中	25%
6	土師器	高坏	[15.4]	(6.7)	—	長石･石英･チャート	黒褐	普通	口縁部横ナデ　坏部下端斜位・横位のヘラ削り	P3 東側覆土下層	40% 写真図版 54
7	須恵器	甕	—	(5.3)	—	長石･石英･鉄分吹き出し	灰黄	良好	ロクロナデ　８本歯の櫛歯状工具による連続刺突文　下端回転ヘラ削り　外面灰オリーブ色の自然釉	覆土中	5%猿投窯跡
8	土師器	甕	[24.0]	(6.7)	—	長石･石英･チャート	橙	普通	口縁部横ナデ　内外面ナデ	覆土中	20%
9	土師器	甕	—	(3.4)	4.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内外面ナデ　底部ナデ	南東部覆土下層	15%
10	土師器	甑	[25.2]	(18.6)	—	長石･石英･チャート	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	覆土中	25%
11	土師器	甑	21.2	19.7	8.3	長石･石英･雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位・横位のヘラ削り　内面ナデ	北東部覆土下層	95% 写真図版 54

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	砥石	19.9	6.5	4.5	790	粘板岩	砥面 2 面	北東部覆土下層	

第 146 号竪穴建物跡 (SI-146)(第 152・153 図　写真図版 31・32)

位置　調査区中央部Ｄ 32 ～ 34、Ｅ 32 ～ 34 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 141 号竪穴建物跡を掘り込み、第 145・147 号竪穴建物に掘り込まれている。

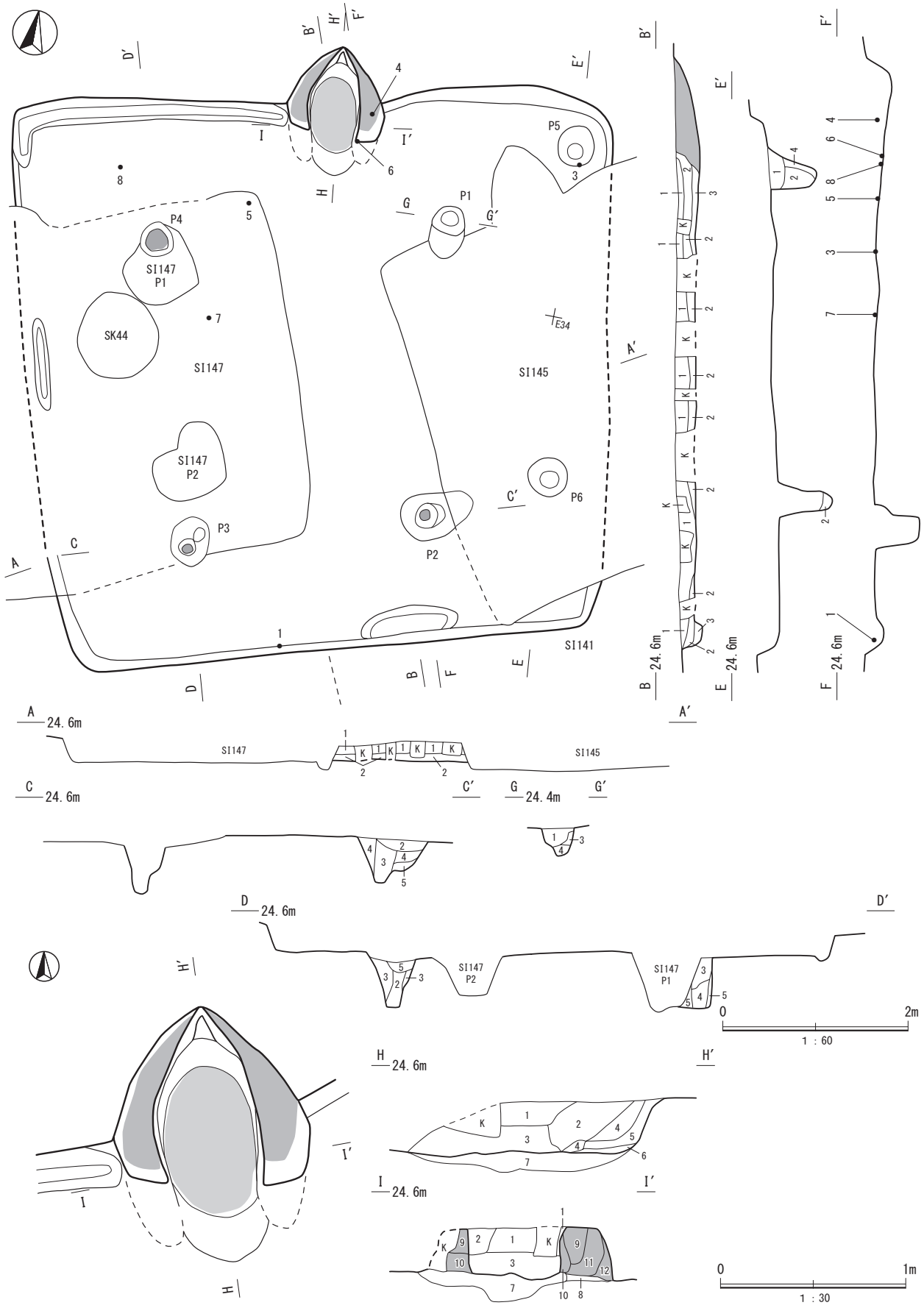
規模と形状　東部を第 145 号竪穴建物に、西部を第 147 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸は 6.34 ｍ、短軸は 5.96 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ － 10° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 20㎝で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、北壁と西壁の一部で、上幅 12 ～ 22㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。

床　竈前面が踏み固められている。

竈　北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部にかけて 135㎝。袖部の基部の最大幅は 105㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　３層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット６か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴と考えられる。Ｐ１：40 × 30㎝、深さ 30㎝、Ｐ２：80 × 50㎝、深さ 50㎝、Ｐ３：50 × 42㎝、深さ 56㎝、Ｐ４：60 × 50㎝、深さ 50㎝、Ｐ５：48 × 40㎝、深さ 42㎝、Ｐ６：40 × 40㎝、深さ 54㎝である。



第 152 図　第 146 号竪穴建物跡実測図

土層解説
1　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子多量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中少量／粘性なし　締まりあり
3　7.5YR　3/4　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化物微量・粒子多量　焼土粒子微量／粘性あり　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック微量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説
1　5YR　5/4　にぶい赤褐色　焼土粒子微量　炭化粒子微量　粘土粒子多量／粘性なし　締まりあり
2　5YR　5/4　にぶい赤褐色　粘土粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　粘土ブロック少量　炭化粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし　締まりあり
4　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　粘土ブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5　5YR　2/2　黒　　褐　　色　粘土粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
6　5YR　6/2　灰　　褐　　色　粘土ブロック多量・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
7　5YR　3/3　暗 赤 褐 色　粘土粒子微量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
8　5YR　3/2　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量　ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり (袖部)
9　5YR　6/2　灰　　褐　　色　粘土粒子中量　ローム粒子中量　砂少量／粘性なし　締まりなし (袖部)
10　5YR　6/2　灰　　褐　　色　粘土粒子中量　砂少量／粘性なし　締まりあり (袖部)
11　7.5YR　3/3　暗　　褐　　色　焼土粒子少量　粘土粒子少量　ローム粒子少量／粘性あり　締まりな (袖部)
12　5YR　6/2　灰　　褐　　色　粘土ブロック・粒子中量／粘性なし　締まりあり (袖部)

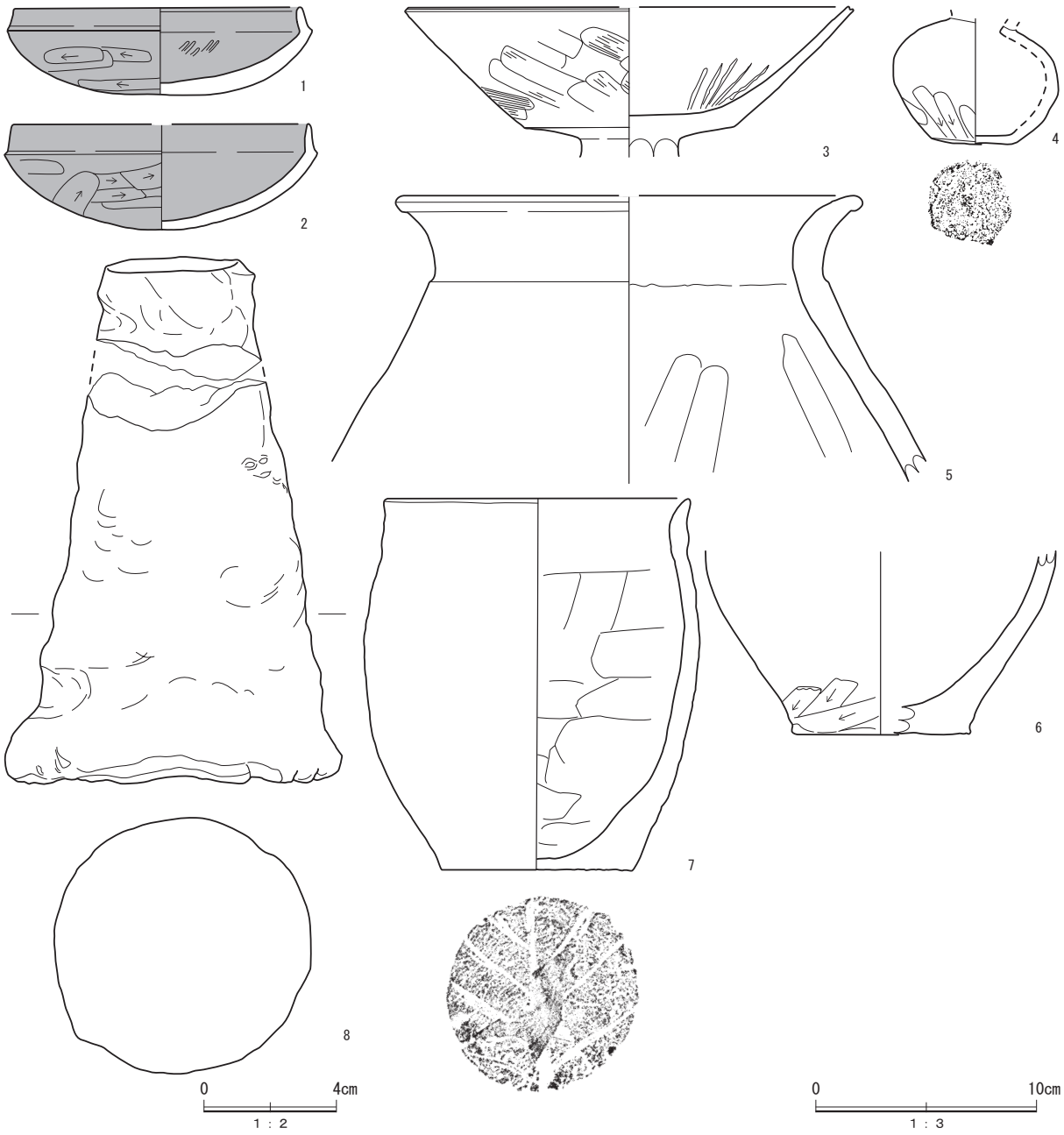
第 66 表　第 146 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.9	4.0	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面斜位のヘラミガキ　内外面黒色処理	南壁床面	90% 写真図版 54
2	土師器	坏	[13.2]	4.8	—	長石・石英	黒褐	良好	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　内外面黒色処理	覆土中	20%
3	土師器	高坏	[19.7]	(6.8)	—	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	良好	口縁部横ナデ　外面斜位のハケナデ　内面放射状のヘラミガキ	Ｐ５南側床面	20%
4	土師器	小形壺	—	(5.7)	3.3 ～ 3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端斜位のヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	竈右袖	90% 写真図版 54
5	土師器	甕	[20.2]	(13.0)	—	長石･石英･細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面剥離により成形不明　内面縦位のヘラナデ	竈前床面	10%
6	土師器	甕	—	(8.3)	[7.8]	長石･石英･黒色粒子	にぶい橙	普通	体部下端斜位のヘラ削り　内面横ナデ　底部多方向のヘラ削り	竈前床面	10%
7	土師器	小形甕	[14.0]	16.8	8.6	長石･石英･細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明　内面横ナデ	北西部床面	60% 写真図版 54

番号	種別	長さ	上径	下径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	支脚	[15.8]	4.5	10.1	(777.0)	長石･石英･細礫	橙	指頭ナデ	北西部床面	写真図版 54

遺物出土状況　土師器片 306 点 [坏 4 点 (292g)、高坏 11 点 (411g)、短頸壺 1 点 (123g)、甕 290 点 (6,117g)]、須恵器片 10 点 [坏 7 点 (135g) 甕 3 点 28g)]、弥生土器片 20 点 (180g)、陶器片 2 点 (18g)、土製品 11 点 (1,203g)、礫 14 点 (8,300g)。１の土師器坏は南壁の床面、３の土師器高坏はＰ５南側の床面、４の土師器短頸壺は竈右袖、５・６の土師器甕は竈前の床面、７の土師器小形甕・８の土製支脚は北西部の床面から出土している。２の土師器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。



第 153 図　第 146 号竪穴建物跡出土遺物実測図

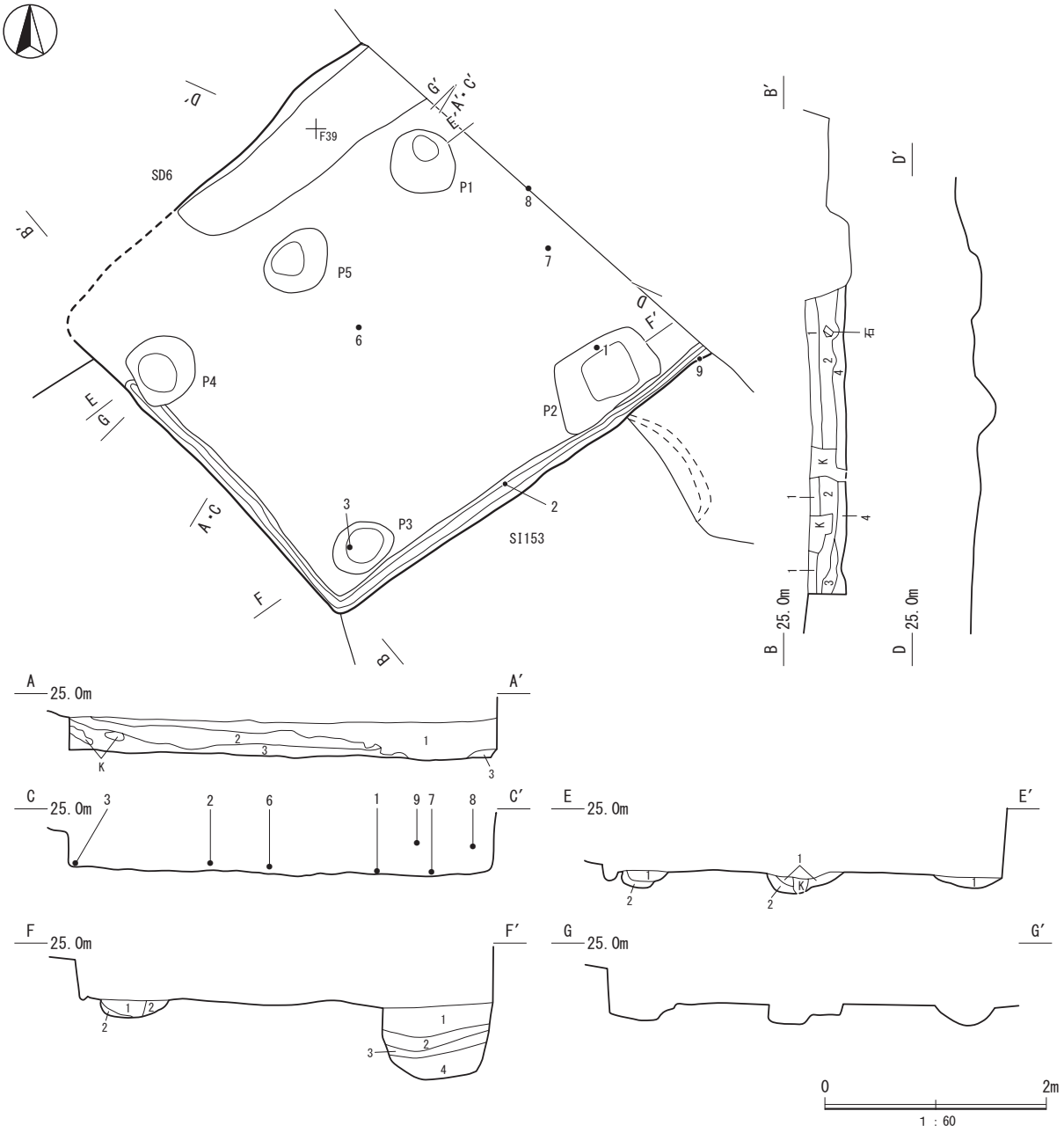
第 148 号竪穴建物跡 (SI-148)(第 154・155 図　写真図版 32)

位置　調査区中央部Ｅ 38･39、Ｆ 38･39 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 153 号竪穴建物・第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　北側が調査区外に延びており、西側を第６号溝に、東側を第 153 号竪穴建物に掘り込まれ、北西・南東軸は 4.00 ｍ、北東・南西軸は 3.80 ｍしか確認できなかった。平面形は方形と推定され､主軸方位はＮ－ 40° －Ｅと推測できる。壁は確認面から最大高 30㎝で､外傾して立ち上がっている。壁溝は、南東・南西壁の一部で、上幅 12 ～ 20㎝、下幅６～ 12㎝、深さ 6㎝で、断面形はＵ字形を呈している。



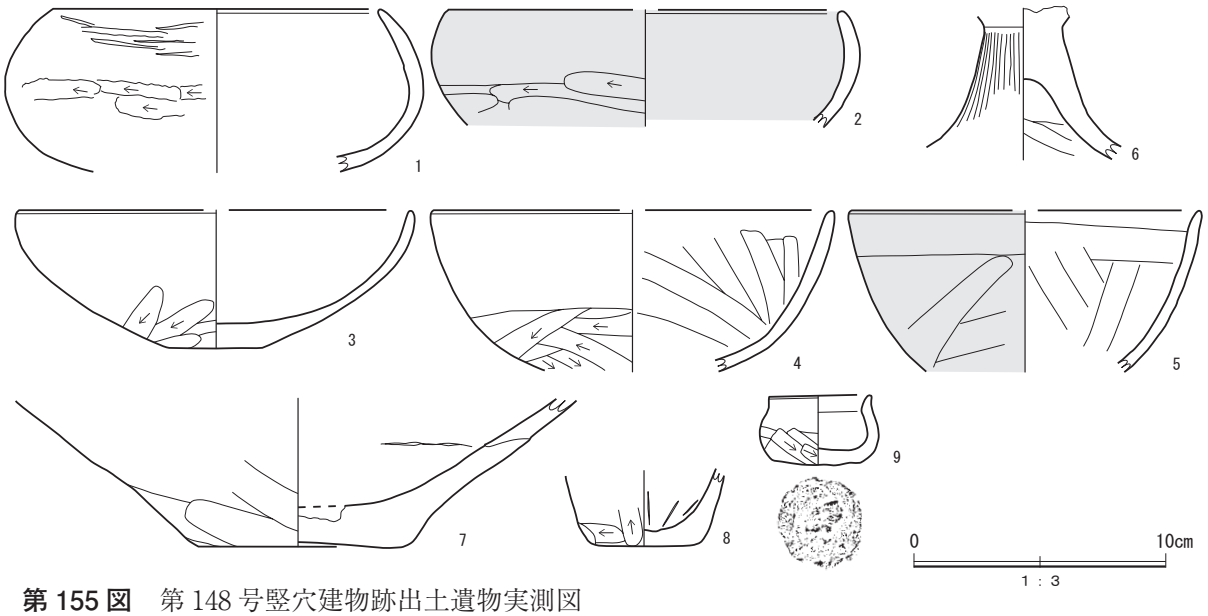
第 154 図　第 148 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

ピット土層解説

1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック少量・粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ロームブロック微・粒子小量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3　5YR　3/3　暗赤褐色　ロームブロック少量・粒子微　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
4　5YR　3/3　暗赤褐色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性なし　締まりあり



第 155 図　第 148 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 67 表　第 148 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.0	(6.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　外面上位横位のヘラミガキ　下位横位のヘラ削り	Ｐ２内	50％　写真図版 54
2	土師器	坏	[15.6]	(4.6)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面ナデ　内外面赤彩	南壁壁溝内	20％
3	土師器	椀	[15.5]	5.5	3.8	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部下端斜位のヘラ削り　内面ナデ　底部２方向のヘラ削り	Ｐ３内	50％　写真図版 54
4	土師器	椀	[15.8]	(6.4)	—	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　縦位のヘラナデ	覆土中	30％
5	土師器	椀	[13.8]	(6.4)	—	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面ナデ　外面赤彩	覆土中	20％
6	土師器	高坏	—	(5.7)	—	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラミガキ　内面横位のナデ	中央部床面	30％　写真図版 54
7	土師器	甕	—	(5.9)	8.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	北東部覆土下層	10％
8	土師器	小形甕	—	(3.1)	4.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面縦位・横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ　底部一方向のヘラ削り	北東部覆土中層	20％
9	土師器	ミニチュア	4.0	2.8	3.5	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　底部ヘラ削り	南東部覆土中層	100％　写真図版 54

床　中央部が踏み固められている。

竈　確認できなかった。

土層　４層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット５か所が検出された。Ｐ１：50 × 20cm、深さ 30cm、Ｐ２：100 × 80cm、深さ 68cm、Ｐ３：60 × 40cm、深さ 18cm、Ｐ４：52 × 50cm、深さ 10cm、Ｐ５：60 × 48cm、深さ 18cmである。

遺物出土状況　土師器片 225 点 [坏 31 点 (172g)、椀 16 点 (486g)、高台付坏１点 (9g)、高坏 10 点 (142g) 甕 167 点 (2,300g)]、須恵器片 12 点 [坏１点 (8g)、高台付坏１点 (16g)、小形壺１点 (9g)、長頸瓶１点 (12g)、甕 8 点 (528g)] 縄文土器片２点 (21g)、弥生土器片７点 (98g)、磁器１点 (10g)、礫 14 点 (5,600g)。１の土師器坏はＰ２内、２の土師器坏は南壁壁溝内、３の土師器椀はＰ３内、６の土師器高坏は中

央部の床面、７の土師器甕は北東部の覆土下層、８の土師器小型甕は北東部の覆土中層、９の土師器ミニチュア土器は南東部の覆土中層から出土している。4・5の土師器椀は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期と考えられる。

第 149 号竪穴建物跡 (SI-149)(第 156・157 図　写真図版 32・33)

位置　調査区中央部Ｈ 41･42、Ｉ 41･42 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 116 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区外に延びており、南部を第 116 号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸は 4.62 ｍ、短軸は 4.20 ｍである。平面形は方形で、主軸方位はＮ － 20° － Ｗ である。壁は確認面から最大高 32㎝で、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央が踏み固められている。

竈　北西壁にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部にかけて 108㎝。袖部の基部の最大幅は 99㎝で、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10㎝ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　６層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれており、人為堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：52 × 24㎝、深さ 32㎝である。貯蔵穴とみられる。

遺物出土状況　土師器片 199 点 [坏 48 点 (684g)、小形壺１点 (123g)、高坏２点 (846g)、器台１点 (163g)、壺１点 (68g)、甕 146 点 (4,700g)]、須恵器坏１点 (7 g)、弥生土器片 10 点 (102g)、礫９点 (3,700g)。１の土師器坩・２の土師器高坏・４の土師器鉢・５の土師器小形甕・６の鉄鏃は中央部の床面から出土している。３の土師器高坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代中期の５世紀後葉と考えられる。

土層解説

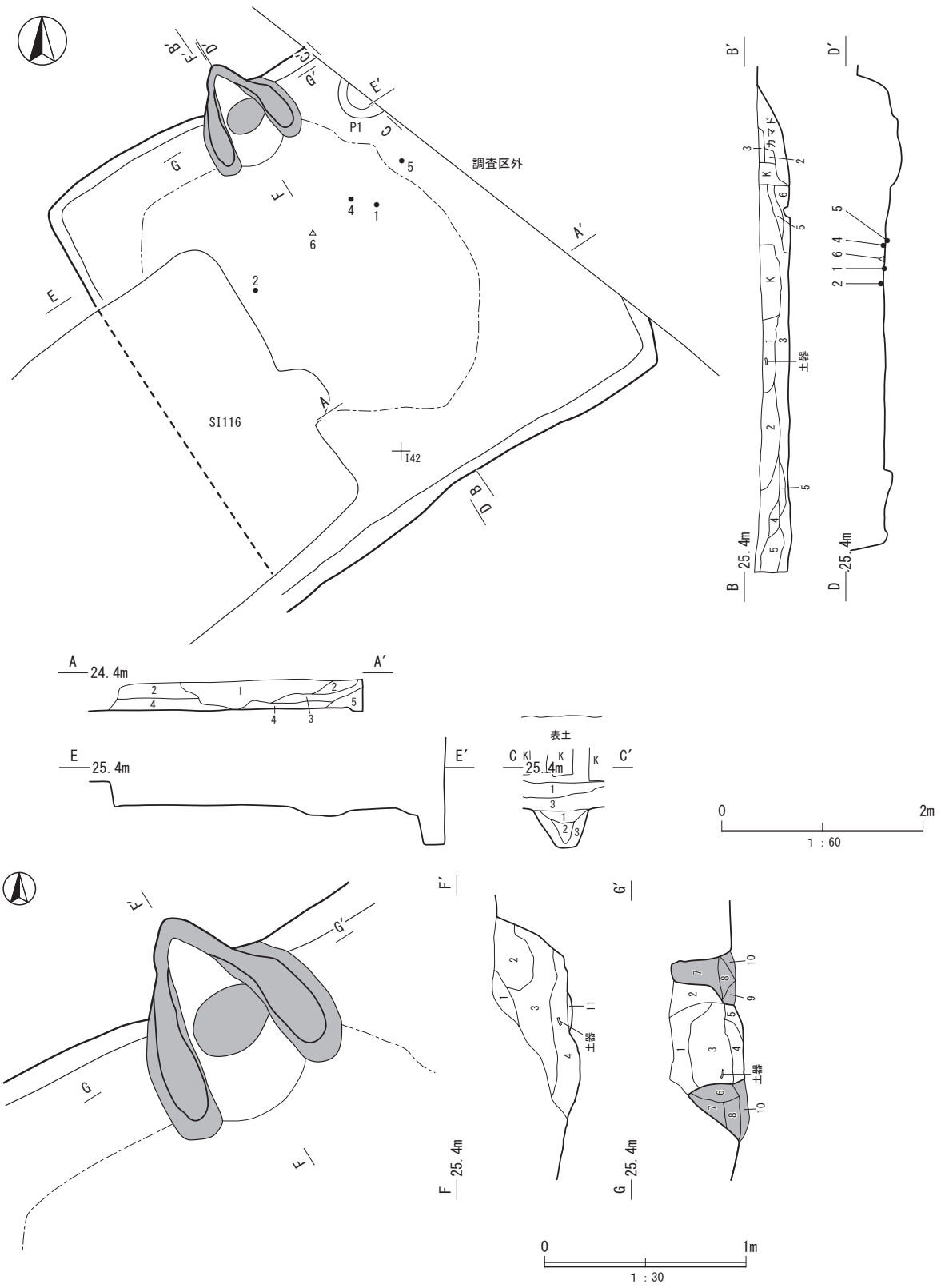
1	7.5YR	3/2	黒　褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	4/3	褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/1	黒　褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	3/1	黒　褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
5	7.5YR	3/1	黒　褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性なし　締まりなし
6	7.5YR	3/2	黒　褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり

竈土層解説

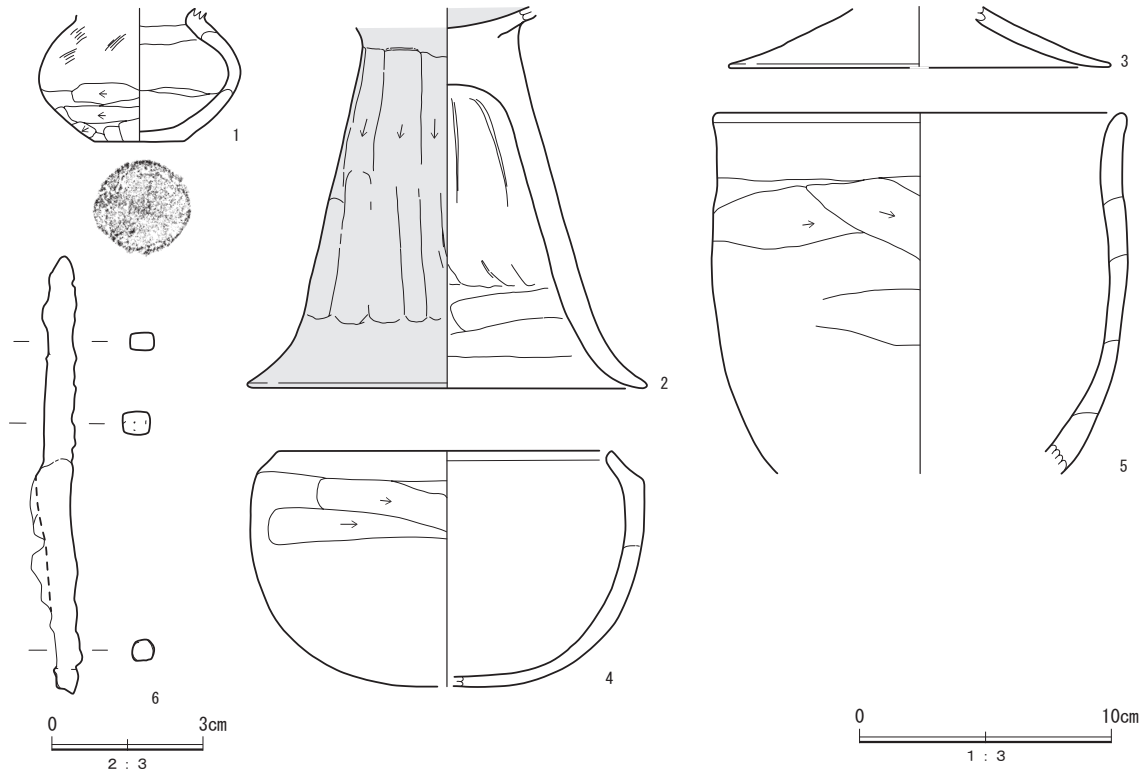
1	5YR	3/3	暗赤褐	色	粘土粒子少量　炭化粒子微／粘性なし　締まりあり
2	5YR	4/2	灰　褐	色	粘土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	5YR	4/4	にぶい赤褐	色	粘土粒子微量　炭化粒子微量　ローム粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	5YR	3/6	暗赤褐	色	ロームブロック微量・粒子少量　粘土粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5	2.5YR	2/1	暗赤褐	色	焼土粒子中量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし
6	7.5YR	3/2	黒　褐	色	焼土粒子少量　炭化粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりなし
7	2.5YR	4/3	オリーブ褐色		ローム粒子少量　黄白色粘土粒子中量／粘性あり　締まりあり (袖部)
8	2.5YR	4/3	オリーブ褐色		黄白色粘土ブロック・粒子中量　ローム粒子少量／粘性あり　締まりなし (袖部)
9	7.5YR	4/2	灰　褐	色	黄白色粘土ブロック・粒子少量　ローム粒子少量／粘性なし　締まりあり
10	7.5YR	3/3	暗　褐	色	ローム粒子少量　焼土粒子少量　黄白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
11	2.5YR	4/6	赤　褐	色	焼土粒子多量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし (火床部)

P1 土層解説

1	7.5YR	3/3	暗　褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし
2	7.5YR	3/2	黒　褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりなし
3	7.5YR	3/4	暗　褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり　締まりあり



第 156 図　第 149 号竪穴建物跡実測図



第 157 図　第 149 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 68 表　第 149 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	(5.3)	3.6	長石･石英･角閃石	橙	良好	体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ　底部一方向のナデ	中央部床面	50%　写真図版 54
2	須恵器	高坏	—	(15.1)	15.8	長石・石英	褐	良好	脚部外面上位縦位のヘラ削り　下位縦位のヘラミガキ　内面横ナデ　裾部横ナデ　赤彩	中央部床面	60%　写真図版 54
3	土師器	高坏	—	(2.5)	[15.2]	長石・石英	にぶい黄褐	良好	脚部外面斜位のヘラナデ　裾部横ナデ	覆土中	5%
4	土師器	鉢	13.2	9.3	—	長石･石英･雲母	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面摩滅により調整痕不明	中央部床面	90%　写真図版 54
5	土師器	小形甕	16.0	(14.3)	—	長石・石英	褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面摩滅により調整痕不明	中央部床面	40%　写真図版 54

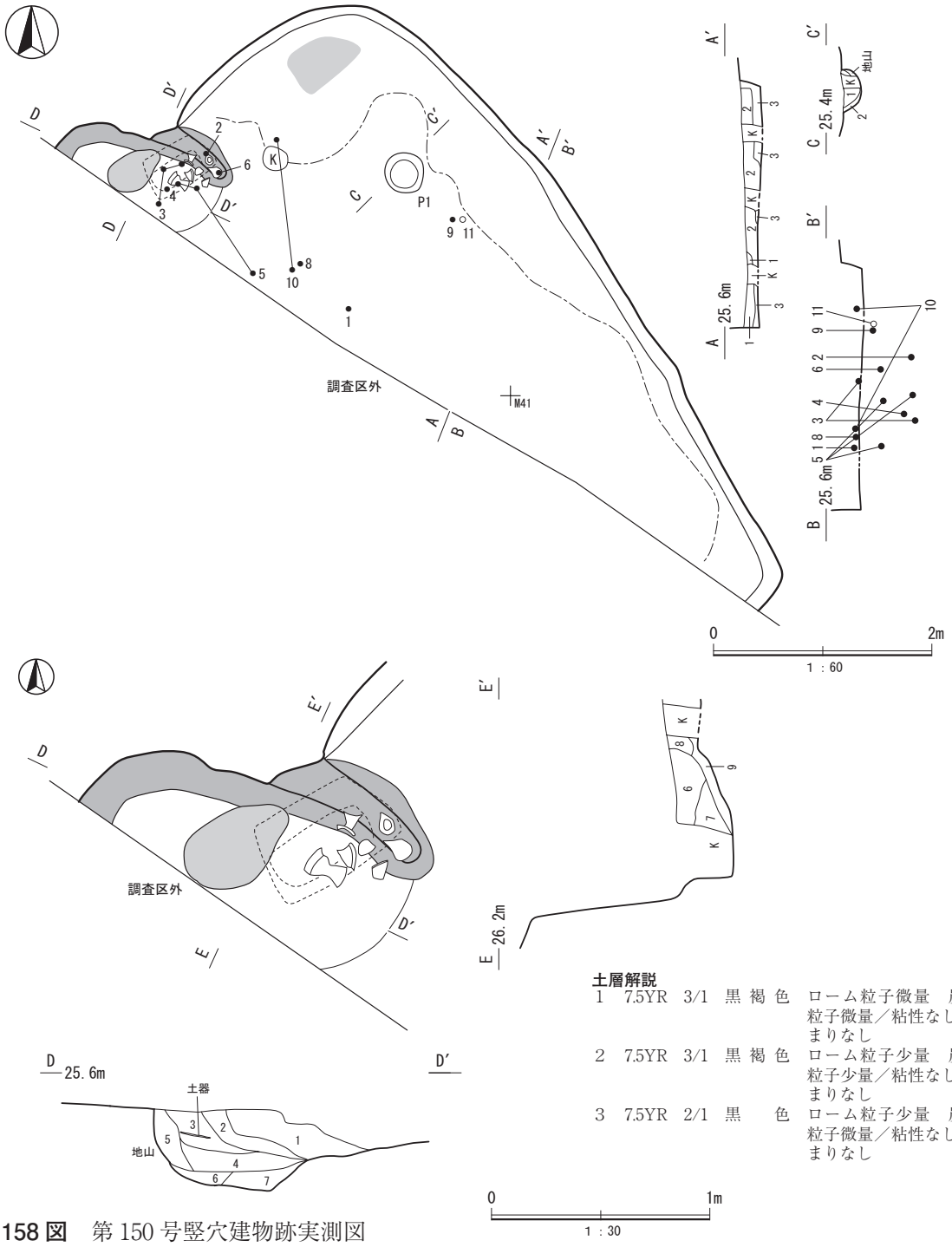
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	鏃	(8.2)	0.55	0.5	(6.3)	鉄		中央部床面	写真図版 54

第 150 号竪穴建物跡 (SI-150)(第 158・159・160 図　写真図版 33)

位置　調査区中央部Ｌ 40･41、Ｍ 40･41 グリットに位置し、標高 25 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム　層上面で確認する。

規模と形状　南側が調査区外に延びており、北西・南東軸は 6.95 ｍで、北東・南西軸は 2.80 ｍしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方位はＮ － 30° － Ｗである。壁は確認面から最大高 20㎝で、外傾して立ち上がっている。



第 158 図　第 150 号竪穴建物跡実測図

土層解説

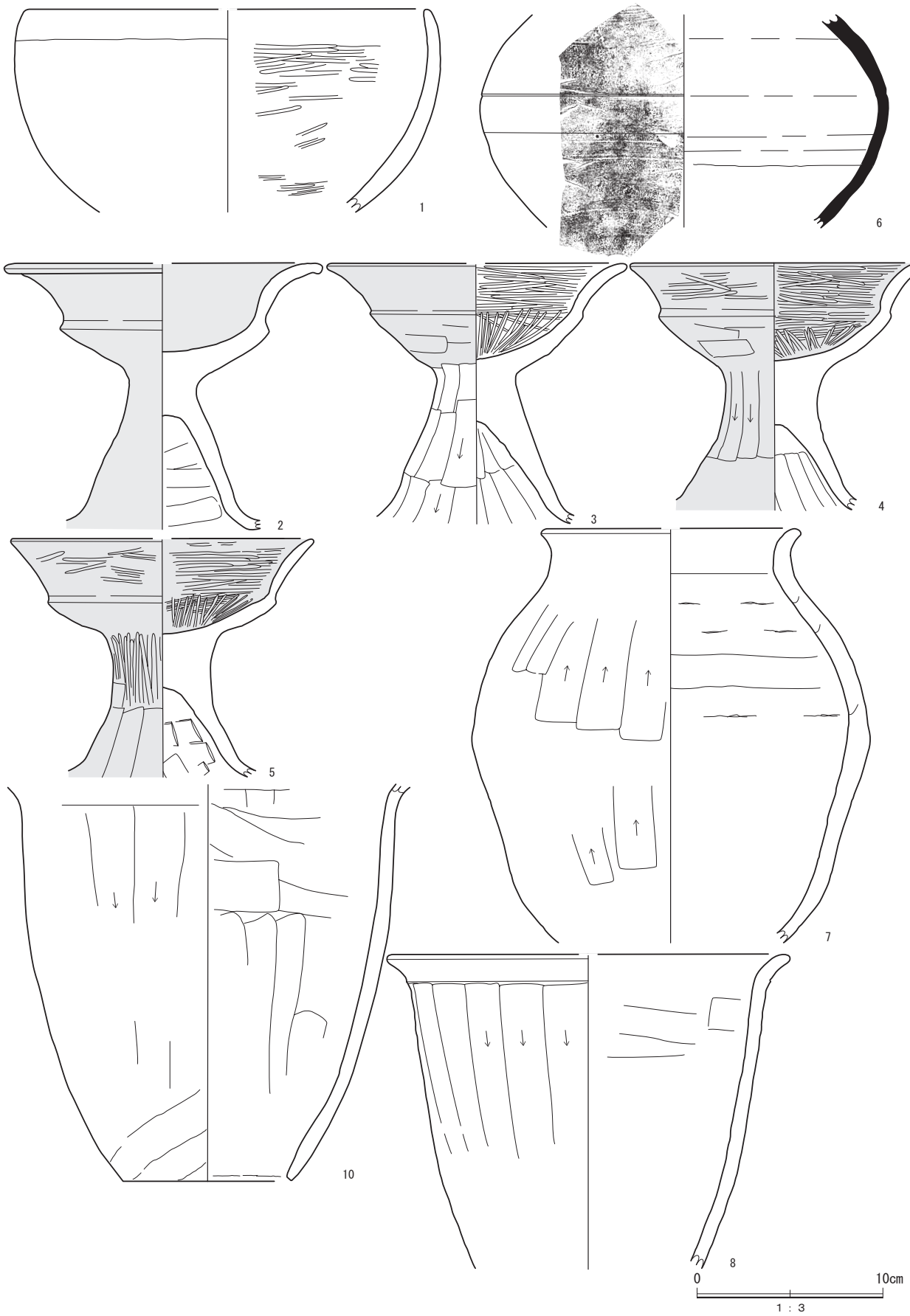
1　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし 締まりなし
3　7.5YR　2/1　黒　　色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし 締まりなし

ピット土層解説

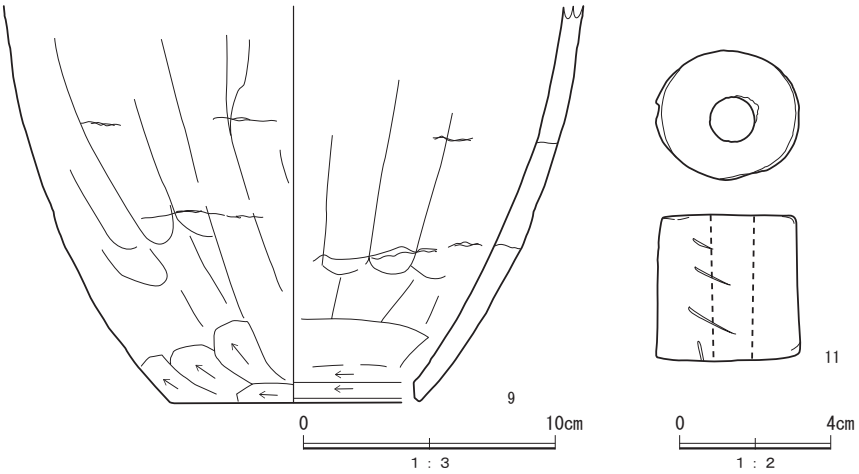
1　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　焼土粒子微量／粘性なし 締まりなし
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

1　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック微量・粒子少量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/2　灰 褐 色　ロームブロック・粒子少量　焼土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　4/4　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりなし
4　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子中量　砂粒少量／粘性あり　締まりあり
5　7.5Y　7/1　灰 白 色　ローム粒子少量　焼土粒子少量　灰白色粘土ブロック・粒子多量／粘性なし　締まり強い
6　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　砂粒少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり (袖部)
7　7.5Y　7/1　灰 白 色　ローム粒子少量　砂粒少量　灰白色粘土粒子多量／粘性なし　締まり強い (袖部)
8　7.5Y　6/1　灰　　色　ロームブロック・粒子少量　灰白色粘土ブロック・粒子中量／粘性なし　締まり強い
9　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック少量・粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まり強い



第 159 図　第 150 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 160 図　第 150 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 69 表　第 150 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	[21.3]	(10.6)	—	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口縁部横ナデ　体部外面摩滅により調整痕不明 内面横位のヘラミガキ	中央部覆土下層	10%
2	土師器	高坏	16.5	(14.3)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	坏部内外面横ナデ　坏部下端横位のヘラ削り 脚部縦位のヘラ削り　内面横ナデ　裾部ナデ 全面赤彩	貯蔵穴内	90% 写真図版 55
3	土師器	高坏	15.5	(14.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	坏部外面ナデ　下端横位のヘラ削り　内燃横位と放射状のヘラミガキ　脚部縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　坏部赤彩	貯蔵穴内	80% 写真図版 55
4	土師器	高坏	15.3	(13.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	坏部内外面横位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り　脚部縦位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ　内外面赤彩	貯蔵穴内	80% 写真図版 55
5	土師器	高坏	16	(12.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内外面横ナテ　下端横位のヘラ削り　坏部内面横位・放射状のヘラミガキ　脚部上位縦位のヘラミガキ　下位縦位のヘラ削り　内面ヘラナデ　内外面赤彩	貯蔵穴内	50% 写真図版 55
6	須恵器	長頸瓶	—	(11.5)	—	長石・石英・針状鉱物・鉄分吹き出し	灰	普通	ロクロナデ　体部外面上位横位のカキ目	貯蔵穴内	10% 木葉下窯 写真図版 55
7	土師器	甕	[13.4]	(22.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横位のナデ	竈内	30% 写真図版 55
8	土師器	甑	[21.3]	(16.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　内面横ナデ	中央部床面	20%
9	土師器	甑	—	(15.7)	9.8	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り　下端横位のヘラ削り　内面上位縦位のヘラナデ　下端横位のヘラ削り	北東部覆土下層	30% 写真図版 55
10	土師器	甑	—	(21.3)	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下位斜位のヘラナデ　内面上位横ナデ　下位縦ナデ	中央部床面	20%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	管状土錘	3.8	3.4 ～ 3.8	1.1	62.0	長石・石英・雲母	赤褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	北東部床面	写真図版 55

床　竈前面から中央部が踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、灰白色粘土で構築されている。焚口部から煙道部までは 140cmである。袖部の基部は約 70cmのみ確認でき、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。

土層　３層に分層できる。堆積状況から、自然堆積が見られる。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：40 × 38cm、深さ 25cmである。

貯蔵穴　竈下から長軸 70cm、短軸 50cmの長方形で、深さ 60cmのピットを確認した。竈構築前に掘り込まれたもので、遺物が多数出土していることから、貯蔵穴の可能性が高いが、本跡に関わるものかどうか不明である。

遺物出土状況　土師器片 99 点 [坏 1 点 (10g)、碗 1 点 (106g)、高坏 10 点 (2,462g)、甕 81 点 (1,968g)、甑６点 (1,493g)]、須恵器片４点［高台付坏１点 (13g)、長頸瓶１点 (133g)、甕２点 (14g)］、土製品１点 (62g)、礫７点 (4,100g)。１の土師器椀は中央部の覆土下層、２～５の土師器高坏、６の須恵器長頸瓶は竈右袖下の貯蔵穴内、８の土師器甕・10 の土師器甑は中央部の床面、９の土師器甑は北東部の覆土下層、11 の管状土錘は北東部の床面から出土している。７の土師器坏は竈覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

第 152 号竪穴建物跡 (SI-152)(第 161 図　写真図版 33・34)

位置　調査区中央部Ｇ 40・41、Ｈ 40 グリットに位置し、標高 24 ｍの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

規模と形状　北東部の大半が調査区外に延びており、北西･南東軸は 6.00 ｍ、北東･南西短軸は 3.60 ｍしか確認できなかった。平面形は方形か長方形と推測され、主軸方位は不明である。壁は確認面から最大高 20cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、確認された壁で上幅 10 ～ 20cm、下幅６～ 10cmで深さ６cmでＵ字形を呈している。

床　南西部が踏み固められている。

竈　調査区外にあると考える。

土層　５層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット１か所が検出された。Ｐ１：75 × 50cm、深さ 48cmである。

遺物出土状況　土師器片 25 点 [坏 1 点 (135g)、甕 24 点 (725g)]、須恵器甕片 1 点 (33g)。１の土師器坏は南部の覆土下層から出土している。

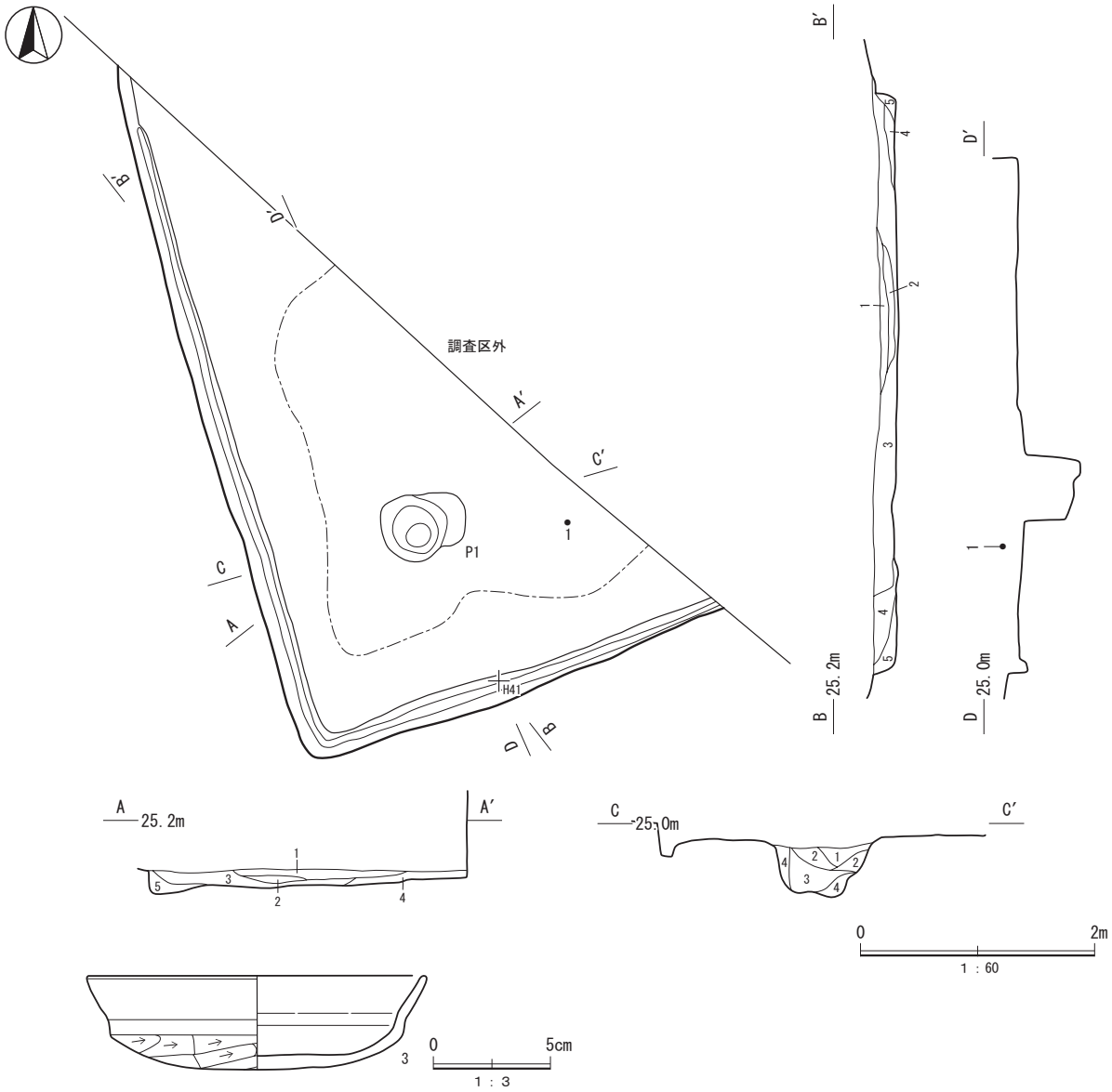
所見　時期は、出土土器が少ないが古墳時代後期と考えられる。

土層解説

1	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ローム粒子微量	炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	3/3	暗 褐 色	ロームブロック微量・粒子少量	／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/1	黒 褐 色	ロームブロック少量・粒子微量	／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック少量・粒子微量	炭化粒子多量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子多量	粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり

ピット土層解説

1	7.5YR	4/3	褐　色	ローム粒子多量	炭化粒子微量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	5/6	明 褐 色	ロームブロック微量・粒子多量	炭化粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	4/3	褐　色	ロームブロッシ少量・粒子微量	炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	4/4	褐　色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量／粘性あり　締まりなし



第 161 図　第 152 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

第 70 表　第 152 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.3]	4.0	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ	南西部覆土下層	60% 写真図版 55

第 200 号竪穴建物跡 (SI-200)(第 162・163・164 図　写真図版 34)

位置　調査区中央部M 46・47、N 46・47、O 46・47 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

重複関係　第 201 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸は7.24 m、短軸は7.06 mである。平面形は方形で、主軸方位はN − 35° − W である。

壁は確認面から最大高 54cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、全壁で、上幅 12 ～ 22cm、下幅６～ 12cm、深さ 12cmで、断面形はU字形を呈している。

床　竈前面から中央部で踏み固められている。

竈　北西壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで 128cmである。袖部の基部の最大幅は 110cmで、比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層　８層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。

ピット　ピット８か所が検出された。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴、Ｐ５･Ｐ６は出入口施設と考えられる。Ｐ１：70 × 60cm、深さ 80cm、Ｐ２：88 × 70cm、深さ 84cm、Ｐ３：72 × 64cm、深さ 80cm、Ｐ４：72 × 70cm、深さ 54cm、Ｐ５：36 × 30cm、深さ 30cm、Ｐ６：110 × 30cm、深さ 10cm、Ｐ７：40 × 40cm、深さ 18cm、Ｐ８：30 × 30cm、深さ 30cmである。

遺物出土状況　土師器片 1,079 点 [坏 53 点 (860g)、高坏 28 点 (546g)、坩２点 (46g)、甕 996 点 (17,540g)]、須恵器甕片６点 (59g)、縄文土器片３点 (52g)、弥生土器片 45 点 (656g)、鉄滓２点 (104g)、礫 22 点 (5,600g)。１の土師器坏は北西部の覆土中層、３の土師器坏は南東部の覆土中層、４の土師器鉢はＰ７内、５の土師器甕・10 の土製土玉・15 の土製支脚は中央部の床面、６の須恵器鏃は中央部の覆土中層、７の土師器甕は中央部の覆土中層から床面にかけて、８の土師器甕は中央部の覆土中層、９の土師器甕はＰ４内と中央部の覆土中層、11 の土玉は北西部の床面、12 の土製土玉はＰ４内、13 の土製土玉はＰ５内、14 の土製土玉は竈前の覆土中層から出土している。２土師器坏は覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から古墳時代後期の６世紀後葉と考えられる。

土層解説

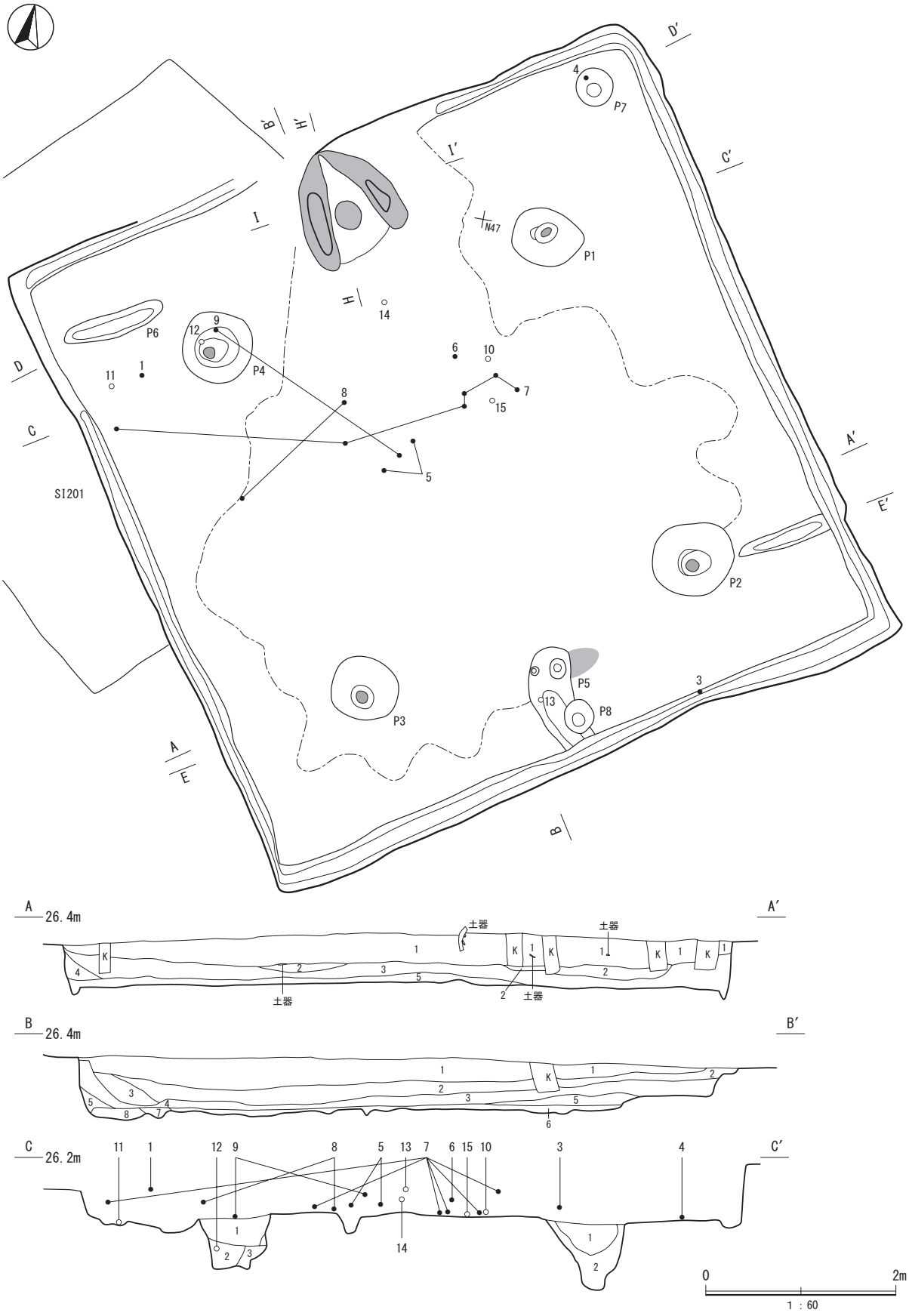
1	7.5YR	4/6	褐	色	ローム粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	4/6	褐	色	ローム粒子少量　粘土粒子少量／粘性なし　締まりあり
3	7.5YR	3/3	暗褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子微量　粘土粒子微量／粘性なし　締まりあり
4	7.5YR	3/3	暗褐	色	ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
5	7.5YR	3/2	黒褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子中量／粘性なし　締まりなし (壁溝)
6	7.5YR	3/2	黒褐	色	ロームブロック少量・粒子中量　炭化粒子中量／粘性あり 締まりあり (掘方)
7	7.5YR	3/1	黒褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり　締まりあり (掘方)
8	7.5YR	3/2	黒褐	色	ロームブロック微量・粒子少量　炭化粒子多量／粘性あり 締まりあり (掘方)

ピット土層解説

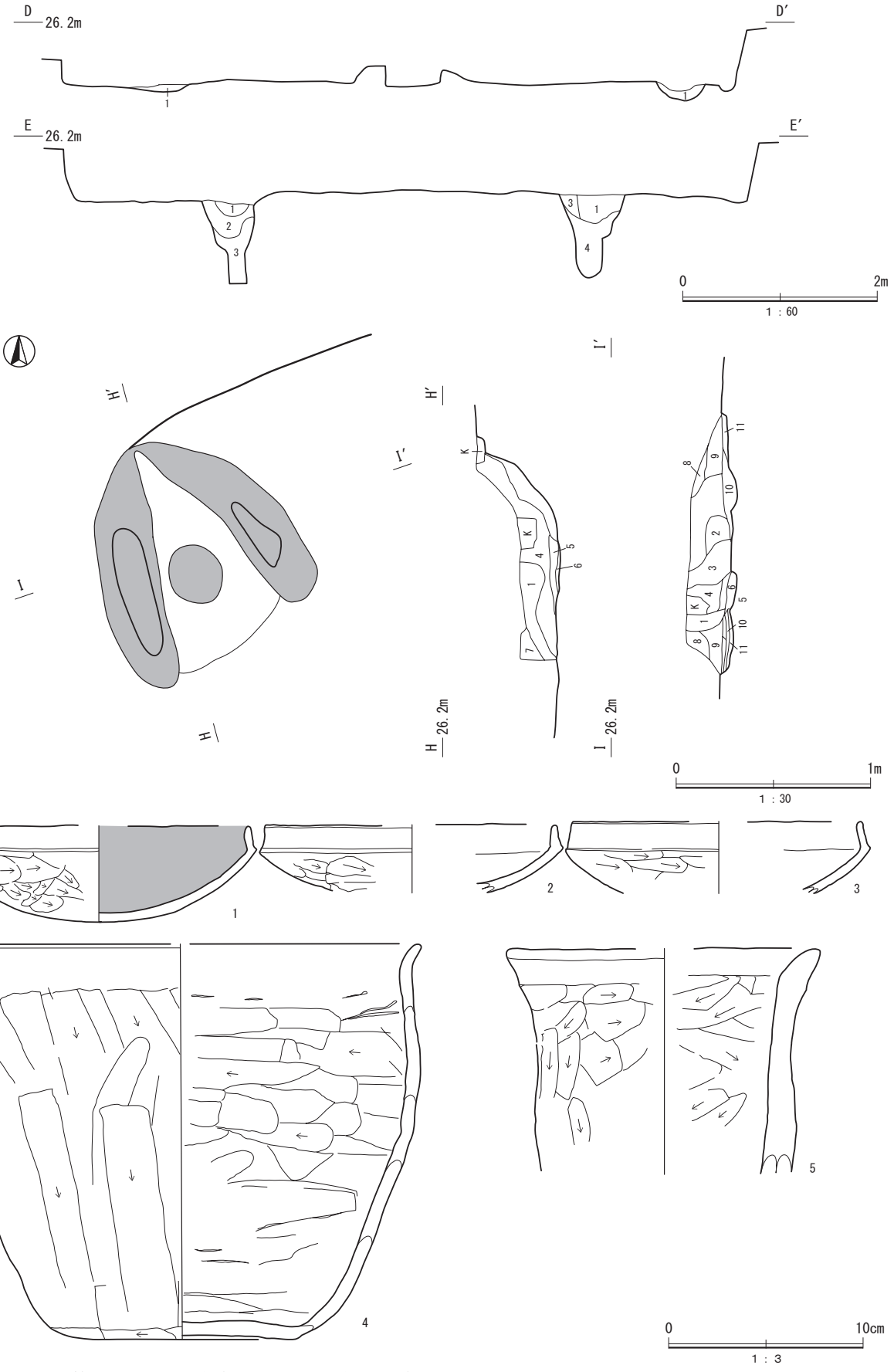
1	7.5YR	3/2	黒　褐	色	ロームブロック・粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりあり
2	7.5YR	4/6	褐	色	ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	7.5YR	4/4	褐	色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4	7.5YR	3/3	暗　褐	色	ローム粒子多量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり

竈土層解説

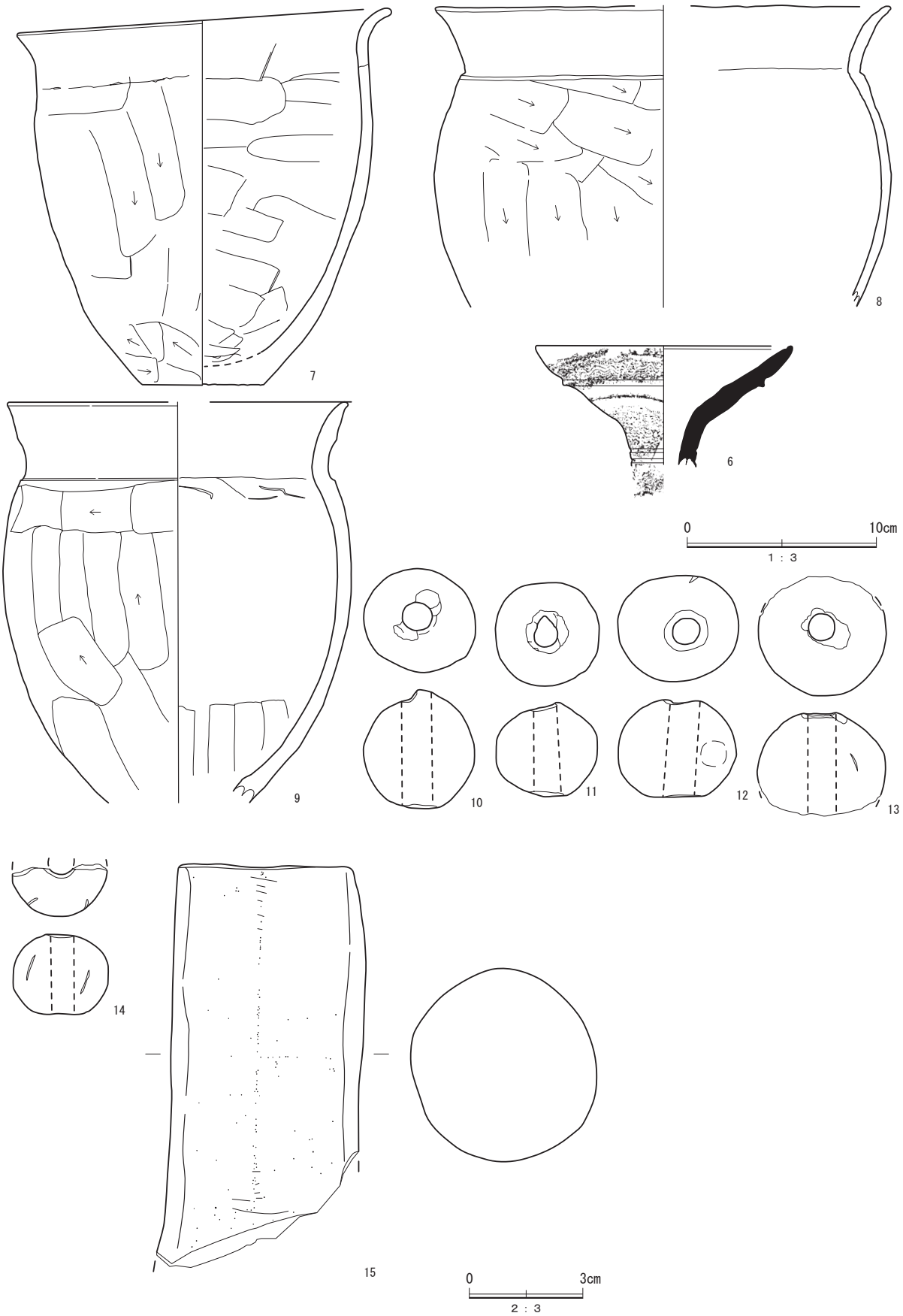
1	5YR	7/1	明褐灰	色	焼土粒子微量　炭化粒子微量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり (袖部)
2	2.5YR	3/3	暗赤褐	色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
3	2.5YR	3/4	暗赤褐	色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量　灰少量／粘性あり　締まりなし
4	2.5YR	3/6	暗赤褐	色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
5	2.5YR	4/3	にぶい赤褐	色	焼土粒子中量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性なし　締まりなし
6	2.5YR	3/2	暗赤褐	色	粘土粒子中量　炭化粒子多量　灰白色粘土粒子微量／粘性なし　締まりなし
7	5YR	6/1	褐　灰	色	焼土粒子微量　炭化粒子少量　灰白色粘土粒子多量／粘性あり　締まりあり
8	5YR	5/3	にぶい赤褐	色	焼土粒子微量　炭化粒子中量　灰白色粘土粒子少量　ローム粒子中量／粘性あり　締まりあり
9	5YR	3/2	暗赤褐	色	焼土粒子少量　炭化物微量・粒子中量　灰白色粘土粒子少量／粘性あり　締まりあり
10	5YR	2/1	黒　褐	色	炭化粒子多量／粘性強い　締まり強い (袖部の基礎部)
11	7.5YR	4/3	褐	色	ロームブロック・粒子中量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 162 図　第 200 号竪穴建物跡実測図 (1)



第 163 図　第 200 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図



第 164 図　第 200 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 71 表　第 200 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.4]	5.0	—	長石･石英･黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ　外面不定方向のヘラ削り　内面ヘラナデ　内面黒色処理	北西部覆土中層	30% 写真図版 55
2	土師器	坏	[15.0]	(3.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位のヘラ削り	覆土中	20%
3	土師器	坏	15.0[]	(3.7)	—	長石･石英･雲母･スコリア	橙	普通	口縁部横ナデ　第外面横位のヘラ削り	南東部覆土中層	15%
4	土師器	鉢	19.4	19.3	6.5	長石･石英･細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　下位横位のヘラ削り　内面横ナデ　底部２方向へのヘラ削り	Ｐ７内	80% 写真図版 55
5	土師器	鉢	[24.0]	(16.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面斜位・横位のヘラ削り　内面ナデ	中央部床面	50%
6	須恵器	甕	[13.4]	(6.3)	—	長石･石英･鉄分吹き出し	灰	普通	口縁部外面５本歯の櫛歯条工具による波状文	中央部覆土中層	35%在地 写真図版 55
7	土師器	甕	[1.0]	(11.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部内外面多方向のヘラ削り	北西部・中央部覆土中層から床面	25% 写真図版 55
8	土師器	甕	[17.7]	(21.0)	—	長石・石英・雲母・チャート	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面縦位・横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ	中央部覆土中層	15%
9	土師器	鉢	「23.5」	20.3	12.0	長石･石英･スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ体部外面縦位のヘラ削り　内面のヘラ削り	Ｐ４内 中央部 覆土中層	45%

番号	種別	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	土玉	3.1	2.9	0.8	20.0	長石・赤色粒子	にぶい褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	中央部床面	写真図版 55
11	土玉	2.5	2.7	0.6	17.0	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ　上下面使用痕あり	北西部床面	写真図版 55
12	土玉	2.6	2.8 ～ 3.1	0.7	22.0	長石	灰褐	外面ナデ	Ｐ４内	写真図版 55
13	土玉	(2.7)	3.4	0.7	(19.0)	長石･石英･赤色粒子	灰褐	外面ナデ　一方向からの穿孔	Ｐ５内	60% 写真図版 55
14	土玉	2.1	2.5	0.7	(6.0)	長石・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ	竈前覆土中層	50% 写真図版 55

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	特徴	出土位置	備考
15	支脚	(10.5)	4.7	4.7	(318.0)	土製	にぶい橙	縦方向へのヘラ削り	中央部床面	50% 写真図版 55

第 201 号竪穴建物跡 (SI-201)(第 165・166 図　写真図版 34)

位置　調査区中央部M 46、N 45･46、O 46 グリットに位置し、標高 24 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況　ローム層上面で確認する。

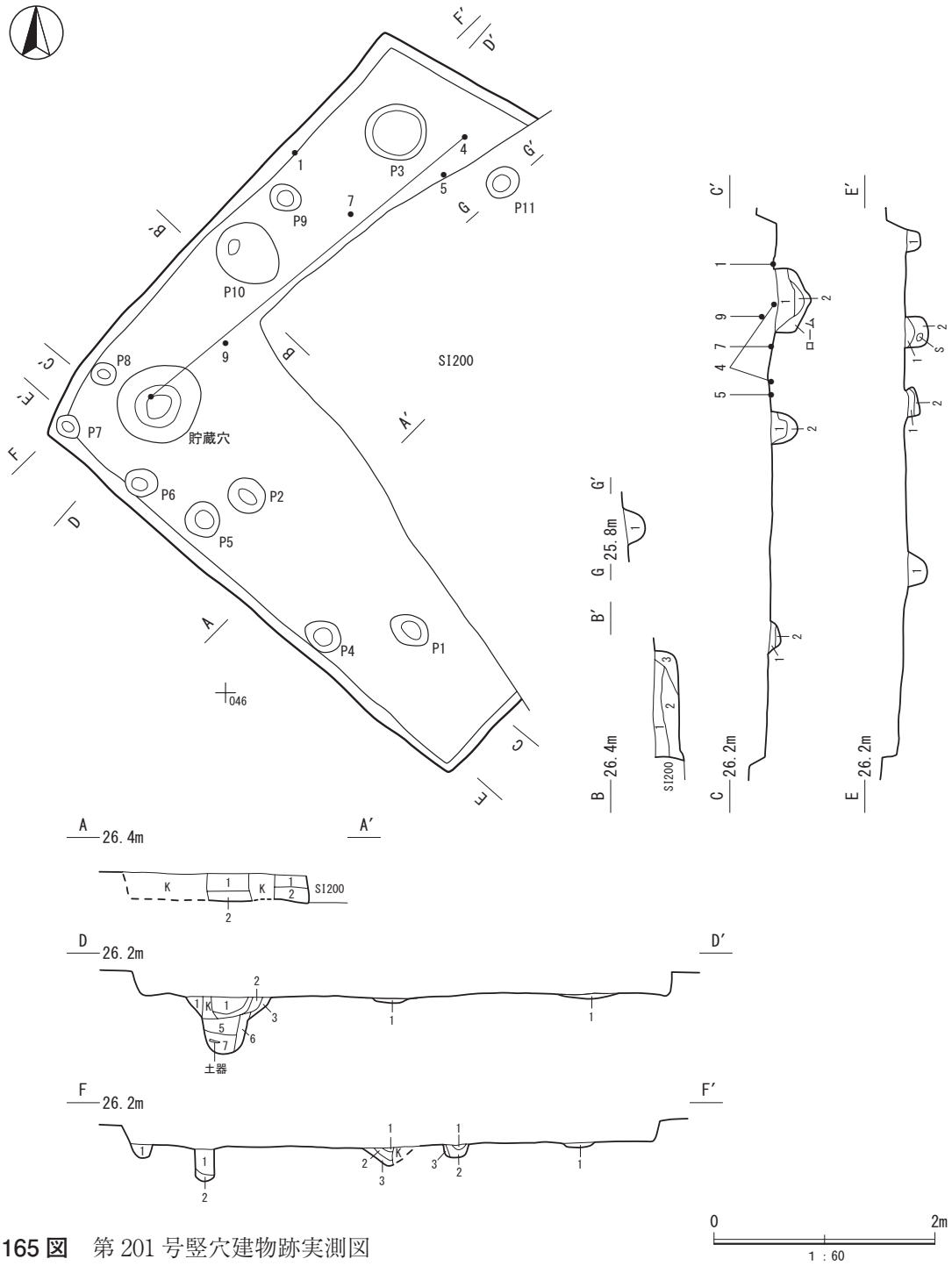
重複関係　第 200 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸は4.88 m、短軸は4.80 mである。平面形は方形で、主軸方位はN － 45° － W である。壁は確認面から最大高 24cmで、外傾して立ち上がっている。

床　竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

炉　炉は、存在していたと考えられるが、第 200 号竪穴建物に掘り込まれて確認できなかった。

土層　３層に分層できる。ローム粒子や炭化粒子が含まれているが、自然堆積である。



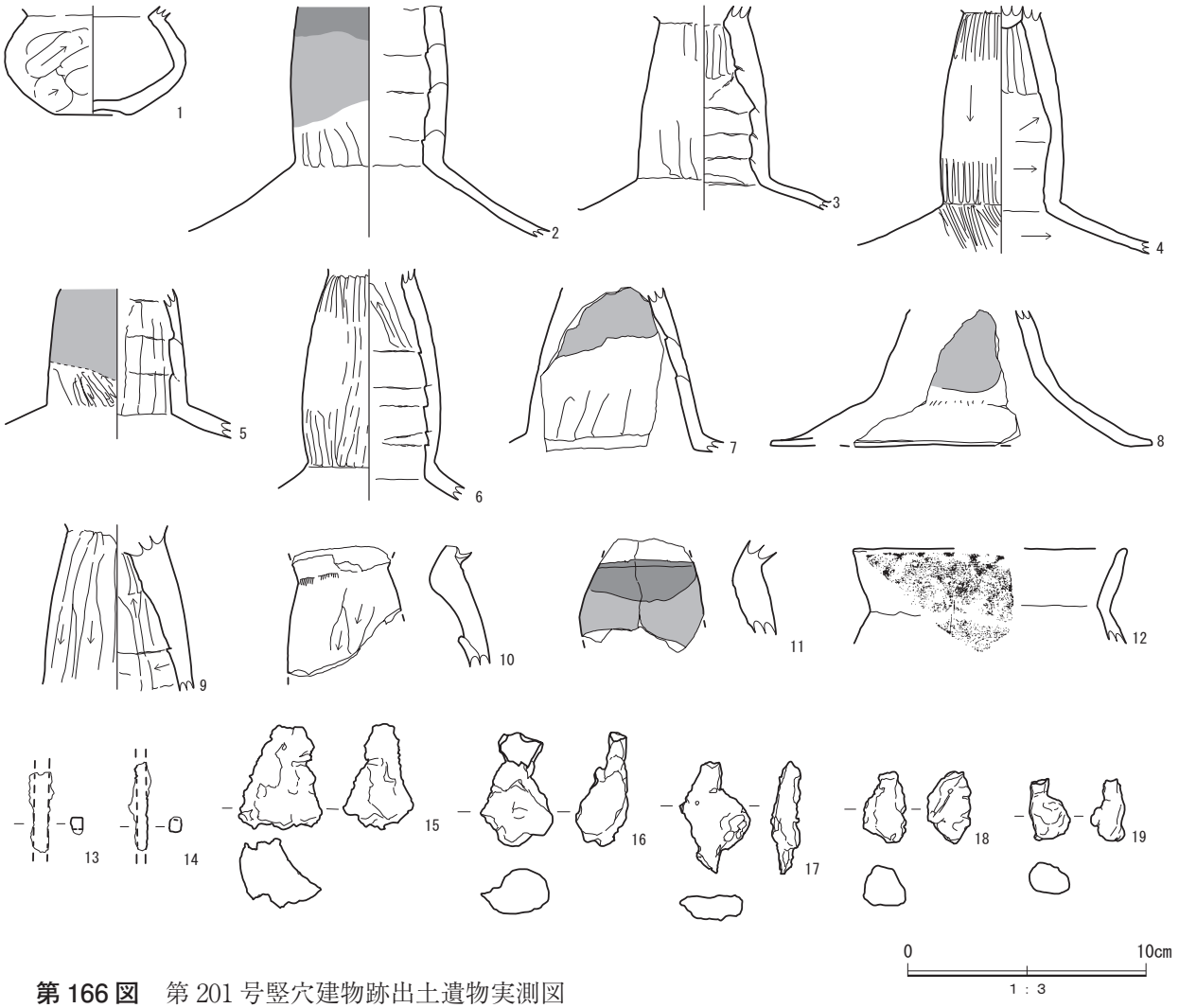
第 165 図　第 201 号竪穴建物跡実測図

土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
2　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性なし　締まりなし
3　7.5YR　3/4　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性なし　締まりなし

ピット土層解説

1　7.5YR　3/3　暗 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
2　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
3　7.5YR　3/2　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
4　7.5YR　4/3　褐　　色　ロームブロック・粒子中量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
5　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子微量／粘性あり　締まりあり
6　7.5YR　3/1　黒 褐 色　ローム粒子少量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり
7　7.5YR　2/2　黒 褐 色　ローム粒子微量　炭化粒子少量／粘性あり　締まりあり



第 166 図　第 201 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 72 表　第 201 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坩	—	(4.5)	3.2	長石･石英･角閃石･スコリア	橙	普通	外面雑なヘラナデ　底部揚底状	北西壁床面	50% 写真図版 55
2	土師器	高坏	—	(9.5)	—	長石・石英	にぶい橙	良好	脚部外面縦位のヘラ削り　台部縦位のヘラミガキ　内面ハケナデ　羽口転用により高温で器面変質	覆土中	50% 羽口転用 写真図版 55
3	土師器	高坏	—	(8.5)	—	長石･石英･雲母･角閃石	橙	普通	脚部外面やや摩滅　縦位のヘラナデ　内面上位篦によりすぼめ　下位輪積痕	覆土中	50% 写真図版 55
4	土師器	高坏	—	(10.0)	—	長石･石英･雲母	にぶい橙	良好	脚部外面縦位の細ヘラミガキ　体部上位ヘラナデすぼみ調整　下位は回転ナデ	北部床面	50% 写真図版 56
5	土師器	高坏	—	(6.5)	—	長石･石英･チャート	にぶい橙	普通	脚部外面斜位のへそヘラナデ　内面ヘラナデ　輪積痕　羽口転用により高温で器面変質	北部床面	25% 写真図版 56
6	土師器	高坏	—	(9.5)	—	長石・石英	明赤褐	良好	脚部外面縦位のヘラナデ　内面輪積痕　台部ヘラナデ	覆土中	50% 写真図版 56
7	土師器	高坏	—	(7.0)	—	長石・石英	灰褐	普通	脚部外面縦位のヘラ削り　輪積痕　羽口転用により高温で器面変質	北部床面	10% 羽口転用

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
8	土師器	高坏	—	(6.0)	[16.0]	長石・石英	灰	普通	脚部外面横ナデ　内面横ナデ　羽口転用により高温で器面灰色に変質	覆土中	10% 羽口転用 写真図版56
9	土師器	高坏	—	(7.0)	—	長石･石英･チャート	にぶい橙	良好	脚部外面定位のヘラナデ　内面上位雑なヘラナデ　下位横位のヘラナデ	西部覆土中層	30%
10	土師器	高坏	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラナデ　内面ハケ目痕　羽口転用により高温で器面褐灰色に変質	覆土中	5% 羽口転用
11	土師器	高坏	—	(5.0)	—	長石・石英	灰黄	普通	羽口転用により高温で器面溶変し褐灰色に変質	覆土中	5% 羽口転用
12	土師器	小形甕	[11.7]	(4.0)	—	長石・石英	褐	普通	口縁部外面指頭粘土押圧痕　内面横ナデ	覆土中	5%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	不明鉄製品	(3.4)	1.0	0.7	(3.3)	鉄	直線状のもの　角張る	覆土中	写真図版56
14	不明鉄製品	(3.7)	0.9	0.6	(2.7)	鉄	直線状のもの	覆土中	写真図版56
15	鉄滓	4.3	3.5	2.9	25.5	鉄	磁力反応なし	覆土中	写真図版56
16	鉄滓	4.8	3.0	2.2	17.2	鉄	土器片付着　磁力反応弱い	覆土中	写真図版56
17	鉄滓	4.7	2.9	1.2	14.1	鉄	磁力反応なし	覆土中	写真図版56
18	鉄滓	3.0	1.8	1.8	9.0	鉄	磁力反応なし	覆土中	写真図版56
19	鉄滓	2.7	1.7	1.4	5.9	鉄	粒状　磁力反応弱い	覆土中	写真図版56

ピット　11か所が確認できた。Ｐ１～Ｐ３は主柱穴と考えられる。Ｐ１:40 × 30cm､深さ12cm､Ｐ２:22 × 22cm、深さ12cm、Ｐ３:56 × 50cm、深さ８cm、Ｐ４:42 × 24cm、深さ20cm、Ｐ５:30 × 30cm、深さ22cm、Ｐ６:28 × 26cm、深さ10cm、Ｐ７:28 × 26cm、深さ20cm、Ｐ８:26 × 20cm、深さ16cm、Ｐ９:20 × 20cm、深さ28cm、Ｐ10:60 × 42cm、深さ18cm、Ｐ11:30 × 25cm、深さ18cmである。

貯蔵穴　北西コーナー部に位置し、長径76cm、短径64cmの楕円形で、深さ52cmである。

遺物出土状況　土師器片506点[坏14点(137g)、高坏56点(937g)、鉢２点(33g)、甕434点(3,863g)]、須恵器甕片４点(26g)、縄文土器片３点(42g)、弥生土器片21点(257g)、礫18点(1,823g)、鉄滓６点(71.7g)。１の土師器坩は北西壁の床面、４・５・７の土師器高坏は北部の床面、９の土師器高坏は西部の覆土中層から出土している。２・３・６・８・10・11の土師器高坏、12の土師器小形甕、13～19の鉄滓は覆土中から出土している。

所見　第114竪穴建物跡と同じく高坏の脚部を転用した羽口が８点出土していることから、同時期の鍛冶工房遺構と考えられる。

大洗町文化財調査報告書　第 27 集

宮 田 遺 跡 （第 1 次）

― 関根祝町線他 1 路線道路改良事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書 ―

（上巻）

印　刷　令和６年３月１７日
発　行　令和６年３月１９日

編　集　関東文化財振興会株式会社
〒 308-0846　筑西市布川 1012
℡ 0296-28-7737

発　行　大洗町教育委員会
〒 311-1301　茨城県東茨城郡大洗町磯浜町 6881-88
℡ 029-267-0230

印　刷　山三印刷株式会社
〒 311-4153　茨城県水戸市河和田町 4433-33
℡ 029-252-8481